

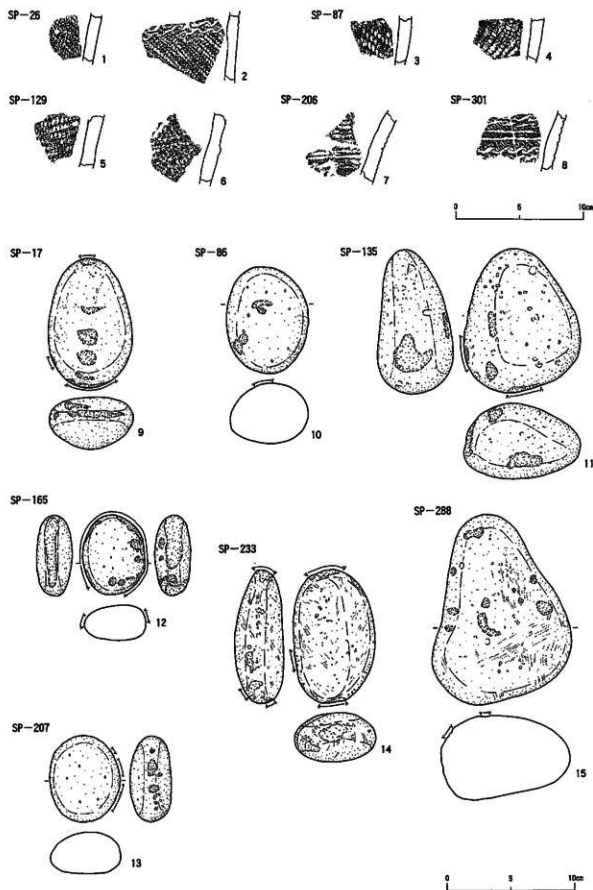
表N-1 柱穴状土壤一覽

[illegible][illegible]

[illegible]

遺構名	位置	面	図	埋も	発掘調査	出土品	土壌地質状況	備考(出土遺物・その他)
SF-252	O-15-c	10	6	28	C	安	SF-252 G-10-d	方分出土遺物・その他
SF-253	N-17-b・O-17-a	13	36	1	安	1 背掘土はSF R 3/6 ばらばらとした褐色土が混入	SF-253 G-10-d	方分出土遺物・その他
SF-254	O-15-b	13	33	33	B1	安	SF-254 F-10-c	方分出土遺物・その他
SF-255	M-9-c	19	15	45	C	安	SF-255 F-10-c	方分出土遺物・その他
SF-256	M-9-c	9	4	48	B1	安	SF-256 F-10-c	方分出土遺物・その他
SF-257	M-9-c	9	4	48	B1	安	SF-257 F-10-c	方分出土遺物・その他
SF-258	M-9-c	9	4	48	B1	安	SF-258 F-10-c	方分出土遺物・その他
SF-259	M-9-c	9	4	48	B1	安	SF-259 F-10-c	方分出土遺物・その他
SF-260	M-9-c	9	4	48	B1	安	SF-260 F-10-c	方分出土遺物・その他
SF-261	M-9-c	9	4	48	B1	安	SF-261 F-10-c	方分出土遺物・その他
SF-262	M-9-c	9	4	48	B1	安	SF-262 F-10-c	方分出土遺物・その他
SF-263	M-9-c	9	4	48	B1	安	SF-263 F-10-c	方分出土遺物・その他
SF-264	M-9-c	9	4	48	B1	安	SF-264 F-10-c	方分出土遺物・その他
SF-265	M-9-c	9	4	48	B1	安	SF-265 F-10-c	方分出土遺物・その他
SF-266	M-9-c	9	4	48	B1	安	SF-266 F-10-c	方分出土遺物・その他
SF-267	M-9-c	9	4	48	B1	安	SF-267 F-10-c	方分出土遺物・その他
SF-268	M-9-c	9	4	48	B1	安	SF-268 F-10-c	方分出土遺物・その他
SF-269	M-9-c	9	4	48	B1	安	SF-269 F-10-c	方分出土遺物・その他
SF-270	M-9-c	9	4	48	B1	安	SF-270 F-10-c	方分出土遺物・その他
SF-271	M-9-c	9	4	48	B1	安	SF-271 F-10-c	方分出土遺物・その他
SF-272	M-9-c	9	4	48	B1	安	SF-272 F-10-c	方分出土遺物・その他
SF-273	M-9-c	9	4	48	B1	安	SF-273 F-10-c	方分出土遺物・その他
SF-274	M-9-c	9	4	48	B1	安	SF-274 F-10-c	方分出土遺物・その他
SF-275	M-9-c	9	4	48	B1	安	SF-275 F-10-c	方分出土遺物・その他
SF-276	M-9-c	9	4	48	B1	安	SF-276 F-10-c	方分出土遺物・その他
SF-277	M-9-c	9	4	48	B1	安	SF-277 F-10-c	方分出土遺物・その他
SF-278	M-9-c	9	4	48	B1	安	SF-278 F-10-c	方分出土遺物・その他
SF-279	M-9-c	9	4	48	B1	安	SF-279 F-10-c	方分出土遺物・その他
SF-280	M-9-c	9	4	48	B1	安	SF-280 F-10-c	方分出土遺物・その他
SF-281	M-9-c	9	4	48	B1	安	SF-281 F-10-c	方分出土遺物・その他
SF-282	M-9-c	9	4	48	B1	安	SF-282 F-10-c	方分出土遺物・その他
SF-283	M-9-c	9	4	48	B1	安	SF-283 F-10-c	方分出土遺物・その他
SF-284	M-9-c	9	4	48	B1	安	SF-284 F-10-c	方分出土遺物・その他
SF-285	M-9-c	9	4	48	B1	安	SF-285 F-10-c	方分出土遺物・その他
SF-286	M-9-c	9	4	48	B1	安	SF-286 F-10-c	方分出土遺物・その他
SF-287	M-9-c	9	4	48	B1	安	SF-287 F-10-c	方分出土遺物・その他
SF-288	M-9-c	9	4	48	B1	安	SF-288 F-10-c	方分出土遺物・その他
SF-289	M-9-c	9	4	48	B1	安	SF-289 F-10-c	方分出土遺物・その他
SF-290	M-9-c	9	4	48	B1	安	SF-290 F-10-c	方分出土遺物・その他
SF-291	M-9-c	9	4	48	B1	安	SF-291 F-10-c	方分出土遺物・その他
SF-292	M-9-c	9	4	48	B1	安	SF-292 F-10-c	方分出土遺物・その他
SF-293	M-9-c	9	4	48	B1	安	SF-293 F-10-c	方分出土遺物・その他
SF-294	M-9-c	9	4	48	B1	安	SF-294 F-10-c	方分出土遺物・その他
SF-295	M-9-c	9	4	48	B1	安	SF-295 F-10-c	方分出土遺物・その他
SF-296	M-9-c	9	4	48	B1	安	SF-296 F-10-c	方分出土遺物・その他
SF-297	M-9-c	9	4	48	B1	安	SF-297 F-10-c	方分出土遺物・その他
SF-298	M-9-c	9	4	48	B1	安	SF-298 F-10-c	方分出土遺物・その他
SF-299	M-9-c	9	4	48	B1	安	SF-299 F-10-c	方分出土遺物・その他
SF-300	M-9-c	9	4	48	B1	安	SF-300 F-10-c	方分出土遺物・その他

IV 遺構と遺構出土の遺物



図IV-170 柱穴状土坑出土の遺物

(6)焼土

F-1 (図IV-171、図版45、表IV-10)

位置 I-11-b

規模 70×49/12cm

長軸方向 N-58.5° -W

確認・調査 Ⅲ層上面で検出した。色調は中心付近において明瞭で、漸移的に広がっているため、この場で形成された焼土の可能性が高い。

遺物 スクレイパー1点とフレイク63点が出土している。

時期 不明だが、縄文時代前期後半円筒土器下層式の時期の可能性が高い。(広田)

F-2 (図IV-171、図版45、表IV-10)

位置 F-40-b

規模 51×43/12cm

長軸方向 N-14° -W

確認・調査 Ⅲ層に相当する暗褐色土を精査中に確認した。不明瞭な焼土である。

遺物 出土していない。

時期 詳細な時期は不明であるが、検出面からすると縄文時代のものである可能性が高い。(柳瀬)

F-3 (図IV-171、図版45、表IV-10)

位置 Q-19-a

規模 93×62/21cm

長軸方向 N-114.5° -W

確認・調査 Ⅲ層中位を精査中に検出した。南側にF-4・5があり、下位からはP-12が検出されている。色調は中心付近において明瞭で、漸移的に広がっているため、その場で形成された焼土の可能性が高い。

遺物 出土していない。

時期 周辺包含層出土の遺物から、縄文時代前期後半の時期の可能性が高い。(広田)

F-4 (図IV-171、図版45、表IV-10)

位置 Q-19-b

規模 48×41/13cm

長軸方向 N-81° -W

確認・調査 Ⅲ層中位を精査中に検出した。北側にF-3・5があり、下位からはP-12が検出されている。色調は中心付近において明瞭で、漸移的に広がっているため、その場で形成された焼土の可能性が高い。

遺物 出土していない。

時期 周辺包含層出土の遺物から、縄文時代前期後半の時期の可能性が高い。(広田)

F-5 (図IV-171、図版45、表IV-10)

IV 遺構と遺構出土の遺物

位置 Q-19-b・c

規模 63×70/13cm

長軸方向 N-35° -W

確認・調査 Ⅲ層中位を精査中に検出した。南側にF-4・P-12、西側にF-3があり、下位からはP-12が検出されている。色調は中心付近において明瞭で、漸移的に広がっているため、その場で形成された焼土の可能性が高い。

遺物 出土していない。

時期 周辺包含層出土の遺物から、縄文時代前期後半の時期の可能性が高い。(広田)

F-6 (図IV-171、図版45、表IV-10)

位置 I-17-a・b

規模 107×51/34cm

長軸方向 N-98° -W

F-7 (図IV-171、図版45、表IV-10)

位置 J-17-a・d

規模 59×85/33cm

長軸方向 N-96° -W

確認・調査 標高38.4～38.8m付近の北向き緩斜面に位置する二カ所の焼土である。これらの検出面はⅢ層上面で、いずれも同じ風倒木の攪乱と一体化する部分が認められることから、同時に生成された可能性が高い。検出状況と土層断面などから、双方とも人為的なものでなく落雷や野火などによって生成された焼土と考えられる。なお、F-6を切るトレンチは平成11年度に設けられたものである。

遺物 出土していない。

時期 検出面から縄文時代前期後半以降、K o-d降下以前と考えられる。(皆川)

F-8 (図IV-171、図版45、表IV-10)

位置 K-20-d

規模 50×41/7cm

長軸方向 N-111.5° -W

確認・調査 標高38.0m付近の北向き斜面肩口で検出された焼土である。F-8の検出面はⅢ層1回目で、近接するH-8は極めて近い位置にあり、H-8の屋外炉の可能性も少なからずある。その場合、H-8の掘り込み面はⅢ層1回目となる。焼土の赤化が弱いことから、この場で生成されたとするなら極短い使用時間が想定され、二次堆積なら屋内炉の灰などと共に投棄された可能性がある。

遺物 Ⅱ群b類土器の小片が1点出土している。

時期 周囲の遺構との関連性から縄文時代前期後半の可能性が高い。(皆川)

F-9 (図IV-172、図版45、表IV-10)

位置 F-13-b・c

規模 90×57/10cm

長軸方向 N-00° -W

確認・調査 標高38.4~38.8m付近の平坦部で検出された焼土である。F-9の検出面はⅢ層上面で、近接するH-5と方形柱穴列-1の間に位置することから、H-5の屋外炉でこれらとセット関係になる可能性が高い。焼土の赤化が弱いことから、屋外炉であったとしても極短い使用時間が想定される。

遺物 出土していない。

時期 周囲の遺構との関連性から縄文時代前期後半の可能性がある。

(皆川)

F-10 (図Ⅳ-172、表Ⅳ-10)

位置 L-14-d

規模 48×37/9 cm

長軸方向 N-137.5°-W

確認・調査 H-6の覆土内で検出された焼土である。一部に攪乱が認められることからこの場で生成されたものと断定するには疑問が残る。ただし、比較的纏まりがあることから二次堆積とするのも不自然であろう。いずれにしろ、埋没過程にあるH-6の窪みを一時利用するようなキャンプサイト由来するものと考えられる。

遺物 出土していない。

時期 H-6の覆土内で検出されたことから縄文時代後期前葉以降、K o-d降下以前と考えられる。

(皆川)

F-12 (図Ⅳ-172、図版46、表Ⅳ-10)

位置 Q-14-b

規模 50×37/5 cm

長軸方向 N-110°-W

確認・調査 Ⅳ層上面を精査中に検出した。やや不明瞭な焼土である。“削平部分”の南端に位置することから、他の遺構との重複が予想されるためトレンチ調査を行ったが遺構の重複は確認できなかった。

遺物 出土していない。

時期 周辺から検出される遺構の時期から、縄文時代前期後半円筒土器下層式の時期とみられる。

(立田)

F-13 (図Ⅳ-172、図版46、表Ⅳ-10)

位置 Q-18-c、Q-19-b

規模 62×53/9 cm

長軸方向 N-151°-W

確認・調査 Ⅳ層を精査中に検出した。比較的明瞭な焼土である。層厚は厚い部分で9 cm、色調が中心付近において明瞭で、漸移的に広がることから、この場で形成された焼土である可能性が高い。

遺物 出土していない。

時期 周囲で出土する遺物から、縄文時代前期後半の時期のものとみられる。

(立田)

F-14 (図Ⅳ-172、表Ⅳ-10)

IV 遺構と遺構出土の遺物

位置 Q-18-b・c

規模 50×47/7cm

長軸方向 N-11.5°-W

確認・調査 IV層上面で検出した。やや不明瞭な焼土である。“削平部分”の東端に位置することから、他の遺構との重複が予想されるためトレンチ調査を行ったが遺構の重複は確認できなかった。焼土の色調は中心付近でやや明瞭で、漸移的に広がる。このことからこの場で形成された可能性が高い。

遺物 出土していない。

時期 周囲で出土している遺物から縄文時代前期後半円筒土器下層式の時期のものとみられる。

(立田)

F-15 (図IV-172・178、図版60・108、表IV-10)

位置 H-19-c・d

規模 41×17/8cm

長軸方向 N-120.5°-W

遺物 フレイク2点、たたき石1点、礫・礫片2点が出土している。1は下端と背面にたたき痕のあるたたき石(Ⅷ3)。断面三角形の礫の稜部分にたたき痕がある。石材は安山岩である。

F-16 (図IV-172、図版46、表IV-10)

位置 H-19-b

規模 93×81/15cm

長軸方向 N-164.5°-W

確認・調査 標高36.8~37.2m付近の北向き斜面で検出された2カ所の焼土である。これらの検出面はⅢ層2回目で、いずれも同じ風倒木の攪乱と一体化する部分が認められることから、同時に生成された可能性が高い。検出状況と土層断面などから、双方とも人為的なものでなく落雷や野火などによって生成された焼土の可能性はある。

遺物 II群b類土器1点、フレイク2点、礫・礫片1点が出土している

時期 検出面から縄文時代前期後半以降、K o-d降下以前と考えられる。

(皆川)

F-17 (図IV-172、表IV-10)

位置 P-18-a・d

規模 71×51/12cm

長軸方向 N-31°-W

確認・調査 IV層上面で検出した。“削平部分”の北端に位置することから、他の遺構との重複が予想されるためトレンチ調査を行ったが遺構の重複は確認できなかった。焼土の色調は中心付近に明瞭で漸移的に広がっており、その場で形成された焼土とみられる。

遺物 出土していない。

時期 周辺から出土している遺物から、縄文時代前期後半円筒土器下層式の時期のものとみられる。

(立田)

F-21 (図IV-161、図版46、表IV-10)

位置 P-57墳口部 (P-22-b)

規模 115×102/14cm

長軸方向 N-93° -W

確認・調査 Ⅲ層下位で確認した。P-57埋め戻し後に墳口部で焚かれた焼土である。P-57埋土の落ち込みにより、焼土中央も落ち込んでいる。詳細についてはP-57でも触れている。

遺物 焼土はP-57埋め戻し後に形成されたものと推測されるため、遺物はP-57埋土1層として取り上げた。土器2点、石鏃1点、スクレイパー1点、フレイク5点の合計9点が出土した。これらは全てP-57の遺物として取り扱った。

時期 検出層位や、周辺出土の遺物から縄文時代前期後半の遺構である。

(藤原)

F-22 (図Ⅳ-172、図版46、表Ⅳ-10)

位置 I-16-b、J-16-a

規模 106×57/7cm

長軸方向 N-11.5° -W

確認・調査 標高38.4~38.8m付近の平坦面で検出された焼土で、赤化が弱いことから極短い使用時間が想定される。検出面はⅣ層に近いⅢ層5回目、これは周辺の遺構群と比較して深い位置のものと言える。しかし、検出状況から考えて他の遺構群よりも古い時期のものとするのは不自然である。このことと、周囲の遺物の出土状況やコンタラインの形状を考慮するなら、H-7・8の様な浅い堅穴がⅢ層の黒色土中に作られていた可能性もあり、この焼土はそれに関わるものであったかもしれない。また、1m程離れた地点には風倒木が検出されていることから、人為的なものではなく野火あるいは落雷などによる可能性もある。

遺物 出土していない。

時期 周囲の状況から縄文時代前期後半のものとした。あるいはそれ以前にも可能性がある。

(皆川)

F-23 (図Ⅳ-172、図版46、表Ⅳ-10)

位置 M-16-a

規模 67×29/15cm

長軸方向 N-116.5° -W

確認・調査 標高39.2~39.6m付近の平坦面で検出された焼土で、赤化が弱いことから極短い使用時間が想定される。検出面はⅣ層に近いⅢ層4回目、これは周辺の遺構群と比較して深い位置のものと言える。

遺物 出土していない。

時期 周囲の状況から縄文時代前期後半の可能性はある。

(皆川)

F-24 (図Ⅳ-172、表Ⅳ-10)

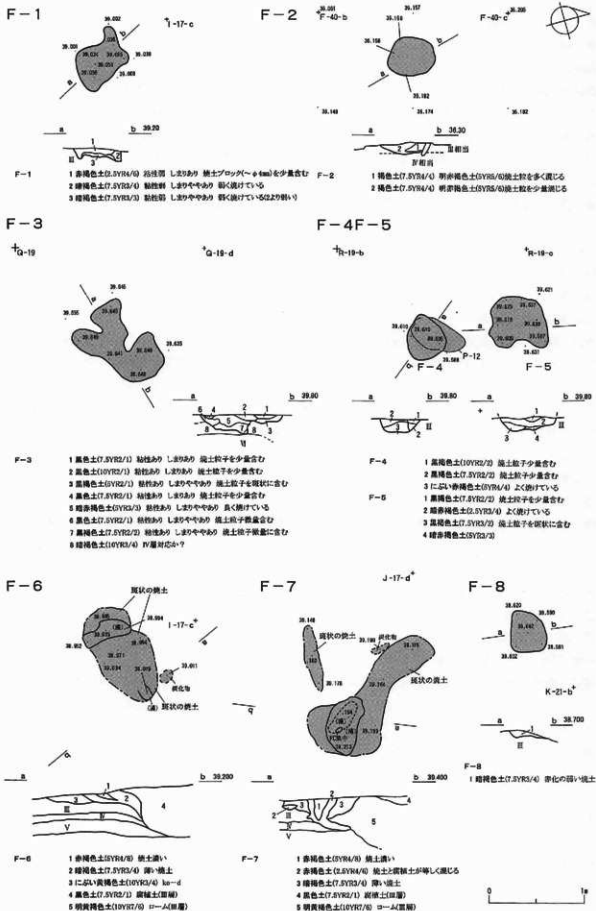
位置 L-11-a・d

規模 82×109/12cm

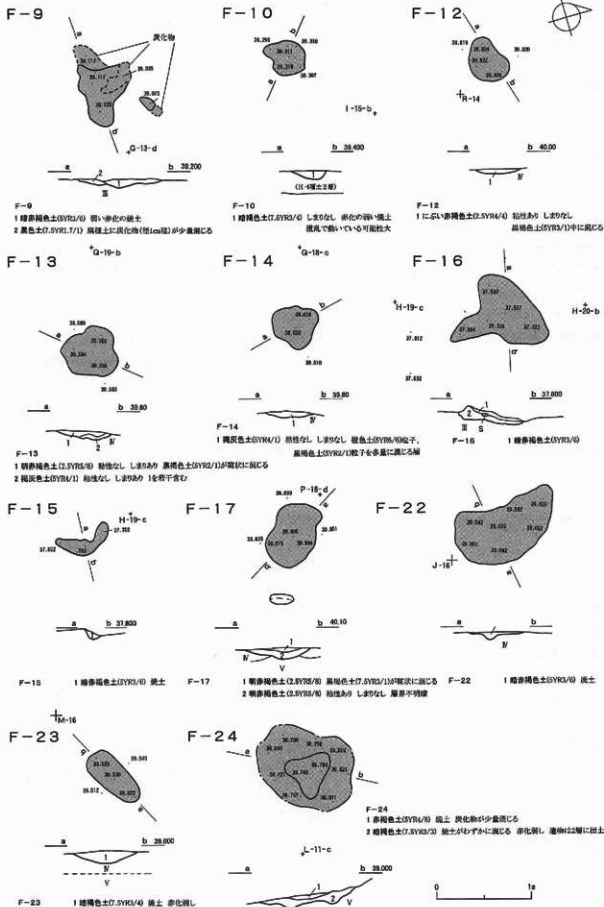
長軸方向 N-40.5° -W

確認・調査 標高38.4~38.8m付近の南側向き斜面で検出された焼土である。赤化が弱いことから極

IV 遺構と遺構出土の遺物



図N-171 焼土 (F-1~8)



図N-172 焼土 (F-9・10・12~17・22~24)

IV 遺構と遺構出土の遺物

短い時間で生成されたか二次堆積の可能性がある。検出面はIV層に近いIII層5回目であるが、斜面堆積のためか平坦部よりも土壌が厚く堆積する傾向があることからそれ程の不自然さはない。下位層にはフレイク・チップ集中(FC-17)が検出されている。

遺物 フレイク、礫などが11点出土している。

時期 周囲の状況から縄文時代前期後半の可能性がある。

(皆川)

(7)集石

S-1 (図IV-173・175、図V-70、図版107、表IV-11・24)

位置 Q-20-c・d

規模 (192) × (91) / (7) cm

長軸方向 N-98° -W

確認・調査 III層を10cmほど掘り下げた際に礫が散在していた。直線的に10個の礫が並ぶもの、8個の礫がまとまる部分、周辺に散在する礫、の大きく3パターンに分かれる。焼成を受けたものや炭化物が付着した礫が多い。また、範囲的にはM-1と重なるが、レベルはより上位である。

遺物 両面調整石器1点、たたき石14点、半円状扁平打製石器1点、北海道式石冠2点、石鋸1点、台石・石皿1点、礫・礫片12点の合計32点が出土した。たたき石、台石・石皿の使用痕は不明瞭なものが多く、この内比較的に明瞭なもののみ図示した。1は左側縁に節理面のある半円形の両面調整石器(IV3)。2～5はたたき石で、2は下端にたたき痕のあるもの(Ⅷ1)、3～5は周縁の所々にたたき痕のあるもの(Ⅷ2)。3はすり面もある。いずれも焼成を受けており、2・4・5は炭化物が付着している。6・7は北海道式石冠(Ⅷ4)で、6は礫面を残す、7は全面敲打整形のもの。8は石鋸(IXA)で、約3分の1を欠損している。また、焼成を受け炭化物が付着している。石材は1が頁岩、2～5が安山岩、6・7が凝灰岩、8が流紋岩である。

時期 検出層位や、周辺出土の遺物から縄文時代前期後半の遺構である。

(藤原)

S-2 (図IV-173・176、図V-71、図版107、表IV-11・24)

位置 N-18-a・d

規模 153×48cm

長軸方向 N-105° -W

確認・調査 III層を10～15cmほど掘り下げたところ、拳大の礫が集中する部分を検出した。東西方向にやや長く延びている。約1m北にはFC-9が位置し、約2.5m北東にはFC-3がある。本遺構の位置するN-18区は“削平部分”のすぐ北側にあり、周囲からは集石、フレイク集中域が多数検出されている。

(立田)

遺物 石核1点、たたき石3点、礫・礫片5点、加工痕のある礫1点の合計10点が出土した。たたき石は使用痕が不明瞭なものである。9～11はこの内で使用痕が比較的に明瞭なもので、9は下端にたたき痕のあるもの(Ⅷ1)、10・11は側縁の一部にもたたき痕のあるもの(Ⅷ2)。10・11は焼成を受け、炭化物が付着している。11は焼成を受けた後に使用されたため、器表面が剥離したものと推測される。石材はいずれも安山岩である。

(藤原)

時期 周辺の遺構の時期から縄文時代前期後半円筒土器下層式の時期とみられる。

(立田)

S-3 (図IV-173・176、図V-71、図版48・107、表IV-11・24)

位置 P-27-a

規模 67×62/7cm

長軸方向 N-72.5°-W

確認・調査 Ⅲ層を10cmほど掘り下げた際に礫が散在していた。礫は焼成を受けているものが多く、中には小破片に砕けているものもあった。(立田)

遺物 たたき石4点、礫・礫片7点の合計11点が出土した。たたき石は使用痕が不明瞭なものである。12・13はこの内で使用痕が比較的明瞭なもので下端にたたき痕のあるもの(Ⅶ1)。石材は安山岩。(藤原)

時期 検出層位や、周辺出土の遺物から縄文時代前期後半の遺構である。(立田)

S-5 (図IV-174・176、図V-71、図版48・107、表IV-11・24)

位置 P-22-a・b

規模 58×51/9cm

長軸方向 N-139°-W

確認・調査 Ⅲ層を5~10cmほど掘り下げた際に確認した。H-1に隣接し、その掘り上げ土の中位から下位にかけて位置する。中央部のS-8が浅いくほみにあり、レベル的に下位であったため、調査時には別の集石ととらえたが、S-5・6・8は本来同一のまとまりであったと考えられる。このことは、出土した礫(たたき石を含む)の規模や重さ別の個数を示したグラフ(図V-71・72)において、S-5・6・8が類似することからも裏付けられる。

遺物 たたき石15点、礫・礫片3点の合計18点が出土した。たたき石は使用痕が不明瞭なものである。14~17はこの内で使用痕が比較的明瞭なもので、14は上下両端にたたき痕があるもの(Ⅶ1)、15・16は周縁にたたき痕のあるもの(Ⅶ2)、17は上下両端のほかに、背面にわずかなたたき痕が確認できるもの(Ⅶ3)。15~17は焼成を受けており、炭化物が付着している。石材は全て安山岩。

時期 S-5~7は検出層位や位置からH-1と関連するものである。よって、H-1と同じく縄文時代前期後半、円筒土器下層c式の古手に相当する時期の遺構である。(藤原)

S-6 (図IV-174・177、図V-72、図版48・108、表IV-11・24)

位置 P-22-a

規模 87×52/11cm

長軸方向 N-105°-W

確認・調査 S-5と同じくⅢ層を5~10cmほど掘り下げた際に確認した。H-1掘り上げ土の中位から下位に位置する。S-5・8と同じまとまりと考えられる。焼土は確認できなかったが、周辺や礫の間には炭化物が散在していた。なお、H-1のS-6寄りの覆土中・床面にはこれら集石と同じ大きさの礫が比較的まとまって検出された。

遺物 たたき石7点、礫・礫片2点の合計9点が出土した。たたき石は使用痕が不明瞭なものである。18・19はこの内で使用痕が比較的明瞭なもので、18は下端にたたき痕のあるもの(Ⅶ1)、19は周縁の一部にたたき痕のあるもの(Ⅶ2)。いずれも焼成を受けており、石材は安山岩である。

時期 H-1と関連するもので、同じく縄文時代前期後半、円筒土器下層c式の古手に相当する時期の遺構である。(藤原)

IV 遺構と遺構出土の遺物

S-7 (図IV-174・177、図V-72、図版108、表IV-11・24)

位置 O-22-b

規模 34×34/2cm

長軸方向 N-90°-W

確認・調査 Ⅲ層を10cmほど掘り下げた際に確認した。H-1掘り上げ土中の検出である。焼成を受けた礫もある。S-5・6・8の一連の集石とは1.5mほど離れている。

遺物 たたき石5点が出土した。いずれも使用痕が不明瞭なものである。20・21はこの内で使用痕が比較的明瞭なもので、20は下端にたたき痕のあるもの(Ⅶ1)、21は周縁の一部にたたき痕のあるもの(Ⅶ2)。20は焼成を受けている。石材はいずれも安山岩である。

時期 H-1と関連するものである。よって、H-1と同じく縄文時代前期後半、円筒土器下層c式の手先に相当する時期の遺構である。
(藤原)

S-8 (図IV-174・177・178、図V-72、図版48・108、表IV-11・24)

位置 P-22-a・b

規模 137×101/17cm

長軸方向 N-104°-W

確認・調査 S-5・6よりは下位で、Ⅲ層を20cmほど掘り下げた際に確認した。S-5・6の間に位置し一連のものと考えられる。セクションなどでは判然としなかったがS-5・6よりもレベルが低いことからⅢ層を若干掘り窪めて礫をまとめたものと推測される。焼土は確認できなかったが、焼成を受けた礫が多く、礫の間には炭化物が散在していた。

遺物 たたき石33点、台石・石皿1点、礫・礫片6点の合計40点が出土した。たたき石・台石は使用痕が不明瞭なものである。22~29はこの内で使用痕が比較的明瞭なたたき石で、22~25は一端もしくは両端にたたき痕のあるもの(Ⅶ1)、26・27は周縁にたたき痕のあるもの(Ⅶ2)、28・29は端部・周縁の他に背面にもわずかなたたき痕が確認できるもの(Ⅶ3)。22・24・25は焼成を受けており、24・25には炭化物が付着している。30は台石(X)で、平坦な作業面があるが、明瞭な使用痕は認められない。焼成を受け、亀裂が入っている。石材は全て安山岩である。

時期 H-1と関連するものである。よって、H-1と同じく縄文時代前期後半、円筒土器下層c式の手先に相当する時期の遺構である。
(藤原)

S-9 (図IV173、図版49、表IV-11・24)

位置 J-11-a~d

規模 331×127cm

長軸方向 N-162.5°-W

確認・調査 標高38.0~38.4m付近の南側向き斜面で検出された集石である。集石を構成するのは径が1~2cm程度の角の丸い小礫で、これらは斜面の肩から投棄されたかの様な状態で出土している。検出面はⅣ層3回目としたが、斜面地形のため黒色土が堆積しにくい状態が想定されることから、本来的にはⅢ層下位のものと同時期になることが推定される。いずれにしてもFC-14・19より下位のものであることは間違いなく、恐らく大量のフレイク・チップが周辺に投棄される以前の集石と考えられる。

遺物 合計223点が出土しており、内訳はフレイク5点、小礫218点である。

時 期 周辺の遺物出土状況から縄文時代前期後半の可能性がある。

(皆川)

S-10 (図Ⅳ-173・178、図Ⅴ-72、図版49・108、表Ⅳ-11・24)

位 置 Q-34-c

規 模 80×19/10cm

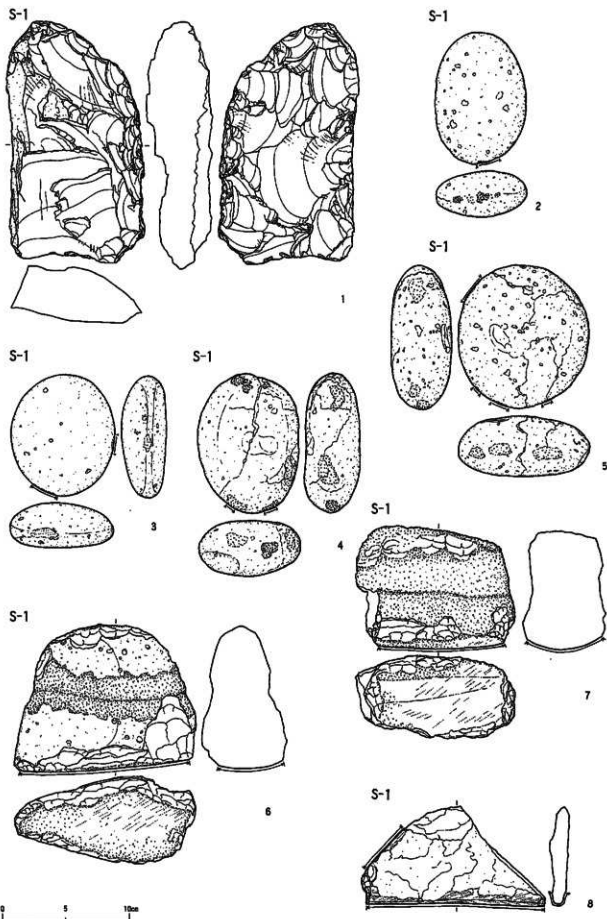
長軸方向 N-40° -W

確認・調査 E地区の最も北側の調査区に位置し、K o - d 除去後のⅣ層とした黒味の薄い層(Ⅲ層に相当)を5cmほど掘り下げて確認した。小さい礫が狭い範囲にまとまるものである。出土した礫(たたき石を含む)の規模や重さ別の個数を示したグラフ(図Ⅴ-71・72)においても、他の集石と異なりかなり小型の礫の集まりであることを示している。

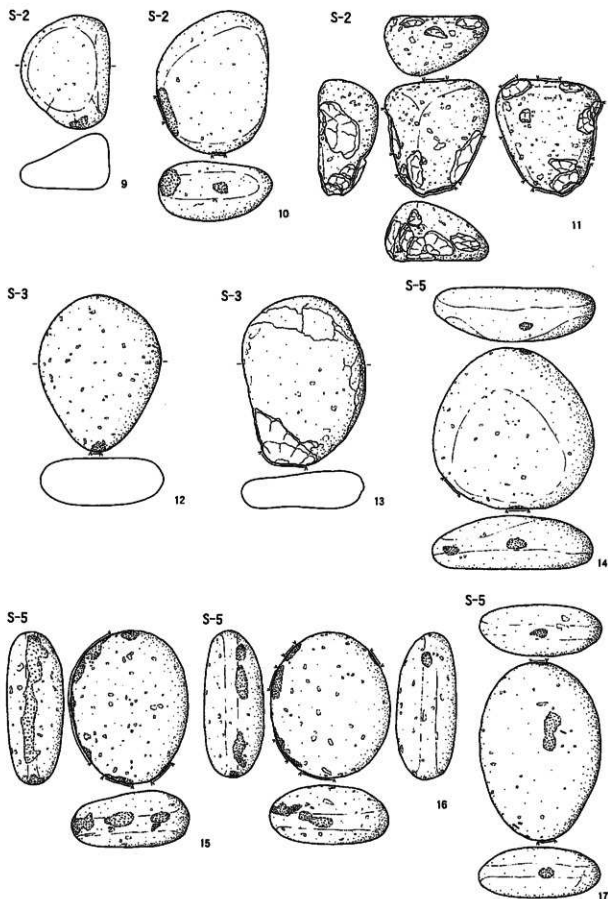
遺 物 たたき石5点、すり石1点、礫・礫片15点の合計21点が出土した。たたき石・すり石は使用痕が不明瞭なものである。31~33はこの内で使用痕が比較的明瞭なたたき石で、一端もしくは両端にたたき痕のあるもの(Ⅶ1)。34は断面台形の垂円礫で、稜部分が平坦で若干光沢があり、その角が他の部分より角張っていることから、この面を使用したすり石(Ⅶ5)と判断したものの。石材はいずれも安山岩である。

時 期 不明である。周辺の遺物から縄文時代早期前半もしくは後期前葉の可能性がある。(藤原)

IV 遺構と遺構出土の遺物

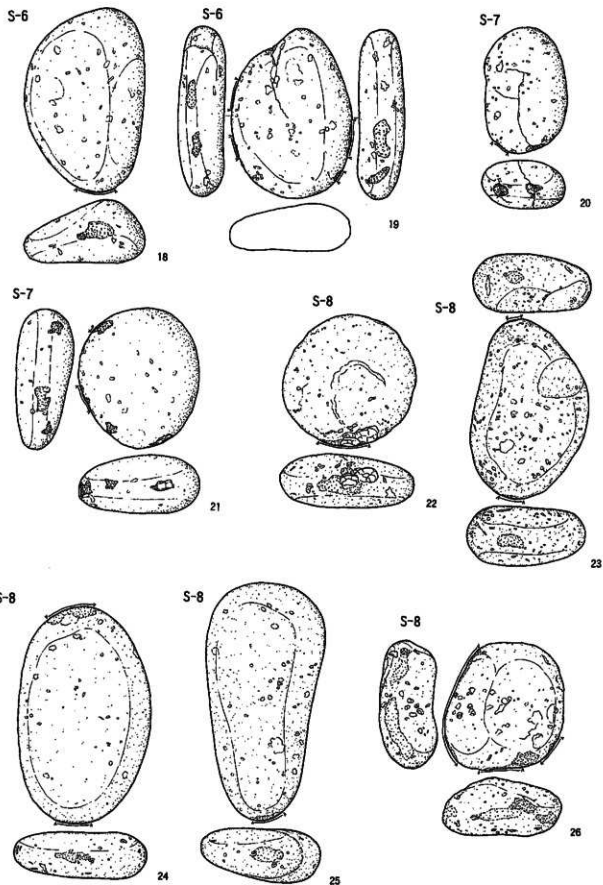


図IV-175 集石出土の遺物(1)



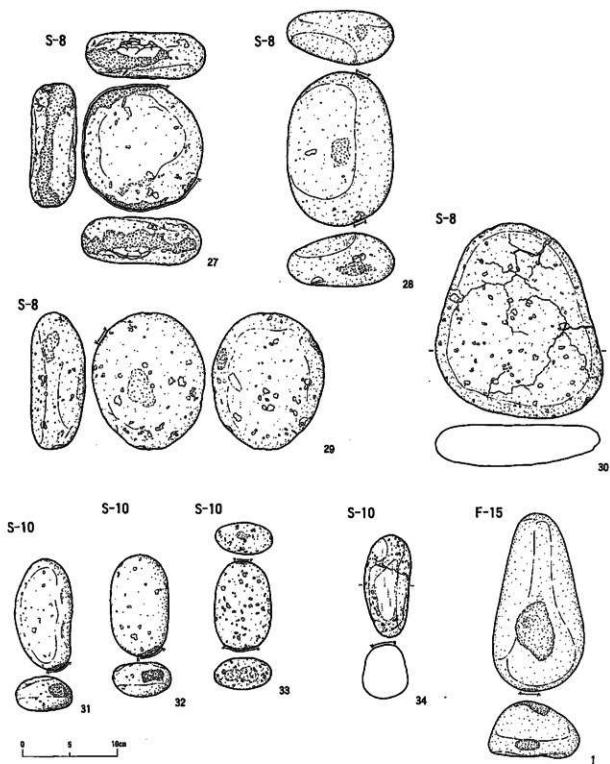
図M-176 集石出土の遺物(2)

Ⅳ 遺構と遺構出土の遺物



図Ⅳ-177 集石出土の遺物(3)





図IV-178 集石出土の遺物(4)・F-15出土の遺物

(8)フレイク集中域

FC-1 (図IV-179・184、図版47・110、表IV-12・24)

位置 I-14-c、J-14-d、J-15-b

規模 241×197cm

長軸方向 N-24° -W

確認・調査 III層上部で灰白色頁岩のフレイクの集中を検出した。集中域は比較的広めで、その中でも北東側約70cmの範囲の分布密度が濃い。フレイクは全体的に小型のことが多い。

遺物 土器2点、両面調整石器2点、フレイク632点、砥石9点、礫・礫片19点が出土している。

時期 周辺の包含層出土の遺物から、縄文時代前期後半円筒土器下層式の時期の可能性が高い。

(広田)

FC-2 (図IV-179・184、図版110、表IV-12・24)

位置 M-17-a、M-17-b

規模 114×63cm

長軸方向 N-67.5° -W

確認・調査 III層上部で灰白色頁岩のフレイクの集中を検出した。集中域の形状は南北にやや長い。フレイクは比較的大型のものが多く。

遺物 土器1点、両面調整石器1点、石核1点、フレイク30点、礫・礫片1点が出土している。

時期 周辺の包含層出土の遺物から縄文時代前期後半円筒土器下層式の時期の可能性が高い。

(広田)

FC-3 (図IV-179、図版47、表IV-12・24)

位置 N-18-c、O-18-d

規模 230×132/10cm

長軸方向 N-79.5° -W

確認・調査 III層を5～10cm掘り下げたところで灰色頁岩のフレイクの集中を検出した。集中域は東西に不整形に延びるが、東側にややまとまりがある。厚さは最大で約10cmである。

遺物 土器14点、両面調整石器1点、石核3点、Uフレイク3点、フレイク1,093点、礫・礫片3点が出土している。

時期 周辺の遺構の時期から、縄文時代前期後半円筒土器下層式の時期のものとみられる。(広田)

FC-4 (図IV-179・183・184、図版47・109・110、表IV-12・21・24)

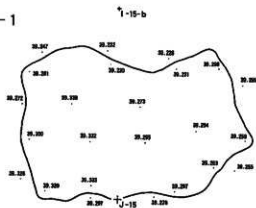
位置 P-19-c、P-20-b

規模 208×61/11cm

長軸方向 N-26.5° -W

確認・調査 II層を5cmほど掘り下げた際に確認した。大きく北側の少ない部分と南側の多い部分に大きく分かれる。北側は更に5～10cmほど下位により大きめの剥片がまとまっていた。上面にはチップが多い傾向がある。位置的にはM-1と重なるが、レベル的には上位にありM-1構築時と直接的には関連しないと思われる。しかし、FC-4の広がりM-1の輪郭の一致、FC-4下位のレベルとM-1上位のレベル差が少ないことから、M-1構築後やや時間をおくもM-1を意識し、意図

FC-1



FC-2



N-17-c

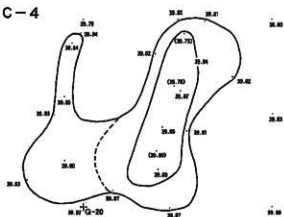
FC-9



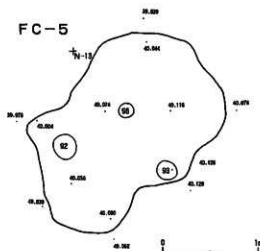
FC-3



FC-4

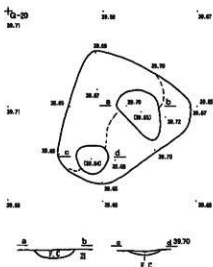


FC-5

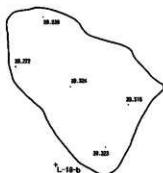


図N-179 フレイク集中域 (FC-1~5・9)

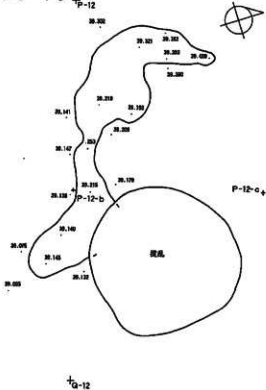
FC-7



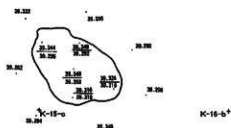
+L-18



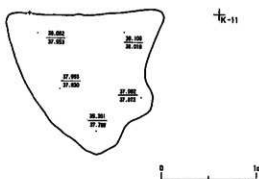
+P-1:



FC-18



FC-19



— 304 —

的に輪郭を描え剥片をまとめたものと推測できる。

遺物 土器4点、両面調整石器1点、石核3点、Uフレイク1点、フレイク761点、礫・礫片5点の合計775点が出土した。

時期 周辺の遺物および確認面からM-1よりは新しい縄文時代前期後半の遺構である。(藤原)

FC-5 (図IV-179、表IV-12)

位置 M-13-b、N-12-d、N-13-a

規模 232×147cm

長軸方向 N-43.5° -W

確認・調査 III層を5cm掘り下げたところで灰白色頁岩のフレイクの集中を検出した。集中域は北西～南東方向に長軸のある不整形に広がっている。また調査終了後のVI層上面において柱穴状小土壌(S P)が3基検出されている。周辺で出土する遺物から近接した時期のものの可能性は高いが、本遺構との関係は不明である。

遺物 土器2点、フレイク1,402点、礫・礫片2点が出土している。

時期 周囲で出土している遺物から、縄文時代前期後半円筒土器下層式の時期とみられる。(立田)

FC-6 (図IV-180・183～185、図版109・110、表IV-12・21・24)

位置 O-21-b

規模 94×40cm

長軸方向 N-71.5° -W

確認・調査 III層を10cmほど掘り下げた際に確認した。隣接するFC-7と比べてより大きめの剥片がまとまる傾向がある。

遺物 土器42点、スクレイパー1点、石核2点、Uフレイク1点、フレイク294点、礫・礫片10点の合計350点が出土した。

時期 周辺の遺物および確認面から縄文時代前期後半の遺構である。(藤原)

FC-7 (図IV-180・185、図版47・110、表IV-12・24)

位置 O-21-c

規模 122×93cm

長軸方向 N-90° -W

確認・調査 III層を10cmほど掘り下げた際にチップなどの碎片が検出され、更に5cmほど下げ剥片のまとまりを確認した。隣接するFC-6と比べてより小さい剥片がまとまる傾向がある。

遺物 土器2点、両面調整石器1点、フレイク860点の合計863点が出土した。

時期 周辺の遺物および確認面から縄文時代前期後半の遺構である。(藤原)

FC-8 (図IV-180・185、図版47・110・111、表IV-12・24)

位置 Q-20-a

規模 134×128/13cm

長軸方向 N-44.5° -W

確認・調査 III層を10cmほど掘り下げた際に剥片のまとまりを確認し、その下から土器が1個体その

ままつぶれた状態で出土した。その土器の下に非常に多くの剥片が敷き詰められたかのように検出され、それをFC-8とした。この剥片集を取り上げると、その下位2カ所で更に窪みにフレイク・チップがたまっていた。ある程度Ⅲ層を掘り進めた部分に剥片を敷き詰めたと推測される。M-1と範囲やレベルに重なる部分があり、M-1のセクションにもFC-8に関連する剥片がささるように検出されている。土器の出土状況からもM-1構築に深い関連を有する意図的なフレイク・チップのままと考えられる。なお、隣接するFC-4より検出面は低い。

遺物 土器8点、石槍またはナイフ1点、スクレイパー2点、両面調整石器2点、石核13点、Rフレイク1点、Uフレイク3点、フレイク17,136点、たたき石2点、礫・礫片2点の合計17,170点が出土した。

時期 確認面および周辺出土の遺物、M-1との関係から縄文時代前期後半、円筒土器下層c式に相当する時期の遺構である。(藤原)

FC-9 (図IV-179・183、図版109、表IV-12・24)

位置 N-18-a・b・d

規模 170×150/10cm

長軸方向 N-10°-W

確認・調査 Ⅲ層を15cmほど掘り下げたところで灰色頁岩のフレイクの集中域を検出した。範囲はほぼ南北方向に長軸のある不整形を呈し、範囲内に比較的均質に分布する。厚さは厚い部分では約10cmほどである。

遺物 土器15点、両面調整石器2点、石核2点、フレイク403点、石皿・台石6点、礫・礫片2点が出土している。

時期 周囲で出土している遺物、また検出面から縄文時代前期後半円筒土器下層式の時期とみられる。(立田)

FC-10 (図IV-180・183・186・187、図版47・109・111・112、表IV-12・21・24)

位置 P-11-c、P-12-a・b

規模 284×72/15cm

長軸方向 N-42.5°-W

確認・調査 Ⅲ層調査中、複数の石器を伴う頁岩製のフレイクの集中域を検出した。集中域は南北に細長く、きわめて密に遺物が集中していた。層厚はM-2の調査で設定したトレンチで確認し、約15cmであるが北端での数値のため、厚い部分ではそれ以上であったとみられる。すぐ南にM-2が検出されているが、重複関係はないものの、層位的に本遺構がやや上位に位置しており、断言はできないがM-2が形成された後、本遺構が作られた可能性が高い。

遺物 土器13点、スクレイパー1点、両面調整石器7点、石核11点、Uフレイク1点、フレイク3,805点、たたき石1点、礫・礫片7点が出土している。

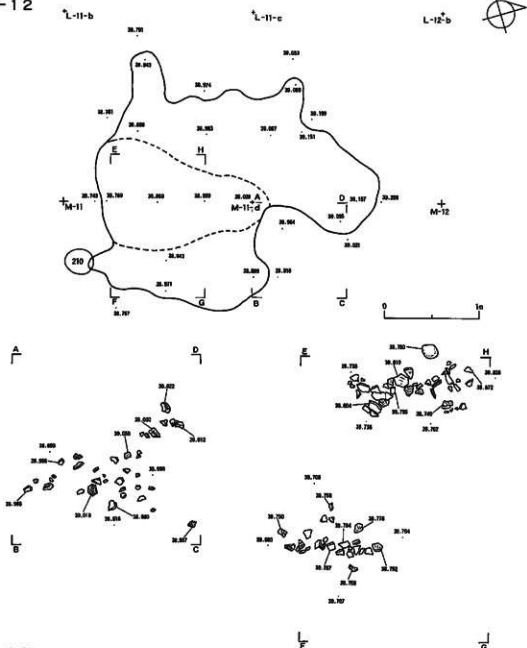
時期 周辺から検出される遺物の時期、また形成面から縄文時代前期後半円筒土器下層式の時期のものともみられる。(立田)

FC-11 (図IV-180・185・187、図版112、表IV-24)

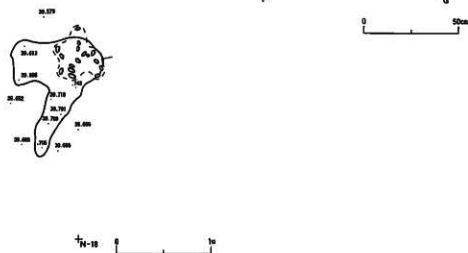
位置 L-17-d、L-18-a・b

2 周辺の遺構

FC-12



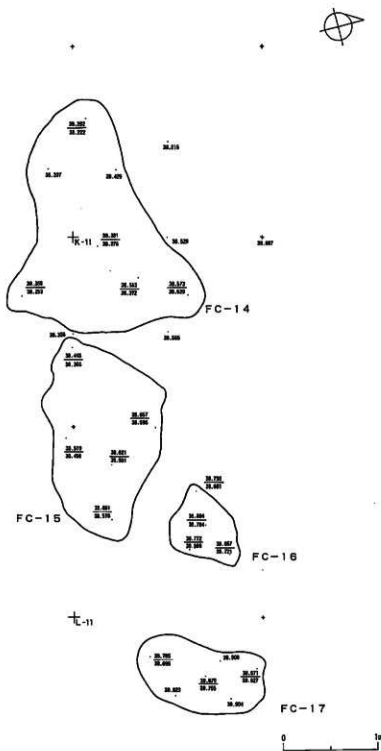
FC-13



図N-181 フレイク集中域 (FC-12・13)

Ⅳ 遺構と遺構出土の遺物

FC-14
FC-15
FC-16
FC-17



図Ⅳ-182 フレイク集中域 (FC-14~17)

規模 180×119cm

長軸方向 N-122° -W

確認・調査 標高38.8~39.2m付近の平坦面で検出されたフレイク・チップの集中である。検出面はⅢ層3回目、重複するP-5の覆土上位に遺物の一部が流れ込んでいる。そのため、P-5よりも新しいと考えられる。

遺物 遺物は1,489点出土しており、内訳はⅡ群b類土器32点、両面調整石器1点、フレイク1,421点、礫など35点である。恐らく、P-5の覆土中に入るフレイクと石核の大半も、本来的にはこのフレイク・チップ集中のものと考えられる。

時期 共伴する土器から縄文時代前期後半と考えられる。

(皆川)

FC-12 (図Ⅳ-181・183・187、図版48・109・112、表Ⅳ-12・21・24)

位置 L-11-b・c、M-11-a・d

規模 299×230cm

長軸方向 N-156° -W

確認・調査 Ⅲ層を調査中にフレイクを中心とした遺物の集中域を検出した。フレイクは北東~南西方向に長軸のある不整形を呈し、南東部には土器の集中3カ所を上面に伴っている。土器の集中の西側部分に重なってフレイクが密に分布する部分がある。

遺物 土器696点、スクレイパー3点、両面調整石器3点、石核5点、原石1点フレイク2,833点、石斧1点、礫石1点、台石・石皿1点が出土している。

時期 周囲で検出される遺構の時期、また上面で出土した土器から、縄文時代前期後半円筒土器下層式の時期とみられる。

(立田)

FC-13 (図Ⅳ-181、図版48、表Ⅳ-12、)

位置 M-17-c・d、M-18-a・d

規模 145×95cm

長軸方向 N-57° -W

確認・調査 Ⅲ層を15cmほど掘り下げたところ、フレイクの集中域を検出した。集中域は北側に小規模な集石を伴っている。集石は一握りできるほどの礫であり、ほぼ大きさのそろった俵形のものが20点ほどある。遺物は範囲内で均等に散らばっている。

遺物 フレイク831点、礫・礫片42点の他、土器3点、両面調整石器1点、石核1点、台石・石皿4点、が出土している。

時期 周囲で出土している遺物から、縄文時代前期後半円筒土器下層式の時期とみられる。(立田)

FC-14 (図Ⅳ-182・183・188・189、図版109・112・113、表Ⅳ-12・21・24)

位置 J-10-c、J-11-b、K-10-d、K-11

規模 244×199cm

長軸方向 N-72.5° -W

FC-15 (図Ⅳ-182・183・189、図版113、表Ⅳ-12・21・24)

位置 K-10-c・d、K-11-a・b

IV 遺構と遺構出土の遺物

規模 218×127cm

長軸方向 N-86° -W

FC-16 (図IV-182・189、図版113、表IV-12・24)

位置 K-11-b

規模 85×87cm

長軸方向 N-117° -W

FC-17 (図IV-182・183、図版109、表IV-12・21・24)

位置 L-11-a・d

規模 139×69cm

長軸方向 N-147.5° -W

FC-19 (図IV-180・183・190、図版109、表IV-12・21・24)

位置 J-12-c、K-12-a・d

規模 163×176cm

長軸方向 N-21.5° -W

確認・調査 標高38.0~38.4m付近の南向き斜面で検出されたフレイク・チップ集中群である。各番号は投棄された単位もしくは回数を示すものと考えられ、この斜面には前期後半の一時期、頻繁にフレイク・チップが投棄されたと言えよう。検出面はⅢ層2~3回目、FC-17はF-24と重複しそれよりも新しい。また、近接する位置の下位層には集石(S-9)が検出されており、FC-14・19はS-9よりも新しいと言える。

遺物 出土した遺物は総計4,989点である。FC-16・17が400~500点と少なく、FC-14・15・19が1,200点以上と、各FCには数量に大きな差が認められる。恐らく、400~500点前後の数量が最小の規模の一つの目安になるものと考えられる。また、各FCの大半には、作製途中の剥片石器や石核、その製作道具と考えられるたたき石が伴っているのも特徴の一つである。各FCの内訳は以下の通りである。

(FC-14) 合計1,548点で、Ⅱ群b類土器2点、スクレイパー2点、両面調整石器2点、石核6点、Uフレイク3点、フレイク1,528点、たたき石1点、礫など4点である。

(FC-15) 合計1,201点で、Ⅱ群b類土器12点、スクレイパー1点、石核10点、フレイク1,158点、礫など20点である。

(FC-16) 合計460点で、Ⅱ群b類土器1点、石核4点、フレイク454点、たたき石1点である。

(FC-17) 合計549点で、Ⅱ群b類土器7点、石核7点、フレイク535点である。

(FC-19) 合計1,231点で、Ⅱ群b類土器12点、ナイフ1点、つまみ付ナイフ1点、スクレイパー1点、石核4点、フレイク1,025点、たたき石1点、礫など5点である。

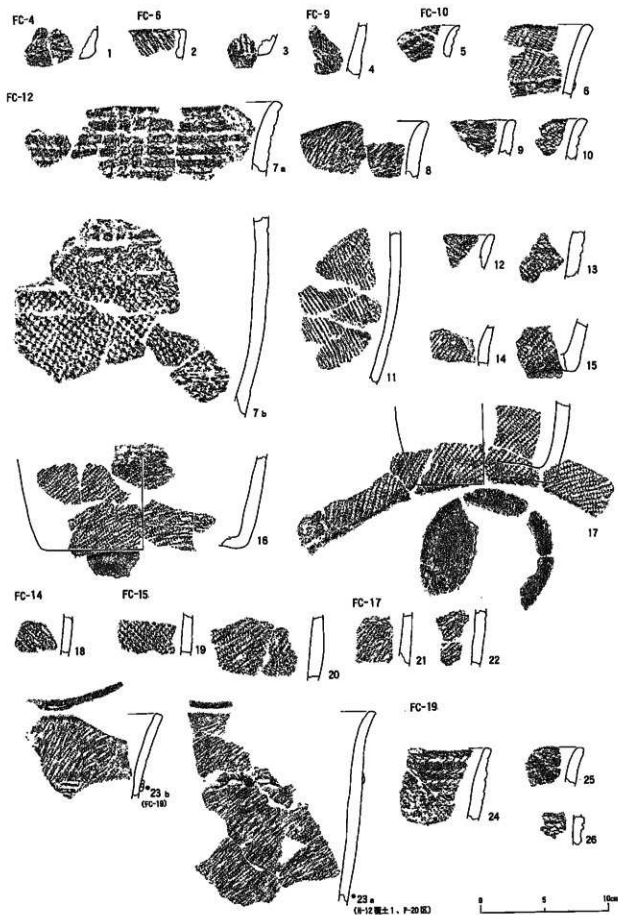
時期 相伴する土器から全て縄文時代前期後半と考えられる。

(皆川)

FC-18 (図IV-190、図版48・113、表IV-12・24)

位置 K-15-a・d

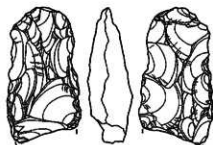
規模 107×68cm



図Ⅳ-183 フレイク集中域 (FC) 出土の土器

IV 遺構と遺構出土の遺物

FC-1



FC-1



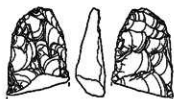
2

FC-2



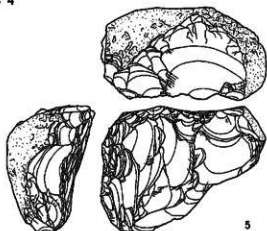
1

FC-4



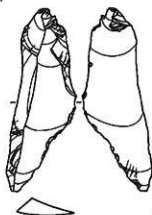
4

FC-4



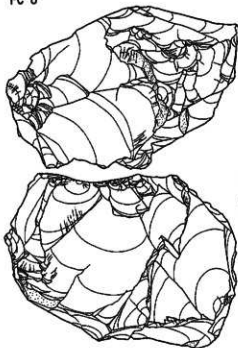
3

FC-4



6

FC-6

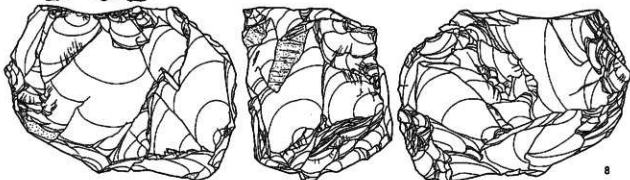


5

FC-6



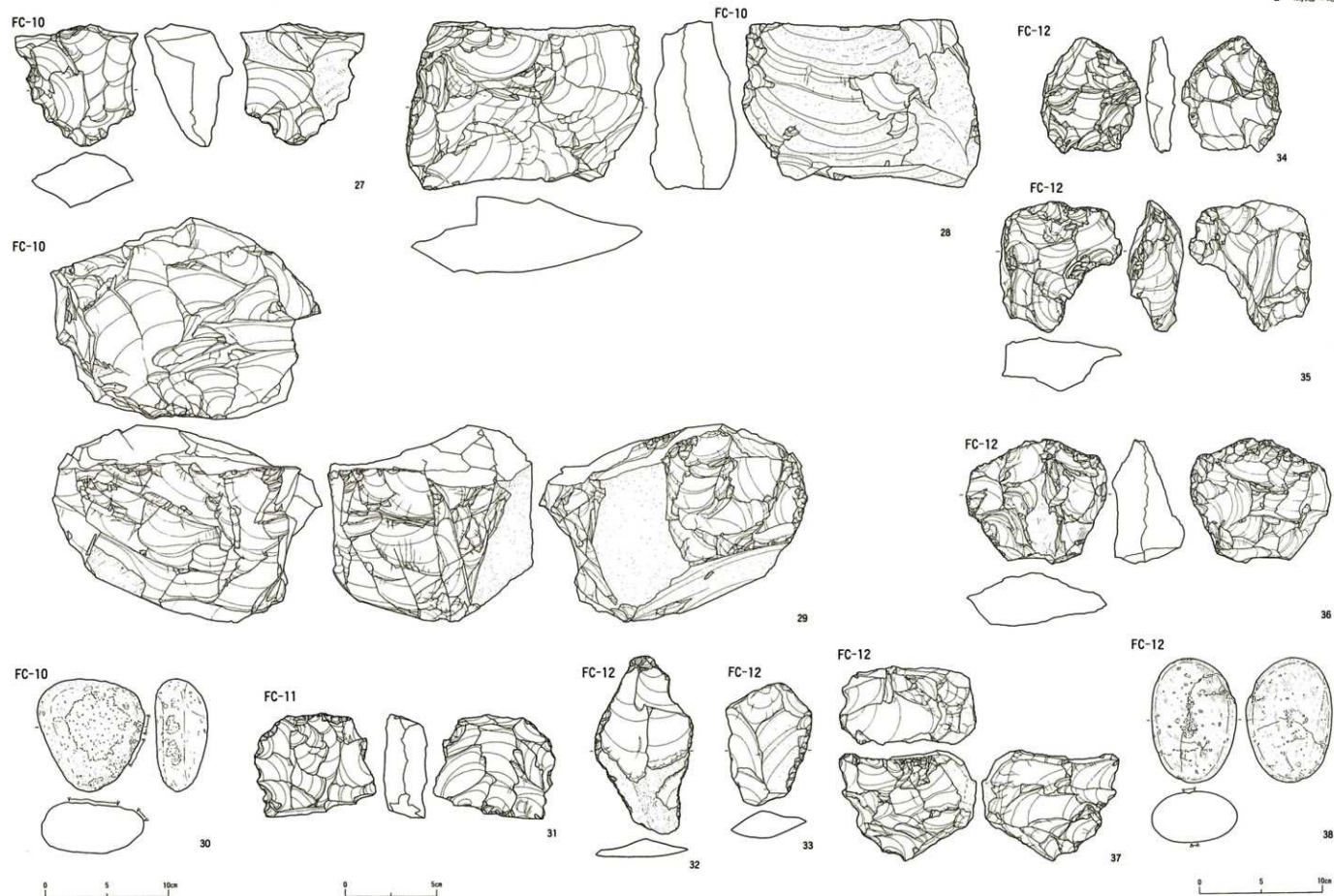
7



8



図IV-184 フレイク集中域 (FC) 出土の石器(1)



図M-185 フレイク集中域 (F C) 出土の石器(2)

長軸方向 N-128° -W

確認・調査 標高38.8-39.2m付近の平坦面で検出されたフレイク・チップの集中である。検出面はⅢ層2回目で、重複するH-4がすっかり埋没した後にこのFC-18が投棄されている。そのため、H-4よりも新しいと言える。

遺物 遺物は合計484点が出土しており、内訳は両面調整石器2点、石核1点、フレイク479点、礫など2点である。

時期 縄文時代前期後半と考えられる。

(皆川)

フレイク集中域出土の遺物(図Ⅳ-183~190、図版109~113、表Ⅳ-21・24)

(土器) 各遺構に伴って出土した土器をここにまとめて報告する。全て胎土中に繊維を含むⅡ群b類土器である。

1はFC-4に伴って出土した底部の小破片で、器面にはLRの縄文が施されている。2・3はFC-6に伴って出土した口縁部と底部の小破片である。各器面にはRの燃糸文が施され、2の内面側は剥落している。これらは同一個体の可能性がある。4はFC-9に伴って出土したRの燃糸文の施された胴部である。5・6はFC-10に伴って出土した口縁部である。5はLRの縄文を用いた文様部部分で器壁が薄く内面に研磨が施されている。6は低い山形突起部で、LRの縄文が施される口縁部の下位には縄によると思われる刻みの施された厚みのない貼付が施されている。

7~17はFC-12に伴って出土したもので、7~10・12は口縁部、11・13・14は胴部、15~17は底部である。7は器壁の厚い平縁の土器で、口縁部の文様帯にはLRの縄文を横と縦に用いたもの、胴部にはRLRの三段複節が施されている。8・12は器面にLLRの燃り戻しが施された口縁の山形突起部である。8は更に綾格文が施され、内面には研磨が施されている。9・10はLRの縄文が施されるもので、10には地紋にLRの縄文も施されている。11は器面の上位にLRの斜行縄文、下位にRの燃糸文が施されている。13・14はLRの斜行縄文が施されたもので、13には同じ燃りの原体による縄文も加えられている。15・17の器面にはLRの斜行縄文、16にはLLRの燃り戻しと考えられる文様が施されている。

18はFC-14に伴って出土した付加条の施される胴部の小破片である。19・20はFC-15に伴って出土した胴部の破片で、19にはRの燃糸文、20にはLRの斜行縄文が施されている。

21・22はFC-17に伴って出土したLLRの燃り戻しの縄文と綾格文の施された胴部である。23aはH-12覆土1層と包含層出土の破片が接合したもの(H-12-4a)。23bがFC-19に伴って出土した。FC-17からは同一個体の未接合の破片が1点出土している。山形の突起を有する口縁部から胴部である。山形突起の頂部の口唇には、先端が鋭い道具を使って長さ2cm程の切り込みが入れられており、頸部には半截竹管状の施文具で刺突文の施された粘土紐が貼付されている。地紋はLLRの燃り戻しである。24~26はFC-19に伴って出土したものである。24はRLの縄文で構成される文様帯とその下位の器面にRLRの三段複節が施される口縁部である。表面には炭化物の付着が著しい。25もRLの縄文で構成される文様帯を持つ口縁部で、24・25は同一個体の可能性がある。26は貼付のある胴部で貼付上にはLRの縄文が押捺され直上の器面には綾格文が施されている。

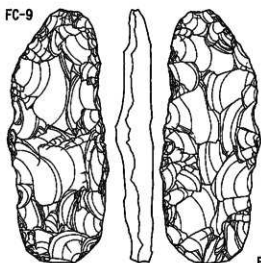
(皆川)

(石器) 各遺構から出土した石器をまとめて報告する。一部を除き石材はいずれも頁岩である。

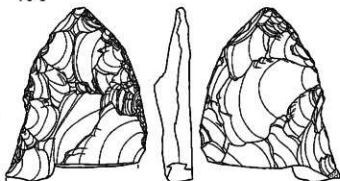
1・2はFC-1、3はFC-2出土のもの。1は木葉形(Ⅳ2)の、2は側縁に平坦面を持つ(Ⅳ3)両面調整石器。3は側縁に平坦面を持つ半円形の両面調整石器(Ⅳ3)。

IV 遺構と遺構出土の遺物

FC-9



FC-9



22

FC-9

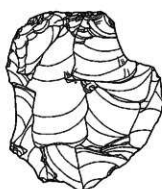
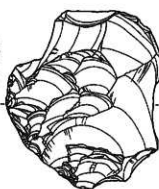


21

FC-9

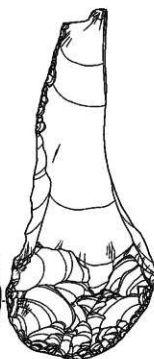


24

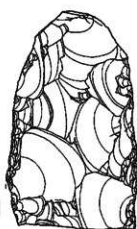


23

FC-10



FC-10

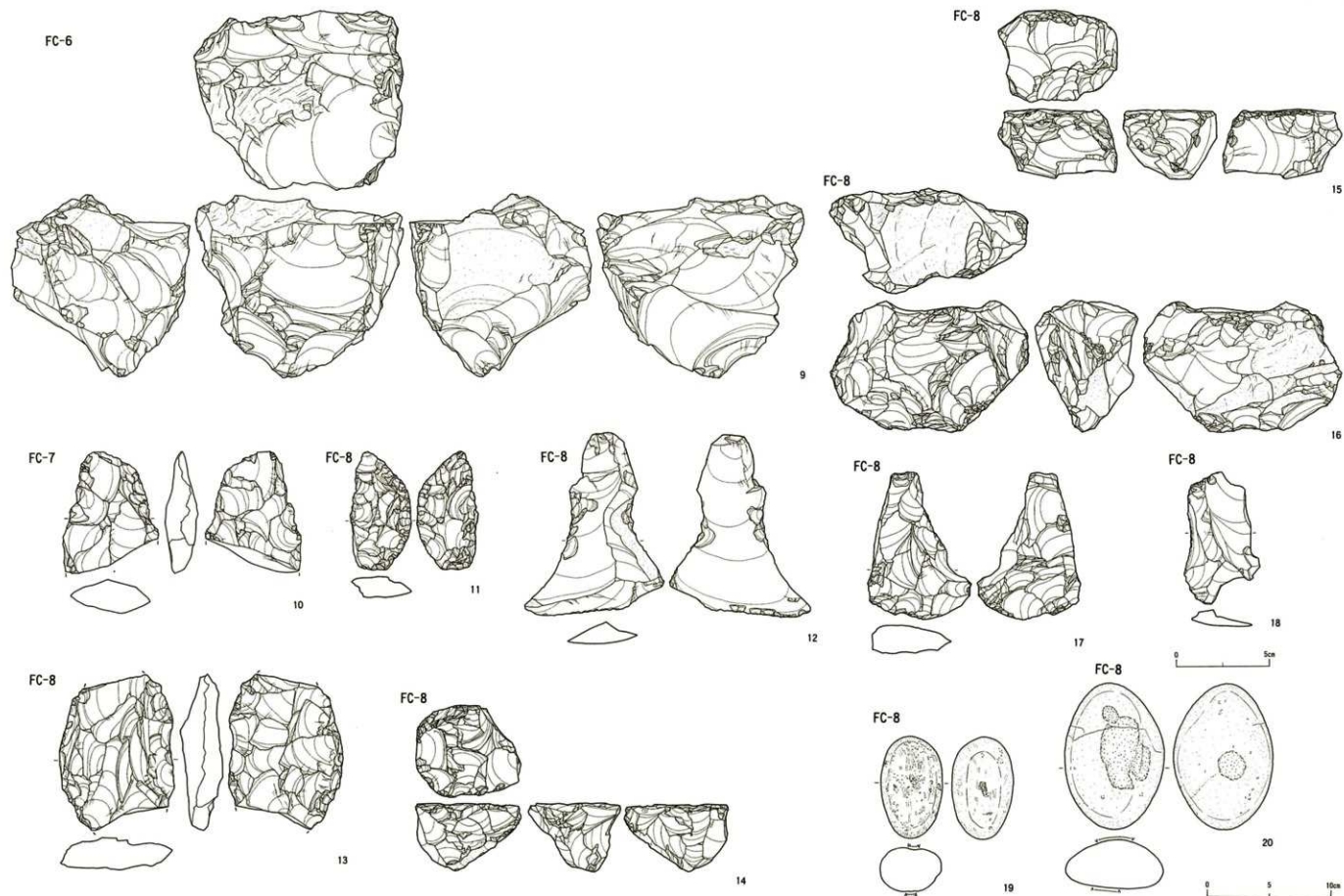


26

25

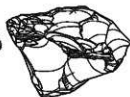


図IV-186 フレイク集中域 (FC) 出土の石器(3)



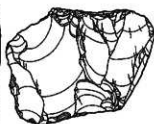
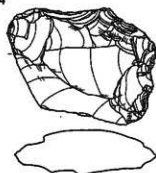
図Ⅳ-187 フレイク集中域 (FC) 出土の石器(4)

FC-14



40

FC-14



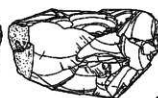
41

FC-14



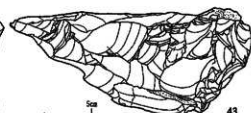
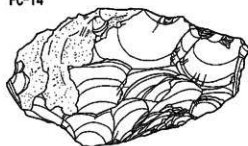
39

FC-14



42

FC-14

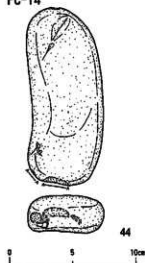


43

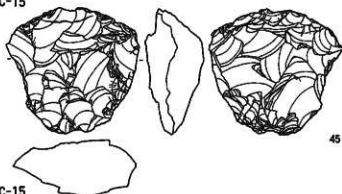
0 5cm

図N-188 フレイク集中域 (FC) 出土の石器(5)

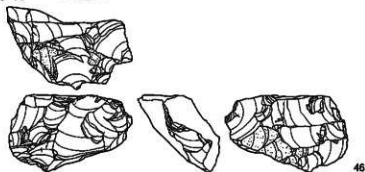
IV 汲構と遠構出土の遺物
FC-14



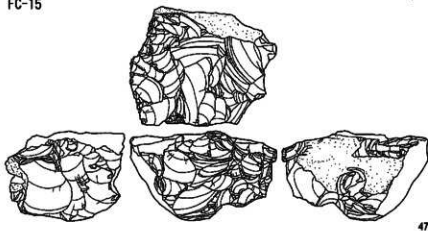
FC-15



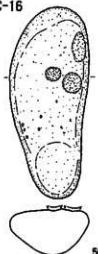
FC-15



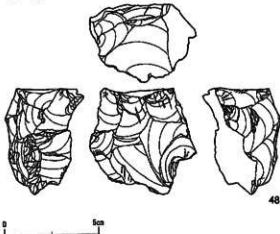
FC-15



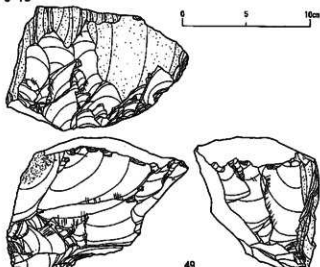
FC-16



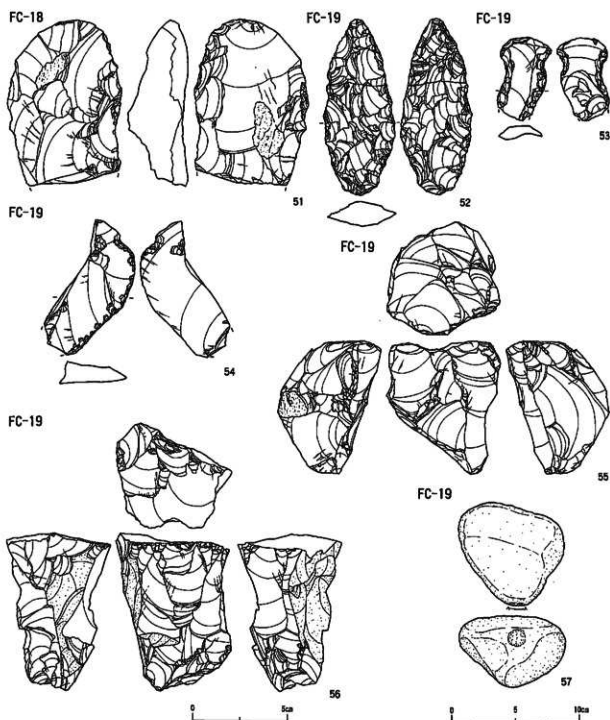
FC-16



FC-16



図IV-189 フレイク集中域 (FC) 出土の石器(6)



図Ⅳ-190 フレイク集中域 (FC) 出土の石器(7)

4～6はFC-4出土のもの。4は木葉形の両面調整石器(IV2)。5は石核(VA1)で少なくとも2回の打面転移が確認できる。円礫を用い、礫面を多く残す。推測される母岩の大きさはソフトボール大である。6は縦長剥片を用いたUフレイク(VB2)。

7～9はFC-6、10はFC-7出土のもの。7は両側縁に直線状の刃部が作出されたスクレイパー(ⅢB2b)で、下半は欠損している。8・9は石核(VA1)で、いずれも少なくとも3回の打面転移が確認できる。8は節理が発達しており、節理によって剥離が中断されたため、母岩が比較的大型のままで廃棄されたと推測される。10は木葉形の両面調整石器(IV2)。

11～20はFC-8出土のもの。11は左右非対称な木葉形の石槍またはナイフ(ⅠB2)。12は剥片の形状をあまり変えずに、厚みを残したまま、両側縁及び下端に刃部を作出したスクレイパー(ⅢB8)。13は両面調整石器(IV2)で、両端が欠損している。14～16は石核(VA1)。14は打面と作業面を固定するもの。15・16は打面転移のあるもの。17・18はUフレイク(VB2)。19・20は腹背面にたたき痕のあるたたき石(Ⅶ3)。19は背面が平滑で、すり石としても使用したと推測される。石材は安山岩である。

21～24はFC-9出土のもの。21・22は木葉形の両面調整石器(IV2)。21は節理面を残す。23・24は打面転移のある石核(VA1)。24は剥片素材と推測され、作業面を固定し、打点を移動させたもの。

25～30はFC-10出土のもの。25は2ヶ所に刃部が作出されたスクレイパー(ⅢB2a)。26は木葉形の両面調整石器(IV2)で、礫面を残す。27～29はいずれも打面転移のある石核(VA1)。27・28は作業面を固定し、打点を移動させたもの。29は少なくとも2回の打面転移が確認できる。礫表皮面を残し、推測される母岩の大きさはバレーボールからバスケットボール大と大きい。30は側縁と背面にたたき痕のあるたたき石(Ⅶ3)で、石材は安山岩である。

31はFC-11、32～38はFC-12出土のもの。31は下側縁に平坦面を持つ半円状の両面調整石器(IV3)である。32・33はスクレイパー。32は刃部が外湾するもの(ⅢB2a)で礫表皮面を残す。33は刃部が直線状のもの(ⅢB2b)。34は木葉形の両面調整石器(IV2)。35～37はいずれも打面転移のある石核(VA1)。35・36は作業面を固定し打点を移動したもの。37は少なくとも3回の打面転移が確認できる。礫表皮面を残し、推測される母岩の大きさはソフトボール大である。38は腹背面にたたき痕のあるたたき石でくぼみ石に類似するもの(Ⅶ4)。石材は安山岩である。

39～44はFC-14出土のもの。39は刃部が直線状のスクレイパー(ⅢB2b)。40～43は石核(VA1)。40は打面と作業面を固定したもの。41は作業面を固定し打点を移動したもの。42・43は少なくとも2回の打面転移が確認できるもの。44は下端にたたき痕のあるたたき石(Ⅶ1)で、下端の一部には擦痕も確認できる。石材は流紋岩である。

45～47はFC-15出土の石核(VA1)。45は作業面を固定し打点を移動したもの。46・47は少なくとも2回の打面転移が確認できるもの。

48～50はFC-16、51はFC-18出土のもの。48・49は石核(VA1)で、少なくとも2回の打面転移が確認できる。50は背面にくぼみ状の不明瞭なたたき痕のあるたたき石(Ⅶ4?)で、石材は安山岩である。51は木葉形の両面調整石器(IV2)。

52～57はFC-19出土のもの。52は無茎の石槍またはナイフ(ⅠB2)。53はつまみ付きナイフ(ⅢA1c)で身部を欠損する。54は刃部が外湾するスクレイパー(ⅢB2a)で、つまみ部縁の浅い抉りを出している。55・56は石核(VA1)で、少なくとも2回の打面転移が確認できる。57は下端に不明瞭なたたき痕のあるたたき石(Ⅶ1)で石材は安山岩である。

(藤原)

表Ⅳ-2 遺構規模一覽(1) 住居様遺構

遺構番号	位 置	規模 (m) 長軸×短軸/長軸×短軸/高さ	平面形	長軸方向	時 期	備 考
H-10	N-15-b・c, N-17-b, O-15-c・d, O-15, O-17, P-16, P-17-a・c	535×548/705×575/71	28.37	不整形円形	N-4°-W	H-13 (古)と重複、床面から土層17
H-11	O-14-b・c, P-13-c・d, P-14, Q, Q-13-d, Q-14-a・d	605×300/547×407/37	11.71	楕円形	N-44°-W	前期後半 床面からP-2, P-30
H-13	N-15-b・c, N-16-b, O-15, O-16 -a・b, P-15-a・d, P-16-a	636×430/(272)×(201)/56	10.34	楕円形	—	前期後半 H-10 (新)と重複、床面からP-24

表Ⅳ-3 遺構規模一覽(2) 再堆積層

遺構番号	位 置	規模 (m) 長軸×短軸/高さ	面積 (㎡)	体積 (㎡)	出土遺物	時 期
M-1	P-19-c, P-20 (P-21-b, Q-19-b), Q-20-a (d)	460×(319)/16	(34.80)	1.5	土器161、石器等2, 796	前期後半
M-2	O-11-b・c, P-10-c, P-11, Q-10, Q-11-a・b・d	1032×312/34	26.27	2.67	土器78、石器等400	前期後半

表Ⅳ-4 遺構規模一覽(3) 削平部分の土壌

遺構番号	位 置	規模 (m) 長軸×短軸/長軸×短軸/高さ	平面形	長軸方向	出土遺物	時 期	備 考
P-2	P-14-b	71×88/67×78/50	円形	—	土器4、石器等97	前期後半	フラスコ状ビット
P-7	P-16-a	79×80/71×78/41	円形	—	土器103、石器等50	前期後半	フラスコ状ビット、 H-10床面
P-8	P-16-d, P-17-a	71×22/67×17/38	円形	—	土器36、石器等7	前期後半	H-10床面
P-9	O-16-c	98×70/63×43/23	楕円形	N-141°-W	土器15、石器等34	前期後半	H-10床面
P-10	O-16-d	78×46/70×48/19	不整形円形	N-67.5°-W	土器・磨片2	前期後半	H-10床面
P-11	O-16-b	(76)×(41)/62×36/16	不整形円形	N-151°-W	土器48、石器等21	前期後半	H-10床面
P-14	O-16-a・b	58×36/(50)×(34)/16	楕円形	N-170°-W	土器44、石器等8	前期後半	H-10床面
P-18	Q-13-c・d	59×60/56×62/40	不整形円形	N-70°-W	土器22、石器等42	前期後半	P-22 (古)、-25 (古)、西と重複
P-22	Q-13-c・d	70×50/(32)×(19)/29	楕円形	N-2.5°-W	フレイク、磨・磨片3	前期後半	P-18 (新)と重複
P-24	O-15-d	88×48/79×47/36	楕円形	N-80°-W	土器2、石器等4	前期後半	—
P-25	Q-13-c・d	—/—/9	不明	—	—	前期後半	P-18、P-41 (新)と重複
P-27	N-16-b, O-16-a	89×74/38×25/23	楕円形	N-65°-W	土器3、たまり石1	前期後半	H-10床面
P-28	Q-13-c, Q-14-b	58×46/50×36/9	不整形円形	N-55°-W	土器6、石器等2	前期後半	P-29 (古)と重複
P-29	Q-13-c	96×77/(63)×(73)/18	不整形円形	N-85°-W	土器25、石器等5	前期後半	P-18 (新)、P-28 (新)と重複
P-30	Q-14-a	51×30/43×22/17	楕円形	N-60°-W	—	前期後半	H-11床面
P-31	P-16-a・d	86×63/73×53/17	楕円形	N-58°-W	土器3、石器等13	前期後半	H-10床面、P-54 (古)と重複
P-32	O-17-b	76×76/75×73/56	円形	—	土器11、石器等23	前期後半	H-10床面、フラスコ状ビット
P-34	O-17-a・b・c	(70)×(55)/61×41/23	不整形円形	N-112.5°-W	—	前期後半	H-10床面
P-35	P-15-c・d	49×23/34×21/38	円形	—	土器226、フレイク2	前期後半	遺跡土層、土層にP-30
P-45	O-17-c	95×69/(73)×(51)/21	楕円形	N-94.5°-W	—	前期後半	H-10床面、P-67 (新)と重複
P-54	P-15-d	43×31/21×12/12	不明	N-34.5°-W	—	前期後半	H-10床面、P-31 (新)と重複
P-56	O-16-c, P-16-d, O-17-b, P-17-a	106×80/(77)×(50)/15	不整形円形	N-134°-W	土器3、石器等13	前期後半	H-10床面、P-31 (新)と重複
P-61	Q-13-c	35×23/31×21/36	円形	—	—	前期後半	P-25 (古)と重複
P-62	P-14-d	37×24/35×16/23	不整形円形	N-29.5°-W	磨1	前期後半	—
P-63	O-15-b, P-16-a, O-17-c, P-17-d	70×53/(64)×(48)/23	楕円形	N-3°-W	土器1、石器等5	前期後半	上面にP-15
P-66	O-16-b・c	77×51/(55)×(32)/11	楕円形	N-157.5°-W	磨2	前期後半	H-10床面
P-67	O-17-c	87×61/63×49/25	楕円形	N-28.5°-W	—	前期後半	P-45 (古)と重複
P-73	O-16-c, O-16-d	56×43/22×13/16	楕円形	N-91°-W	—	前期後半	H-10床面
P-74	N-15-a・b	84×56/(34)×(22)/15	楕円形	N-89.5°-W	—	前期後半	—
P-75	O-17-c, O-16-b	44×24/(30)×(21)/16	楕円形	N-156°-W	土器120	前期後半	確認土層

表Ⅳ-5 遺構規模一覽(4) 削平部分の焼土

遺構番号	位 置	規模 (m) 長軸×短軸/高さ	長軸方向	出土遺物	時 期	備 考
F-11	Q-13-c	81×82/5	N-52°-W	—	前期後半	P-29開口部
F-18	O-15-b, P-18-a	72×50/12	N-33.5°-W	—	前期後半	P-63と重複
F-19	O-18-a・b	63×59/13	N-47°-W	石器等5	前期後半	—
F-20	P-16-c	32×26/10	N-114.5°-W	—	前期後半	H-10床面、P-25の開口部

Ⅳ 遺構と遺構出土の遺物

表Ⅳ-6 遺構規模一覧(5) 削平部分の基石

遺構番号	位 置	幅 度 長軸×短軸/長さ	長軸方向	出土遺物	時 期	備 考
S-4	Q-13-c	47×38	N-40.5°-W	土器4、石器等19	前期後半	P-18開口部

表Ⅳ-7 遺構規模一覧(6) 堅穴住居跡

遺構番号	位 置	幅 度 長軸×短軸/長さ	平面形	長軸方向	出土遺物	時 期	備 考
H-1	O-22-b-c, O-23, P-22-d, P-23-a-d	508×466/506×472/33	円形	—	—	前期後半	
H-2	Q-26, R-26-a-d, Q-27-b, R-27-a-c	455×412/386×250/51	隅丸長方形	N-113°-W	土器(?)	前期後半	
H-3	L-19-b-c, L-20-b, M-19-a-d, M-20-a	429×356/351×313/74	隅丸形	N-135.5°-W	—	前期後半	出入り口部
H-4	J-14-b-d, J-15-a-c, K-14-a-c-d	585×561/472×457/39	不整形円形	N-126°-W	—	前期後半	H-17(古)と重複
H-5	E-13-b-c, F-13-c-d, F-14, G-14-a-d	491×462/445×419/29	不整形円形	N-60°-W	—	前期後半	
H-6	K-14, L-14, K-15-b, L-15-a-d	545×523/372×345/37	不整形円形	N-87°-W	—	前期後半	H-17(古)と重複
H-7	I-23-b-c, J-14-a-b, J-15-a-d, K-14-a	588×557/523×488/29	不整形円形	N-32.5°-W	—	前期後半	H-17(古)、P-60(新)と重複
H-8	K-20-c, K-21, L-20-a-c-d, L-21	620×585/557×516/33	不整形円形	N-26°-W	—	前期後半	
H-9	R-19-a-d, R-20-a	429×395/(115)×108/34	円形?	—	—	前期後半	P-6(新)と重複
H-12	O-19-c, O-20-a-b, F-19-d, F-20, F-21-a	511×490/452×405/25	隅丸長方形	N-116°-W	土器等約20	前期後半	M-1(新)、P-7(古)、H-15(古)と重複
H-14	N-25-b-c, N-27-b, O-26-a-d, O-27-a	370×350/297×274/45	隅丸長方形	N-106.5°-W	—	前期後半	
H-15	N-20, N-21-a-b, O-20-a-d, O-21-a	496×452/484×434/30	円形	—	—	前期後半	P-59、51(新)、H-12(古)と重複
H-16	Q-25-c, Q-26-b-c, R-25-d, R-26-a-b	320×(182)/271×246/36	隅丸長方形?	N-138.5°-W	—	前期後半	
H-17	J-13-c, J-14, K-14	514×503/—	円形?	—	—	前期後半	H-6、H-6、H-7(新)と重複

表Ⅳ-8 遺構規模一覧(7) 土壌墓

遺構番号	位 置	幅 度 長軸×短軸/長さ	平面形	長軸方向	出土遺物	時 期	備 考
P-1	M-15-a-d	129×110/98×89/37	楕円形	N-137°-W	—	前期後半	平成11年度調査
P-4	Q-15-b, Q-16-a	149×115/104×78/30	楕円形	N-00°-W	土器11、石器等40	前期後半	
P-38	O-13-c	129×83/80×49/29	不整形円形	N-163.5°-W	石器2	前期後半	
P-39	O-13-a-d	89×85/75×59/23	不整形円形	N-127°-W	—	前期後半	大塚墓が隣りか?
P-50	Q-16-a	81×59/74×35/30	不整形円形	N-137°-W	つまみ付きタイプ1	前期後半	
P-56	M-14-b, N-14-a	114×96/84×69/22	楕円形	N-125°-W	スレイバー1	前期後半	
P-68	O-13-d, O-14-d	132×115/106×66/34	楕円形	N-54°-W	—	前期後半	
P-69	N-13-c, O-13-d	92×81/77×66/23	隅丸長方形	N-63°-W	フレイト2	前期後半	
P-71	N-15-a	135×119/108×85/31	楕円形	N-69°-W	つまみ付きタイプ等13	前期後半	
P-72	N-15-a-b	150×128/106×94/33	楕円形	N-72.5°-W	スレイバー等5	前期後半	
P-75	E-16-b-c	86×55/65×41/22	楕円形	N-23°-W	—	前期後半	

表Ⅳ-9 遺構規模一覧(8) 土壌・Tビット

遺構番号	位 置	幅 度 長軸×短軸/長さ	平面形	長軸方向	出土遺物	時 期	備 考
P-3	Q-28-d	146×120/124×117/27	円形	—	—	前期後半(?)	
P-5	K-17-b-c, L-18-a-d	307×250/241×164/234	不整形	N-40.5°-W	土器175、石器等998	前期後半	フタコ松ビット、F-C-11(新)と重複
P-6	R-19-a	(121)×(103)/(109)×(78)/54	楕円形?	N-84°-W	—	前期後半	H-9(古)と重複
P-12	Q-19-b	59×21/32×13/58	楕円形	N-150°-W	—	前期後半	開口部にP-4
P-13	Q-24-d	127×108/75×62/35	楕円形	N-53°-W	土器1	前期後半	土壌墓(?)
P-15	Q-24-b, R-24-a	61×34/56×19/33	円形	—	—	前期後半	
P-16	N-13-b	150×109/122×77/40	不整形円形	N-15°-W	土器14、石器等1430	前期後半	P-17(古)、P-38と重複
P-17	N-12-c, N-13-b	(74)×(64)/(51)×(22)/18	楕円形?	N-155°-W	—	前期後半	P-16(新)、P-38と重複
P-19	N-14-b-c, O-14-a-d	75×46/(40)×(28)/31	円形?	N-154°-W	—	前期後半	
P-20	O-11-b	62×39/35×23/23	円形?	N-121.5°-W	—	前期後半	
P-21	R-21-a-d	(149)×(128)/234×199/38	楕円形?	N-70.5°-W	—	前期後半以前	
P-23	Q-18-b	72×53/43×32/23	楕円形	N-147°-W	土器6、石器等7	前期後半	土壌墓(?)
P-26	Q-12-a-d	87×73/79×51/50	不整形円形	N-168°-W	土器4、石器等35	前期後半	
P-33	R-19-d	35×25/36×24/19	円形	—	—	前期後半	
P-36	O-12-b	85×46/78×36/31	円形	—	—	前期後半	
P-37	Q-19-d	90×51/72×36/41	楕円形	N-10.5°-W	—	前期後半	
P-40	N-9-c-d	133×114/134×91/41	不整形円形	N-144.5°-W	—	前期後半	縄文時代
P-41	M-13-c, M-14-b	(68)×(35)/(61)×(32)/30	円形?	N-14°-W	—	前期後半	

遺構番号	位置	幅(縦横) (cm)	平面形状	長軸方向	出土遺物	時期	備考
		長軸×短軸/長軸×短軸/厚さ					
P-42	J-19-b-c, K-18-d, K-19-a-d	338×320/181×158/37	不整形	N-164°-W	土器1, 311, 石器等430	前期後半	
P-43	O-18-a-d	37×23/29×19/28	楕円形?	N-98°-W	土器103, 石器等1	前期後半	埋没土器
P-44	M-15-b	109×86/80×65/14	楕円形	N-74.5°-W	フレイク3	前期後半	
P-46	O-19-b	146×124/99×73/27	長円形	N-115°-W		前期後半	
P-47	M-15-a-b	57×41/43×25/13	楕円形	N-133°-W	フレイク2	前期後半	
P-48	O-18-c	22×10/(9)×(5)/18	円形	N-95°-W		前期後半	柱状伏土構
P-49	N-19-c (O-19-d)	42×(20)/23×(11)/(12)	楕円形(?)	N-170°-W	土器1、フレイク3	前期後半	
P-50	N-20-b-c	(240)×214/(116)×65/(18)	不整形楕円形	N-124°-W	土器2、石器等64	前期後半	H-15埋土中
P-51	N-20-d	(129)×96/(112)×(35)/(36)	楕円形	N-75°-W	土器3、石器等56	前期後半	H-15埋土中
P-52	N-19-d	(32)×123/(21)×(11)/30	円形?	—	土器1	前期後半	
P-53	P-22-c	(133)×—/64×53/29	楕円形	N-45.5°-W	土器20、石器等7	前期後半	土器底(?)
P-57	P-22-b (P-21-c)	(123)×(94)/120×91/35	円形	—	土器4、石器等66	前期後半	溝口側にP-21
P-58	N-12-c, N-13-b	(102)×(86)/(91)×(78)/17	楕円形?	N-10.5°-W	土器1	縄文時代	P-16・17と重複
P-60	I-13-c-d	111×229/77×108/243	不整形	N-105°-W		前期後半	ガラスコップ、H-7と重複
P-64	P-36-c	104×68/97×66/30	円形	—		縄文時代	
P-65	P-37-c, Q-37-d	147×121/116×92/44	楕円形	N-25.5°-W	石等1	後期前半(?)	土器底(?)
P-70	O-21-d	86×52/(47)×(48)/66	円形?	—		前期後半以前	H-12 (新)・15 (新)と重複
T-P-1	P-31-d, P-32-a	320×328/116×26/34	溝状	N-12°-W	土器1、フレイク1	前期後半	

表N-10 遺構規模一覽(9) 焼土

遺構番号	位置	幅(縦横) (cm)	長軸方向	出土遺物	時期	備考
		長軸×短軸/厚さ				
F-1	I-11-b	70×49/12	N-56.5°-W	ステレバ-1, フレイク83	前期後半	平成11年度調査
F-2	F-40-b	51×43/12	N-14°-W		縄文時代	平成11年度調査
F-3	Q-19-a	93×62/21	N-114.5°-W		前期後半	平成11年度調査
F-4	Q-19-b	48×41/13	N-81°-W		前期後半	平成11年度調査
F-5	Q-19-b-c	63×70/13	N-35°-W		前期後半	平成11年度調査
F-6	I-17-a-b	107×51/34	N-98°-W		前期後半以降	
F-7	J-17-a-b	56×86/33	N-98°-W		前期後半以降	
F-8	K-20-d	50×41/7	N-111.5°-W	土器1	前期後半	
F-9	F-13-b-c	90×57/30	N-00°-W		前期後半	
F-10	L-14-d	48×37/9	N-137.6°-W		後期前半以降	H-6の埋土中
F-12	Q-14-b	50×37/5	N-110°-W		前期後半	
F-13	Q-18-c, Q-19-b	62×53/9	N-151°-W		前期後半	
F-14	Q-18-b-c	50×47/7	N-11.5°-W		前期後半	
F-15	H-19-b	41×17/8	N-164.5°-W	石器等5	前期後半以降	
F-16	H-19-c-d	93×81/15	N-120.5°-W	土器1、石器等3	前期後半以降	
F-17	P-18-a-d	71×51/12	N-31°-W		前期後半	
F-21	P-22-b	115×102/14	N-83°-W		前期後半	P-57埋土部
F-22	I-16-b, J-16-a	106×57/7	N-11.5°-W		前期後半	
F-23	M-15-a	67×29/15	N-116.5°-W		前期後半	
F-24	L-11-a-d	82×109/12	N-40.5°-W	石器等11	前期後半	F-C-17と重複

表N-11 遺構規模一覽(10) 集石

遺構番号	位置	幅(縦横) (cm)	長軸方向	出土遺物	時期	備考
		長軸×短軸/厚さ				
S-1	Q-20-c-d	(190)×(91)/(7)	N-96°-W	たまり石等33	前期後半	
S-2	N-18-a-d	153×48	N-105°-W	たまり石等10	前期後半	
S-3	P-27-a	67×62/7	N-72.5°-W	たまり石等11	前期後半	
S-5	P-22-a-b	58×51/9	N-139°-W	たまり石等18	前期後半	S-6・8と一連のものではないと調査
S-6	P-22-a	87×52/11	N-105°-W	たまり石等9	前期後半	S-5・8と一連のものではないと調査
S-7	O-22-b	34×34/2	N-90°-W	たまり石5	前期後半	H-1埋上げ土中
S-8	P-22-a-b	137×101/17	N-104°-W	たまり石等40	前期後半	S-5・6と一連のものではないと調査
S-9	J-11-a-d	331×127	N-162.5°-W	小礫等223	前期後半	
S-10	Q-34-c	80×19/10	N-40°-W	たまり石等15	早期前半・後期前半	

Ⅳ 遺構と遺構出土の遺物

表Ⅳ-12 遺構規模一覧(Ⅰ)フレイク集中域

遺構番号	位	数	規模 (cm) 長径×短径×厚さ	長軸方向	出土遺物	時期	備 考
FC-1	I-14-e, J-14-d, J-15-b		241×197	N-24°-W	土器2、フレイク等662	前期後半	平成11年度調査
FC-2	M-17-a・b		114×63	N-67.5°-W	土器1、フレイク等33	前期後半	平成11年度調査
FC-3	N-18-c, O-18-d		230×132/10	N-79.5°-W	土器14、フレイク等1,103	前期後半	
FC-4	P-19-c, P-20-b		208×61/11	N-26.5°-W	土器4、フレイク等771	前期後半	M-1と関連か
FC-5	M-13-b, N-12-d, N-13-a		232×147	N-43.5°-W	土器2、フレイク等1,404	前期後半	
FC-6	O-21-b		94×40	N-71.5°-W	土器42、フレイク等308	前期後半	
FC-7	O-21-c		122×93	N-90°-W	土器2、フレイク等661	前期後半	
FC-8	Q-20-a		134×128/13	N-44.5°-W	土器8、フレイク等17,182	前期後半	M-1の上面
FC-9	N-18-a・b・d		170×150/10	N-10°-W	土器15、フレイク等415	前期後半	
FC-10	P-12-a・b, P-11-c		284×72/15	N-42.5°-W	土器13、フレイク等3,833	前期後半	M-2 (古)に近接・上位
FC-11	L-17-d, L-18-a・b		180×119	N-122°-W	土器32、フレイク等1,457	前期後半	
FC-12	L-11-b・c, M-11-a・d		299×230	N-150°-W	土器666、フレイク等2,869	前期後半	
FC-13	M-17-c・d, M-18-a・d		145×95	N-57°-W	土器3、フレイク等861	前期後半	集石を伴う
FC-14	J-10-c, J-13-b, K-10-d, K-11-c		244×199	N-72.5°-W	土器2、フレイク等1,566	前期後半	S-9よりも新しい
FC-15	K-10-c・d, K-11-a・b		218×127	N-86°-W	土器12、フレイク等1,180	前期後半	
FC-16	K-11-b		85×87	N-117°-W	土器1、フレイク等459	前期後半	
FC-17	L-11-a・d		139×69	N-147.5°-W	土器7、フレイク等542	前期後半	F-14 (古)と重複
FC-18	K-15-a・d		107×68	N-128°-W	フレイク等484	前期後半	
FC-19	K-12-a・d, J-12-c		163×176	N-21.5°-W	土器12、フレイク等1,219	前期後半	S-9よりも新しい

表Ⅳ-13 遺構別出土遺物一覧

	遺構名	土器	割片石群										磨製石群			礫石群					燧石など		その他			全計																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
			石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群		石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群

一覽表

産 場 名	土 層	板片石群										磨石群										礫など				その他				合 計
		石垣 石垣	石垣 石垣	石垣 石垣	石垣 石垣	石垣 石垣	石垣 石垣	石垣 石垣	石垣 石垣	石垣 石垣	石垣 石垣	石垣 石垣	石垣 石垣	石垣 石垣	石垣 石垣	石垣 石垣	石垣 石垣	石垣 石垣	石垣 石垣	石垣 石垣	石垣 石垣	石垣 石垣	石垣 石垣	石垣 石垣	石垣 石垣	石垣 石垣	石垣 石垣	石垣 石垣	石垣 石垣	
P-13	1																													1
P-14	44										3													3						12
P-16	14					1	1				1,410		1	1	1	1							4							1,434
P-18	22					1					24		1										16							64
P-22											2												1							3
P-23	6										3												4							13
P-24	2										3												1							6
P-25	4									1	26			1									7							39
P-27	3													1																4
P-28	6										1												1							8
P-29	25					1					2			1													1			30
P-31	3										8												5							16
P-32	11										19			2									2							34
P-35	256										2																			258
P-36	1							1	1		6			2									1							13
P-38		2																												2
P-42	1,311	1	1	1	6	1	1	1	2		148		6			1							248	1	16					1,742
P-43	108										1																			104
P-44											3																			3
P-47											2																			2
P-49	1										3																			4
P-50	2										77												7							86
P-51	3										48												8							59
P-52																							1							1
P-53	20										2			2									2							27
P-55					1																									1
P-56						1																								1
P-57	4	1			1						38		4			19							3							70
P-58																							1							1
P-59	3										8												8							16
P-62																								1						1
P-63	1									1	4																			6
P-65												1																		1
P-66																							2							2
P-69											2																			2
P-71						2	1				8			1														1		13
P-72							2				2												1							5
P-75	120																													120
T P-1	1										1																			2
S P-1																							2							2
S P-6											2																			2
S P-17														1									1							2
S P-26	4																													4
S P-40											1																			1
S P-86															1															2
S P-87	2										1																			3

IV 遺構と遺構出土の遺物

遺構名	土器	板片石器群										磨製石器群				雑石群						礫など		その他				合計																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
		石鏃	石鏃・ナイフ	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃		石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃

	遺構名	土器	割片石群										磨製石群		礫石群							礫など		その他			合計																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
			石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群		石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群

表IV-14 住居跡・住居様遺構出土遺物一覽

遺構名	出土層位	土器	割片石群										磨製石群				礫石群				礫など		その他				合計	
			石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群		石群
H-1	竪土	5,172	7	2									2,210	2	1													8,079
	竪土	746											114															860
	竪土	1																									2	
	合計	5,920	7	2									2,325	2	1													9,060
	竪土	3											1														4	
H-2	竪土																											
	合計	3										1															4	
H-3	竪土	2,533	4	2	1	24	2	7	4	3	22		2,703	3														5,735
	竪土	15											165															235
	竪土												4														6	
	合計	2,562	4	2	1	30	3	10	9	3	25		2,872	3														5,967
	竪土												14	1	6	2	2	8	19									

IV 遺構と遺構出土の遺物

遺構名	出土層位	土層	利片石群										磨製石群				磨石群				骨など		その他		合計																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
			石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群		石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群	石群

表IV-15 遺構出土陶器土器一覽(1) 住居様遺構

図面番号	整理番号	出土位置	出土部位	点数	図面番号
H-10	図IV-5-1 (439)		合計	4	53
		H-10 床		2	
		床縁合	H-10 壁土	1	2
	図IV-5-2 (442)	H-10 壁土	1	1	53
	図IV-5-3 (444)	H-10 床		1	53
	図IV-5-4 (445)	H-10 床		1	53
	図IV-5-5 (446)	H-10 壁土	1	1	53
	図IV-5-6 (438)	H-10 床		6	53
	図IV-5-7 (441)	H-10 床		1	53
	図IV-5-8 (443)	H-10 床		1	53
	図IV-5-9 (181)		合計	53	
		H-10 床		12	
		P-12-a 壁		2	
			小計	14	
		床縁合	H-1 壁土 2 b	2	
		H-10 床		2	
		P-12-a 壁		1	
			小計	5	
	図IV-5-10 (70)		合計	12	54
		H-15 壁土 2 b		11	(H-15-40)
		床縁合	H-10 壁土	1	1
	図IV-5-11 (436)	H-10 床		2	53
	図IV-5-12 (437)		合計	6	53
		H-10 床		4	
		床縁合	H-10 床	2	
		H-10 床		1	
		H P-6 上層		1	
			小計	4	
H-11	図IV-8-1 (200)		合計	24	54-1
	a	H-11 床		2	
		Q-14-a 壁		2	
	b	H-11 床		6	
		Q-14-a 壁		2	
			小計	12	
		床縁合	H-11 床	3	
		Q-14-a 壁		6	
		Q-14-a 壁		3	
			小計	12	
	図IV-8-2 (153)		合計	12	54-1
		H-11 H P-1		4	
		不明		1	
			小計	5	
		床縁合	H-11 H P-1	7	
	図IV-8-3 (452)	H-11 床		1	54-1
	図IV-8-4 (447)		合計	2	54-1
		H-11 床		1	
		床縁合	H-11 床	1	
	図IV-8-5 (448)	H-11 床		1	54-1
	図IV-8-6 (449)	H-11 床		1	54-1
	図IV-8-7 (451)	H-11 床		1	54-1
	図IV-8-8 (450)	H-11 床		1	54-1
	図IV-8-9 (453)		合計	3	54-1
		H-11 床		1	
		床縁合	H-11 床	2	
H-13	図IV-10-1 (451)	H-13 床		1	54-2
	図IV-10-2 (450)	H-13 床		1	54-2

表IV-16 遺構出土陶器土器一覽(2) 再堆積層

図面番号	整理番号	出土位置	出土部位	点数	図面番号
M-1	図IV-14-1 (154)	M-1	合計	138	60-1
		P-25	壁土 1	18	(P-25-1)
			壁土 2	22	
			壁土 3	1	
			壁土 6	19	
		床縁部		1	
			小計	61	
		床縁合	P-35	壁土 1	20
			壁土 2	16	
			壁土 3	2	
			壁土 6	25	
		床縁部		14	
			小計	77	
図IV-14-2 (538)	M-1	1	55-1		
図IV-14-3 (539)	M-1	1	55-1		
図IV-14-4 (546)		合計	3	55-1	
	M-1	2			
	床縁合	M-1	1		
図IV-14-5 (543)	M-1	1	55-1		
図IV-14-6 (542)	M-1	1	55-1		
図IV-14-7 (547)		合計	4	55-1	
	M-1	2			
	床縁合	M-1	2		
図IV-14-8 (52)		合計	53		
a	P-21-a	目	2	8-10-10-1(a)	
	P-30	目	2	8-10-10-1(a)	

遺構番号	図面番号	整理番号	出土位置	出土部位	点数	図面番号																																									
M-1	c	P-21-b	壁	1	4	92-4 (H-15-8c)																																									
							Q-15-b	壁	1	4																																					
											H-15	壁土 2	1	2																																	
															H-15	壁土 2 c	1	2																													
																			H-15	壁土 3	2	2																									
																							M-1		1	1																					
																											K-15-d	壁	1	4																	
																															P-19-c	壁	1	1													
																																			P-19-c	IV	1	1									
																																							P-21-a	壁	2	2					
																																											Q-15-b	壁	1	1	
																																															Q-20-a
		小計	33																																												
						床縁合	H-1	壁土 3	1	2																																					
											H-15	壁土 1	1	1																																	
															H-15	壁土 2	1	1																													
																			H-15	壁土 2 c	1	1																									
																							P-21-a	壁	11	11																					
																											P-21-a	IV	1	1																	
																															Q-15-b	壁	2	2													
	Q-20-a																																		壁	1	1										
																																						小計	20								
																																										図IV-14-9 (187)	合計	37	55-1		
																																														a	M-1
		b	M-1	1	1																																										
						小計	5																																								
										床縁合	M-1	32																																			
														図IV-14-10 (610)	M-1	2	55-1																														
																		図IV-14-11 (553)	M-1	1	55-1																										
																						図IV-14-12 (538)	M-1	1	55-1																						
																										図IV-14-13 (537)	M-1	2	55-1																		
																														図IV-14-14 (536)	M-1	1	55-1														
	図IV-14-15 (534)																																	M-1	1	55-1											
図IV-14-16 (540)																																					M-1	1	55-1								
																																								図IV-14-17 (509)	M-1	2	55-1				
																																												図IV-14-18 (56)	合計	15	74-2 (H-3-9)
		H-3	壁土 3	3	2																																										
						H-3	壁土 3	1	1																																						
										M-1	1	1	1																																		
														M-20-b	壁	1	1																														
																		小計	7																												
																						床縁合	H-15	壁土 2 b	2																						
																										M-2	上面	1	1																		
																														L-20-a	壁	4	4														
	L-24-c																																	壁	1	1											
小計																																					8										
																																								図IV-15-19 (541)	合計	3	55-1				
																																												M-1	2		
		床縁合	M-1	1																																											
						図IV-15-20 (548)	合計	4	55-1																																						
										M-1	1																																				
														床縁合	M-1	2																															
																		図IV-15-21 (544)	M-1	1	55-1																										
																						図IV-15-22 (545)	M-1	1	55-1																						
																										図IV-15-23 (77)	合計	121	54 (H-15-11a)																		
																														a	H-15	壁土 3	3														
	P-75																																	壁土 2 C	10	43											
不明																																						3	3								
																																								小計	59						
																																												床縁合	H-3	壁土 2	2
		H-15	壁土 2	2	2																																										
						H-15	壁土 2 b	3	3																																						
										H-15	壁土 2 C	8	8																																		
														P-75	壁土 1	20	20																														
																		M-1		3	3																										
																						M-2	上面	1	1																						
																										M-2	中	1	1																		
																														P-20-c	壁	2	2														
	床縁配																																		11	11											
小計																																					62										
																																								M-2	壁下層	1	55				
																																												M-2	壁下層	1	55
		M-2	下	1	55																																										
						図IV-19-3 (586)	合計	14	55																																						
										a	M-2	下	1																																		
														b	K-15-d	壁	5																														
																		小計	7																												
																						床縁合	J-M-d	壁	1																						
																										M-9-c	壁	5	5																		
																														P-10-c	壁	1	1														
	小計																																	7													
図IV-19-5 (551)																																					M-2	下	1								
																																								図IV-19-6 (196)	合計	18	56				
																																												M-2	上	1	1
		中	1	1																																											
					下	1	1																																								

IV 遺構と遺構出土の遺物

遺構番号	図番号	発掘番号	出土位置	出土層位	点数	図版番号
M-2		M-2	F	上	2	
				小計	5	
				未検合	1	
				中	9	
				下	2	
				M-2	1	
				小計	13	
				合計	10	
				56		
M-19-7 (125)		M-2	中位	下位	1	
				F-11-d	1	
				小計	5	
				未検合	1	
				H-3	1	
				瓦土 4	1	
				瓦土 1	1	
				瓦土 2	1	
				M-2	1	
				下位	1	
M-19-8 (566)		M-2	中	中	1	
				M-2	1	
				合計	121	
				94		
				(H-15-41a)		
				a	3	
				瓦土 2 C	10	
				F-75	43	
				瓦土 1	3	
				不明	3	
M-19-9 (583)		M-2	中	中	1	
				M-2	1	
				合計	121	
				94		
				(H-15-41a)		
				a	3	
				瓦土 2 C	10	
				F-75	43	
				瓦土 1	3	
				不明	3	
M-19-10 (77)		M-2	中	中	1	
				M-2	1	
				合計	121	
				94		
				(H-15-41a)		
				a	3	
				瓦土 2 C	10	
				F-75	43	
				瓦土 1	3	
				不明	3	
M-19-11 (126)		M-2	上位	上	3	
				F-11-b	1	
				小計	4	
				未検合	1	
				M-2	1	
				中位	7	
				M-12	2	
				F-11-b	2	
				小計	10	
				合計	15	
M-19-12 (580)		M-2	中	中	1	
				M-2	1	
				合計	15	
				74-2		
				(H-3-9)		
				H-3	1	
				瓦土 1	3	
				瓦土 3	2	
				M-1	1	
				M-20-b	1	
M-19-13 (549)		M-2	上	上	1	
				M-2	1	
				合計	15	
				74-2		
				(H-3-9)		
				H-3	1	
				瓦土 1	3	
				瓦土 3	2	
				M-1	1	
				M-20-b	1	
M-19-14 (556)		M-2	上	上	1	
				M-2	1	
				合計	15	
				74-2		
				(H-3-9)		
				H-3	1	
				瓦土 1	3	
				瓦土 3	2	
				M-1	1	
				M-20-b	1	
M-19-15 (66)		M-2	上	上	1	
				M-2	1	
				合計	15	
				74-2		
				(H-3-9)		
				H-3	1	
				瓦土 1	3	
				瓦土 3	2	
				M-1	1	
				M-20-b	1	
M-19-16 (533)		M-2	上	上	1	
				M-2	1	
				合計	15	
				74-2		
				(H-3-9)		
				H-3	1	
				瓦土 1	3	
				瓦土 3	2	
				M-1	1	
				M-20-b	1	
M-19-17 (533)		M-2	上	上	1	
				M-2	1	
				合計	15	
				74-2		
				(H-3-9)		
				H-3	1	
				瓦土 1	3	
				瓦土 3	2	
				M-1	1	
				M-20-b	1	
M-19-18 (533)		M-2	上	上	1	
				M-2	1	
				合計	15	
				74-2		
				(H-3-9)		
				H-3	1	
				瓦土 1	3	
				瓦土 3	2	
				M-1	1	
				M-20-b	1	
M-19-19 (533)		M-2	上	上	1	
				M-2	1	
				合計	15	
				74-2		
				(H-3-9)		
				H-3	1	
				瓦土 1	3	
				瓦土 3	2	
				M-1	1	
				M-20-b	1	
M-19-20 (533)		M-2	上	上	1	
				M-2	1	
				合計	15	
				74-2		
				(H-3-9)		
				H-3	1	
				瓦土 1	3	
				瓦土 3	2	
				M-1	1	
				M-20-b	1	
M-19-21 (579)		M-2	上	上	1	
				M-2	1	
				合計	15	
				74-2		
				(H-3-9)		
				H-3	1	
				瓦土 1	3	
				瓦土 3	2	
				M-1	1	
				M-20-b	1	
M-19-22 (596)		M-2	上	上	1	
				M-2	1	
				合計	15	
				74-2		
				(H-3-9)		
				H-3	1	
				瓦土 1	3	
				瓦土 3	2	
				M-1	1	
				M-20-b	1	
M-19-23 (527)		M-2	上	上	1	
				M-2	1	
				合計	15	
				74-2		
				(H-3-9)		
				H-3	1	
				瓦土 1	3	
				瓦土 3	2	
				M-1	1	
				M-20-b	1	
M-19-24 (107)		M-2	上	上	1	
				M-2	1	
				合計	15	
				74-2		
				(H-3-9)		
				H-3	1	
				瓦土 1	3	
				瓦土 3	2	
				M-1	1	

遺構番号	部番号	発掘番号	出土位置	出土層位	点数	照版番号	
P-29		未調査	P-29-c	Ⅲ	1	小計 7	
			P-27-c	Ⅲ	7		
			P-27-d	Ⅲ	3		
					1		
			不明		10		
				小計	10		
P-32		図Ⅳ-28-3 (597)	P-29	覆土 1	2	99-2	
		図Ⅳ-28-4 (608)	P-29	覆土 1	5	99-2	
		図Ⅳ-27-1 (626)	P-32	覆土 3	1	98-4	
		図Ⅳ-27-2 (594)	P-32	覆土 3	合計 4	102-1	
			未調査	P-32	覆土 3	5	(P-36-1)
P-35	図Ⅳ-29-1 (104)	未調査		合計	139	60-1	
			M-1	1			
			P-35	覆土 1	18		
				覆土 2	22		
				覆土 3	1		
				覆土 6	19		
					1		
				未計配			
					小計	62	
				未調査	P-35	覆土 1	30
		覆土 2	16				
		覆土 3	2				
		覆土 6	25				
		未計配	16				
			小計	77			
P-59	図Ⅳ-30-1 (606)	P-59	覆土 2	1	99-2		
	図Ⅳ-30-2 (592)	P-59	覆土 1	1	99-3		
P-75	図Ⅳ-32-1 (77)	a		合計	121		
			H-15	覆土 2	3	94	
			H-15	覆土 2 c	0	(Ⅱ-15-41a)	
			P-75	覆土 1	43	90-2	
				不明		3	
	b			小計	59		
未調査			H-3	覆土 2	2		
H-15			覆土 2	2			
H-15			覆土 2 b	3			
H-15			覆土 2 c	0			
		P-75	覆土 1	29			
		M-1	3				
		M-2	上面	1			
		M-2	中	1			
		P-25-c	Ⅲ	2			
			未計配				
				小計	62		

IV 遺構と遺構出土の遺物

遺構番号	図番号	発掘番号	出土位置	出土層位	点数	図説番号	
H-1			P-24-d	Ⅲ	1		
			P-24-c	Ⅲ	2		
小計					5		
合計					21	64	
H-1			H-1	Ⅲ土3	8		
			H-1	Ⅲ土3b	10		
小計					18		
未検合					H-1	Ⅲ土3b	3
合計					28	64	
H-1			H-1	Ⅲ土3	3		
			H-1	Ⅲ土3b	3		
H-1			H-1	不明	1		
			H-1	Ⅲ土2b	2		
H-1			H-1	Ⅲ土3b	6		
			H-1	Ⅲ土3b	3		
小計					18		
未検合					H-1	Ⅲ土2c	7
					H-1	Ⅲ土3	2
					H-1	Ⅲ土3b	1
小計					10		
合計					30	65	
H-1			H-1	Ⅲ土2b	4		
			H-1	Ⅲ土3	16		
H-1			H-1	Ⅲ土3b	1		
			H-23-b	Ⅲ	1		
小計					26		
未検合					H-1	Ⅲ土2b	1
					H-1	Ⅲ土3b	5
小計					6		
合計					31	66	
H-51-34	(245)	H-1	Ⅲ土3	1	66		
H-51-35	(245)	H-1	Ⅲ土3	3	66		
H-51-36	(244)	H-1	Ⅲ土3	11	64		
小計					5		
未検合					H-1	Ⅲ土3	6
					H-1	Ⅲ土3	5
合計					5	64	
H-51-37	(246)	H-1	Ⅲ土3	2			
未検合					H-1	Ⅲ土2b	1
					H-1	Ⅲ土3	2
小計					3		
H-51-38	(280)	H-1	Ⅲ土3	2	64		
H-51-39	(253)	H-1	Ⅲ土3	15	64		
小計					3		
未検合					H-1	Ⅲ土3	12
H-51-40	(278)	H-1	Ⅲ土3	2	64		
H-51-41	(42)	H-1	Ⅲ土3	14	64		
小計					5		
未検合					H-1	Ⅲ土3	9
					H-1	Ⅲ土3	9
合計					90	65	
H-1			H-1	Ⅲ土3	7		
			H-1	Ⅲ土3	2		
小計					10		
未検合					H-1	Ⅲ土3	7
合計					222	62-3	
H-1			H-1	Ⅲ土2	16		
			H-1	Ⅲ土3	114		
未検合							
小計					132		
H-1			H-1	Ⅲ土3	1		
			H-1	Ⅲ土2b	9		
H-1			H-1	Ⅲ土3	72		
			H-1	Ⅲ土3b	1		
未検合							
小計					90		
合計					32	65	
H-1			H-1	Ⅲ土3	12		
			H-1	Ⅲ土3	9		
小計					21		
未検合					H-1	Ⅲ土3	1
					H-1	Ⅲ土2b	4
					H-1	Ⅲ土3	1
					H-15	Ⅲ土3	2
小計					11		
合計					32	65	
H-52-45	(548)	H-1	Ⅲ土3	2	65		
H-52-46	(58)	H-1	Ⅲ土3	28	62-4		
小計					9		
未検合					H-1	Ⅲ土3	9
H-52-47	(40)	H-1	Ⅲ土3	15	65		
H-52-48	(361)	H-1	Ⅲ土3	1	65		
H-52-49	(347)	H-1	Ⅲ土3	2	65		
H-52-50	(576)	H-1	Ⅲ土3	3	65		
H-52-51	(254)	H-1	Ⅲ土3	13	65		
小計					3		
未検合					H-1	Ⅲ土3	2
					H-1	Ⅲ土3	10
					H-1	Ⅲ土3b	1
小計					11		
H-52-52	(577)	H-1	Ⅲ土3	2	65		
H-52-53	(50)	H-1	Ⅲ土3	56	65		
合計					56		

選考番号	国番号	受験番号	出上位置	出上順位	点数	試験番号
H-1	H-1	未組合	H-1	順上 3	1	
		小計			4	
		国IV-54-65 (14)	合計		163	63-1
		H-1	順上 2 b	122		
		H-1	順上 3	24		
		未組合	H-1	順上 2 b	14	
		H-1	順上 1	3		
		小計			17	
		国IV-54-66 (336)	合計		11	66
		H-1	順上 3	3		
H-1	H-1	未組合	H-1	順上 2 b	8	
		小計			23	66
		国IV-54-67 (47)	合計		23	
		a	H-1	順上 2 b	2	
		b	H-1	順上 2 b	8	
		c	H-1	順上 3	3	
		P-17-b	Ⅲ	2		
		L-24-b	Ⅲ	5		
		未組合	H-1	順上 2 b	1	
		H-1	順上 3	2		
H-1	H-1	小計			3	
		国IV-55-68 (355)	合計		15	67
		H-1	順上 2 b	4		
		H-1	順上 1	2		
		未組合	H-1	順上 2 b	4	
		H-1	順上 3	5		
		小計			9	
		国IV-55-69 (34)	合計		25	69
		H-1	順上 2 b	15		
		未組合	H-1	順上 3	1	
H-1	H-1	H-15	順上 3	2		
		J-10-c	Ⅳ	7		
		小計			7	
		国IV-55-70 (26)	合計		82	67
		a	H-1	順上 2 b	1	
		b	H-1	順上 2 b	7	
		c	O-22-b	Ⅲ	3	
		未組合	H-1	順上 1	2	
		H-1	順上 2	14		
		H-1	順上 2 b	42		
H-1	H-1	H-1	順上 3	1		
		O-22-b	Ⅲ	12		
		小計			71	
		国IV-55-71 (337)	合計		30	67
		a	H-1	順上 2 b	2	
		b	H-1	順上 2 b	3	
		未組合	H-1	順上 3	5	
		小計			10	
		国IV-55-72 (22)	合計		77	67
		a	H-1	順上 2 b	3	
H-1	H-1	b	H-1	順上 2 b	3	
		未組合	H-1	順上 2 b	69	
		H-1	順上 3	2		
		小計			71	
		国IV-55-73 (35)	合計		114	67
		a	H-1	順上 2 b	2	
		b	H-15	順上 2 b	7	
		J-15	順上 2 c	7		
		H-15	順上 3	1		
		小計			19	
H-1	H-1	未組合	H-1	順上 2	4	
		H-1	順上 2 b	27		
		H-15	順上 2 b	2		
		H-15	順上 2 c	14		
		H-15	順上 3	9		
		O-24-b	Ⅲ	1		
		P-20-b	Ⅳ	1		
		Q-22-a	Ⅲ	1		
		L-15-c	Ⅲ	42		
		小計			95	
H-1	H-1	国IV-55-74 (375)	合計		9	67
		H-1	順上 2 b	3		
		未組合	H-1	順上 2 b	6	
		小計			9	
		国IV-55-75 (373)	合計		11	67
		H-1	順上 2 b	4		
		未組合	H-1	順上 2 b	7	
		小計			11	
		国IV-55-76 (36)	合計		29	67
		H-1	順上 2 b	15		
H-1	H-1	未組合	H-1	順上 2 b	14	
		小計			14	
		国IV-55-77 (468)	合計		5	
		H-1	順上 2 b	5		
		小計			3	
		国IV-55-78 (533)	合計		3	
		a	H-1	順上 2 b	1	67

選考番号	国番号	受験番号	出上位置	出上順位	点数	国原番号
H-1		b	H-9	順上 2	1	B-1(Ⅲ-1-13) B-1(Ⅲ-1-26)
		c	M-2	上	1	
		国IV-55-79 (32)	合計	54	67	
		a	H-1	順上 2 b	1	小計 8
		b	H-1	順上 2 b	2	
		c	H-1	順上 2 b	4	
		未組合	H-1	順上 3	1	
		小計			8	
		未組合	H-1	順上 2 b	37	小計 155
		H-1	順上 3	9		
国IV-56-80 (17)	合計	155	63-2			
H-1	順上 2 b	108				
H-1	順上 3 b	1				
小計		109				
未組合	H-1	順上 2 b		45		
小計		1				
国IV-56-81 (332)	合計	4	68			
H-1	順上 2 b	2				
未組合	H-1	順上 2 b	2			
国IV-56-82 (379)	合計	5	68			
H-1	順上 2 b	2				
国IV-56-83 (340)	合計	2	68			
H-1	順上 2 b	3				
国IV-56-84 (371)	合計	3	68			
H-1	順上 2 b	3				
国IV-56-85 (33)	合計	10	68			
a	H-1	順上 2 b		4		
b	H-1	順上 2 b	2			
	未組合	H-1	順上 2 b	2		
	H-1	順上 3	2			
	小計		4			
	国IV-56-86 (107)	合計	40	67-3		
a	P-7	順上 2	8	(P-7-1 a)		
		Ⅲ	2			
		不明	2			
		不明	2			
		不明	2			
	P-7	順上 2	16	(P-7-1 b)		
		順上 2	1			
		小計	20			
		未組合	H-1		順上 2 b	3
		H-7	順上 2		1	
	P-7	順上 1	1			
		P-7	順上 2		4	
		N-20-b	Ⅲ		1	
		P-21-b	Ⅲ		1	
		小計			11	
国IV-56-87 (281)	合計	10	68			
H-1	順上 2 b	4				
未組合	H-1	順上 2 b	6			
国IV-56-88 (191)	合計	19	B-1(Ⅲ-9)			
H-10	順上	12				
P-17-a	Ⅲ	2	小計 14			
	Ⅲ	2				
	Ⅲ	2				
	Ⅲ	2				
	Ⅲ	2				
未組合	H-1	順上 2 b	2			
H-10	順上	2	小計 5			
P-17-a	Ⅲ	1				
国IV-56-89 (336)	合計	4	68			
H-1	順上 2 b	4				
国IV-56-90 (372)	合計	4	68			
H-1	順上 2 b	3				
未組合	H-1	順上 2 b	1			
国IV-56-91 (366)	合計	2	68			
H-1	順上 2 b	2				
国IV-56-92 (336)	合計	11	68			
a	H-1	順上 2		1		
b	H-1	順上 2 b	1			
	H-1	順上 2	2			
	H-1	順上 2 b	1			
	小計		5			
	未組合	H-1	順上 2	2		
H-1	順上 2 b	2	小計 6			
H-1	順上 3	2				
国IV-57-93 (37)	合計	37	68			
a	H-1	順上 2 b		3		
P-22-a	Ⅲ	2	小計 11			
	P-22-a	Ⅳ		1		
	H-1	順上 2 b		5		
	未組合	H-1		順上 2	8	
	H-1	順上 2 b		16		
P-22-a	Ⅲ	2				
国IV-57-94 (928)	合計	1	68			
H-1	順上 2	1				
国IV-57-95 (929)	合計	1	68			
H-1	順上 2 b	1				
国IV-57-96 (336)	合計	4	68			
H-1	順上 2 b	2				

IV 遺構と遺構出土の遺物

遺構番号	図番	発掘番号	出土位置	出土層位	点数	図版番号
H-1		未検合	H-1	層土2 b	2	
	図IV-57-97	(930)	H-1	層土2 b	1	68
H-3		図IV-69-1	(63)	H-3	座	13
				座	6	
		未検合	H-3	層土4	1	
			H-3	座	6	
		小計			7	
	図IV-69-2	(362)	H-3	座	1	74-2
	図IV-69-3	(391)	H-3	層土4	3	74-2
	図IV-69-4	(126)		合計	10	56
			M-2	中庭	2	(M-2-7)
			M-2	下庭	2	
			P-11-d	座	2	
		小計			6	
		未検合	H-3	層土4	1	
			P-83	層土1	1	
			P-53	層土2	1	
			M-2	下庭	1	
		小計			4	
	図IV-69-5	(99)		合計	27	74-2
			H-3	層土3	5	
			H-3	層土3	12	
		小計			17	
		未検合	H-3	層土3	5	
			H-3	層土4	5	
		小計			10	
	図IV-69-6	(366)		合計	5	74-2
			H-3	層土3	3	
			H-17-c	座	2	
	図IV-69-7	(403)	H-3	層土3	4	74-2
	図IV-69-8	(68)		合計	41	74-2
			H-3	層土1	9	
			H-3	層土1	30	
			H-3	層土3	1	
			不明		1	
		小計			32	
	図IV-69-9	(66)		合計	16	72
			H-3	層土1	3	
			H-3	層土3	2	
			M-1		1	
			M-20-b	座	1	
		小計			7	
		未検合	H-15	層土2 b	2	
			M-2	上庭	1	
			L-22-a	座	4	
			L-24-c	座	1	
		小計			8	
	図IV-69-10	(363)	H-3	層土2	3	74-2
	図IV-69-11	(194)	H-3	層土2	30	74-2
			P-20-b	座	2	
		小計			5	
		未検合	H-12	層土1	6	
			H-19-b	座	1	
			H-20-b	座	2	
			O-20-c	座	1	
			P-20-b	座	2	
			P-20-c	座	13	
		小計			25	
	図IV-69-12	(65)		合計	14	74-2
			H-3	層土2	11	
			H-3	層土2	3	
		未検合	H-3	層土2	3	
	図IV-69-13	(382)	H-3	層土2	2	74-2
	図IV-69-14	(383)	H-3	層土2	6	74-2
	図IV-69-15	(59)		合計	59	74-2
			H-3	層土2	21	
			未検合		6	
		小計			27	
		未検合	H-3	層土2	27	
			H-19-a	座	5	
		小計			32	
	図IV-70-16	(56)		合計	94	75-1
			H-3	層土2	52	
		未検合	H-3	層土2	42	
	図IV-70-17	(77)		合計	121	
			H-15	層土2	3	K-1(X-5-a)
			H-15	層土2 c	10	
			P-75	層土1	43	8-2(F-5-b)
			不明		3	
		小計			56	
		未検合	H-3	層土2	2	
			H-15	層土2	2	
			H-15	層土2 b	3	
			H-15	層土2 c	8	
			P-75	層土1	29	
			M-1		3	
			M-2	上庭	1	

遺構番号	図番	発掘番号	出土位置	出土層位	点数	図版番号
H-3			M-2	中	1	
			P-20-c	座	2	
			未検合		11	
		小計			62	
	図IV-70-18	(57)		合計	59	
			H-3	層土2	1	75
			H-3	層土2	1	
			H-3	層土2	3	
			H-3	層土1	21	73-2
			H-3	層土2	1	
		未検合	H-3	層土1	4	
			H-3	層土2	19	
		小計			23	
	図IV-71-19	(384)		合計	7	75
			H-3	層土2	2	
			H-3	層土1	1	
			H-3	層土2	2	
		未検合	H-3	層土1	2	
		小計			7	
	図IV-71-20	(50)		合計	70	75
			H-3	層土1	1	
			H-3	層土1	5	
			H-3	層土2	9	
			H-3	層土1	9	
			H-3	層土2	14	
			H-3	層土1	2	
		小計			36	
		未検合	H-3	層土1	18	
			H-3	層土2	16	
		小計			34	
	図IV-71-21	(87)		合計	27	75
			H-3	層土1	10	
			H-3	層土2	3	
		小計			13	
		未検合	H-3	層土1	12	
			H-3	層土2	2	
		小計			14	
	図IV-71-22	(92)		合計	63	80-1
			H-15	層土3 c	8	(H-15-21a)
			未検合		1	
			N-19-b	座	8	(H-15-21b)
			N-19-c	座	6	
		小計			23	
		未検合	H-3	層土1	6	
			H-3	層土2	7	
			H-3	層土3	1	
			H-15	層土2 c	4	
			M-19-c	座	2	
			M-21	座 b	5	
			M-21	座 c	1	
			M-25-b	座	2	
			N-19-b	座	8	
			N-19-c	座	23	
			O-22-b	座	1	
		小計			60	
	図IV-72-23	(53)		合計	134	73-3
			H-3	層土1	119	
			N-19-d	座	1	
			N-19-d	座	1	
		未検合	H-3	層土1	121	
			H-3	層土1	12	
		小計			13	
	図IV-72-24	(78)		合計	54	90
			H-15	層土2 c	2	(H-15-14a)
			H-15	層土2 c	7	(H-15-14b)
			P-14	層土1	1	
			M-21	座 b	1	
			M-20-a	座	1	
			H-15	層土2 c	1	(H-15-14c)
			M-20-d	座	1	
			M-22-a	座	2	
		小計			16	
		未検合	H-3	層土1	3	
			H-15	層土1	4	
			H-15	層土2 b	5	
			H-15	層土2 c	13	
			M-21	座 a	5	
			M-21	座 b	2	
			M-22-a	座	6	
		小計			38	
	図IV-72-25	(89)		合計	83	73-5
			H-3	層土1	52	
			H-19-a	座	2	
			M-20-a	座	1	
			M-19-b	座	3	

一覽表

通稱番号	部番号	取組番号	出土位置	出土部位	点数	加減番号
H-3		H-3-b	H-3	床	1	75-3
				未確認	1	
				不明	1	
				小計	62	
				未確認	H-3 壁土 1	
				H-3	壁土 1	
				H-3	壁土 1	
				H-3	壁土 1	
				H-3	壁土 1	
				H-3	壁土 1	
		H-3-c	H-3	床	1	75-3
				未確認	1	
				不明	1	
				小計	62	
				未確認	H-3 壁土 1	
				H-3	壁土 1	
				H-3	壁土 1	
				H-3	壁土 1	
				H-3	壁土 1	
				H-3	壁土 1	
H-4		H-4-b	H-4	床	1	75-3
				未確認	1	
				不明	1	
				小計	62	
				未確認	H-4 壁土 1	
				H-4	壁土 1	
				H-4	壁土 1	
				H-4	壁土 1	
				H-4	壁土 1	
				H-4	壁土 1	
		H-4-c	H-4	床	1	75-3
				未確認	1	
				不明	1	
				小計	62	
				未確認	H-4 壁土 1	
				H-4	壁土 1	
				H-4	壁土 1	
				H-4	壁土 1	
				H-4	壁土 1	
				H-4	壁土 1	

通稱番号	部番号	取組番号	出土位置	出土部位	点数	加減番号
H-3		H-3-b	H-3	床	1	75-3
				未確認	1	
				不明	1	
				小計	10	
				未確認	H-3 壁土 2	
				H-3	壁土 2	
				H-3	壁土 2	
				H-3	壁土 2	
				H-3	壁土 2	
				H-3	壁土 2	
		H-3-c	H-3	床	1	75-3
				未確認	1	
				不明	1	
				小計	10	
				未確認	H-3 壁土 2	
				H-3	壁土 2	
				H-3	壁土 2	
				H-3	壁土 2	
				H-3	壁土 2	
				H-3	壁土 2	
H-4		H-4-b	H-4	床	1	75-3
				未確認	1	
				不明	1	
				小計	10	
				未確認	H-4 壁土 2	
				H-4	壁土 2	
				H-4	壁土 2	
				H-4	壁土 2	
				H-4	壁土 2	
				H-4	壁土 2	
		H-4-c	H-4	床	1	75-3
				未確認	1	
				不明	1	
				小計	10	
				未確認	H-4 壁土 2	
				H-4	壁土 2	
				H-4	壁土 2	
				H-4	壁土 2	
				H-4	壁土 2	
				H-4	壁土 2	

IV 遺構と遺構出土の遺物

遺構番号	図番号	整理番号	出土位置	出土層位	点数	図説番号
H-7	図F-98-4	(427)	H-7	礎土 2	1	83-2
			H-7	礎土 1	1	
			H-7	礎土 2	2	
	図F-98-5	(428)	H-7	礎土 2	2	83-2
			H-7	礎土 1	1	
			H-7	礎土 2	2	
	図F-98-6	(430)	H-7	礎土 2	2	83-2
			H-7	礎土 1	1	
			H-7	礎土 2	2	
	図F-98-7	(429)	H-7	礎土 2	2	83-2
			H-7	礎土 1	1	
			H-7	礎土 2	2	
	図F-98-8	(96)	H-7	礎土 2	2	83-2
			H-7	礎土 1	1	
			H-7	礎土 2	2	
	図F-98-9	(412)	H-7	礎土 2	2	83-2
			H-7	礎土 1	1	
			H-7	礎土 2	2	
	図F-98-10	(411)	H-7	礎土 2	2	83-2
			H-7	礎土 1	1	
			H-7	礎土 2	2	
H-8	図F-104-1	(96)	H-8	礎土 1	17	86-3
			H-8	礎土 2	2	
			H-8	礎土 1	1	
	図F-104-2	(420)	H-8	礎土 1	1	86-3
			H-8	礎土 2	2	
			H-8	礎土 1	1	
	図F-104-3	(414)	H-8	礎土 1	1	86-3
			H-8	礎土 2	2	
			H-8	礎土 1	1	
	図F-104-4	(113)	H-8	礎土 1	1	86-3
			H-8	礎土 2	2	
			H-8	礎土 1	1	
	図F-105-5	(95)	H-9	礎土 1	1	90 (H-9-1)
			H-9	礎土 3	15	
			H-9	礎土 4	3	
	図F-105-6	(188)	H-8	礎土 1	15	86-3
			H-8	礎土 2	14	
			H-8	礎土 3	4	
	図F-105-7	(418)	H-8	礎土 1	15	87
			H-8	礎土 2	14	
			H-8	礎土 3	4	
	図F-105-8	(92)	H-8	礎土 1	15	90-1 (H-15-27)
			H-8	礎土 2	14	
			H-8	礎土 3	4	
	図F-105-9	(91)	H-8	礎土 1	15	90-1 (H-15-27)
			H-8	礎土 2	14	
			H-8	礎土 3	4	
	図F-106-10	(122)	H-8	礎土 1	15	90-1 (H-15-27)
			H-8	礎土 2	14	
			H-8	礎土 3	4	

遺構番号	図番号	整理番号	出土位置	出土層位	点数	図説番号
H-8	図F-106-11	(100)	H-8	礎土 1	15	86-2
			H-8	礎土 2	14	
			H-8	礎土 3	4	
	図F-106-12	(187)	H-8	礎土 1	15	87
			H-8	礎土 2	14	
			H-8	礎土 3	4	
	図F-106-13	(424)	H-8	礎土 1	1	87
			H-8	礎土 2	1	
			H-8	礎土 3	1	
	図F-106-14	(425)	H-8	礎土 1	1	87
			H-8	礎土 2	1	
			H-8	礎土 3	1	
	図F-106-15	(421)	H-8	礎土 1	1	87
			H-8	礎土 2	1	
			H-8	礎土 3	1	
	図F-106-16	(422)	H-8	礎土 1	1	87
			H-8	礎土 2	1	
			H-8	礎土 3	1	
	図F-106-17	(423)	H-8	礎土 1	1	87
			H-8	礎土 2	1	
			H-8	礎土 3	1	
	図F-106-18	(426)	H-8	礎土 1	1	87
			H-8	礎土 2	1	
			H-8	礎土 3	1	
	図F-106-19	(406)	H-8	礎土 1	1	81-3 (H-6-5)
			H-8	礎土 2	1	
			H-8	礎土 3	1	
	図F-106-20	(419)	H-8	礎土 1	1	87
			H-8	礎土 2	1	
			H-8	礎土 3	1	
	図F-106-21	(180)	H-8	礎土 1	1	87
			H-8	礎土 2	1	
			H-8	礎土 3	1	
	図F-106-22	(416)	H-8	礎土 1	1	87
			H-8	礎土 2	1	
			H-8	礎土 3	1	
	図F-107-23	(456)	H-8	礎土 1	1	87
			H-8	礎土 2	1	
			H-8	礎土 3	1	
	図F-107-24	(413)	H-8	礎土 1	1	87
			H-8	礎土 2	1	
			H-8	礎土 3	1	
	図F-107-25	(417)	H-8	礎土 1	1	87
			H-8	礎土 2	1	
			H-8	礎土 3	1	
	図F-111-1	(95)	H-9	礎土 1	1	90
			H-9	礎土 3	15	
			H-9	礎土 4	3	
H-9	図F-111-2	(445)	H-9	礎土 1	1	90
			H-9	礎土 3	1	
			H-9	礎土 4	3	
	図F-111-3	(433)	H-9	礎土 1	1	90
			H-9	礎土 3	1	
			H-9	礎土 4	3	
	図F-111-4	(150)	H-9	礎土 1	1	90
			H-9	礎土 3	1	
			H-9	礎土 4	3	
	図F-111-5	(446)	H-9	礎土 1	1	90
			H-9	礎土 3	1	
			H-9	礎土 4	3	
	図F-111-6	(447)	H-9	礎土 1	1	90
			H-9	礎土 3	1	
			H-9	礎土 4	3	
	図F-111-7	(448)	H-9	礎土 1	1	90
			H-9	礎土 3	1	
			H-9	礎土 4	3	

路線番号	区番号	区番号	区土位置	区土位置	点数	路線番号
H-9	未接合	H-1	Q-20-a	H-1	3	H-12
					1	
					6	
					1	
					11	
	H-11-5 (435)	H-9	H-9	H-9	2	
					1	
					1	
					1	
					1	
H-12	H-11-5 (434)	H-9	H-9	H-9	1	
					1	
					1	
					1	
					1	
	H-11-7 (432)	H-9	H-9	H-9	2	
					2	
					2	
					2	
					2	
H-14	H-11-8 (333)	H-1	H-1	H-1	2	H-15
					2	
					2	
					2	
					2	
	H-12	H-12	H-12	H-12	2	
					2	
					2	
					2	
					2	
H-15	H-11-5 (457)	H-12	H-12	H-12	2	H-15
					2	
					2	
					2	
					2	
	H-11-5 (458)	H-12	H-12	H-12	2	
					2	
					2	
					2	
					2	

路線番号	区番号	区番号	区土位置	区土位置	点数	路線番号
H-15	未接合	H-1	H-1	H-1	3	H-15
					1	
					2	
					1	
					1	
	H-11-5 (432)	H-9	H-9	H-9	2	
					2	
					2	
					2	
					2	
H-15	H-11-5 (434)	H-9	H-9	H-9	2	H-15
					2	
					2	
					2	
					2	
	H-11-7 (432)	H-9	H-9	H-9	2	
					2	
					2	
					2	
					2	
H-15	H-11-8 (333)	H-1	H-1	H-1	2	H-15
					2	
					2	
					2	
					2	
	H-12	H-12	H-12	H-12	2	
					2	
					2	
					2	
					2	
H-15	H-11-5 (457)	H-12	H-12	H-12	2	H-15
					2	
					2	
					2	
					2	
	H-11-5 (458)	H-12	H-12	H-12	2	
					2	
					2	
					2	
					2	

IV 遺構と遺構出土の遺物

遺構番号	図番	遺構番号	出土位置	出土品	点数	図番
H-15		未検出	H-15	遺土 2 c	11	
	図130-20 (76)	合計			45	93
		H-15	遺土 2 c	13		
		未検出	H-15	遺土 2 c	22	
			M-19-c	遺	9	
			M-19-c	遺	1	
		小計			32	
	図130-21 (90)	合計			130	91-3
		H-15	遺土 2 c	126		
		未検出	H-15	遺土 2 c	2	
	図130-22 (92)	合計			83	93
		H-15	遺土 2 c	6		
		未検出	H-15	遺土 2 c	1	
			M-19-b	遺	8	
			M-19-c	遺	1	
		小計			23	
		未検出	H-3	遺土 1	6	
			H-3	遺土 2	7	
			H-3	遺土 3	1	
			H-15	遺土 2 c	4	
			M-19-c	遺	2	
			M-21	遺	5	
			M-21	遺	1	
			M-25-b	遺	2	
			M-19-b	遺	8	
			M-19-c	遺	23	
			O-22-b	遺	1	
		小計			60	
	図131-23 (13)	合計			184	
		L-21-c	遺	3		
		H-8	遺土 1	2		
		L-21-c	遺	2		
		H-8	遺土 1	4		
		L-21-c	遺	30		
		小計			41	
		未検出	H-8	遺土 1	42	
			H-8	遺	1	
			H-15	遺土 2 c	12	
			L-21-c	遺	73	
		未検出			96	
		小計			184	
	図131-24 (483)	合計			4	93
		H-15	遺土 2 c	1		
		未検出	H-15	遺土 2 c	3	
	図131-25 (479)	合計			6	93
		H-15	遺土 2 c	2		
		未検出	H-15	遺土 2 c	4	
	図131-26 (477)	H-15	遺土 2 c	2		93
	図131-27 (91)	H-15	遺土 2 c	19		図-1
		未検出	H-8	遺土 1	3	
		H-15	遺土 2 c	3		
		小計			6	
	図132-28 (500)	H-15	遺土 2 c	4		93
	図132-29 (497)	H-15	遺土 2 c	1		93
	図132-30 (492)	H-15	遺土 2 c	3		93
	図132-31 (505)	H-15	遺土 2 c	1		93
	図132-32 (499)	H-15	遺土 2 c	1		93
	図132-33 (490)	H-15	遺土 2 c	1		93
	図132-34 (80)	合計			28	92-2
		H-15	遺土 2 c	16		
		P-8	遺土 2	6		
		小計			22	
		未検出	H-15	遺土 2 c	2	
			P-8	遺土 2	2	
			M-20-a	遺	2	
		小計			6	
	図132-35 (74)	合計			29	図-3
		H-15	遺土 1	3		
		H-15	遺土 2 c	14		
		未検出	H-15	遺土 1	5	
		H-15	遺土 2 c	17		
		小計			29	
	図132-36 (481)	H-15	遺土 2 c	1		93
	図132-37 (54)	合計			68	94
		H-15	遺土 2 b	23		
		L-22-a	遺	3		
		M-22-b	遺	2		
		小計			28	
		未検出	H-15	遺土 2	1	
		H-15	遺土 2 b	23		
		H-15	遺土 2 c	3		
		M-22-b	遺	4		
		O-24-a	遺	1		
		O-24-c	遺	7		
		O-24-d	遺	1		

遺構番号	図番	遺構番号	出土位置	出土品	点数	図番
H-15		未検出	H-15	遺土 2 c	40	
	図132-38 (52)	合計			130	91-4
		H-15	遺土 2 b	40		
		H-15	遺土 2 c	14		
			不明	2		
		未検出	H-15	遺土 2 b	35	
		H-15	遺土 2 c	3		
		小計			26	
	図132-39 (483)	合計			7	93
		未検出	H-15	遺土 2	1	
		H-15	遺土 2 c	6		
	図132-40 (480)	合計			187	94
		H-15	遺土 2 c	1		
		H-15	遺土 2 c	1		
		H-15	遺土 2 b	14		
		小計			16	
		未検出	H-15	遺土 2 b	136	
		H-15	遺土 2 c	35		
		小計			171	
	図132-41 (77)	合計			121	94-1
		H-15	遺土 2	3		
		H-15	遺土 2 c	10		
		P-75	遺土 1	43		
		不明			3	
		小計			59	
		未検出	H-3	遺土 2	2	
		H-15	遺土 2	2		
		H-15	遺土 2 b	3		
		H-15	遺土 2 c	8		
		P-75	遺土 1	29		
		M-1		3		
		M-2	上層	1		
		M-2	中	1		
		P-20-c	遺	2		
		未検出			11	
		小計			62	
	図132-42 (80)	合計			96	91-5
		H-15	遺土 2 a	6		
		H-15	遺土 2 b	7		
		小計			77	
		未検出	H-15	遺土 2 a	1	
		H-15	遺土 2 b	18		
		小計			19	
	図132-43 (84)	合計			321	94
		H-15	遺土 2 b	32		
		未検出	H-15	遺土 2 b	289	
	図134-44 (70)	合計			12	94
		H-15	遺土 2 b	11		
		未検出	H-15	遺土 1	1	
	図134-45 (498)	H-15	遺土 2 b	1		94
	図134-46 (509)	H-15	遺土 2 b	1		94
	図134-47 (499)	合計			2	94
		H-15	遺土 2 b	1		
		未検出	H-15	遺土 2 b	1	
	図134-48 (496)	H-15	遺土 2 b	1		94
	図134-49 (503)	H-15	遺土 2 b	4		94
	図134-50 (509)	H-15	遺土 2 b	2		94
	図134-51 (494)	H-15	遺土 2 b	1		94
	図134-52 (494)	H-15	遺土 2 b	1		94
	図134-53 (521)	H-15	遺土 2 b	1		94
	図134-54 (515)	H-15	遺土 2 b	6		95
	図134-55 (506)	H-15	遺土 2 b	7		95
	図134-56 (66)	合計			15	74-2
		H-3	遺土 1	3		
		H-3	遺土 3	2		
		M-1		1		
		M-22-b	遺	1		
		小計			7	
		未検出	H-15	遺土 2 b	2	
		M-2	上層	1		
		L-22-a	遺	4		
		L-22-c	遺	1		
		小計			8	
	図134-57 (486)	合計			3	95
		H-15	遺土 2 b	3		
		未検出	H-15	遺土 2 b	6	
	図134-58 (512)	H-15	遺土 2 b	2		95
	図134-59 (510)	H-15	遺土 2	2		95
	図134-60 (72)	合計			26	95
		H-15	遺土 2	4		
		H-15	遺土 2 b	1		
		小計			5	
		未検出	H-15	遺土 2	19	
		H-15	遺土 2 c	1		
		H-15	不明	3		
		小計			23	

図版番号	図番号	実施番号	出土位置	出土層位	点数	図版番号
H-15	図N-134-61 (491)	H-15	礎土2	3	95	
	図N-134-62 (515)		合計	3	95	
		H-15	礎土2	2		
		O-20-d	礎土1	1		
図N-134-63 (511)	H-15	礎土2	6	95		
図N-134-64 (514)	H-15	礎土2	2	95		
図N-134-65 (517)	H-15	礎土2	1	95		
図N-134-66 (501)	H-15	礎土2	1	95		
図N-134-67 (524)	H-15	礎土2	1	95		
図N-134-68 (518)	H-15	礎土2	1	95		
図N-134-69 (519)	H-15	礎土2	3	95		
図N-134-70 (485)		合計	10	95		
		H-15	礎土2	4		
	未検合	H-15	礎土2	6		
図N-134-71 (486)	H-15	礎土2	3	95		
図N-134-72 (508)	H-15	礎土2	1	95		
図N-134-73 (525)	H-15	礎土2	1	95		
図N-134-74 (520)	H-15	礎土2	1	95		
図N-134-75 (526)	H-15	礎土1	1	95		
図N-134-76 (525)	H-15	礎土1	1	95		
図N-134-77 (527)		合計	4	95		
a		H-15	礎土1	2		
	b	H-15	礎土1	2		
図N-134-78 (531)	H-15	礎土1	1	95		
図N-134-79 (529)	H-15	礎土1	4	95		
図N-140-1 (152)		合計	16	100		
H-16	H-16	礎土2	2			
	未検合	H-16	礎土1	1		
H-16	H-16	礎土2	2			
	H-16	礎土上2	2			
H-16	H-16	礎土3	3			
	G-13-d	礎土	1			
H-16	G-18-d	礎土	1			
	M-12	礎上	2			
H-16	M-12	礎中	1			
	M-16	礎上	1			
H-16	M-12-a	礎土	1			
	小計		14			
H-17	図N-142-1 (462)	H-17	礎土	1	100	
	図N-142-2 (463)	H-17	礎土	1	100	
	図N-142-3 (455)	H-17	礎土	6	100	

表N-19 遺構土掘載土器一覽(5) 土竈・Tビット

選別番号	図番号	実施番号	出土位置	出土層位	点数	図版番号
P-5	図N-147-1 (201)	未検合	Q-20-c	Ⅲ	8	101-2
			P-5	礎土 1	3	
			P-15-a	Ⅲ	4	
			P-20-d	Ⅲ	4	
			Q-20-c	Ⅲ	24	
			Q-20-d	Ⅲ	1	
			Q-20-d	Ⅲ	1	
			Q-23-b	Ⅲ	2	
			Z-22-a	Ⅲ	1	
				小計	42	
図N-147-2 (106)	未検合	P-5	礎土 1	56	101-2	
		P-5	不明	1		
			小計	5		
		P-5	礎土 2	1		
		F-9-c	Ⅲ	2		
			小計	50		
図N-147-3 (618)	P-5	礎土 1	1	101-2		
図N-147-4 (619)	P-5	礎土 1	1	101-2		
図N-147-5 (593)		合計	3	101-2		
未検合	P-5	礎土 1	2			
	P-13	礎土 1	1			
図N-147-6 (590)	P-5	礎土 1	2	101-2		
図N-147-7 (606)	P-5	礎土 1	2	101-2		
P-13	図N-146-1 (590)	P-13	礎土 1	1	102-1	
P-16	図N-149-1 (601)		合計	3	102-1	
未検合	P-16	礎土 1	2			
	P-16	礎土 1	1			
P-26	図N-150-1 (115)		合計	28	102-1	
未検合	P-26	礎土 1	4			
	Q-12-c	Ⅲ	8			
未検合		小計	12			
	Q-12-a	Ⅲ	16			
P-36	図N-151-1 (594)		合計	4	102-1	
未検合	P-36	礎土 3	1			
	P-32	礎土 2	3			
P-42	図N-154-1 (101)		合計	161	103-3	
a	b	c	P-42	礎土 1	13	
			P-42	礎土 1	2	
			P-42	礎土 1	14	
			合計	29		

図版番号	図番号	実施番号	出土位置	出土層位	点数	図版番号					
P-42		未検合	P-42	礎土1	125						
			未検記		4		合計 132				
			不明		3						
					合計 18						
図N-154-2 (545)			P-42	礎土1	17	103-3					
			P-42	不明	1						
図N-154-3 (93)				合計	81	103-3					
a	P-42	礎土1	1	1							
			K-19-a	礎土		1					
			K-19-c	礎土		1					
			K-19-d	礎土		3					
			不明			1					
	P-42	礎土1	8	8							
			J-19-b	礎土		3					
			K-19-d	礎土		2					
			P-42	礎土1		1					
			合計	21							
	未検合	H-4	礎土2	1	1						
				K-137-1	礎土		1				
				P-42	礎土1		13				
				J-19-b	礎土		9				
				J-20-a	礎土		1				
				J-22-d	礎土		1				
				K-19-a	礎土		13				
				K-19-c	礎土		8				
				K-19-d	礎土		13				
				合計	60						
				合計	139						
				図N-154-4 (118)						合計 132	103-1
				P-42	礎土1		132	132			
J-19-b	礎土	2									
J-19-c	礎土	1									
K-19-a	礎土	13									
K-19-d	礎土	6									
M-23-c	礎土	11									
合計	165										
未検合	P-42	礎土1	21			21					
			J-19-b			礎土		2			
			J-19-c			礎土		5			
			K-19-a			礎土		5			
			K-19-d			礎土		1			
			未検記					3			
			合計	33							
			図N-155-5 (97)						合計 33	103-3	
a	P-42	礎土1	1	1							
			P-42	礎土1		4					
			合計	5							
			未検合	P-42		礎土1	19				
			Q-23	礎土		6					
未検合			26	26							
			合計	26							
図N-155-6 (590)					合計 2	103-3					
P-42	礎土1	1	1								
		未検合	P-42		礎土1	1					
図N-155-7 (590)					合計 10	103-3					
未検合	P-42	礎土1	2	2							
			P-42	礎土1		8					
図N-155-8 (591)					合計 3	103-3					
P-42	礎土1	2	2								
		未検合	P-42		礎土1	1					
図N-155-9 (641)					P-42	礎土1	1	103-3			
図N-155-10 (599)					合計	3	103-3				
未検合	P-42	礎土1	2	2							
			P-42	礎土1		2					
図N-155-11 (592)					P-42	礎土1	1	103-3			
図N-155-12 (597)					合計	5	104				
a	P-42	礎土1	1	1							
			P-42	礎土1		4					
b	P-42	礎土1	1	1							
			合計	3							
図N-155-13 (532)					P-42	礎土1	3	104			
a	P-42	礎土1	1	1							
			P-42	礎土1		2					
図N-155-14 (531)					合計	4	104				
a	P-42	礎土1	1	1							
			P-42	礎土1		2					
			合計	3							
b	未検合	P-42	礎土1	1							
				合計		119					
図N-155-15 (589)					P-42	礎土1	46	103-2			
P-42	礎土1	46	46								
		J-18-d	礎土		2						
		K-18-d	礎土		2						
		K-19-b	礎土		32						
		K-19-d	礎土		2						
		M-23-b	礎土		1						
		M-23-c	礎土		1						
		合計	2								
未検合			2	2							
			合計	85							
			I-17-c	礎土		1					
I-18-d	礎土	2	2								

IV 遺構と遺構出土の遺物

図版番号 P-42	図番	発掘番号	出土位置	出土層位	点数	図版番号					
			L-34-b	Ⅲ	2						
			L-34-b	Ⅳ	1						
			M-22-b	Ⅲ	8						
			M-22-c	Ⅲ	17						
			小計		31						
			合計		126						
			図P-156-16 (94)		104						
			a				P-42	Ⅲ土 1	2		
							J-19-b	Ⅲ	13		
							K-19-a	Ⅲ	4		
P-42	Ⅲ土 1	12									
J-19-b	Ⅲ	5									
K-19-a	Ⅲ	5									
小計		41									
未検合	P-42	Ⅲ土 1				31					
	P-42	不明				1					
	J-19-a	Ⅲ				5					
	J-19-b	Ⅲ	47								
	N-23-a	Ⅲ	1								
	小計		85								
合計		211									
図P-156-17 (124)		104									
			P-42	Ⅲ土 1	2						
			未検合	P-41	Ⅲ土 2		1				
			P-42	Ⅲ土 1	2						
			小計		3						
			図P-156-18 (643)		104						
			図P-156-19 (648)				P-42	Ⅲ土 1	3		
							未検合	P-42	Ⅲ土 1		6
							合計		9		
							図P-156-20 (647)		104		
							未検合	P-42	Ⅲ土 1		1
P-42	Ⅲ土 1	1									
合計		3									
図P-156-21 (628)		3									
未検合	P-42	Ⅲ土 1				2					
	P-42	Ⅲ土 1				1					
合計		8									
図P-156-22 (635)		104									
			P-42	Ⅲ土 1	2						
			未検合	P-42	Ⅲ土 1		8				
			P-42	Ⅲ土 1	1						
			合計		104						
			図P-156-23 (542)	P-42	Ⅲ土 1		1				
				未検合	P-42		Ⅲ土 1	6			
			合計		7						
			図P-156-24 (629)		104						
			図P-156-25 (630)				P-42	Ⅲ土 1	1		
							合計		2		
図P-156-26 (637)		104									
未検合	P-42	Ⅲ土 1				1					
	P-42	Ⅲ土 1				1					
合計		14									
図P-156-27 (632)		104									
図P-156-28 (640)						P-42	Ⅲ土 1	13			
						合計		2			
						図P-156-29 (635)		104			
			P-42	Ⅲ土 1	2						
			未検合	P-42	Ⅲ土 1	2					
			P-42	Ⅲ土 1	2						
			合計		42						
			図P-156-30 (207)		104						
			a			P-42	Ⅲ土 1	3			
						P-42	Ⅲ土 1	1			
小計		4									
合計		38									
図P-156-31 (648)		104									
b						P-42	Ⅲ土 1	7			
						合計		89			
						図P-156-32 (122)		104			
						H-117-1	Ⅲ土	24			
						未検合	H-117-1	Ⅲ土			26
			H-7	Ⅲ土 2	2						
			H-8	Ⅲ土 1	1						
			P-42	Ⅲ土 1	1						
			未検合		35						
			小計		65						
図P-156-33 (636)		104									
			P-42	Ⅲ土 1	1						
			未検合	P-42	Ⅲ土 1		4				
			合計		171						
			図P-156-34 (509)		104						
			P-43				H-3	Ⅲ土 1	3		
							P-43	Ⅲ土 1	103		
							O-18-a	Ⅲ	3		
							O-18-b	Ⅲ	1		
							P-20-c	Ⅲ	46		
							P-21-b	Ⅲ	1		
P-25-c	Ⅲ	1									
小計		158									
未検合	H-3	Ⅲ土 1				8					
	M-24-a	Ⅲ				1					
	P-20-c	Ⅲ	7								
	未検合		3								
小計		161									
図P-156-2 (623)		106-2									
図P-160-1 (125)			P-43	Ⅲ土 1	3						
			合計		10						
			図P-161-1 (7)		106-1						
			M-1	中位	2						
				下位	2						
			P-11-d	Ⅲ	2						
			小計		6						
			未検合	H-3	Ⅲ土		1				
				M-24-a	Ⅲ		1				
				P-20-c	Ⅲ		1				
未検合		1									

遺構番号	区番号	発掘番号	出土位置	出土層位	点数	図版番号
F C-19	ⅢⅤ-183-24	(584)	小穴	8		
				合計	5	109
				F C-19	2	
				F C-19	3	

遺構番号	区番号	発掘番号	出土位置	出土層位	点数	図版番号
F C-19	ⅢⅤ-183-25	(575)	F C-19		1	109
				合計	2	109
				F C-19	1	
				F C-19	1	

表Ⅴ-22 遺構出土実測土器一覽

	図 番 号	出土位置・層位	分 類	口径cm	底径cm	高さcm	写真図版	備 考
1	ⅢⅤ-14-1	F-19層土・2・3・6層	Ⅱ群b類	25.7	13.1	35.9	60-1	M-1
	ⅢⅤ-29-1	M-1						P-35
2	ⅢⅤ-25-1	F-11層土はか	Ⅱ群b類	13.3	6.8	19.5	58-2	
3	ⅢⅤ-68-1	H-1層土はか	Ⅱ群b類	19.4	(16.0)	(34.5)	61-1	
4	ⅢⅤ-68-2	H-1層土はか	Ⅱ群b類	17.4	10.2	22.5	61-2	
5	ⅢⅤ-68-4	H-1層・土層3層	Ⅱ群b類	(17.1)	10.5	(28.1)	61-3	
6	ⅢⅤ-68-12	H-1層・土層3層はか	Ⅱ群b類	(20.6)	13.2	(27.1)	61-4	
7	ⅢⅤ-68-13	H-1層・土層土はか	Ⅱ群b類	20.4	11.3	25.3	61-5	
8	ⅢⅤ-68-15	H-1層・土層土はか	Ⅱ群b類	16.5	9.0	22.3	61-6	
9	ⅢⅤ-90-20	H-1層土・土層3層	Ⅱ群b類	17.6	10.3	34.9	62-2	
10	ⅢⅤ-90-30	H-1層土・土層3層・3層・3層	Ⅱ群b類	30.4	(19.5)	(29.5)	64	H-1
	ⅢⅤ-130-15							H-15
11	ⅢⅤ-52-43	H-1層土層土はか	Ⅱ群b類	23.3	13.4	41.3	62-3	
12	ⅢⅤ-54-61	H-1層土・土層3層	Ⅱ群b類	16.9	(12.0)	(30.5)	62-5	
13	ⅢⅤ-54-65	H-1層土・土層土はか	Ⅱ群b類	19.9	11.5	20.7	63-1	
14	ⅢⅤ-56-80	H-1層土・土層3層・3層	Ⅱ群b類	21.6	(11.5)	23.8	63-2	
15	ⅢⅤ-70-16	H-3層土2層	Ⅱ群b類	15.2	(10.4)	(19.3)	73-1	
16	ⅢⅤ-72-23	H-3層土1層土はか	Ⅱ群b類	23.7	12.9	45.3	73-3	
17	ⅢⅤ-72-25	H-3層土1層土はか	Ⅱ群b類	23.2	14.2	37.0	73-5	
18	ⅢⅤ-72-29	F-43層土・P-20-c層土	Ⅱ群b類	21.0	14.5	47.0	106-1	H-3
	ⅢⅤ-158-1	H-3層土はか						P-43
19	ⅢⅤ-73-30	H-3層土1層	Ⅱ群b類	24.6	15.1	44.8	74-1	
20	ⅢⅤ-92-1	H-6層土	Ⅱ群a類	26.2	5.5	35.7	81-1	
21	ⅢⅤ-108-11	H-8層土1層土はか	Ⅱ群b類	19.3	(14.4)	(33.2)	89-2	
22	ⅢⅤ-120-13	H-15層土はか	Ⅱ群b類	21.3	11.5	28.0	91-2	
23	ⅢⅤ-130-21	H-15層土2層	Ⅱ群b類	20.7	12.5	30.2	91-3	
24	ⅢⅤ-132-38	H-15層土2層・2層	Ⅱ群b類	15.9	9.1	32.1	91-4	
25	ⅢⅤ-133-42	H-15層土2層土はか	Ⅱ群b類	(15.1)	10.9	(24.4)	91-5	
26	ⅢⅤ-154-4	F-43層土・H-19層土層土はか	Ⅱ群b類	22.3	14.9	32.2	103-1	

表Ⅴ-23 遺構出土掲載石器等一覽(1) 削平部分および関連する遺構

掲載番号	遺 構	器 名	分類	遺構番号	層位	長さ(m)	幅(m)	高さ(m)	重さ(g)	材質	備 考
ⅢⅤ-5-13	H-10	石鍬またはナイフ	ⅠB?	330	床面	6.2	2.9	1.6	24.9	頁岩	53
14	H-10	石鍬またはナイフ	ⅠB?	301	床面	7.4	4.6	1.3	42.0	頁岩	53
15	H-10	石鍬	ⅡB	164	床面	6.3	1.6	1.0	9.4	頁岩	53
16	H-10	両面磨製石器	ⅡB	214	床面	12.1	6.6	2.7	202.1	頁岩	53
17	H-10	リフレイク	V B?	87	土層1	5.5	3.8	1.3	16.3	頁岩	53
18	H-10	リフレイク	V B?	234	床面	6.5	3.2	0.6	12.8	頁岩	53
19	H-10	たたき石	Ⅱ1	105	土層1	11.0	7.5	3.8	443.6	硬岩	53
20	H-10	たたき石	Ⅱ2?	78	土層1	14.4	6.2	3.8	421.4	安山岩	53
21	H-10	半円状磨製石器	Ⅱ3	27	床面上	10.4	17.4	2.8	650.0	安山岩	53
ⅢⅤ-8-10	H-11	スケレイバー	Ⅱ21?	12	床面	4.9	2.5	0.5	7.8	頁岩	54-1
11	H-11	石鍬	V A 1	85	ⅡF-1	3.3	5.2	0.7	38.6	頁岩	54-1
12	H-11	リフレイク	V B?	37	床面	3.2	5.0	0.6	5.9	硬岩?	54-1
13	H-11	石鍬	ⅡA	89	ⅡF-1	9.7	12.6	1.9	266.9	硬岩	54-1
ⅢⅤ-10-3	H-13	スケレイバー	Ⅱ21?	21	床面	3.5	2.3	0.8	6.0	黒曜石	54-2 赤井川産?
4	H-13	石鍬	V A 1	39	ⅡF-1	8.4	11.6	4.9	527.4	頁岩	54-2
ⅢⅤ-15-24	M-1	スケレイバー	Ⅱ21?	129	土層中	5.5	4.2	1.6	37.6	頁岩	55-1
25	M-1	両面磨製石器	Ⅱ3	155	土層中	6.8	3.7	2.2	52.2	頁岩	55-1
26	M-1	石鍬	V A 1	214	土層中	5.0	7.4	2.8	62.3	頁岩	55-1
27	M-1	たたき石	Ⅱ1	111	土層中	7.1	6.6	3.0	172.3	安山岩	55-1

Ⅳ 遺構と遺構出土の遺物

発掘番号	遺 構	器 名	分類	遺物番号	層位	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重さ(g)	石質	検 査	図版番号	備 考
28	M-1	たたき石	Ⅱ2	22a	雑土中	15.6	9.6	4.1	945.0	凝灰岩		55-1	
29	M-2	石版	Ⅱ1	27	雑土中	3.3	0.8	0.4	0.8	頁岩		56	
18	M-2	たたき石	Ⅱ1	4	上面	9.1	7.4	4.1	434.6	安山岩		56	
19	M-2	たたき石	Ⅱ1?	82	中	7.7	6.5	6.5	434.6	安山岩		56	
20	M-2	たたき石	Ⅱ2	64	雑下層	14.3	7.3	3.9	472.6	安山岩		56	
21	M-2	たたき石	Ⅱ4	8	上面	11.9	7.1	3.4	386.0	安山岩		56	
22	M-2	すり石	Ⅱ	2	上面	13.1	19.1	9.4	2000.0	安山岩		56	
23	M-2	白石・石皿	X	72	下層	25.5	19.1	11.3	5300.0	安山岩?		56	
24	M-2	白石・石皿	X	72	下層	17.9	17.1	12.5	4390.0	安山岩?		56	
25	M-2	すり石	Ⅱ4	13	雑土2	4.7	1.4	0.3	1.9	頁岩		57-1	
5	P-2	つまみ付きナイフ	ⅡA1c	5	雑土1	7.2	3.6	0.6	15.7	頁岩		57-1	
6	P-2	たたき石	Ⅱ2	10	雑土2	11.2	8.5	7.8	500.4	安山岩		57-1	観察?
7	P-2	砥石	ⅡB2	4	雑土1	4.4	3.6	4.2	14.0	凝灰岩		57-1	
26	P-7	たたき石	Ⅱ2	15	雑土2	10.3	8.7	2.1	321.2	安山岩		57-2	
7	P-7	たたき石	Ⅱ2	26	雑土2	11.4	8.2	3.8	513.0	安山岩		57-2	
27	P-8	スレイバー	ⅡB2a	7	雑土5	5.1	4.9	0.8	17.1	頁岩		58-1	
7	P-8	スレイバー	ⅡB2a	5	雑土2	10.4	4.1	1.2	47.1	頁岩		58-1	
8	P-8	リフレタ	ⅡB2	6	雑土5	9.0	4.3	1.6	51.0	頁岩		58-1	
28	P-9	つまみ付きナイフ	ⅡA1c	6	雑土1	7.4	4.2	0.8	18.2	頁岩		57-1	
29	P-10	スレイバー	ⅡB2a	1	雑土2	7.9	4.5	1.2	38.4	頁岩		58-1	
30	P-15	スレイバー	ⅡB2a	8	雑土5	3.2	5.2	1.0	24.6	頁岩		58-4	
31	P-27	たたき石	Ⅱ1	3	雑土1	6.4	6.4	5.0	270.0	安山岩		59-1	
32	P-28	スレイバー	ⅡB2b	6	雑土1	5.7	4.3	4.3	15.4	頁岩		59-2	
6	P-29	たたき石	Ⅱ2	4	雑土1	10.1	8.8	4.1	597.8	安山岩		59-2	
7	P-29	石製品		3	雑土1	10.1	2.8	0.9	39.6	片岩		59-2	
33	P-32	たたき石	Ⅱ1	3	雑土1	9.2	5.8	2.2	137.1	安山岩		59-4	
3	P-32	たたき石	Ⅱ1	9	雑土2	8.3	6.9	3.3	261.0	安山岩		59-4	
34	P-63	リフレタ	ⅡB2	3	雑土2	5.2	3.4	1.6	20.4	頁岩		59-2	
35	P-19	たたき石	Ⅱ1	4	雑土中	8.9	8.3	4.4	436.8	安山岩		60-3	
2	P-19	半円状扁平打製石	Ⅱ3	5	雑土中	6.6	14.2	2.4	341.6	安山岩		60-3	
3	P-19	台石	X	1	雑土中	18.3	14.7	3.4	1685.0	安山岩		60-3	
4	P-19	台石	X	2	雑土中	20.8	12.5	4.1	1715.0	安山岩		60-3	
5	P-19	台石	X	3	雑土中	21.0	14.3	6.2	1800.0	安山岩		60-3	
36	S-4	たたき石	Ⅱ1	15	Ⅱ	12.8	9.2	2.8	464.8	安山岩		60-3	
2	S-4	たたき石	Ⅱ1	17	Ⅱ	9.8	6.5	3.6	293.2	安山岩		60-3	
3	S-4	たたき石	Ⅱ1	1	Ⅱ	9.4	6.9	4.1	212.2	安山岩		60-3	

表Ⅳ-2 遺構出土掘削石器等一覽(2)周辺の遺構

発掘番号	遺 構	器 名	分類	遺物番号	層位	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重さ(g)	石質	検 査	図版番号	備 考
37	H-1	石版	ⅡA2a	1363	雑土3	3.9	1.2	0.3	1.4	頁岩		60	
99	H-1	石版	ⅡA4	1751	雑土3b	3.6	1.5	0.5	2.5	頁岩		60	
100	H-1	石版	ⅡA4	209-b	雑土2	3.5	1.7	0.6	2.6	頁岩		60	
101	H-1	石版	ⅡA4	305-a	雑土2b	4.7	2.1	0.4	3.3	頁岩		60	
102	H-1	石版またはナイフ	ⅡB1	1519	雑土3	8.1	3.1	1.1	24.4	頁岩		60	矢野部欠損
103	H-1	つまみ付きナイフ	ⅡA1c	321	雑土2b	7.2	2.9	0.4	9.9	頁岩		60	
104	H-1	つまみ付きナイフ	ⅡA1c	1148	雑土4	7.7	3.2	0.5	11.3	頁岩		60	
105	H-1	スレイバー	ⅡB2a	1889	未定	2.8	3.9	1.1	11.2	頁岩		60	
106	H-1	スレイバー	ⅡB2a	1059	雑土2	4.8	4.3	1.1	16.9	頁岩		60	
107	H-1	スレイバー	ⅡB2a	1178	雑土2	6.0	4.5	1.1	29.0	頁岩		60	
108	H-1	スレイバー	ⅡB2a	786	雑土2b	5.7	6.0	0.6	17.9	頁岩		60	
109	H-1	スレイバー	ⅡB2a	103-a	雑土3	7.8	4.0	1.2	29.6	頁岩		60	
110	H-1	スレイバー	ⅡB2a	1131-b	雑土3	8.2	5.3	0.9	34.3	頁岩		60	

IV 遺構と遺構出土の遺物

図版番号	遺 構	部 位 名	分類	遺物番号	層位	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重量(g)	材質	備 考	図版番号	備 考
図IV-75-30	H-3	石礎	IA2a	21	礎土1	(3.2)	1.3	0.3	(3.2)	灰岩		76	
40	H-3	石礎	IA4	94	礎土2	4.9	1.7	0.3	2.3	灰岩		76	
41	H-3	石礎	II1	575	礎土1	3.9	1.4	0.4	1.7	灰岩		76	
42	H-3	石礎	II1	1164	礎土4	4.2	2.2	1.0	7.4	緑色凝灰岩		76	
43	H-3	つまみ付きナイフ	III4	365	礎土2	6.0	1.8	0.5	4.3	灰岩		76	
44	H-3	スクレイパー	III1a†	1221	床面	4.0	2.6	0.7	7.4	灰岩		76	
45	H-3	スクレイパー	III2a	34	礎土1	6.0	3.7	0.6	12.0	灰岩		76	
46	H-3	スクレイパー	III2a	426	礎土2	7.0	3.8	1.4	27.9	灰岩		76	
47	H-3	スクレイパー	III2b	306	礎土3	8.5	3.7	1.5	32.7	灰岩		76	
48	H-3	スクレイパー	III2b	1316	床面	7.2	4.8	1.6	44.8	灰岩		76	
49	H-3	スクレイパー	III2b	168	礎土2	8.1	4.9	1.2	29.9	灰岩		76	
50	H-3	スクレイパー	III2b	10	礎土1	7.0	5.2	0.9	34.5	灰岩		76	
51	H-3	スクレイパー	III2c	199	礎土4	3.5	2.6	0.9	8.4	灰岩		76	
52	H-3	スクレイパー	III2c	323	礎土3	6.6	2.2	1.2	9.5	灰岩		76	
53	H-3	スクレイパー	III2c	506	礎土1	6.8	3.5	0.7	9.1	灰岩		76	
54	H-3	スクレイパー	III2c	1184	床面	7.1	4.5	1.3	28.7	灰岩		76	
55	H-3	スクレイパー	III2c	11	礎土1	8.0	3.8	1.7	51.9	灰岩		76	
56	H-3	スクレイパー	III2c	1234	床面	2.7	2.4	0.4	2.5	灰岩		76	
57	H-3	阿国陶器石碁	IV2	22	礎土1	10.7	3.6	1.4	57.1	灰岩		76	
58	H-3	阿国陶器石碁	IV3	1287	床面	7.1	4.9	1.7	69.0	灰岩		76	
図IV-76-59	H-3	石碁	VA1	438	礎土2	5.7	8.9	4.0	145.2	灰岩		76	
60	H-3	石碁	VA1	33	礎土1	5.9	9.9	7.8	378.4	灰岩		76	
61	H-3	石碁	VA1	1107	礎土3	8.1	11.2	9.3	750.0	灰岩		76	
図IV-77-82	H-3	石碁	VA1	251	礎土2	15.9	10.0	6.0	720.0	灰岩		77	
63	H-3	溝石	VA2	1181	床面	13.5	15.7	12.9	3,480.0	灰岩		77	
64	H-3	Uフレイク	VB2	178	礎土4	5.6	5.4	1.1	31.7	灰岩		77	
65	H-3	Uフレイク	VB2	1234	床面	4.8	5.5	0.9	24.4	灰岩		77	
66	H-3	Uフレイク	VB2	1074	礎土3	7.1	4.9	1.5	47.7	灰岩		77	
67	H-3	Uフレイク	VB2	69	礎土3	7.4	7.0	2.9	113.1	灰岩		77	
68	H-3	Uフレイク	VB2	393	礎土2	5.4	5.1	2.1	71.1	灰岩		77	
69	H-3	Uフレイク	VB2	314	礎土2	7.0	3.7	1.2	21.5	灰岩		77	
70	H-3	Uフレイク	VB2	1144	礎土3	9.7	3.4	1.4	40.7	灰岩		77	
71	H-3	石斧	VI4	95	礎土2	8.5	2.7	2.6	88.4	緑色凝灰岩		77	
72	H-3	石斧	VI4	1097	礎土1	7.8	2.9	1.3	41.3	緑色凝灰岩		77	
図IV-78-79	H-3	たたき石	VII1	1156	礎土4	6.3	4.3	2.6	89.1	安山岩		78-1	
74	H-3	たたき石	VII1	13	礎土1	10.3	7.7	5.5	825.0	安山岩		78-1	
75	H-3	たたき石	VII1	253	礎土2	10.3	6.4	4.0	294.5	安山岩		78-1	
76	H-3	たたき石	VII2	1210	床面	8.6	7.4	3.7	312.6	安山岩		78-1	
77	H-3	たたき石	VII3	1155	礎土4	7.2	5.2	5.1	272.8	安山岩		78-1	
78	H-3	たたき石	VII3	1096	礎土1	11.5	8.5	2.4	238.2	安山岩		78-1	
79	H-3	すり石	VII2	116	礎土4	14.2	8.2	3.4	592.2	安山岩		78-1	
80	H-3	平刃状薄平打製石碁	VIII3	1112	礎土3	7.9	16.8	1.7	290.0	緑色凝灰岩	7-26-4-11(底)	78-1	
81	H-3	平刃状薄平打製石碁	VIII3	68	礎土1	8.6	18.7	2.1	323.6	安山岩	7-3-2(礎土1)	78-1	
82	H-3	北海道式石碁	VIII4	96	礎土2	12.0	13.9	6.9	1,030.0	緑色凝灰岩		78-1	
83	H-3	砥石	IXB2	111	礎土1	4.0	3.8	2.2	8.7	安山岩		78-1	
84	H-3	砥石	IXB2	434	不明	6.8	5.5	2.1	19.6	砥石		78-1	
85	H-3	加工痕のある層	XI1	1329	床面	4.3	3.0	1.0	14.8	緑色凝灰岩		78-1	
86	H-3	石製品	XI2a	1124	礎土3	3.8	2.4	1.4	15.5	緑色凝灰岩		78-1	
図IV-83-11	H-4	石碁	IA2a	32	礎土1	3.6	1.3	0.4	1.5	灰岩		79	
12	H-4	石碁	II1	260	II-1(土)	5.2	3.3	1.3	12.4	灰岩		79	
13	H-4	スクレイパー	III2a	11	礎土1	5.4	3.5	0.4	5.5	灰岩		79	
14	H-4	スクレイパー	III2a	94	礎土2	5.8	5.7	1.2	40.7	灰岩		79	
15	H-4	Uフレイク	VB2	187	礎土1	5.0	3.3	0.8	12.2	灰岩		79	

一 覧 表

調査番号	道 路	登 録 名	分類	建物番号	母位	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	高さ(m)	石質	備 考	調査番号	備 考
16	区-4	たたき石	Ⅷ1	49	Ⅷ土2	6.9	5.4	3.4	183.2	片礫岩		79	
17	区-4	たたき石	Ⅷ1	57	Ⅷ土1	7.1	5.0	3.6	226.3	安山岩		79	
18	区-4	たたき石	Ⅷ1	266	ⅧP-2	7.5	6.3	4.4	285.3	安山岩		79	
19	区-4	たたき石	Ⅷ1	265	ⅧP-2	12.5	8.1	3.9	526.2	安山岩		79	
20	区-4	たたき石	Ⅷ1	8	Ⅷ土1	12.7	5.8	3.7	645.0	安山岩		79	
21	区-4	たたき石	Ⅷ3	6	Ⅷ土1	11.1	7.0	2.7	306.6	安山岩		79	
22	区-4	たたき石	Ⅷ3?	75	Ⅷ土2	12.4	6.4	6.0	578.8	安山岩		79	
23	区-4	半円状扁平打製石器	Ⅷ3	244	床面	6.9	15.6	1.3	237.3	焼成岩		79	
24	区-4	すり石	Ⅷ3?	87	Ⅷ土2	7.2	27.7	2.6	610.0	安山岩	1-4-3(区11)と区41	79	半円状扁平打製石器に類似
25	区-4	台石・石蔵	X	243	ⅧP-4	30.8	11.1	6.8	3300.0	安山岩		79	
調査区-87-1													
1	区-5	スクレイパー	Ⅷ2a?	65	床面	2.3	3.1	0.7	5.3	頁岩		80	
2	区-5	スクレイパー	Ⅷ2b	69	床面	7.8	2.5	0.4	13.3	頁岩		80	
3	区-5	スクレイパー	Ⅷ23	78	床面	5.0	7.3	1.0	38.7	頁岩		80	
4	区-5	両面両端石器	Ⅷ2	6	Ⅷ土2	6.8	4.1	1.4	34.8	頁岩		80	
5	区-5	リフレイク	Ⅷ22	64	床面	7.1	5.1	3.4	64.5	頁岩		80	
6	区-5	リフレイク	Ⅷ22	71	床面	7.4	4.9	1.2	34.1	頁岩		80	
7	区-5	リフレイク	Ⅷ22	62	床面	4.0	3.0	0.9	10.8	頁岩		80	
8	区-5	石斧	ⅧA4	58	床面	1.8	3.1	1.1	4.1	緑色凝灰岩		80	
9	区-5	石斧	ⅧA4	56	床面	7.2	5.5	5.4	210.6	緑色凝灰岩	1-5-1(区31)と区11	80	
10	区-5	たたき石	Ⅷ1	79	床面	8.8	9.5	4.0	466.2	安山岩		80	
11	区-5	たたき石	Ⅷ1	114	ⅧP-1	9.5	7.2	5.4	430.0	安山岩		80	
12	区-5	たたき石	Ⅷ1	22	Ⅷ土3	12.1	9.9	3.5	605.0	安山岩		80	
13	区-5	たたき石	Ⅷ1	113	ⅧP-1	18.7	7.5	5.2	1,040.0	安山岩		80	
14	区-5	たたき石	Ⅷ1	66	床面	14.3	11.3	3.3	785.0	安山岩		80	
調査区-88-1													
1	区-5	たたき石	Ⅷ2	119	ⅧP-1	8.8	6.0	5.0	377.8	安山岩		80	
2	区-5	たたき石	Ⅷ2	115	ⅧP-1	11.4	7.1	3.8	473.4	安山岩		80	
3	区-5	半円状扁平打製石器	Ⅷ3	21	Ⅷ土3	16.6	6.6	1.5	292.5	安山岩		80	
4	区-5	半円状扁平打製石器	Ⅷ3	81	床面	14.9	8.6	2.7	448.8	安山岩		80	
5	区-5	北海道式石花	Ⅷ4	82	床面	10.6	13.4	9.4	1,280.0	安山岩?		80	
調査区-89-10													
1	区-6	石蔵またはナイフ	ⅧB2	296	Ⅷ土6	5.5	3.2	1.1	13.5	頁岩		81-3	
2	区-6	石蔵またはナイフ	ⅧB2	56	Ⅷ土3	10.1	2.2	0.9	18.9	頁岩		81-3	
3	区-6	石蔵またはナイフ	ⅧB2	110	Ⅷ土4	10.7	4.6	1.4	63.1	頁岩		81-3	
4	区-6	つまみ付きナイフ	ⅧA1c	53	Ⅷ土3	6.2	2.7	0.5	8.2	頁岩		81-3	
5	区-6	スクレイパー	Ⅷ2b	100	Ⅷ土4	4.7	3.6	0.7	15.7	頁岩		81-3	
6	区-6	スクレイパー	Ⅷ2b	289	Ⅷ土6	10.2	6.3	1.0	69.9	頁岩		81-3	
7	区-6	スクレイパー	ⅧB3	302	Ⅷ土6	5.6	6.5	1.0	23.6	頁岩		82	
8	区-6	石蔵	ⅧA1	224	Ⅷ土4	3.3	2.0	1.2	6.5	煎礫石		82	白濁面と露出
9	区-6	リフレイク	ⅧB2	270	Ⅷ土6	4.4	4.1	1.4	27.3	頁岩		82	
10	区-6	リフレイク	ⅧB2	258	Ⅷ土6	5.9	6.2	1.6	46.0	頁岩		82	
11	区-6	リフレイク	ⅧB2	257	Ⅷ土6	7.3	4.0	1.8	42.4	頁岩		82	
12	区-6	リフレイク	ⅧB2	290	Ⅷ土6	10.3	4.7	0.8	58.3	頁岩		82	
13	区-6	たたき石	Ⅷ1	20	Ⅷ土3	11.7	7.2	3.4	400.0	安山岩		82	
14	区-6	たたき石	Ⅷ1	310	床面	14.4	10.8	5.1	1,220.0	安山岩		82	
15	区-6	たたき石	Ⅷ1	10	Ⅷ土3	16.9	9.0	4.7	880.0	安山岩		82	
16	区-6	たたき石	Ⅷ1	314	床面	16.1	8.3	5.4	1,030.0	安山岩		82	
調査区-94-26													
1	区-6	たたき石	Ⅷ1	320	ⅧP-1	14.7	10.2	3.4	740.0	安山岩		82	
2	区-6	すり石	Ⅷ2	309	床面	7.7	12.8	2.6	400.0	安山岩		82	
3	区-6	すり石	Ⅷ2	319	ⅧP-1	10.2	17.4	4.7	1,180.0	安山岩		82	
4	区-6	鏡石	ⅧB2	316	床面	13.6	17.8	2.5	358.6	凝灰岩	ⅧP-1(区7)と区11	82	
5	区-6	台石・石蔵	X	321	ⅧP-1	11.7	9.8	6.8	990.0	安山岩		83-1	
6	区-6	台石・石蔵	X	315	床面	17.1	12.0	7.2	1,830.0	安山岩		83-1	
7	区-6	台石・石蔵	X	17	Ⅷ土9	20.6	16.5	9.2	2,900.0	凝灰岩		83-1	
調査区-98-11													
1	区-7	石蔵	ⅧA4	615	床面	3.5	1.3	0.2	0.8	頁岩		84	

IV 遺構と遺構出土の遺物

図版番号	造 物	群 値 名	分類	造物番号	方位	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	高さ(g)	石質	備 考	図版番号	備 考
12	H-7	石橋またはタイプ	I B 2	616	床面	7.6	3.0	1.7	35.4	頁岩		84	
13	H-7	石橋	II 1	2	礎土 1	2.9	1.6	0.4	1.6	頁岩		84	
14	H-7	石橋	II 1	16	礎土 1	4.2	1.5	0.7	3.4	頁岩		84	
15	H-7	つまみ付きタイプ	II A 1 c	4	礎土 1	8.2	3.0	1.2	12.1	凝灰岩		84	
図版 99-16	H-7	スクリンバー	III 2 a	113	礎土 2	6.0	2.8	0.8	13.9	頁岩		84	
17	H-7	スクリンバー	III 2 a	895	H-1	6.0	4.7	1.8	43.2	頁岩		84	
18	H-7	スクリンバー	III 2 a	528	床面	8.9	5.3	1.4	56.8	頁岩		84	
19	H-7	スクリンバー	III 2 b	537	床面	4.2	2.0	0.6	4.7	凝灰岩		84	
20	H-7	スクリンバー	III 2 b	808	H-1	6.0	4.8	0.6	17.4	頁岩		84	
21	H-7	スクリンバー	III 2 c	818	床面	6.2	4.4	1.1	30.2	頁岩		84	
22	H-7	スクリンバー	III 2 c	46	礎土 1	5.1	6.0	1.9	42.0	頁岩		84	
23	H-7	スクリンバー	III 3 5	3	礎土 1	5.7	2.7	1.2	16.9	頁岩		84	
24	H-7	スクリンバー	III 3 7	742	床面	5.7	3.1	1.5	18.3	凝灰岩		84	釜泉産と識別
25	H-7	スクリンバー	III 3 8	5	礎土 1	4.5	3.8	0.8	13.4	頁岩		84	
26	H-7	スクリンバー	III 3 8	165	礎土 2	5.3	3.1	0.3	4.8	頁岩		84	
27	H-7	スクリンバー	III 3 8	79	礎土 2	6.3	5.1	0.9	28.6	頁岩		84	
28	H-7	石橋	V A 1	894	床面	5.2	5.1	6.1	157.8	頁岩		84	
29	H-7	石橋	V A 1	620	床面	6.8	8.7	6.3	285.2	頁岩		84	
30	H-7	リフレイク	V B 1	245	礎土 2	3.6	3.0	1.0	5.8	凝灰岩		84	
31	H-7	リフレイク	V B 2	32	礎土 1	4.8	3.0	1.1	7.0	頁岩		84	
図版 100-32	H-7	石斧	VI A 4	73	礎土 2 (7.1)	(2.3)	(0.9)	(25.1)		緑色粘岩		84	
33	H-7	石斧	VI A 4	162	礎土 2	7.7	3.0	0.9	34.4	緑色粘岩	415 (礎土 2)	84	
34	H-7	石斧	VI A 4	249	礎土 2	7.3	2.3	1.2	33.1	凝灰岩	33 (礎土 1)	84	
35	H-7	石斧	VI A 4	739	床面	12.0	4.8	2.1	234.6	緑色粘岩		84	
36	H-7	織り織り残片	VI A 5	86	礎土 2	5.7	1.5	1.1	12.1	緑色粘岩		85	
37	H-7	網羅石片	VI A 6	7	礎土 1	14.0	8.5	3.9	(413.4)	緑色粘岩		85	
38	H-7	たたき石	III 1	827	H-1	7.9	5.7	4.2	278.3	安山岩		85	
39	H-7	たたき石	III 1	500	床面	8.8	7.7	3.0	286.4	安山岩		85	
40	H-7	たたき石	III 1	604	床面	8.7	9.7	5.1	541.8	砂岩		85	
41	H-7	たたき石	III 1	75	礎土 2	6.7	7.1	2.6	(157.4)	安山岩		85	
42	H-7	たたき石	III 2	30	礎土 1	7.9	6.3	2.7	156.9	安山岩		85	
図版 101-43	H-7	たたき石	III 2	19	礎土 1	10.8	6.9	4.3	434.6	安山岩		85	
44	H-7	たたき石	III 2	286	礎土 2	13.5	7.6	2.7	438.8	安山岩		85	
45	H-7	たたき石	III 4	52	礎土 1	10.7	7.0	2.3	297.5	安山岩		85	
46	H-7	半円状扁平打痕石斧	III 3	824	H-10	8.4	14.4	1.8	(273.5)	凝灰岩		85	
47	H-7	半円状扁平打痕石斧	III 3	23	礎土 1	8.4	15.0	1.5	247.4	凝灰岩	K-II-a-7(裏)	85	
48	H-7	半円状扁平打痕石斧	III 3	42	礎土 1	9.9	15.0	1.6	333.8	安山岩		85	
49	H-7	石橋	X	624	床面	35.0	45.5	6.9	7770.0	安山岩	H・I(礎土 1), H・II(礎土 2), H・III(礎土 3), H・IV(礎土 4), H・V(礎土 5), H・VI(礎土 6), H・VII(礎土 7), H・VIII(礎土 8), H・IX(礎土 9), H・X(礎土 10)	85	
図版 107-27	H-8	石橋	I A 2 a	166	礎土 1	3.3	1.3	0.3	1.0	頁岩		88	
28	H-8	石橋	I A 4	117	礎土 1	2.1	1.6	0.3	1.1	頁岩		88	
29	H-8	石橋	I A 4	166	礎土 1	3.9	1.5	0.3	1.4	頁岩		88	
30	H-8	石橋	I A 5	111	礎土 1	3.0	1.8	0.7	2.8	凝灰岩		88	赤井川産と識別
31	H-8	石橋	I A 5	86	礎土 1	4.6	1.5	0.4	2.0	頁岩		88	
32	H-8	石橋	II 1	150	礎土 1	2.8	0.8	0.3	0.5	頁岩		88	
33	H-8	石橋	II 1	187	礎土 1	9.3	2.8	2.1	35.2	頁岩		88	
H-8	つまみ付きタイプ	II A 1 c	183	礎土 1	5.5	3.7	0.7	(12.8)	頁岩		88		
35	H-8	つまみ付きタイプ	III A 4	279	礎土 1	5.5	3.2	0.8	7.6	頁岩		88	永成産
36	H-8	スクリンバー	III 2 a	244	礎土 1	5.6	3.1	0.4	8.2	頁岩		88	
37	H-8	スクリンバー	III 2 c	405	礎土 1	7.9	4.0	1.0	31.5	頁岩		88	

掲載番号	品名	品名	分類	通称番号	単位	長さ(m)	幅(m)	高さ(m)	重さ(kg)	材質	備考	掲載番号	備考
36	H-8	スクレイパー	B 6	61	覆土1	5.8	3.0	1.2	18.1	頁岩		88	
39	H-8	両面削製石	F 1	179	覆土1	8.8	6.9	3.2	187.0	頁岩		88	
図解-108-40	H-8	両面削製石	F 2	265	覆土1	15.3	7.4	2.5	245.8	頁岩		88	
41	H-8	石積	V A 1	129	覆土1	4.9	7.7	5.2	103.3	頁岩		88	
42	H-8	石積	V A 1	150	覆土1	5.9	5.9	4.7	173.3	頁岩		88	
43	H-8	Uフレイク	V B 2	136	覆土1	10.2	5.6	1.8	80.2	頁岩		88	
44	H-8	Uフレイク	V B 2	85	覆土1	10.1	6.4	1.4	74.0	頁岩		88	
45	H-8	Uフレイク	V B 2	186-a	覆土1	5.0	2.3	0.9	11.1	頁岩		89	
46	H-8	Uフレイク	V B 2	400	覆土2	5.7	4.7	0.9	16.3	頁岩		89	
47	H-8	くさび形石	V B 3	108	覆土1	2.1	1.5	0.9	3.3	安山岩		89	
図解-109-48	H-8	石積	V A 4	107	覆土1	13.3	4.9	3.0	312.6	砂岩	F-17-d-5(1)	89	
49	H-8	石積	V A 4	42	覆土1	5.9	3.3	1.8	46.1	安山岩		89	
50	H-8	たたき石	W 1	270	覆土1	6.2	4.5	2.9	102.9	安山岩		89	
51	H-8	たたき石	W 1	182	覆土1	5.6	5.3	3.1	115.9	砂岩?		89	
52	H-8	たたき石	W 1	39	覆土1	6.8	3.8	2.2	66.4	安山岩		89	
53	H-8	たたき石	W 1	46	覆土1	9.0	5.9	3.4	313.0	安山岩		89	
54	H-8	たたき石	W 1	286	覆土1	10.2	5.8	3.2	273.6	安山岩		89	
55	H-8	たたき石	W 3	131	覆土1	13.9	6.3	3.6	413.6	安山岩		89	
56	H-8	牛内丸平打製石	W 3	91	覆土1	9.2	15.9	1.7	396.4	流紋岩	F-17-d-5(1)	89	
57	H-8	北海道式石積	W 4	260	覆土1	11.3	16.5	7.3	1,672.0	凝灰岩	L-18-b-2(1)	89	
58	H-8	石積	W A	405	覆土1	8.7	10.6	1.2	126.5	流紋岩		89	
59	H-8	石積	W 3	314	覆土2	3.2	4.5	1.3	27.3	安山岩		89	
図解-111-9	H-9	つまみ付きナイフ	W A 2	74	覆土6	12.2	2.9	1.3	43.9	頁岩		90	
10	H-9	スクレイパー	B 2 a	71	覆土6	6.8	4.0	1.1	37.6	頁岩		90	
11	H-9	石積	V A 1	76-c	覆土5	7.2	8.8	3.8	279.3	頁岩		90	
12	H-9	Uフレイク	V B 2	76-d	覆土5	9.2	7.0	3.1	145.0	頁岩		90	
13	H-9	たたき石	W 1	80	覆土3	3.2	3.4	1.1	13.8	安山岩		90	
14	H-9	たたき石	W 1	105	覆土2	11.3	7.5	3.0	386.0	安山岩		90	
15	H-9	たたき石	W 1	23	覆土2	11.6	7.3	7.1	960.0	安山岩		90	
図解-113-7	H-12	石積	B 1	15	覆土1	5.4	1.1	0.6	3.1	頁岩		91-1	
8	H-12	スクレイパー	B 1 b	66	覆土1	11.8	3.7	1.8	96.6	頁岩		91-1	
図解-125-80	H-15	石積	I A 4	187-b	覆土2 b	2.3	1.1	0.3	0.7	頁岩		96	
81	H-15	石積	I A 4	725-b	覆土3	2.4	1.5	0.3	1.0	頁岩		96	
82	H-15	石積	I A 4	490	覆土2 b	2.7	0.8	0.5	2.1	頁岩		96	
83	H-15	石積	I A 4	564-b	覆土2	2.3	1.3	0.3	0.7	頁岩		96	
84	H-15	石積	I A 4	472-b	覆土2 c	3.7	1.9	0.4	2.3	頁岩		96	
85	H-15	石積	I A 5	726	覆土2 c	3.9	1.6	0.4	2.2	頁岩		96	
86	H-15	石積またはナイフ	I B 7	188	覆土2 b	6.9	3.5	1.6	28.1	頁岩		96	
87	H-15	石積	B 1	122	覆土2 c	6.0	2.5	0.5	4.8	頁岩		96	
88	H-15	つまみ付きナイフ	B 1 c	289-a	覆土2	7.8	3.7	0.7	21.9	頁岩		96	
89	H-15	スクレイパー	B 2 a	1195	覆土2 b	3.9	2.2	0.3	3.2	頁岩		96	
90	H-15	スクレイパー	B 2 a	698	覆土3	5.9	2.2	0.8	9.4	頁岩		96	
91	H-15	スクレイパー	B 2 a	108-b	覆土1	7.2	5.5	1.4	47.5	頁岩		96	
92	H-15	スクレイパー	B 2 a	586-a	覆土4	6.9	6.7	1.8	94.3	頁岩		96	
93	H-15	スクレイパー	B 2 a	226-b	覆土2 c	9.2	7.5	1.1	40.0	頁岩		96	
94	H-15	スクレイパー	B 2 b	146-b	覆土1	5.6	3.0	1.5	14.0	頁岩		96	
95	H-15	スクレイパー	B 2 b	569	覆土4	5.6	3.4	2.3	31.8	頁岩		96	
96	H-15	スクレイパー片	B 2 b	175	覆土2	2.9	5.5	1.4	16.4	頁岩		96	
97	H-15	スクレイパー	B 2 b	618-a	覆土2 c	6.3	5.3	0.7	18.5	頁岩		96	
98	H-15	スクレイパー	B 2 b	291	覆土4	8.3	5.7	1.6	78.9	頁岩		96	
99	H-15	スクレイパー	B 2 c	263-b	覆土2 b	6.2	4.2	1.0	22.5	頁岩		96	
100	H-15	スクレイパー	B 2 c	1099	覆土2 b	6.4	5.4	0.8	26.5	頁岩		96	
101	H-15	スクレイパー	B 2 c	790	厚板	5.3	2.0	0.5	4.3	頁岩		96	

Ⅳ 遺構と遺構出土の遺物

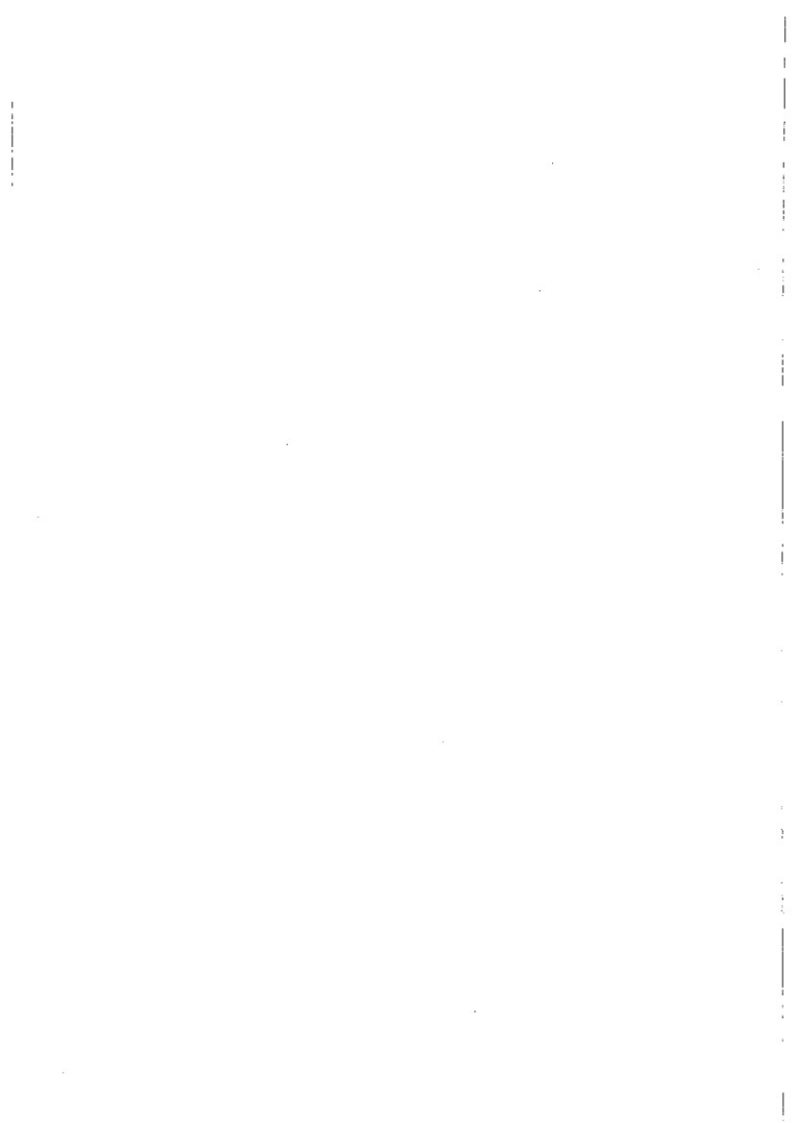
掲載番号	遺構	部 位 名	分類	遺物番号	層位	長さ(m)	幅(m)	高さ(m)	厚さ(s)	材質	備 考	図版番号	備 考
国Ⅳ-136-102	H-15	スクレイパー	部B 3	609	遺土1c	3.2	4.3	0.9	10.5	頁岩		96	
103	H-15	スクレイパー	部B 3	1257	遺土4	3.4	5.5	1.2	16.0	頁岩		96	
104	H-15	スクレイパー	部B 3	130	遺土1c	5.5	6.5	1.3	28.2	頁岩		96	
105	H-15	スクレイパー	部B 5	1408-a	遺土3	8.4	3.4	1.4	44.9	頁岩		96	
106	H-15	スクレイパー	部B 6	1506-a	遺土2b	6.6	4.4	1.2	25.3	頁岩		96	
107	H-15	両面剥離石硯	H 2	3-b	遺土1	7.7	4.6	1.7	47.0	頁岩		96	
108	H-15	石硯	VA 1	865	床面	7.5	7.7	4.7	217.5	頁岩		97	
109	H-15	Uフレイク	VB 2	1322	床面	5.4	4.1	1.7	29.3	頁岩		97	
110	H-15	Uフレイク	VB 2	755	床面	6.9	3.7	2.0	37.0	頁岩		97	
111	H-15	Uフレイク	VB 2	786	床面	7.3	2.7	1.9	19.3	頁岩		97	
112	H-15	Uフレイク	VB 2	1270	床面	8.9	3.6	1.4	40.5	頁岩		97	
113	H-15	Uフレイク	VB 2	534	遺土2c	4.1	4.1	1.0	14.8	頁岩		97	
114	H-15	Uフレイク	VB 2	1346-a	床面	4.8	2.5	0.8	8.9	頁岩		97	
115	H-15	くさび形石硯	VB 3	1449-a	遺土3	2.4	2.4	0.8	3.8	黒曜石		97	糸井川遺と遺物
116	H-15	くさび形石硯	VB 3	72	遺土2	2.4	4.1	0.4	4.6	頁岩		97	
117	H-15	撚りねり残片	VA 5	1446-b	遺土2	3.8	2.9	0.6	11.5	地蔵岩		97	
国Ⅳ-137-118	H-15	たたき石	H 1	184	遺土2a	4.7	2.7	1.9	27.0	安山岩		97	
119	H-15	たたき石	H 1	988	遺土2	9.1	5.3	3.3	204.9	安山岩		97	
120	H-15	たたき石	H 1	1306-b	床面	8.9	5.6	3.7	205.5	安山岩?		97	
121	H-15	たたき石	H 1	1427	H1-遺土	11.6	5.4	3.3	339.8	安山岩		97	
122	H-15	たたき石	H 1	1338	床面	11.1	7.1	6.6	780.0	安山岩		97	
123	H-15	たたき石	H 1	1389	床面	12.3	6.3	4.6	527.2	安山岩		97	
124	H-15	たたき石	H 1	723	遺土4	15.3	7.1	3.3	530.6	?		97	
125	H-15	たたき石	H 1	835	遺土4	14.7	9.1	4.0	750.0	安山岩		97	
126	H-15	たたき石	H 2	558	遺土4	5.6	5.4	2.4	96.4	流紋岩		97	
127	H-15	たたき石	H 2	1303	床面	8.3	6.2	3.4	258.3	安山岩		97	
128	H-15	たたき石	H 2	64	遺土1b	8.6	6.6	3.3	278.3	砂岩?		97	
129	H-15	たたき石	H 2	1387	床面	11.3	8.8	3.8	528.8	安山岩		97	
130	H-15	たたき石	H 2	1158-b	遺土2c	11.2	9.5	4.3	640.0	安山岩		97	
131	H-15	たたき石	H 2	1206-b	遺土3	11.7	10.1	6.3	1,080.0	安山岩		97	
国Ⅳ-138-132	H-15	半円状扁平打製石硯	H 3	945	遺土2b	7.8	13.8	2.3	296.8	安山岩		98	
133	H-15	半円状扁平打製石硯	H 3	1064-b	遺土2b	7.7	14.3	2.2	296.0	安山岩		98	
134	H-15	半円状扁平打製石硯	H 3	49	遺土1b	8.7	15.8	1.5	278.2	流紋岩		98	
135	H-15	半円状扁平打製石硯	H 3	230	遺土2	11.3	21.7	1.7	522.6	流紋岩	H-28-b-4(5)(7)	98	
136	H-15	半円状扁平打製石硯	H 3	1115	遺土2b	8.1	18.1	3.2	555.8	流紋岩	L-28-c-4(5)(6)	98	
137	H-15	北海道式石硯	H 4	1286	床面	12.7	14.8	6.4	1690.0	安山岩		98	
138	H-15	北海道式石硯	H 4	1464-f	遺土1	10.5	15.1	9.4	1,513.0	地蔵岩	N-28-b-7(8)	98	
139	H-15	すり石	H 5	1464-e	遺土1	11.0	6.8	2.6	279.5	安山岩		98	
140	H-15	石硯	BA A	123	遺土1c	7.8	8.0	1.5	156.3	流紋岩		98	
国Ⅳ-139-141	H-15	砥石	BA B 2	556	遺土3	10.5	5.4	1.9	57.3	砂岩	H-28(9)(10)(11)(12)	98	
142	H-15	倉石	X	287	遺土3	14.8	13.5	4.4	1340.0	安山岩		99	
143	H-15	倉石	X	1413	H1-48	28.7	12.7	6.2	3,710.0	安山岩		99	
144	H-15	石硯	X	567	遺土1	34.7	21.8	6.8	8530.0	安山岩		99	
145	H-15	倉石	X	1196	遺土2b	33.8	27.6	8.3	11,500.0	安山岩		99	
146	H-15	石硯		167	遺土3	5.4	5.1	3.1	55.0	流紋岩		99	
国Ⅳ-142-4	H-17	スクレイパー	部B 3	9	床面	4.2	5.9	0.9	22.5	頁岩		100	
5	H-17	スクレイパー	部B 7	41	床面	5.0	3.9	1.3	23.7	頁岩		100	
6	H-17	Uフレイク	VB 2	43	H1P-1	3.1	5.6	0.6	8.0	頁岩		100	
7	H-17	Uフレイク	VB 2	11	床面	5.9	3.6	0.7	14.3	頁岩		100	
8	H-17	たたき石	H 1	28	床面	5.1	4.5	2.9	94.5	安山岩		100	
9	H-17	たたき石	H 1	45	H1P-1	8.5	7.1	3.2	266.8	安山岩		100	
10	H-17	北海道式石硯	H 4	46	H1P-1	11.5	11.5	7.4	1,270.0	安山岩?		100	
11	H-17	すり石	H 5	27	床面	6.0	5.2	3.0	135.3	安山岩		100	
12	H-17	石硯	BA A	3	床面	8.7	13.3	1.3	182.9	流紋岩		100	

調査番号	道 橋	橋 名	分類	道路番号	層位	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	高さ(m)	石質	備 考	図面番号	備 考
13	区-17	碓氷		区B2	12	12.2	8.2	12.2	2.0	144.3	碓氷岩	100	
14	区-17	台石・石積	X	25	崩落	33.9	26.6	17.3	23,900.0	安山岩		100	
国路-143-1	P-38	石積	IA2a	1	橋底	3.3	1.2	0.4	1.3	頁岩		101-1	
2	P-38	石積	IA4	2	橋底	3.3	1.7	0.4	1.8	頁岩		101-1	
国路-144-1	P-55	つまみ付きナイフ	IA2	1	橋底	13.1	3.1	1.1	44.6	頁岩		101-1	
国路-144-1	P-56	スレインバー	BB2b	1	橋底	7.0	4.0	7.0	24.3	頁岩		101-1	
国路-145-1	P-71	つまみ付きナイフ	IA2	8	橋底	5.4	3.2	1.1	13.2	黒曜石		101-1	赤井川段と連続
2	P-71	つまみ付きナイフ	IA4	6	橋底	4.2	3.0	0.9	9.9	黒曜石		101-1	赤井川段と連続
3	P-71	スレインバー	BB2b	7	橋底	5.0	5.8	0.5	20.3	頁岩		101-1	
4	P-71	たたき石	III2	2	覆土1	11.7	9.5	4.2	667.0	安山岩		101-1	
国路-145-1	P-72	スレインバー	BB2a	3	橋底	7.9	5.7	2.3	38.2	頁岩		101-1	
2	P-72	スレインバー	BB2a	4	橋底	10.5	6.0	1.3	81.6	頁岩		101-1	
国路-148-8	P-5	石積	IA2a	7	覆土1	3.8	1.1	0.3	1.2	頁岩		101-2	
9	P-5	スレインバー	BB2b	3	覆土1	4.5	3.5	1.0	15.9	頁岩		101-2	
10	P-5	石積	VA1	39	覆土1	6.0	7.1	4.8	190.6	頁岩		101-2	
11	P-5	石積	VA1	42	覆土1	8.0	12.5	9.6	1,038.0	頁岩		101-2	
国路-149-2	P-16	スレインバー	BB2b	2	覆土1	7.5	4.3	1.4	30.0	頁岩		102-1	
3	P-16	碓氷	区B2	8	覆土1	6.8	7.7	2.9	91.7	碓氷岩		102-1	
国路-150-2	P-26	リフレクタ	VB2	3	覆土1	3.8	2.3	1.2	8.9	頁岩		102-1	
国路-151-2	P-36	石積	VA1	2	覆土3	4.0	8.4	6.2	214.9	頁岩		102-1	
3	P-36	たたき石	III1	5	覆土6	12.9	6.9	3.3	390.4	安山岩		102-1	
国路-157-35	P-42	石積	IA4	37	覆土1	4.2	1.8	0.4	2.5	頁岩		105-1	
36	P-42	石積	II1	686	覆土1	3.4	1.2	0.6	2.1	頁岩		105-1	
37	P-42	スレインバー	BB2a	187	覆土1	7.8	4.4	1.2	24.1	頁岩		105-1	
38	P-42	スレインバー	BB2b	189	覆土1	6.4	5.0	0.6	16.9	頁岩		105-1	
39	P-42	石積	VA1	646	覆土1	6.8	9.1	7.5	486.6	頁岩		105-1	
40	P-42	たたき石	III1	688	覆土1	5.9	5.1	3.7	125.4	安山岩		105-1	
41	P-42	たたき石	III1	76	覆土1	10.0	7.1	3.0	318.8	安山岩		105-1	
42	P-42	たたき石	III1	75	覆土1	9.6	6.4	3.1	254.3	安山岩		105-1	
43	P-42	たたき石	III1	78	覆土1	11.2	5.4	2.7	238.6	安山岩		105-1	
44	P-42	たたき石	III3	82	覆土1	12.8	11.2	8.8	1640.0	安山岩		105-1	
45	P-42	たたき石	III4	86	覆土1	11.5	7.2	3.7	452.4	安山岩		105-1	
46	P-42	碓氷	区B2	73	覆土1	5.5	3.3	1.7	18.3	碓氷岩		105-1	
国路-159-1	P-52	台石	X	1	橋口部	40.5	28.3	3.5	6,010.0	安山岩		102-2	
国路-160-4	P-59	たたき石	III1	13	覆土2	9.2	7.5	6.0	563.2	安山岩		102-2	
5	P-59	たたき石	III2	5	覆土1	6.3	5.7	2.9	115.8	安山岩		102-2	数箇所に剥離あり
6	P-59	たたき石	III2	14	覆土2	11.7	10.5	4.1	830.0	碓氷岩		102-2	
国路-161-1	P-57	石積	IA1	14	覆土1	2.8	2.0	0.5	2.8	頁岩		105-2	未産品?
2	P-57	スレインバー	BB2a	5	覆土1	4.4	3.4	1.0	9.8	頁岩		105-2	
3	P-57	たたき石	III1	20	覆土2	8.4	6.7	3.4	249.0	?		105-2	
4	P-57	たたき石	III2	18	覆土2	9.5	8.5	4.3	480.4	安山岩		105-2	
5	P-57	たたき石	III3	21	覆土2	9.4	6.6	3.3	285.8	安山岩		105-2	異化物付着
6	P-57	たたき石	III4	22	覆土2	14.1	7.4	2.4	406.8	安山岩		105-2	剥離を受ける
国路-162-1	P-65	石積	VI4	1	覆土1	12.1	5.7	2.5	299.6	碓氷岩		105-2	橋口部から出土
国路-170-1	S P-17	たたき石	III3	1	覆土1	10.2	6.6	4.0	371.8	安山岩		55-2	
1	S P-86	たたき石	III3	1	覆土1	8.3	6.5	4.9	378.6	安山岩		55-2	
1	S P-136	たたき石	III2	1	覆土1	11.4	9.3	5.9	770.0	安山岩		55-2	
1	S P-165	たたき石	III2	2	覆土1	6.2	4.9	2.8	119.7	安山岩		55-2	
1	S P-207	たたき石	III2	1	覆土1	6.8	5.6	3.3	178.9	安山岩		55-2	
1	S P-233	たたき石	III2	1	覆土1	10.6	6.5	3.8	378.6	安山岩		55-2	
1	S P-288	たたき石	III3	1	覆土1	14.9	10.9	6.5	1,290.0	安山岩		55-2	
国路-172-1	P-15	たたき石	III3	3	覆土中	13.0	7.1	4.6	557.2	安山岩		106	

IV 遺構と遺構出土の遺物

掲載番号	遺 構	遺 構 名	分類	遺物番号	層位	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重さ(kg)	材質	備 考	調査番号	備 考		
図IV-175-1	S-1	両面調整石器	F3	29	Ⅲ	13.2	6.8	3.3	321.8	頁岩		107			
	2	S-1	たたき石	Ⅲ1	11	Ⅲ	10.3	7.1	3.5	344.0	安山岩	107	焼成を受け、炭化物付着		
	3	S-1	たたき石	Ⅲ2	30	Ⅲ	9.5	8.1	3.5	380.8	安山岩	107	磨り面あり、焼成を受ける		
	4	S-1	たたき石	Ⅲ2	4	Ⅲ	10.9	7.9	4.6	551.8	安山岩	107	焼成を受け、炭化物付着		
	5	S-1	たたき石	Ⅲ2	2	Ⅲ	10.3	11.1	4.4	714.0	安山岩	107	焼成を受け、炭化物付着		
	6	S-1	北溝道式石皿	Ⅲ4	20	Ⅲ	11.6	14.3	6.7	1043.0	凝灰岩	107			
	7	S-1	北溝道式石皿	Ⅲ4	5	Ⅲ	9.7	12.5	6.5	958.0	凝灰岩	107			
	8	S-1	石槌	ⅢA	1	Ⅲ	7.6	14.0	1.3	115.4	凝灰岩	107	焼成を受け、炭化物付着		
図IV-176-9	S-2	たたき石	Ⅲ1	8	Ⅲ	8.9	7.3	4.3	345.2	安山岩	107				
	10	S-2	たたき石	Ⅲ2	10	Ⅲ	11.4	9.0	4.6	650.0	安山岩	107	焼成を受け、炭化物付着		
	11	S-2	たたき石	Ⅲ2	6	Ⅲ	8.7	8.1	4.8	412.0	安山岩	107	焼成を受け、炭化物付着		
	12	S-3	たたき石	Ⅲ1	1	Ⅲ	12.2	9.6	3.8	635.0	安山岩	107			
	13	S-3	たたき石	Ⅲ1	6	Ⅲ	13.2	9.4	2.9	501.8	安山岩	107			
	14	S-5	たたき石	Ⅲ1	2	Ⅲ	12.7	12.6	4.2	960.0	安山岩	107			
	15	S-5	たたき石	Ⅲ2	4	Ⅲ	12.0	9.3	4.5	692.0	安山岩	107	焼成を受け、炭化物付着		
	16	S-5	たたき石	Ⅲ2	15	Ⅲ	11.4	9.3	4.6	740.0	安山岩	107	焼成を受け、炭化物付着		
	17	S-5	たたき石	Ⅲ3	9	Ⅲ	14.0	9.4	3.8	783.0	安山岩	107	焼成を受け、炭化物付着		
図IV-177-18	S-6	たたき石	Ⅲ1	3	Ⅲ	14.5	9.4	4.9	900.0	安山岩	108	焼成を受ける			
	19	S-6	たたき石	Ⅲ2	7	Ⅲ	13.3	9.5	3.7	650.0	安山岩	108	焼成を受ける		
	20	S-7	たたき石	Ⅲ1	2	Ⅲ	9.9	6.4	3.8	351.8	安山岩	108	焼成を受ける		
	21	S-7	たたき石	Ⅲ2	5	Ⅲ	11.0	9.5	4.5	628.0	安山岩	108			
	22	S-8	たたき石	Ⅲ1	21	Ⅲ	10.4	10.4	4.2	657.0	安山岩	108	焼成を受ける		
	23	S-8	たたき石	Ⅲ1	36	Ⅲ	13.9	9.1	4.4	864.0	安山岩	108			
	24	S-8	たたき石	Ⅲ1	12	Ⅲ	17.1	10.5	4.2	1,090.0	安山岩	108	焼成を受け、炭化物付着		
	25	S-8	たたき石	Ⅲ1	6	Ⅲ	18.7	9.4	4.2	1,000.0	安山岩	108	焼成を受け、炭化物付着		
	26	S-8	たたき石	Ⅲ2	20	Ⅲ	10.9	8.9	4.4	545.0	安山岩	108			
	27	S-8	たたき石	Ⅲ2	22	Ⅲ	10.1	9.7	3.6	530.8	安山岩	108			
図IV-178-27	28	S-8	たたき石	Ⅲ3	10	Ⅲ	12.0	8.4	4.1	589.0	安山岩	108			
	29	S-8	たたき石	Ⅲ3	2	Ⅲ	10.4	9.2	4.2	544.8	安山岩	108			
	30	S-8	台石	X	11	Ⅲ	14.9	13.1	3.5	968.0	安山岩	108	焼成を受ける		
	31	S-10	たたき石	Ⅲ1	8	Ⅲ	8.8	4.5	2.6	143.8	安山岩?	108			
	32	S-10	たたき石	Ⅲ1	11	Ⅲ	8.0	4.6	2.7	156.8	安山岩	108			
	33	S-10	たたき石	Ⅲ1	17	Ⅲ	6.9	4.4	2.5	126.3	安山岩	108			
	34	S-10	すり石	Ⅲ5	15	Ⅲ	8.0	3.5	4.4	173.5	安山岩	108			
	図IV-184-1	F C-1	両面調整石器	F2	2	Ⅲ上	7.2	3.9	2.5	82.8	頁岩		110		
		2	F C-1	両面調整石器	F3	3	Ⅲ上	4.9	4.1	1.6	26.5	頁岩		110	
		3	F C-2	両面調整石器	F3	2	Ⅲ上	5.1	6.8	2.4	86.2	頁岩		110	
4		F C-4	両面調整石器	F2	2	Ⅲ	4.9	3.3	1.6	19.7	頁岩		110		
5		F C-4	石槌	V A 1	5	Ⅲ	6.7	8.6	4.6	276.1	頁岩		110		
6		F C-4	Uフレイク	V B 2	6	Ⅲ	9.8	3.0	1.2	23.0	頁岩		110		
7		F C-6	スクレイパー	ⅢB 2	1	Ⅲ	6.5	5.3	0.9	29.5	頁岩		110		
8		F C-6	石槌	V A 1	4	Ⅲ	9.2	12.2	7.9	940.0	頁岩		110		
図IV-185-9	F C-6	石槌	V A 1	3	Ⅲ	9.9	11.2	9.8	990.0	頁岩		110			
	10	F C-7	両面調整石器	F2	2	Ⅲ	6.7	5.1	1.8	46.1	頁岩		110		
	11	F C-8	石槌またはナイフ	I B 2	2	Ⅲ	6.4	3.2	1.2	24.4	頁岩		110		
	12	F C-8	スクレイパー	ⅢB 8	18	Ⅲ	9.9	7.6	1.2	75.8	頁岩		110		
	13	F C-8	両面調整石器	F2	22	Ⅲ	8.9	6.4	1.9	103.0	頁岩		110		
	14	F C-8	石槌	V A 1	4	Ⅲ	3.5	5.7	5.0	91.6	頁岩		110		
	15	F C-8	石槌	V A 1	23	Ⅲ	3.8	6.4	5.0	143.1	頁岩		110		
	16	F C-8	石槌	V A 1	5	Ⅲ	7.1	10.7	5.5	386.4	頁岩		110		
	17	F C-8	Uフレイク	V B 2	13	Ⅲ	8.1	5.4	1.9	68.3	頁岩		110		
	18	F C-8	Uフレイク	V B 2	31	Ⅲ	7.2	4.0	1.0	20.6	頁岩		110		
19	F C-8	たたき石	Ⅲ3	16	Ⅲ	8.0	4.7	3.3	204.7	安山岩		111			
20	F C-8	たたき石	Ⅲ3	15	Ⅲ	11.5	7.7	3.8	486.4	安山岩		111			

掲載番号	産 地	器 名	分類	遺物番号	層位	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重量(g)	材質	備 考
国研-185-21	F C-9	両面開蓋石硯	B 2	2	Ⅱ	13.0	4.8	1.3	103.9	頁岩	111
22	F C-9	両面開蓋石硯	B 2	3	Ⅱ	9.2	5.7	1.4	84.0	頁岩	111
23	F C-9	石硯	VA 1	4	Ⅱ	8.4	8.3	3.2	187.5	頁岩	111
24	F C-9	石硯	VA 1	5	Ⅱ	3.5	6.4	3.7	63.8	頁岩	111
25	F C-10	スライバー	B 2 a	32	Ⅱ	18.5	7.9	3.2	386.0	頁岩	111
26	F C-10	両面開蓋石硯	B 2	22	Ⅱ	8.6	4.3	2.1	211.2	頁岩	111
国研-187-27	F C-10	石硯	VA 1	25	Ⅱ	6.7	6.8	4.7	142.1	頁岩	111
28	F C-10	石硯	VA 1	8	Ⅱ	9.2	16.1	4.7	511.8	頁岩	111
29	F C-10	石硯	VA 1	24	Ⅱ	10.9	14.8	11.2	1,850.0	頁岩	111
30	F C-10	たたき石	Ⅱ 3	34	Ⅱ	9.2	8.5	4.1	456.0	安山岩	112
31	F C-11	両面開蓋石硯	B 2	2	Ⅱ	5.4	5.2	2.1	82.5	頁岩	112
32	F C-12	スライバー	B 2 a	24	Ⅱ	9.7	5.4	1.3	51.3	頁岩	112
33	F C-12	スライバー	B 2 b	28	Ⅱ	6.9	4.7	1.4	36.0	頁岩	112
34	F C-12	両面開蓋石硯	B 2	39	Ⅱ	6.4	5.5	1.5	52.8	頁岩	112
35	F C-12	石硯	VA 1	6 b	Ⅱ	7.1	6.6	2.9	116.6	頁岩	112
36	F C-12	石硯	VA 1	35	Ⅱ	6.8	7.6	2.9	160.6	頁岩	112
37	F C-12	石硯	VA 1	6 b	Ⅱ	6.1	7.4	4.3	190.8	頁岩	112
38	F C-12	たたき石	Ⅱ 4	26	Ⅱ	10.2	6.9	4.2	428.4	安山岩	112
国研-188-39	F C-14	スライバー	B 2 b	3	Ⅱ	5.9	3.1	1.2	15.7	頁岩	112
40	F C-14	石硯	VA 1	8	Ⅱ	4.8	8.6	6.6	236.8	頁岩	112
41	F C-14	石硯	VA 1	10	Ⅱ	6.1	7.8	2.5	111.0	頁岩	112
42	F C-14	石硯	VA 1	6	Ⅱ	4.7	8.0	4.9	181.9	頁岩	112
43	F C-14	石硯	VA 1	5	Ⅱ	5.7	12.7	7.2	403.4	頁岩	112
国研-189-44	F C-14	たたき石	Ⅱ 1	13	Ⅱ	14.0	5.6	2.7	257.2	凝灰岩	113
45	F C-15	石硯	VA 1	8	Ⅱ	6.6	7.0	3.1	110.8	頁岩	113
46	F C-15	石硯	VA 1	4	Ⅱ	4.0	6.6	4.3	81.6	頁岩	113
47	F C-15	石硯	VA 1	6	Ⅱ	4.7	7.7	6.3	232.0	頁岩	113
48	F C-16	石硯	VA 1	3	Ⅱ	5.6	5.6	4.1	102.7	頁岩	113
49	F C-16	石硯	VA 1	2	Ⅱ	7.1	9.6	6.6	378.0	頁岩	113
国研-190-50	F C-16	たたき石	Ⅱ 4 ?	7	Ⅱ	15.0	6.1	3.7	457.8	安山岩	113
51	F C-18	両面開蓋石硯	B 2	2	Ⅱ	8.4	6.1	3.0	141.5	頁岩	113
52	F C-19	石硯またはナイフ片	J 2 a	8	Ⅱ	9.1	3.7	1.3	45.5	頁岩	113
53	F C-19	つまみ付きナイフ	EA 1 c	4	Ⅱ	4.4	2.6	1.0	10.5	頁岩	113
54	F C-19	スライバー	B 2 a	9	Ⅱ	7.1	4.7	1.2	34.6	頁岩	113
55	F C-19	石硯	VA 1	15	Ⅱ	7.0	5.9	5.9	183.7	頁岩	113
56	F C-19	石硯	VA 1	3	Ⅱ	8.2	6.1	5.5	209.8	頁岩	113
57	F C-19	たたき石	Ⅱ 1	5	Ⅱ	7.4	8.3	5.5	384.8	安山岩	113



V 包含層出土の遺物

1 土器

包含層からは縄文時代と統縄文時代の土器が出土している。縄文時代は早～後期（Ⅰ～Ⅳ群土器）のものが、統縄文は前半のもので、主体は圧倒的な数量が出土した前期のⅡ群b類土器で、恐らく今回検出された遺構と土器を除く遺物の殆どがこの土器に伴うものか或いは同時期頃のものと言えるであろう。各群の分布は図V-1・2に示した。以下Ⅱ群、Ⅰ群、Ⅲ群、Ⅳ群、Ⅴ群の順に記載する。

(1) 縄文時代前期の土器

Ⅱ群b類土器（図V-3～21-1～377、図版114～140、表V-1・7）

円筒形を呈し胎土中に繊維を含む深鉢型土器を主体とする所謂「円筒下層式土器」である。遺構・包含層共に最も多く出土した土器群で、包含層出土の土器377個体をここに掲載した。

器形は円筒形を基本に口縁部が外に向かって広がるものや胴部に膨らみを有するものなどもある。口縁部は平縁のものが多く、27個体が識別された山形突起を有するものも低く緩やかな裾野を持つものに限定されており、確認された中では突起が四カ所のものが多かった。底部は基本的に平底である。一部に上げ底を呈するものも認められ、それらには底面に施文されるものが多く見られた。

文様的な特徴は、非常に多彩な文様構成のものが多いことである。それらは器面に施される「地紋」と「口縁部文様帯」、そしてそれらの「境界に施される文様」などに大きく分けられる。

主要な「地紋」には、「三段複節」、「二段単節」、「付加条」、「撚り戻し」、「自縄自巻的」、「羽状縄文」、「撚糸」、「多軸絡条体」などの原体が使われるものなどがある。また、これら以外には「貝殻条痕」を併せ持つものや「複数の原体」が用いられるもの、「無文」のものなども見られる。「貝殻条痕」を有するものは決して多くはないものの、その主体は表面に地紋の上から施されている場合が多い。反面、内面に施文されるものは著しく少なかった。これらの中で使用頻度の高い地紋の原体は多い順に「二段単節」、「撚り戻し」、「撚糸」などである。

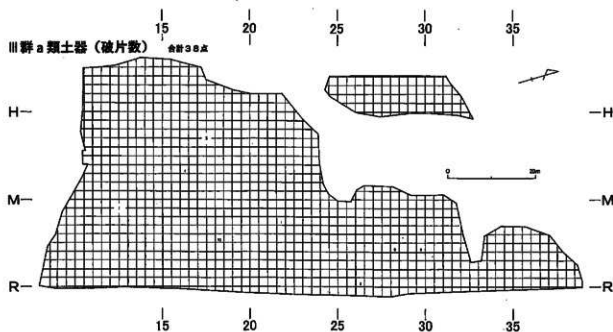
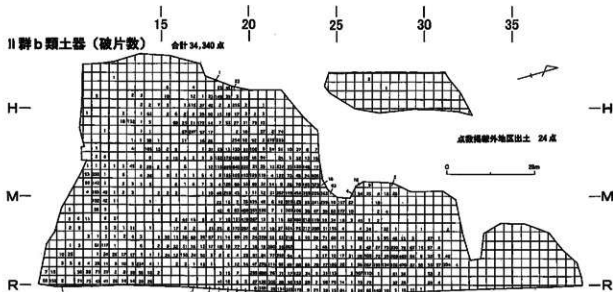
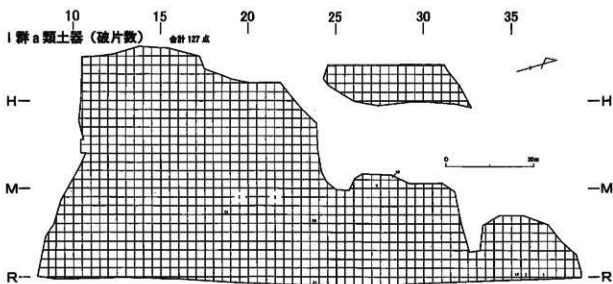
「口縁部文様帯」に用いられているのは、「縄線文」、「絡条体圧痕文」、「細い撚糸の束の押捺」、「縦絡文」、「刺突文」、「条痕文」などである。使用頻度の高いのは前からの4種で、これらは複合施文され、横位や縦位と縦位の組み合わせ、或いは鋸歯状など幾何学的な構成の文様帯を形成している。縄線文はL Rの縄、絡条体圧痕文や撚糸文、縦絡文などはRの撚糸が用いられる場合が多い。また、刺突文は棒状や竹管状あるいはそれを半載したものなどの形態をした施文具、条痕文は貝殻などが使われている。

「境界に施される文様」には、「粘土紐の貼付」、「刺突」、「縄線文」、「縦絡文」などが使われる。貼付は大柄なものと小柄なものとがあり混在して使われ、施文具による刺突（刻み？）などが併用される場合が多い。刺突は指頭状や棒状、竹管状、半載した竹管状の形態をした施文具などによるものが多く、縄や縄線文の押捺の場合もある。縄線文はL Rの縄、縦絡文にはRの撚糸が用いられるのが大半を占めており、これらは貼付や刺突の上下段に施される場合と単独で用いられる場合がある。

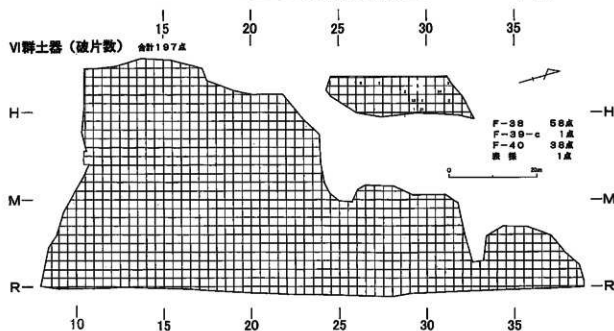
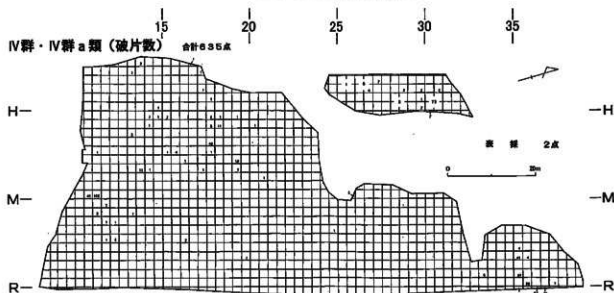
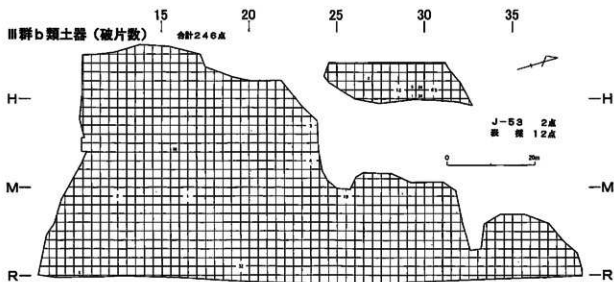
内面は研磨が施されたものとされていないものとに分けられ、傾向としては器壁が薄く整った文様の施される精緻な作りのものに内面研磨が施されるものが多いことが挙げられる。これらは今回報告のⅡ群b類土器の中で比較的時期の新しい土器に丁寧な研磨が施されると言い換えることもできよう。

胎土中に繊維の混入は全てのⅡ群b類土器に認められたが、これ以外にも「海綿骨針」や「白色岩片」、「石英・長石・角閃石などの重鉱物」などの混入が見られた。特に「海綿骨針」については地紋

V 包含層出土の遺物



図V-1 包含層出土土器の分布(I) I 群 a 類・II 群 b 類・III 群 a 類



図V-2 包含層出土土器の分布(2)Ⅲ群b類・Ⅳ群a類・Ⅵ群

に縄文や撚り戻し、撚糸文などが施されるものに混入が顕著であった。

以上のような特徴から、今回出土したⅡ群b類土器群の時期について以下に述べる。主な地紋の中で「二段単節」は口縁部の文様帯の有無に関わらず全面にこの原体を使った地紋が施される場合が多く、このような特徴は「三段複節」と共に今回の土器群の中の「古さ」を示す特徴と言えるかもしれない。文様的には口縁部文様帯への不整の「綾絡文」の単純施文、また指頭などで刻まれる頸部の貼付帯などにも当てはまるであろう。このような「古さ」を示すもう一つの傾向は、器壁の厚いもの、施文に使われる原体が大柄な（或いは「太い」）ものなどに見られ、これらも古い可能性がある。その根拠は何れも「円筒下層b式土器」以前の特徴にその系譜が求められる点にある。

反面、「撚り戻し」や「撚糸」、「羽状縄文」などは口縁部の文様帯を持つものが大半を占めており、その部分には地紋が施文されないものが多い。これらは通常「円筒下層c式土器」に見られる特徴である。そうして、「森川式土器」には綾絡文の特徴にやや類似点が見られるものの、作りの良さは「森川式土器」に及ぶものではなく、一般的な簾状の文様構成を持つものや木目状撚糸の施されるものなどの「円筒下層c式土器」や「円筒下層d式土器」などは少ない。以上のことから当Ⅱ群b類土器群の構成は、「円筒下層b式（末期）」～「円筒下層c式（古手）」か「森川式」ぐらいに相当する段階を主体とする土器群と言えるかもしれない。以下、掲載土器について述べる。まずは地紋の判るものと判らないものと分け、前者は地紋の特徴（①～⑨）で、後者は部位（⑩・⑪）で更に分けた。

① 三段複節縄文の施されているもの（1～28）

このタイプは今回出土したⅡ群b類土器の総体から見た場合少数と言える。三段複節は、その殆どがRLRで占められている。そして、太い原体を使うものと細い原体を使うものと大きく分けられ、前者は器壁が厚く混入する繊維の量も多い。また、文様帯を含めて装飾性に乏しいシンプルな構成をとる傾向が認められ、口縁部にまで施文されるものや文様帯の地紋となっている場合も多い。後者はその反対で、器壁が薄く繊維も少ない。そうして、施文される文様の種類が増えるなど比較装飾性に富むと言える。内面に研磨が施されるのは3・5～7・9・12・13・15・19・21、胎土中に海綿骨針が混入するものは4・20・23である。

a. 貼付帯をもつもの（1・2・9・11・14・15）

1は4箇所の低い山形突起を持つ土器で、指頭状の施文具で刺突を施した貼付が施されている。2は平縁の口縁部にLRの斜行縄文が施されたもので、貼付は極めて厚みがなく竹管状の施文具による刺突が施されている。9は貼付に指頭状の施文具による刻みが施されるもので、この地紋はRLの可能性もある。11aは貼付が剥落して痕跡だけが残っている。14の刺突は棒状の施文具による、15は指頭状の施文具によるもので貼付の上下段の器面には結条体圧痕文が施されている。

b. 綾絡文の施されるもの（3～5）

3は文様帯一面に不整の綾絡文が施される平縁の口縁部で、胴部との境界にはLRの縄線文が施されている。胎土にはチャートなどの小円礫が混入する。4と5a・bは綾絡文の施された口縁部と胴部である。

c. 結条体圧痕文の施されるもの（6・7）

6・7は文様帯に結条体圧痕文が施されたものである。7の器面には炭化物が付着する。

d. 縄線文の施されるもの（8）

8はRLRの縄線文1条が施される器壁の薄い口縁部である。

e. 地紋だけが施されるもの（10・12～13）

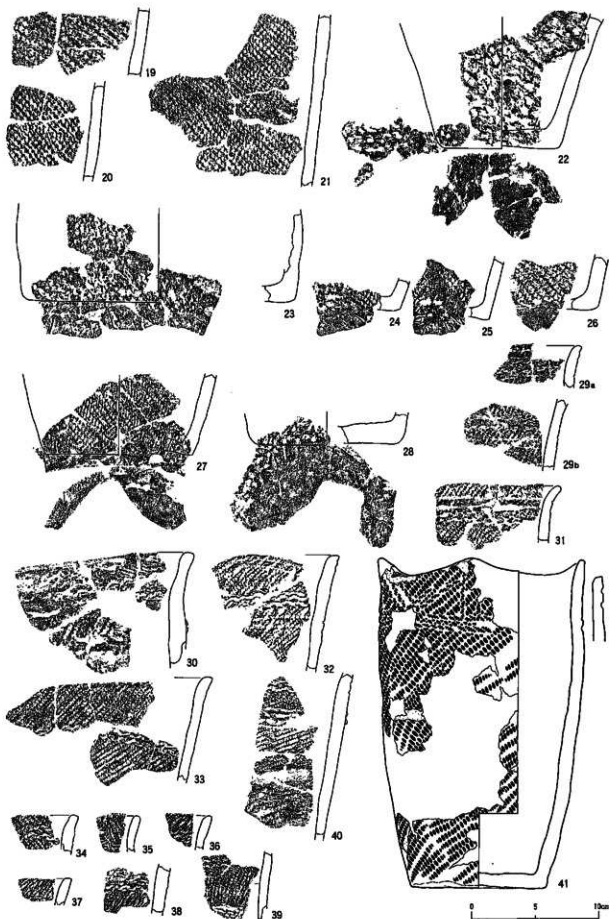
12にはRの撚糸文が併用されている。

f. 胴部（16～21）

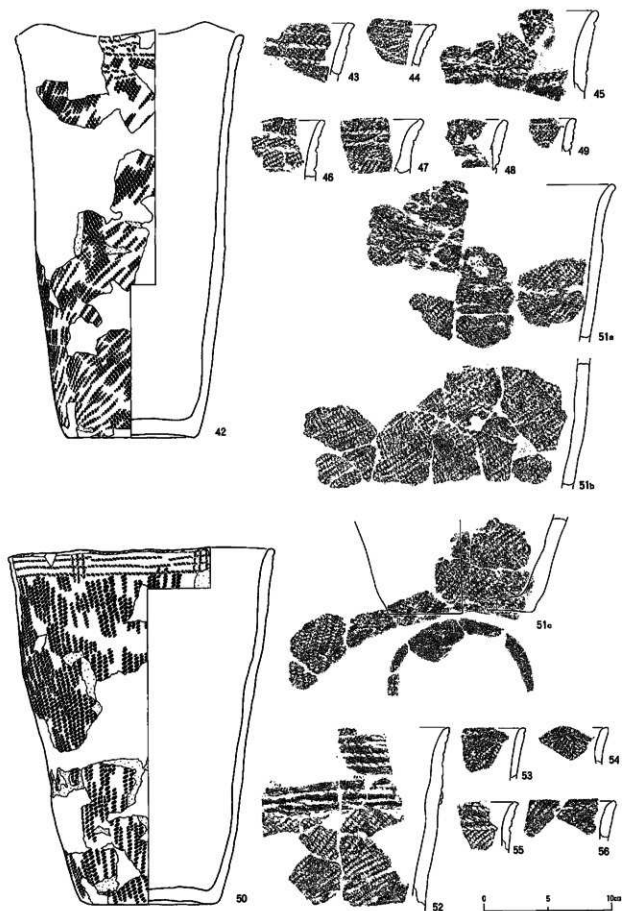


図V-3 包含層出土のⅡ群b類土器(1)

V 包含層出土の遺物



図V-4 包含層出土のⅡ群b類土器(2)



図V-5 包含層出土のⅡ群b類土器(3)

16・17は原体が太く器壁が厚い。含まれる繊維も多い。

g. 底部 (22~28)

22・23・28は原体が太く器壁が厚い。22は胎土にチャートなどの小円礫を含む。23は底面にも地紋と同じ文様が施文されている。27の底部は上げ底である。

②二段単節縄文(斜行縄文)の施されているもの (29~140)

このタイプは、今回出土したⅡ群Ⅱ類土器の主体の一つと言える。その殆どがLRの原体で占められており、RLは僅かである。そのため、LRが用いられている場合、本文中では特に記載していない。施文方向は基本的に横位であるが、条の流れが横走や縦走するよう意図的に施文方向を変化させたものも少なくない。これには、燃糸文の流れが強く関連することが想定される。文様帯に縄線文が使われる場合や文様帯とその下位の器面の境に貼付が施される場合には、口縁部にまで施文されたり文様帯の地紋となっている場合が多い。全体的には文様帯を含めてシンプルな文様構成をとるものが多いと言えよう。また、貝殻によると考えられる条痕文が付加される場合が多いのも傾向の一つと言えよう。内面に研磨が施されるのは41・42・44・47・54・57・61・62・64・67・70・74~76・78・79・88・90・92~94・98・100・101・104・108・111・114・118・119・125、胎土中に海綿骨針が混入するものは29・39・70・72・73・92・95・101・102・110・116・124である。

a. 綾絡文の施されるもの (29~40)

29 a・bは綾絡文の上位にLRの縄線文、下位にRの燃糸文が施される口縁部である。30は部分的にRの縄文と貼付の付加された口縁部で、胎土には繊維を多く含んでいる。31は2条の綾絡文の上位に絡条体圧痕文が2条施された口縁部である。この地紋はRLRの可能性もある。32・33は山形突起部で、32は綾絡文の上下に絡条体圧痕文が付加されている。34はRLRの三段複節、35はRLRの燃り戻しの可能性がある。40は貼付の上にLRの縄線文が施された胴部である。

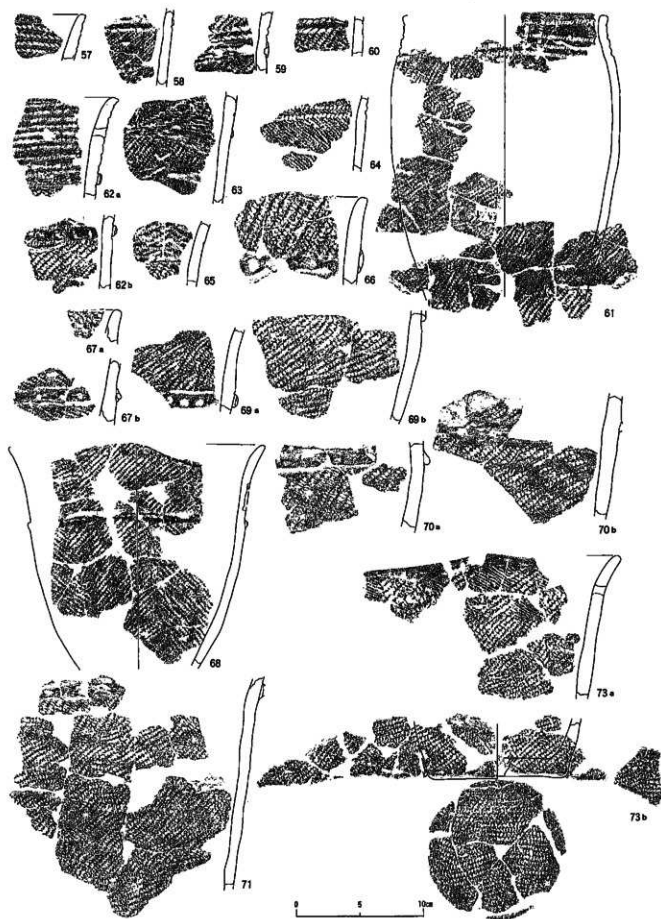
b. 縄線文の施されるもの (41~60)

このグループで用いられる縄線文の原体はLRが大半を占めている。そのため、LRの場合には特に記載していない。縄文と縄線文とが組み合わせられるものは比較的数字が多く、その場合他の文様に対しては排他的である。ただし、細い縄線文が用いられる場合には、綾絡文や絡条体圧痕文などが加わる傾向がある。

41・42は4箇所山形突起を有する口縁部を持つ復元個体である。どちらも僅かに上げ底である。43~49・53・56は地紋の上に縄線文を施した口縁部である。50は平縁で上げ底の器壁が薄い土器である。口縁部には地紋が無く縄線文で格子状に構成される文様帯を持っている。その下位の器面には条を縦走させるRLの縄文が施されているが、下半部は同じ構成で施文されたRLRの可能性もある。51 a~cは口縁部に2条の縄線文が施されたもので他の文様は不明瞭である。器面の一部には地紋の上から条痕文が施されている可能性がある。52は貼付上に文様帯と同じLRの縄線文が施される口縁部である。口唇の断面形は先の尖るものである。54は2条の綾絡文も加えられた山形突起部である。55・57は無文の口縁部に縄線文が施されたものである。58~60は胴部である。58は厚みのない貼付の上下に縄線文あるいはRの燃糸文が施されている。59は貼付の上に竹管状の施文具による刺突が加えられている。60の縄線文はRLの原体が使われている。

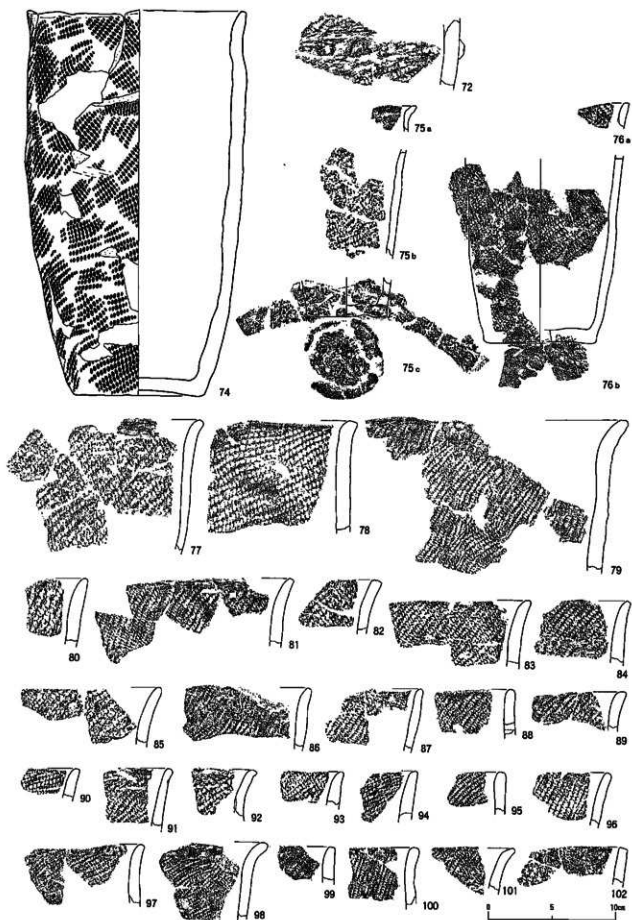
c. 絡条体圧痕文の施されるもの (61~65)

全てにRの細い燃糸が使われている。61は平縁の口縁部がやや内側に傾く土器で、無文の口縁部には綾絡文で格子状に構成される文様帯を有している。62 a・bは文様帯一面に細い燃糸の絡条体を使った施文がなされた口縁部である。貼付上には同じ絡条体による刻みが施されている。63~65は胴部である。63は貼付上に指頭のような施文具による刻みが施され、文様帯には綾絡文のほかにLRの縄

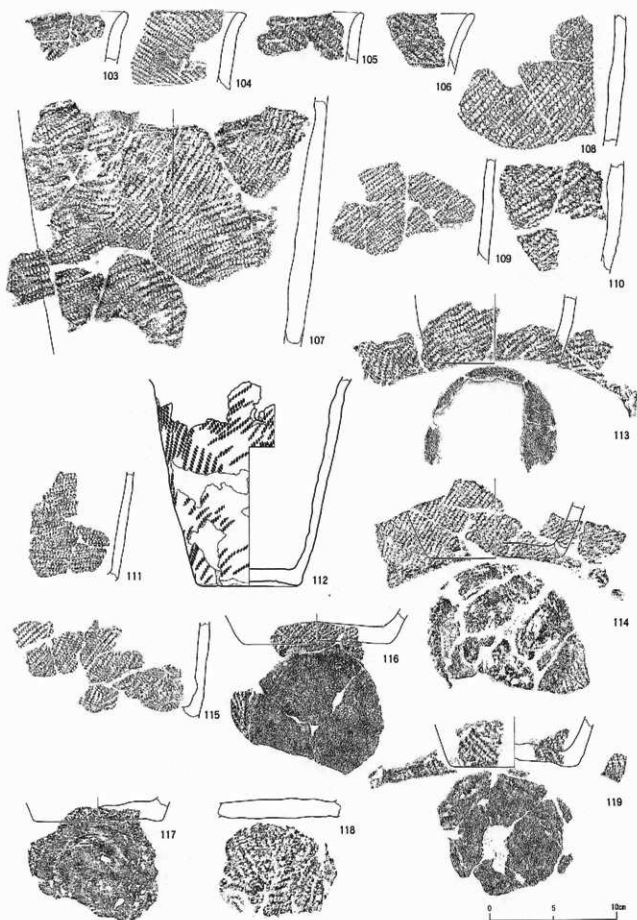


図V-6 包含層出土のⅡ群b類土器(4)

V 包含層出土の遺物



図V-7 包含層出土のⅡ群b類土器(5)



図V-8 包含層出土のⅡ群b類土器(6)

線文も施されている。胎土には砂粒を多く含む。64はRLの斜行縄文が地紋に施されたもので、太い撚糸の絡条体が器面の上端に施文されている。65は山形突起部である。

d. 貼付帯をもつもの (66~72)

66・69・71は貼付の上に指頭状の施文具による刻みが施されるもの。67a・bは竹管あるいは棒状の施文具による刺突、72は撚りの不明瞭な縄を使った刻み、68はLRの縄線文が施されている。70a・bの貼付は下方に向かって垂れ下がっている。66・68は低い山形突起を有したもので、68の胴部の地紋はLRの原体を縦横に施文して羽状構成にしたものと考えられる。69a・bの貼付に沿った器面にはRの撚糸文が施されている。70の器面には部分的に0段多糸の原体が施文されているかもしれない。

e. 一段無節の縄文が施されるもの (73)

73a・bは極めて低い山形突起を有する土器で、低いLRの縄とRの縄を交互に施して鋸歯状に構成される口縁部文様帯を有している。器形から見て器壁が厚く特に底部が厚くなっている。

f. 地紋だけが施されるもの (74~106)

75a~cは器壁の厚い平縁で上げ底の土器である。76a・bは口縁部と胴・底部、77~106は口縁部で、104~106はRLの縄文が施されている。

g. 胴部 (107~112)

h. 底部 (113~135)

i. 貝殻条痕が付加されるもの (136~140)

ここに掲載するのは器面の表側に条痕が存在するものである。内面に条痕が備わるものは極端に少ない。大半のものは地紋の上から施されている。

136は条が横走する平縁の土器で、貝殻が使われたと考えられる条痕は地紋の施文後に施されたものである。137aは文様帯に横走する条痕文が施された口縁部で、表面には炭化物の付着が見られる。138はRLの地紋が施された口縁部で、施文が不明瞭な文様帯には綾格文と思われるものの上から条痕文が施されているようだ。139は折り返し肥厚する部分を有した口縁部である。条痕文はRLの地紋の上から施されている。140は胴部の器面下位に施された横走の条痕文である。

③付加条の施されているもの (141~148)

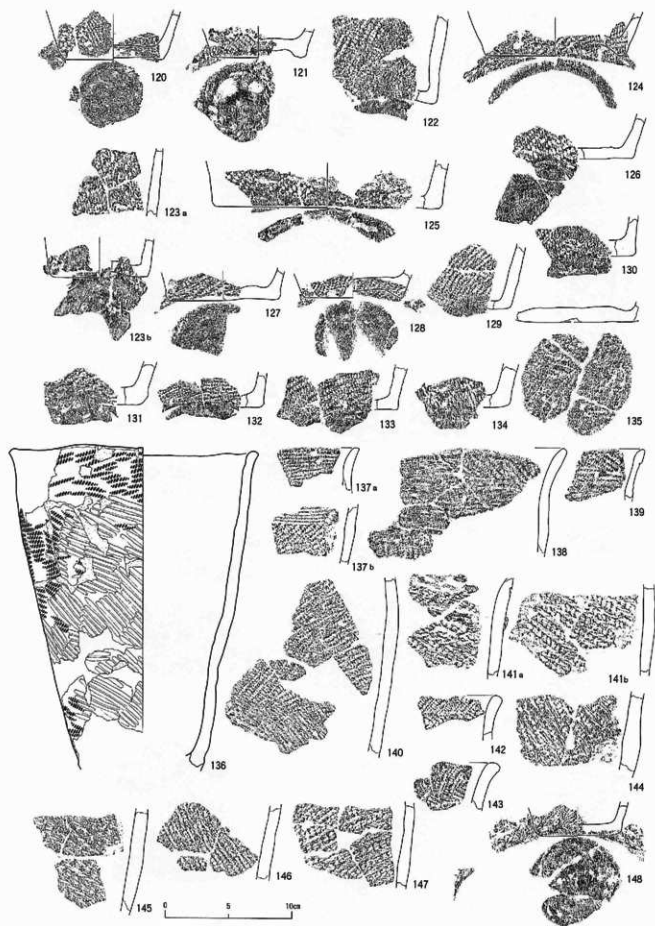
このタイプは今回出土したⅡ群b類土器の総体から見た場合少数と言える。少なくとも口縁部および胴部の地紋として使われていること程度のことは言えず、実態はよくわからない。しかし、口縁部の形状や器壁、胎土などの特徴から見て、地紋が「撚り戻し」や「自縄自巻」縄文のものに類似する点が少なからず見いだせる。内面に研磨が施されるのは141・142・146・147、胎土中に海綿骨針が混入するものは無い。

141a・bは指頭状の施文具で刻みが施される貼付を有した口縁部と胴部である。142・143は口縁部、144~147は胴部、148が底部である。

④撚り戻しの縄文が施されているもの (149~190)

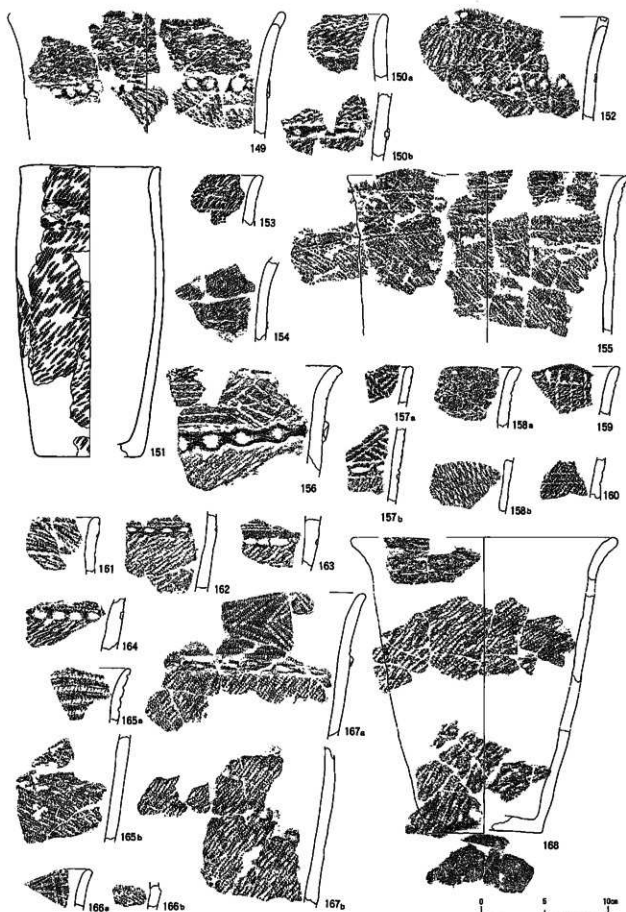
このタイプは今回出土したⅡ群b類土器の中では比較的数量の多いタイプと言える。多くのものにLLRの原体が使われているが、RRLの使われるものも決して少なくはない。また、それらの一部には自縄自巻の縄文との判別が困難なものも存在した。口縁部に文様帯を持つものが多く、地紋と口縁部文様帯との境界に施される文様は、貼付の頻度が少なく、刺突文や綾格文などが用いられている。文様帯に組み合わされる文様は、綾格文や絡条体斑痕文が比較的多く撚糸の束の押捺や縄線文などもそれに次いで使われている。内面が研磨されるものも多い。比較的装飾性に富む土器グループと言えよう。

LLRの原体が使われるものは150~154・156・157・159・160・162~164・167~169・173・174・178~180・183~185・187~190、RRLの原体が使われるものは149・155・158・161・165・166・170

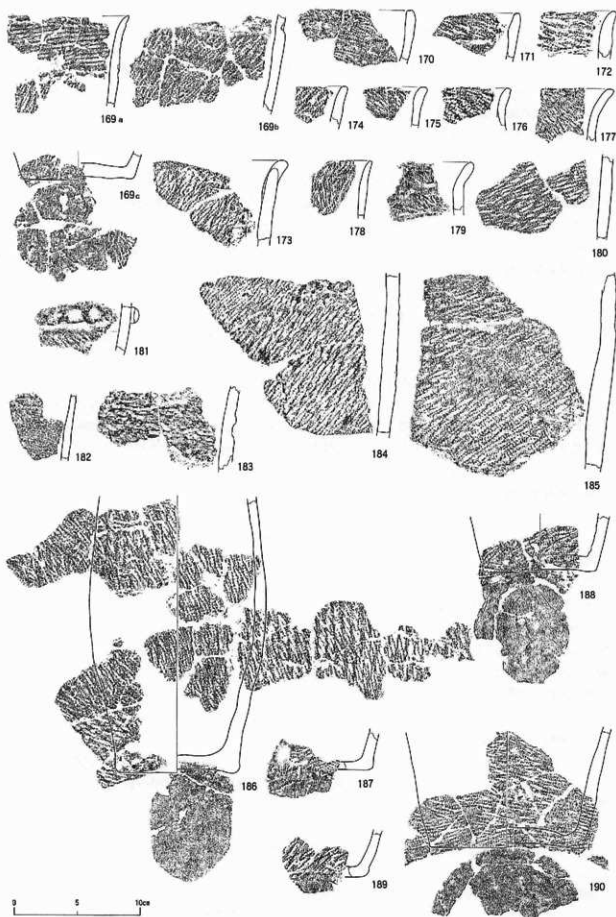


図V-9 包含層出土のⅡ群b類土器(7)

V 包含層出土の遺物



図V-10 包含層出土のⅡ群b類土器(a)



図V-11 包含層出土のⅡ群b類土器(9)

～172・175～177・179・181・182・186で、その内159・177・179・181・182はRRの原体が使われている可能性もある。

内面に研磨が施されるのは152～154・156・157・159・162・163・165～167・170・172・175・182・184～186・188・190、胎土中に海綿骨針が混入するものは162・165・169・170・181・182である。

a. 綾絡文の施されるもの (149～154)

149は低い山形突起と不整の綾絡文が一面に施された文様帯を有する口縁部である。上に指頭状の施文具で刻みが施されるための貼付が文様帯と地紋との間に備わっている。150 a・bの口縁部には貼付の上に竹管状の施文具を使った刺突文が施されている。151は平縁の小型土器である。綾絡文は口縁部と胴部との境に施文されている。152は口縁部の山形突起の口唇に竹管状の施文具による刺突が施されたもので、同じ刺突が口縁部文様帯と胴部との境にも用いられている。153は綾絡文の他にRの燃糸文も施された口縁部、154は綾絡文の下位に厚みのない貼付が施された胴部である。

b. 縄線文の施されるもの (156～161)

156は無文部に縄線文を施した文様帯と指頭状の施文具で刻みを施した貼付を有する口縁部である。口唇の一部には縄文あるいは縄の刻みが施されている。157 a・bも無文部に縄線文を施した文様帯を有した口縁部であるが、貼付の位置には棒状の施文具による横方向の刺突列が施されている。158～161は地紋の上から縄線文を施している口縁部もしくはその付近で、159は山形突起部である。

c. 細い燃糸の束の押捺の施されるもの (155・162～164)

155は小さな山形突起とRとLの二本の燃糸の束を押捺した口縁部文様帯を有する土器である。この土器の地紋はR Lの自縄自巻の縄文の可能性もある。162～164は無文の器面に燃りの異なる2～3本の燃糸の束を押捺した文様帯を有する土器の胴部である。文様帯と地紋施文部との間にはいずれも棒状の施文具による横位の刺突列が施されている。

d. 結条体圧痕文の施されるもの (165～168)

165～167は結条体圧痕文の施される文様帯を有した口縁部である。いずれも低い山形突起の部分で、167 aには棒状の施文具で横位の刺突を入れた貼付が施されている。165 bの地紋はR Lの自縄自巻の縄文の可能性がある。168は平縁の土器で不明瞭ながら文様帯は地紋の上から結条体圧痕文を施したものであると思われる。

e. 貝殻条痕文が付加されるもの (169)

169 a～cは口縁部に横走する条痕文が施される土器で、口唇の断面は尖っており、その直下の器面にはL Rの縄線文が施されている。また、条痕文と地紋との境には、棒状の施文具による斜めの沈線の刻みが施される。内面には炭化物の付着が認められる。

f. 地紋だけが施されるもの (170～179)

170～179は口縁部で、173は山形突起部である。176の胎土には長石の混入が認められる。

g. 胴部 (180～185)

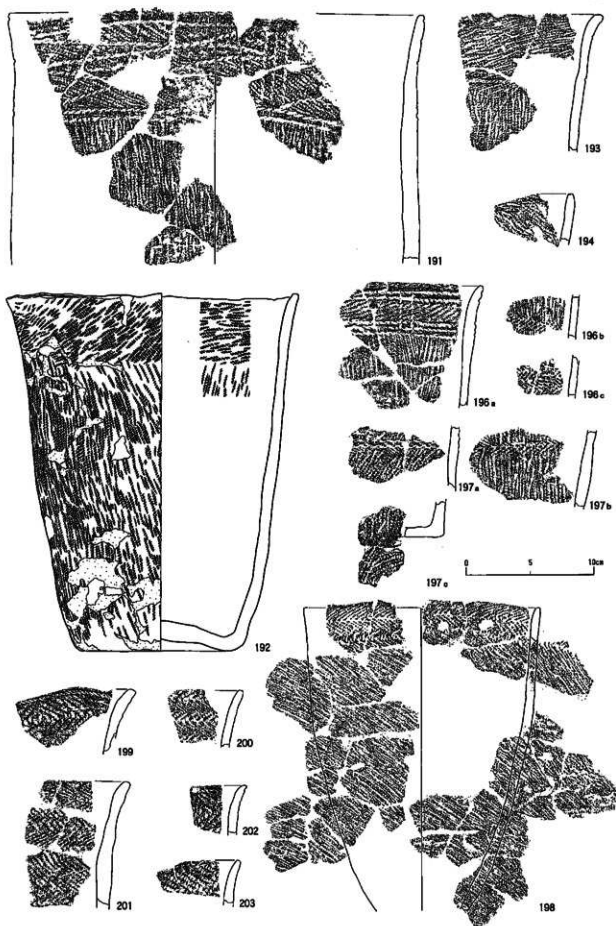
181の貼付には指頭状の施文具による刻みが施されている。183の器面には太いL Rの縄線文が施されている可能性がある。184・185は器面に炭化物が付着する胴部である。184の胎土には白色岩片の混入が顕著である。

h. 底部 (186～190)

186～190は底部である。189の地紋は条が縦位になるよう、190は横位になるよう意識したものと思われる。

⑤自縄自巻の縄文が施されているもの (191～195)

このタイプは今回出土したⅡ群b類土器の総体から見た場合少数と言える。各特徴は「④燃り戻し



図V-12 包含層出土のⅡ群b類土器④

の縄文」が施される土器グループとよく似ている。しかし、撚り戻しの施文と判別がつかないものもあり、必ずしも実態を反映していない可能性もある。今回、グループ分けされた土器において、胴部に施文された地紋からは条を縦走させる意図を感じることから、撚糸文の文様構成を強く意識した施文と言えるのではないだろうか。また、口縁部で地紋の施文方向を変化させる点も特徴の一つである。

内面に研磨が施されるのは191・192・194・195、胎土中に海綿骨針が混入するものは192・194である。

191はRLの縄線文で構成される文様帯を有した平縁の土器上半部である。192も平縁の土器で底部は上げ底である。口縁部に施された地紋は、全周の1/2の器面に条が斜行する地紋が、残りの1/2の器面に条が横走する地紋が施されている。図の右半分に記したのとは正面からは見えない部分の施文状況である。口縁部には炭化物が付着している。193・194は口縁部で、194は山形突起部である。195は地紋の上から横方向にかすかな条痕が施される胴下半部である。

⑥羽状縄文の施されているもの (196~206)

このタイプは今回出土したⅡ群b類土器の総体から見た場合少数と言える。大半が結束第一種の羽状縄文で、施文される土器は器壁が薄く、複数の文様と組み合わせられるものが多く装飾性に富む傾向が認められる。撚糸文との組み合わせは、典型的な「円筒下層c式土器」をイメージさせる。今回報告のⅡ群b類土器の中でも比較的新しい段階の土器グループとして位置づけられるものと考えられる。内面に研磨が施されるのは196・199~201、胎土中に海綿骨針が混入するものは認められない。

196a~cは胴部に羽状縄文と撚糸文が縦方向に交互に施される平縁の土器である。口縁部にはLRの原体を用いた斜行縄文と縄線文が施される文様帯がある。197a~cも胴部に同じ構成の文様が施されるもので、器面の上部には綾格文も認められる。198~203は口縁部に羽状縄文が施されたものである。198は平縁で胴部の地紋はRの撚糸文或いは付加条の原体による縄文である。199の口唇部直下の器面にはLRの縄線文が施され羽状も途中から異なる撚りのものへと変わっている。200に施文される羽状縄文は一方に付加条の縄が使われている。202の器面下端にはRLの縄線文が施されている。204は竹管状の施文具で刺突文が施された貼付を有する胴部で、貼付の上下段の器面には綾格文が施されている。また施文される羽状縄文は太い原体が使われている。205は文様帯と地紋の施される胴部との境界に竹管状の施文具で刺突文が施された幅の狭い無文帯を設けた胴部である。その上位の器面には綾格文も施されている。206は胴部である。

⑦撚糸文の施されているもの (207~297)

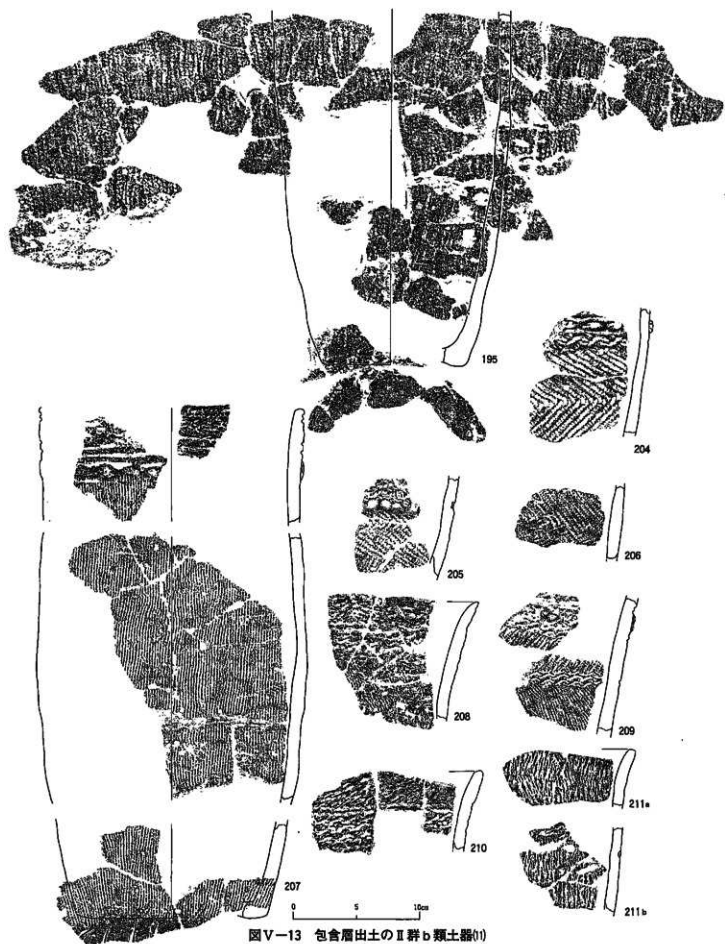
このタイプは「撚糸文」という枠で括るなら②二段単節縄文に次ぐ数量が出土している。しかし、バリエーションが多形で使われた時間幅も今回報告するⅡ群b類土器の中では最も広いと考えられそのような特徴を幾つか備えている。原体の殆どはRの撚糸で、本文中でも撚りがRの場合には特に記載していない。

内面に研磨が施されるのは207~212・215~218・221~223・227~229・231・232・241・249・252・254~256・258・264・266・270、胎土中に海綿骨針が混入するものは216・218・235・241・245・246・263・265である

a. 通常の撚糸文 (207~270)

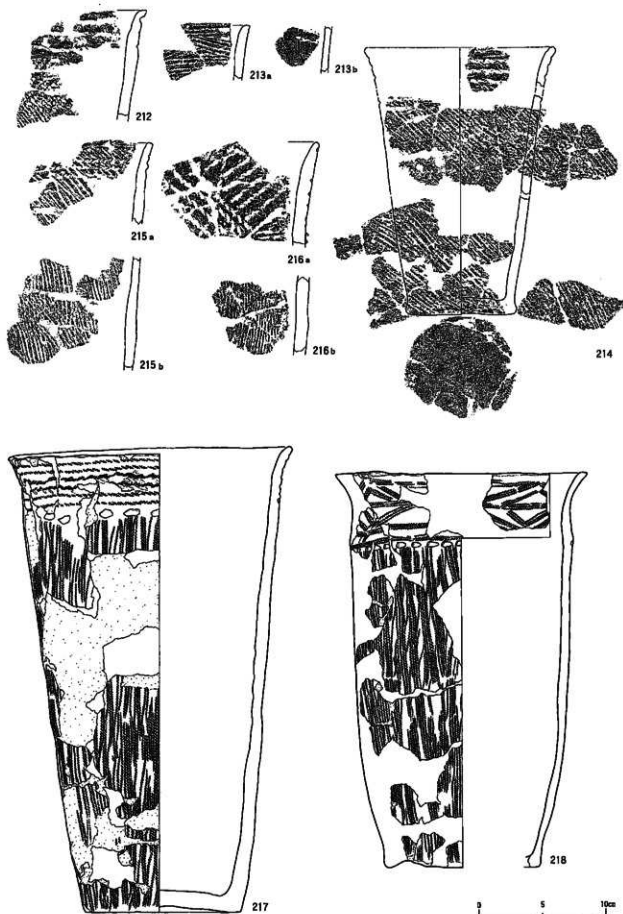
1) 綾格文の施されるもの (207~210・217・222)

207は綾格文の下位の器面にRLの縄線文と指頭状の施文具で刻みが施された貼付を持つ土器で、胴部下半は再焼成による赤化が、内面には炭化物の付着が認められる。208は口縁部文様帯一面に不整の綾格文が施される平縁の口縁部である。209は指頭状の施文具で刻みが施された貼付を持つ胴部で、その下位の器面にはLRの撚り戻しの縄文も施文されている。210はLRの縄線文も施された山形突起を有する口縁部で、表面には炭化物の付着が認められる。217は口縁部文様帯に綾格文とL

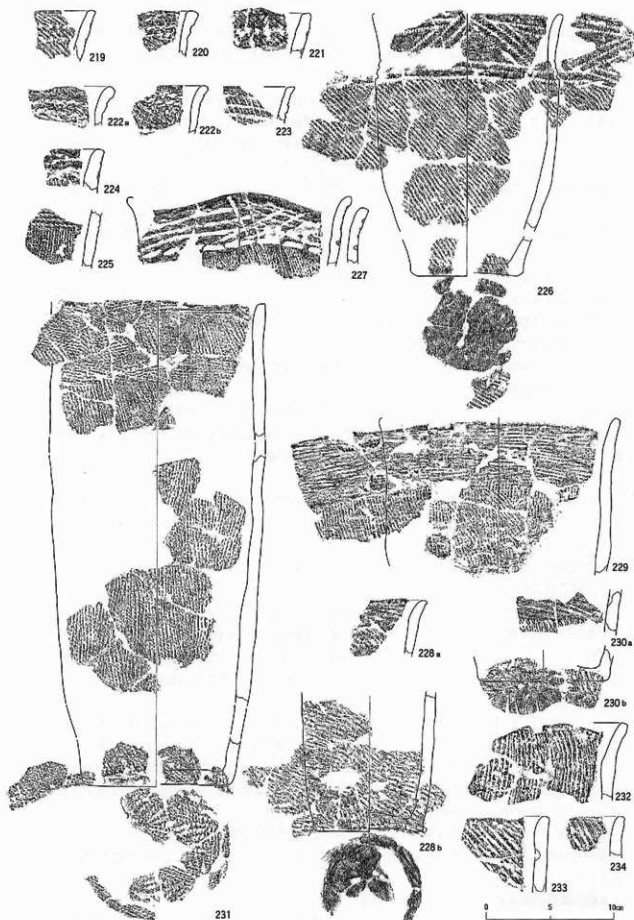


図V-13 包含層出土のⅡ群b類土器(1)

V 包含層出土の遺物



図V-14 包含層出土のⅡ群b類土器(1)



図V-15 包含層出土のⅡ群b類土器(3)

Rの縄線文が施された平縁で上げ底の大型土器である。文様帯と地紋との境には棒状の施文具による刺突文が施されている。222 a・bは地紋の上から綾格文を施している口縁部である。

2) 縄線文の施されるもの (212・214~216・219~221・224・225)

212・216 aは無地の器面にL Rの縄線文を施した口縁部で、212の地紋の一部にはL Rの斜行縄文も施されている。214・215・219~225は地紋の上から縄線文を施したものである。214の底部は下端がやや張り出している。219と221の縄線文は綾格文の押捺の可能性もある。

3) 細い撚糸の束の押捺の施されるもの (213・218・223)

213 aは細いRの撚糸で鋸歯状に構成される文様帯を有した口縁部である。218はRの撚糸2本の間にLの撚糸を入れて束にしたものを押捺した鋸歯状構成の文様帯を有する平縁の土器である。文様帯と胴部地紋との間には半載竹管状の施文具で横位の刺突文を巡らせている。器壁は薄く胎土中の繊維の量も少ない。223は地紋の上から撚糸文とL Rの縄線文を施した口縁部である。

4) 絡条体圧痕文の施されるもの (226・227)

226・227は無地の器面に絡条体圧痕文を施した文様帯を有するものである。226は平縁、227は山形突起を有し、文様帯と地紋との間には半載竹管状の施文具で横位の刺突文を巡らせている。

5) 貝殻条痕が施されるもの (228~230)

228~230は口縁部に貝殻を使ったと考えられる横位の条痕文が施される土器である。

6) 地紋だけが施されるもの (211・231~247)

211 a・bは山形突起を有するもの、231は口縁部で地紋の施文方向を変化させた平縁の土器で底面には同じ地紋とL Rの縄文が施されている。240は口唇部にも地紋が施されている。241 a・bは特に細く密な撚糸文が全面に施された土器で、底面にはL Rの縄文が施されている。

7) 胴部 (248~257)

248・249は貼付のある胴部で、貼付の上の刻みは248が指頭状の施文具によるもの、249がL Rの縄文を使ったものである。

8) 底部 (258~270)

262の器面には地紋の上に条痕のようなものが見られる。

b. 網目状の撚糸文など (271~294)

271~274・282は地紋に網目状撚糸文が施されるものである。271はL Rの斜行縄文の上に同じ撚りの原体を使った縄線文5条を施した文様帯を平縁の口縁部に持つ土器である。272は器面の上端に刻みの施された貼付が見られるもので、刻みの施文具はわからない。273は口縁部文様帯にL Rの縄線文が施されるものである。274 a・bは山形突起を有する口縁部で器面には貼付も施されている。これも刻みの施文具は不明である。

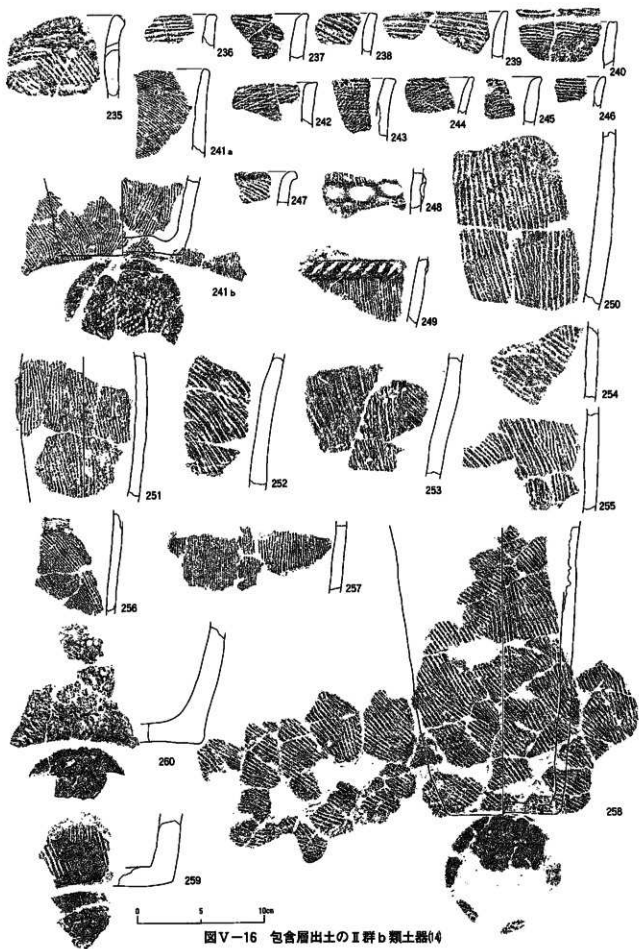
275~280は結び目を有する撚糸文が施されたものである。275・277は口縁部に無文帯を持つもので、275は低い山形突起を有し無文帯の下位の器面には半載竹管状の施文具で横位の刺突文が巡らされている。278 a・bは口縁部近くの器面にL Rの縄線文と縄文が施される胴部である。279は貼付の上下段の器面にL Rの縄線文が施される胴部で、貼付の上には切り出し状の施文のような施文具による刻みが入る。280の地紋は多軸絡条体の可能性もある。

281は細いRの撚糸で整った木目状のような撚糸文が施された胴部である。

283~294は底部である。大半のものが僅かに上げ底を呈しているようだ。294は地紋が底面にも施文されている

⑨多軸絡条体の施されているもの (295~299)

このタイプも数量が少ない土器群である。内面が研磨されているものは295、胎土に海綿骨針が混

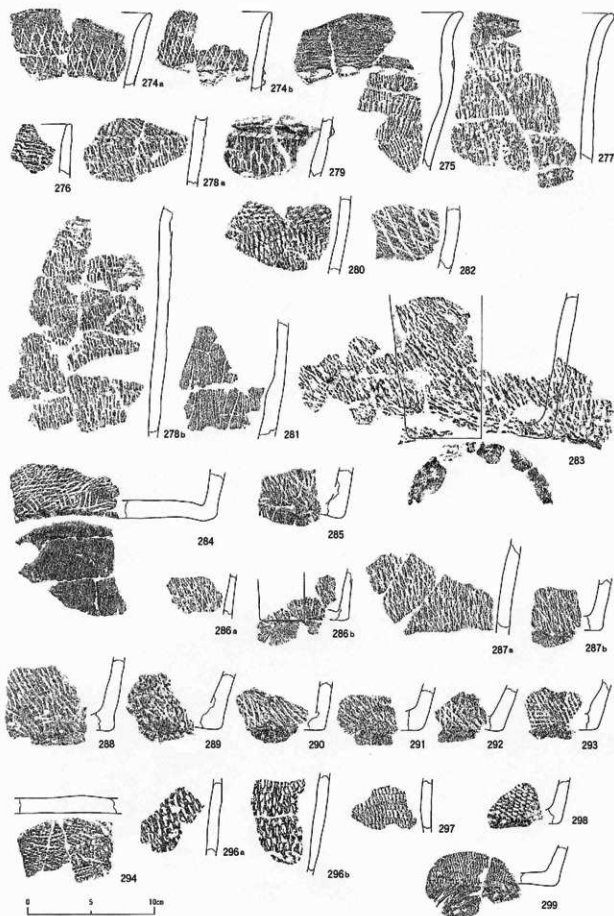


図V-16 包含層出土のⅡ群b類土器(4)

V 包含層出土の遺物



図V-17 包含層出土のⅡ群b類土器(5)

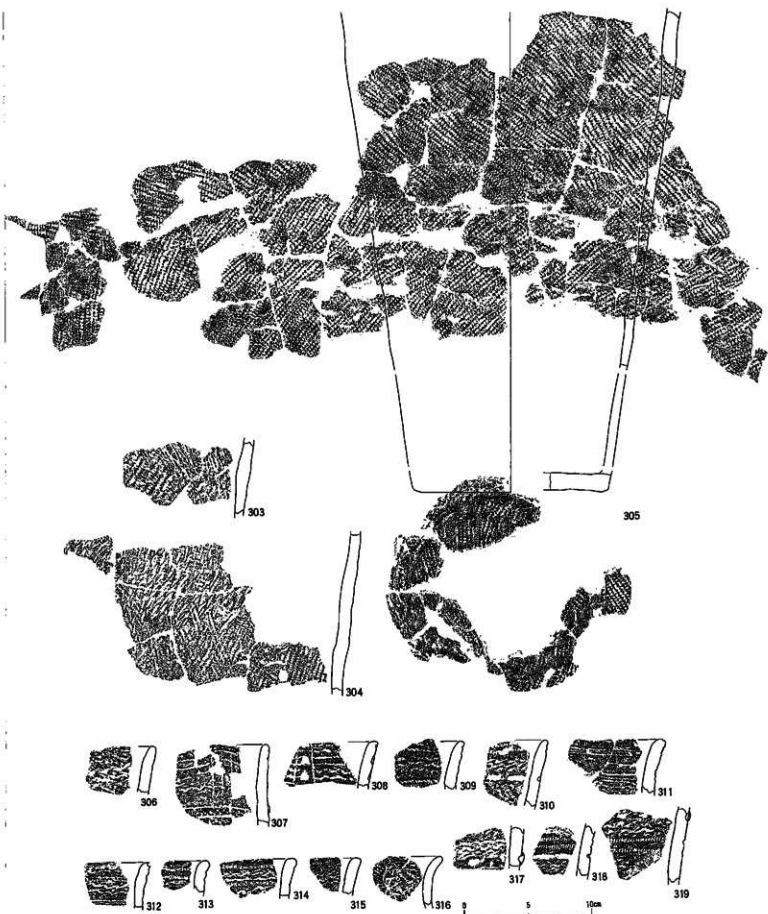


図V-18 包含層出土のⅡ群b類土器(6)

V 包含層出土の遺物

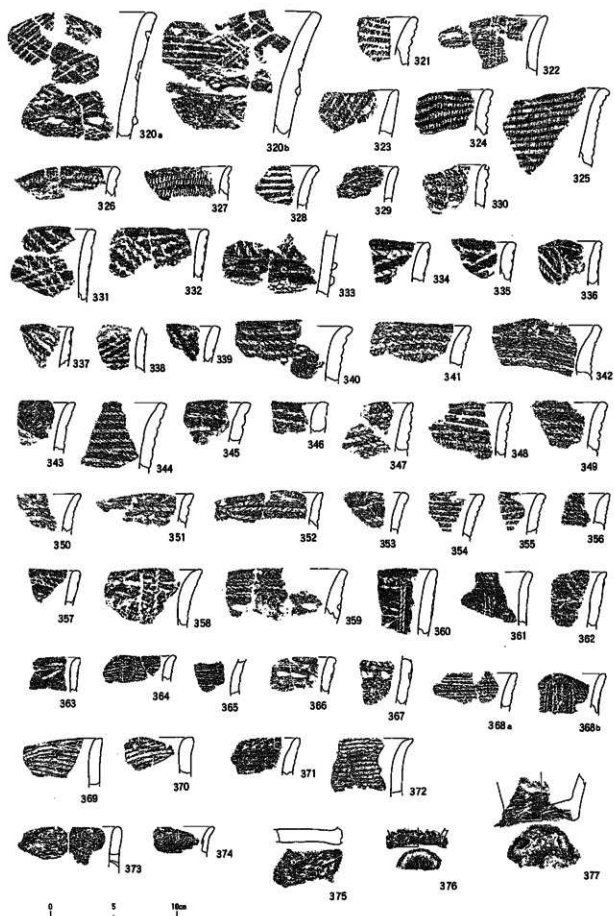


図V-19 包含層出土のⅡ群b類土器(7)



図V-20 包含層出土のⅡ群b類土器(4)

V 包含層出土の遺物



図V-21 包含層出土のⅡ群b類土器(49)

入するものも見られない。295～299は全て胴部から底部にかけてのものである。297の表面には赤色顔料のようなものが付着している。

⑨痕数の地紋が用いられているもの (300～305)。

これも数量的には少ないタイプであるが、ある程度の大きさがなく判明しないこともあって不明な点も多い。特徴として挙げられるのは縄文系の文様と燃糸文系の文様との組み合わせが多い点である。内面に研磨が施されているのは300・302～305、胎土に海綿骨針が含まれているのが300・303である。

300は口縁部まで揃った唯一の個体である。緩やかな山形突起を有し底部は上げ底である。文様帯にはL Rの縄線文とRの綾絡文とが交互に施文されている。地紋は上半部にL Rの斜行縄文下半部に細かいR L Rの三段複節が施されている。301の地紋は上半部にL Rの斜行縄文、下半部にRの密な燃糸文である。302 a・bは上半部にR Lの斜行縄文あるいはR L Rの三段複節、下半部にRの密な燃糸文が施されている。303はL Rの斜行縄文とRの燃糸文が施された胴部である。304も胴部で、器面の上位にL L Rの撚り戻し、下位にL Rの斜行縄文が施され、更にその上から縦位の条痕が施されている。305は大型土器の胴上半部にR Lの斜行縄文、下半部と底面にL Rの斜行縄文が施されている。

⑩その他の口縁部 (306～374)

無文の器面に施文を行った文様帯を有する口縁部である。大半の内面に研磨が施されており、胎土に海綿骨針が混入するのは341だけである。

a. 綾絡文の施されるもの (306～319)

307・317・319は厚みのない貼付を有するものである。貼付上には307が縄文、317が棒状の施文具による刺突、319は指頭状の施文具による刻みなどが施されている。307・308・311・312は細い燃糸の束の押捺、309は縄線文、310・313～315・318・319は絡条体圧痕文との組み合わせられている。更に、308は半截竹管状の施文具による縦方向の刺突列が施されている。310・318は文様帯と胴部地紋との境に棒状の施文具による刺突列が施されている。

b. 絡条体圧痕文の施されるもの (320～330)

320～325は山形突起を有したもので、320 a・bの文様帯と胴部の地紋との境には棒状の施文具による刺突列が施されている。

c. 縄線文の施されるもの (331～360)

343がR Lである以外は全てL Rの縄線文が使われている。333は二本の貼付の間に棒状の施文具による刺突列が施されるものである。

d. 燃糸の束の押捺が施されるもの (361～368)

366と367の器面には棒状の施文具による刺突列が施されている。

e. 貝殻条痕が施されているもの (369～372)

f. 無文のもの (373・374)

⑪その他の底部 (375～377)

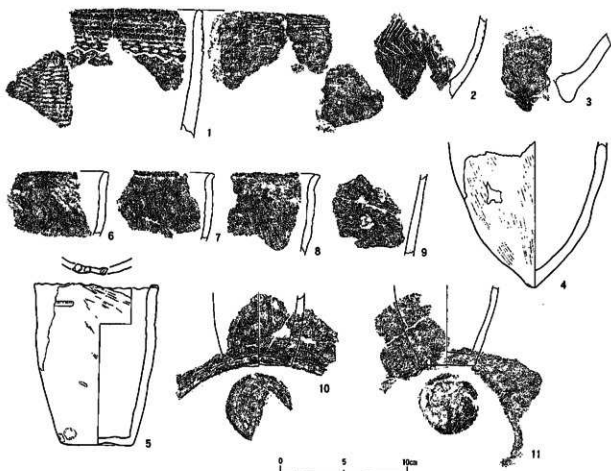
376・377は無文の小型土器の底部である。

(2)縄文時代早期の土器

I群 a 類土器 (図V-22-1～11、図版140、表V-2・7)

器形は尖底と考えられるもの4点(1～4)、平底のもの3点(5・10・11)で、器形が不明なものも4点(6～9)あるが、これらも総じて平底と推定される。全て小型の器形のものである。どちらの器形も、特

V 包含層出土の遺物



図V-22 包含層出土のⅠ群a類土器

Ⅲ群a類

Ⅲ群b類



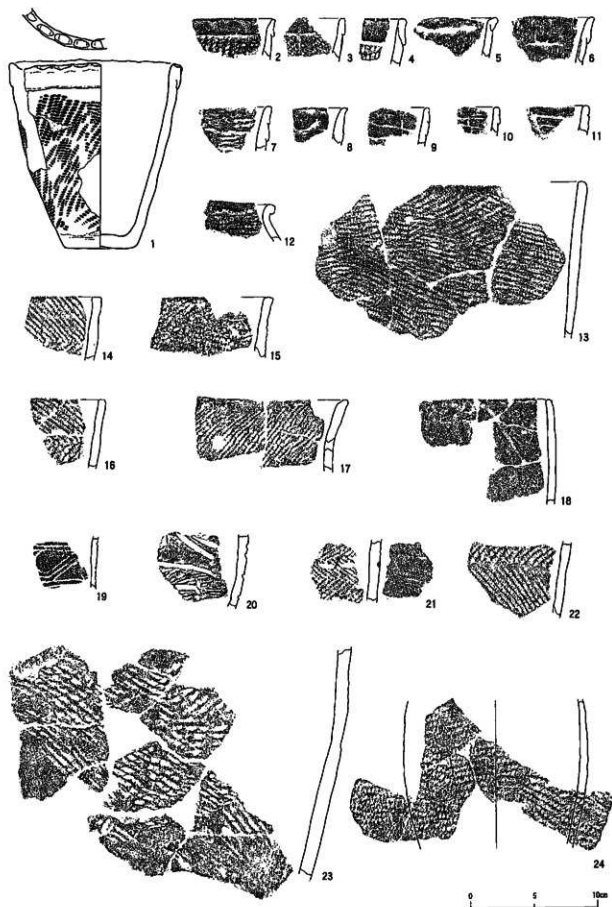
図V-23 包含層出土のⅢ群a類・Ⅲ群b類土器

に特徴的な出土状況のものは見られないものの、比較的E地区の東側で出土する傾向がある(図V-1)。尖底あるいは尖底と考えられるもの(1~4)

平縁で器面に貝殻文を有する土器である。口唇と口縁部の上端には小型のサルボウあるいはハイガイのような貝殻を用いた所謂「貝殻腹縁文」、その下位に細い棒状の工具によると思われる刺突列、更にその下位に鋸歯状の沈線文が施されている。器面と内面には同上の貝殻を用いたと考えられる横位の条痕文が施されている。2は底部付近で器面には細い沈線で羽状に構成される文様が施されている。3は突起の顕著な尖底部を有した無文の底部である。4も突起のある尖底で、器面には部分的に不鮮明な条痕が認められる。

平底あるいは平底と考えられるもの(5~11)

基本的に全て小型で無文の土器である。5は断面が角の丸い角形を呈する口唇部に指頭状の施文具



図V-24 包含層出土のⅡ群a類土器(1)

で刻みの入るものである。器面には不明瞭な条痕状のものが認められ、口縁部の器面の一部には横位の沈線文のように見える部分もあるが、これが施文であるかは不明である。6～8は口縁部が外に向かって開き気味の口縁部で、口唇断面は角の丸い角形を呈している。6の器面には比較的明瞭な条痕が認められる。7・8は6と比較して口縁が外に開く度合いが強く、どちらの器面にも不明瞭な条痕が認められる。9は器面に横位の不明瞭な条痕が見られる胴部、10・11は底部である。

(3)縄文時代中期の土器

Ⅱ群a類土器（図V-23-1・2、図版140、表V-3）

1は器面に粘土紐を貼付した口縁近くの破片である。地紋はR L Rの三段複節と思われ、胎土には繊維と砂粒が混入する。2はL Rの斜行縄文が施された底部である。これも胎土に繊維を含んでいる。「円筒上層式土器」に相当すると考えて本類としたが、Ⅱ群b類土器の可能性もある。

Ⅱ群b類土器（図V-23-1・2、図版140、表V-4）

1・2は胴部で、1は多条の縄文、2にはL Rの斜行縄文と思われるものが施文されている。

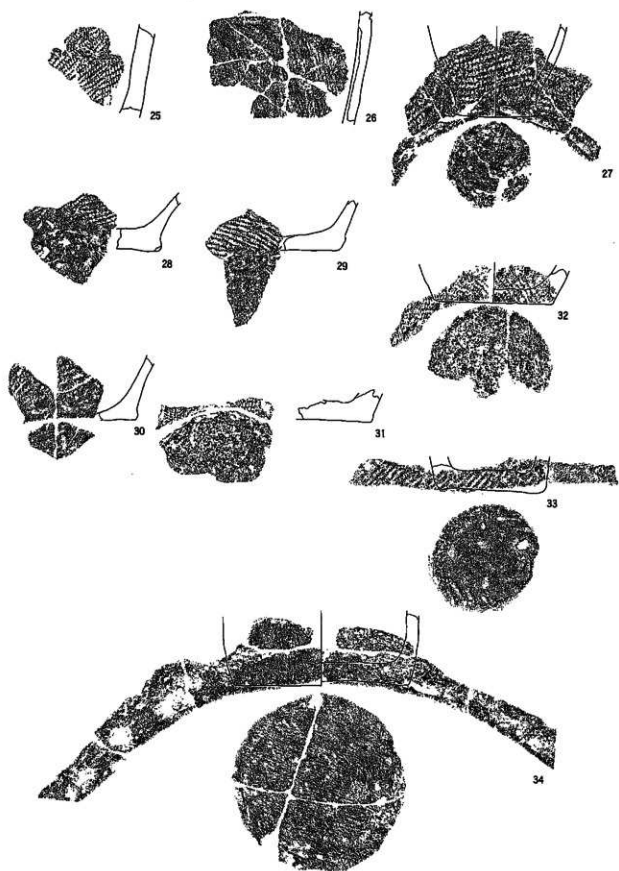
(4)縄時代後期の土器

Ⅳ群a類土器（図V-24-26-1～36、図版141・142、表V-5・7）

1～6は口縁部に折り返しの肥厚帯を有するものである。1は小型の深鉢で、断面が角形の口唇部には指頭状の施文具による刻みが施され、器面と底面にはL Rの斜行縄文が施されている。肥厚帯の器面は無文であるが、吹きこぼれの炭化物が厚く付着している。2～6は口縁部で、地紋は2がR L Rの三段複節、3～5がL Rの斜行縄文、6は無文である。7～10は製作時に粘土の輪積み部分を装飾的に器面に残したと考えられる土器の口縁部である。7は部分的にRの一段無節の縄文が施されており、それ以外は無文である。

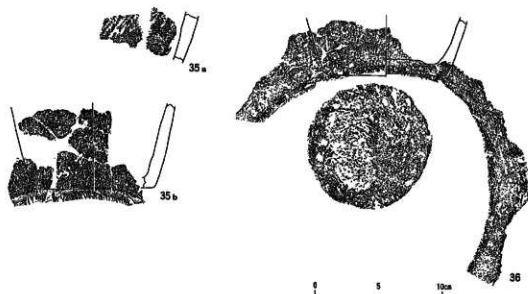
11は口唇に沿って深い沈線と浅い沈線とが施される口縁部である。12は口唇の反り返った瓶の口縁部である。器面にはL Rの斜行縄文が施されている。13はL Rの斜行縄文が全面に施された口縁部と考えられる破片である。口縁部近くでは縄文が鋸歯状になるよう意図的に施文方向を変化させたものと考えられ、胎土中には砂粒が多く混入されている。14・16は多条の原体を用いた結束羽状縄文が施される口縁部である。15・17はL Rの斜行縄文が施される口縁部で、17には補修孔が1カ所穿たれている。18は無文の口縁部である。19・20は沈線文の施された胴部である。19は器壁の薄いもので器面の表裏に赤色顔料が塗布されている。21・22は異なる燃りの多条の原体で羽状縄文を施した胴部である。21は器面に棒状の施文具による横長の連続刺突文が施され、内面には細かい条痕のような文様が認められる。23は燃りの緩い太めの原体でL Rの斜行縄文が施されている大型土器の胴部である。内面には施状の道具を使った調整痕が認められる。24もL Rの縄文が施される器壁の薄い胴部であるが、縄文の条が横位になる方向で施文されている。25は器壁の厚い胴部で、器面にはL Rの斜行縄文が施されている。胎土中には繊維も多く含まれており、器面には無数の細かい孔が見られる。26は器面の大半が無文となる胴部で、器面の上部端には横位の沈線文も施されている。

27～36は底部である。27・28・30の下端は張り出しており、30の下端には刻みも施されている。地紋は27・29がR L、28・30・31・35がL Rの各斜行縄文、32がR L Rの三段複節、33がL Rの多条を用いた縄文が施されている。34と36は無文である。35 a・bは胎土に若干の繊維を含み、地紋もR R Lの燃り戻しである可能性があることから、当分類ではなくⅡ群b類土器に含まれるかもしれない。25と31は同一個体の胴部と底部の可能性が高い。

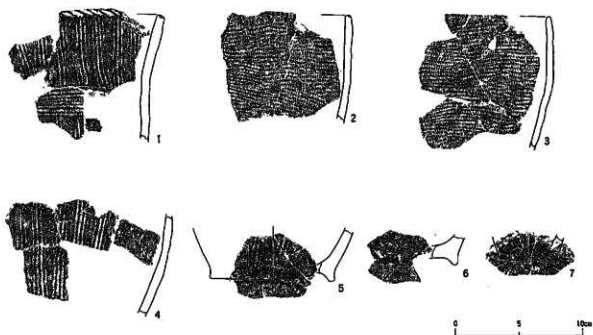


図V-25 包含層出土のM群a類土器(2)

V 包含層出土の遺物



図V-26 包含層出土のV群a類土器(3)



図V-27 包含層出土のVI群土器

(5) 縄文時代の土器

VI群土器 (図V-27-1~7、図版142、表V-6)

1は口唇部に棒状の施文具を使った斜めの刻みが施され、器面に縄状縄文が施される口縁部である。2・3はLRの原体を使って糸が横位になる方向で施文した口縁部である。どちらも器壁が薄く、同一個体のようにみえるが、2の口唇部には縄と思われるもので刻みが施されている。4は縄状縄文の施される胴部である。5~7は底部である。5・6は上げ底になるもので、5の器面には縄状縄文が認められる。7は小型の土器の底部で、VI群a類土器の可能性はある。(皆川)

2 石器等

本年度の調査により包含層から出土した石器、礫・礫片、石製品、土製品の総数は101,524点である。剥片石器群では石鏃、石槍またはナイフ、石錐、つまみ付きナイフ、スクレイパー、両面調整石器、石核、原石、Rフレイク、Uフレイク、フレイクが出土した。くさび形石器は包含層では出土していない。磨製石器群では石斧、擦り切り残片、石のみが出土した。研磨石材は包含層では出土していない。礫石器群ではたたき石、すり石、半円状扁平打製石器、北海道式石冠、石鋸、台石・石皿、石錘、擦り切り痕のある礫、加工痕のある礫、礫・礫片、軽石が出土した。

器種ごとの点数分布は図V-57~70に示した。E地区ではほぼ全域から出土しているが、その他の地区ではほとんど出土していない。大まかには、調査区で最も標高の高い場所に位置する住居様遺構からH-4~7・17周辺にかけての平坦部は少なく、その外側の南北両緩斜面および20~30ラインにかけての平坦部に多く分布する傾向がある。H-1・3・15周辺はH-4~7・17周辺と比べて多くの遺物が分布し、居住域であるとともに廃棄場所でもあったことを伺わせる。器種ごとの分布の特徴についてはそれぞれの項目で記述する。

石器群毎の内訳は剥片石器群84,268点、磨製石器群81点、礫石器群16,756点、土製品など419点である。包含層に占める器種毎の割合はフレイク81.1%、礫・礫片15.2%で、両者が96.3%を占める。フレイクを除く剥片石器群の合計は1,937点で、スクレイパー24.5%、石核23.4%、Uフレイク23.4%、石鏃7.3%、頁岩原石6.7%、つまみ付きナイフ5.6%、両面調整石器3.8%、Rフレイク2.6%、石槍・ナイフ1.7%、石錐0.9%と続く。磨製石器群では石斧が76.5%を占める。礫・礫片を除く礫石器群の合計は1,286点でたたき石36.9%、台石・石皿19.4%、半円状扁平打製石器18.3%、砥石9.8%、北海道式石冠8.8%、石鋸4.0%、すり石1.6%、加工痕のある礫0.5%、石錘・すり切り痕のある礫0.4%と続く。

包含層と遺構からの出土点数は磨製石器群・礫石器群ではほぼ同数なのに対し、剥片石器群では包含層出土点数が遺構出土点数の3倍近くを占め、遺構との関連性が相対的に低いと言える。また、それぞれの器種毎での包含層からと遺構内からの出土比率はほぼ同じものが多い。一方で、出土比率に2倍近い差が生じているものが5器種ある。包含層出土比率が高い割合を示すものはつまみ付きナイフ、半円状扁平打製石器で、逆に遺構内が高いものが両面調整石器、砥石、台石・石皿である。廃棄行為との関連も考慮に入れる必要があるが、前者は主に屋外、後者は屋内作業に関連すると推測される。なかでも半円状扁平打製石器は包含層出土比率が18.3%に対して遺構出土比率が3.5%と大きな開きがある。

剥片石器群の石材は頁岩がほとんどを占め、黒曜石、めのう質頁岩、めのうがわずかにある。黒曜石の産地同定の結果については第VI章4で報告されており、同定した4点の内、赤井川産2点、豊浦町豊泉産2点であった。それ以外については肉眼観察を行った結果、赤井川産がほとんどを占め、豊泉産が少数であった。また、両者とは異なり透明性が高く球果が見られない、おそらく白滝産かと推測されるものが2点あった。磨製石器群では緑色泥岩が多く、粘板岩が少数あった。礫石器群では安山岩が多く、凝灰岩、流紋岩が続き、砂岩、珪岩がわずかにある。

【剥片石器群】

石鏃 (図V-28-1~35、表V-8、図版143)

142点が出土し、このうち35点を図示した。剥片石器群では4番目に高い出土比率である。出土点

V 包含層出土の遺物

数の分布は図V-57に示した。H-15区とR-25区を結ぶ緩斜面に多く分布し、次いで住居様遺構の南斜面が多い。

1~29は無茎鏃である。1・2は薄身で柳葉形のもの(IA2a)、3・4は五角形に近いもの(IA2b)である。1・3・4は一次剥離面を残す。5~22は木葉形のもの(IA4)で5~13が円基、14~22が尖基に近いものである。柳葉形のものとの形態差は漸移的で明確に分別し難いが、木葉形のは調整が粗く若干厚手の傾向がある。6・9・11・20は一次剥離面を残す。9・10・22は尖頭部に近い側縁が内湾気味のもの。23~29は菱形に近いもの(IA4)。23・24・26・27は一次剥離面を残す。

30~35は有茎鏃(IA5)で、30はかえしが不明瞭のもの、31~33は凸基、34・35は平基である。33は一次剥離面を残す。31は基部を、34は尖頭部を欠損する。

石材は4・7・34が黒曜石、32がめのう質頁岩で、その他は頁岩である。黒曜石は赤井川産と推測される。

石槍または両面加工のナイフ(図V-28・29-36~42、表V-8、図版143)

33点が出土し、この内7点を図示した。両面調整石器とは尖頭部の鋭利さ、調整の丁寧さで区別した。出土点数の分布は図V-57に示した。調査区全域から散点的に出土している。

36は凸基有茎のもの(IB1)。37~42は無茎のもの(IB2)で37は平基、38~41は尖基、42は円基である。38は尖頭部を欠損する。42はO-19-a区のⅢ層を20cmほど掘り下げた際に、114のスクレイパーと重なるように出土したものの(図V-29、図版52-10)である。背面に節理面を残し、厚手で刃部の側面観は鋸歯状である。そのため、未成品の可能性はある。石材は全て頁岩である。

石鏃(図V-29-43~51、表V-8、図版143)

17点が出土し、この内8点を図示した。出土点数の分布は図V-58に示した。主に調査区の北側斜面から散点的に出土している。

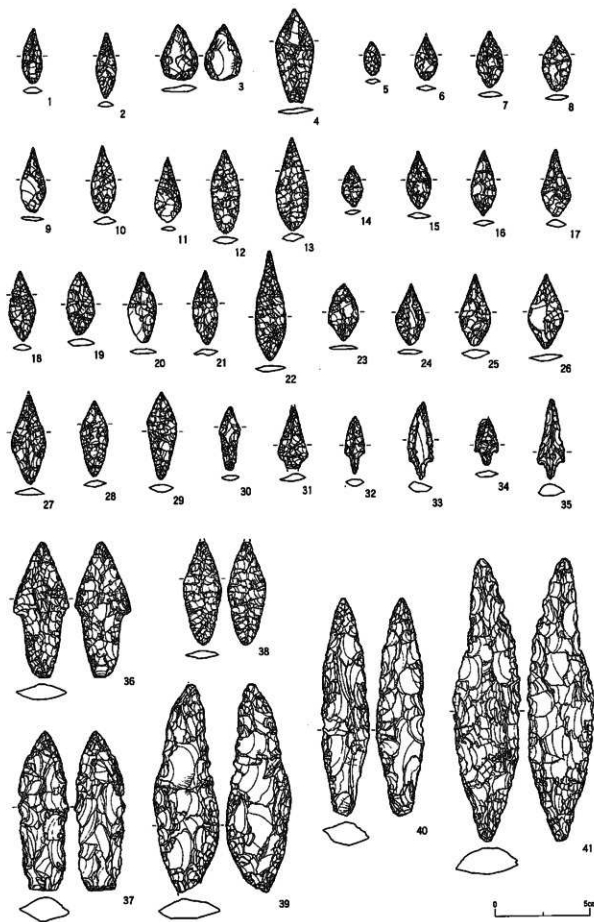
43~46は剥片に刺突部を作り出したもの(II1)。44はつまみ付きナイフ、45はスクレイパーの欠損品を再利用したもの。46~48・50はつまみ部のあるもの。49を除いて機能部には回転使用によるものと思われる擦痕、摩滅が見られる。43・49・50の背面には節理面が見られる。50の腹面右側縁は加工が施されている。51は棒状のもの(II2)で、機能部先端は摩滅が著しい。石材は全て頁岩である。

つまみ付きナイフ(図V-30~32-52~83、表V-8、図版144)

108点が出土し、この内32点を図示した。出土点数の分布は図V-58に示した。住居様遺構の周辺と25~30ライン間の平坦部、北側斜面を中心に出土している。フレイクを除く剥片石器群での出土比率は包含層5.6%、遺構2.7%で相対的に包含層に強い関連性を示す。

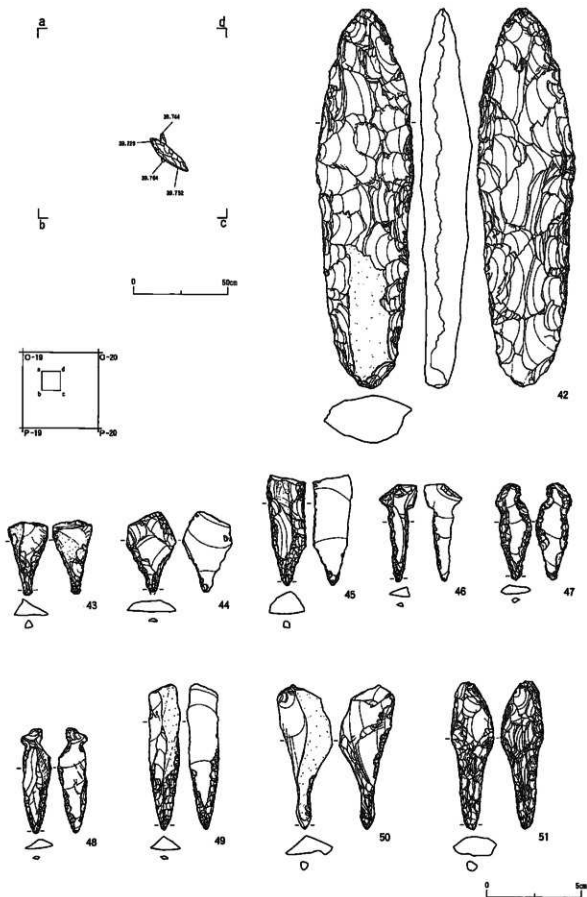
52・53は片面加工で、表面の側縁に表面調整の打点があるもの(ⅢA1a)。52はつまみ部を欠損する。54~56は片面のみの加工のもの(ⅢA1b)。54は焼成を受けている。55はつまみ部端部に礫表皮面を残す。56は斜形に近いもの。57~69は片面の周縁を加工したもの(ⅢA1c)。この内、57~64は身部が周縁加工のもの、65~67は両側縁加工であるが一側縁は一部のみが加工されたもの、68・69は一側縁のみの加工のものである。59はつまみ部の端部に礫表皮面を残す。

70~77は両面加工のもの(ⅢA2)。70~73は小型で粗雑な加工のもので、黒曜石・珪質頁岩などの光沢のある石材を用いている。木古内町釜谷遺跡で出土した、「ミニチュア石匙」と称されるもの

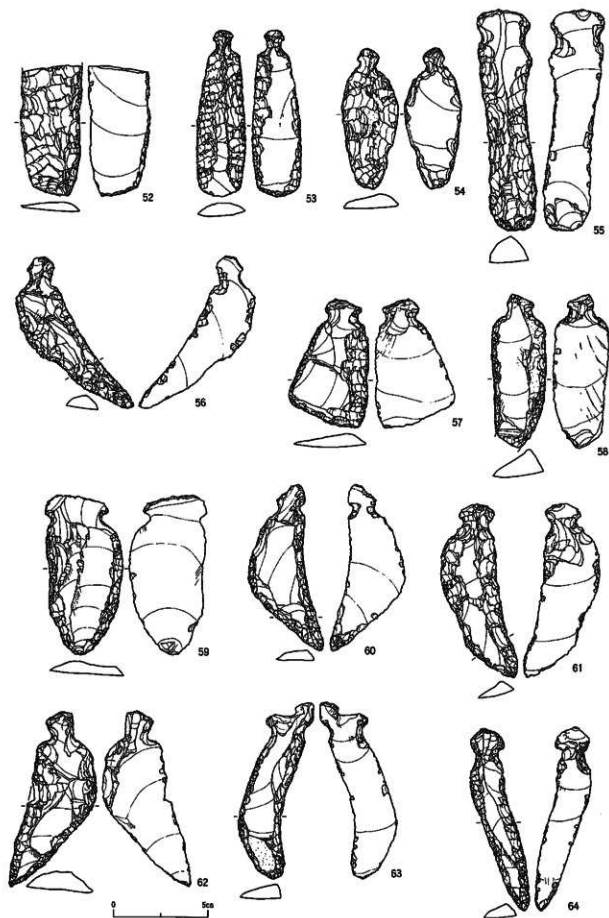


図V-28 包含層出土の石器(1)石鏃、石槍またはナイフ

V 包含層出土の遺物

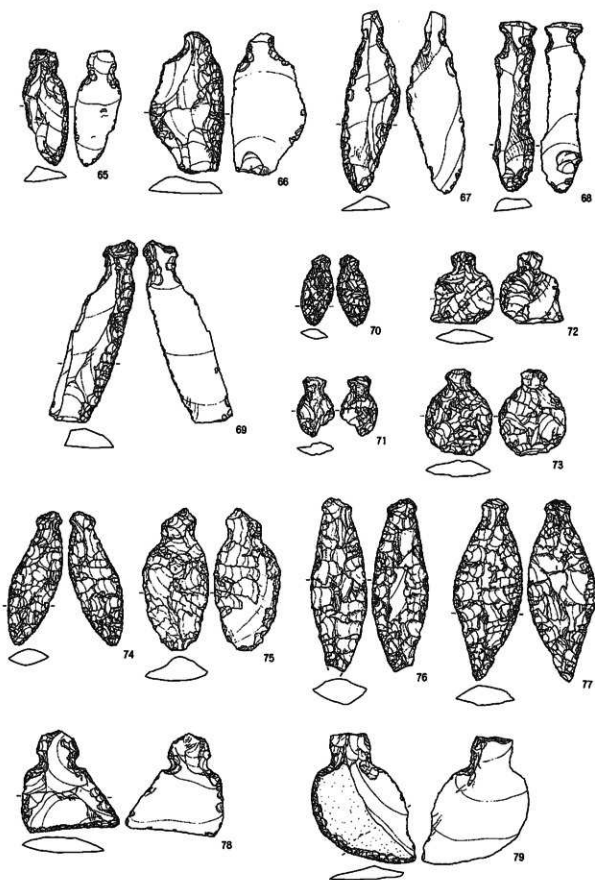


図V-29 包含層出土の石器(2)石槍またはナイフ、石鏃

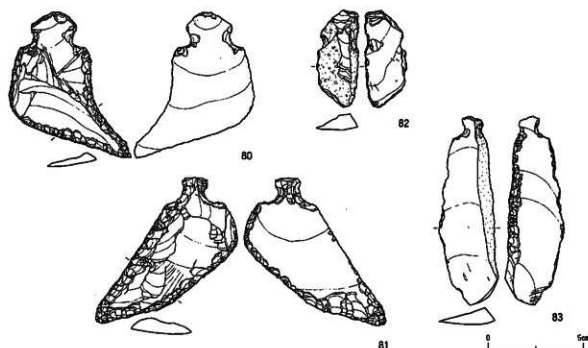


図V-30 包含層出土の石器(3)つまみ付きナイフ

V 包含層出土の遺物



図V-31 包含層出土の石器(4)つまみ付きナイフ



図V-32 包含層出土の石器(5)つまみ付きナイフ

(木元1999)に類似する。76は身部の先端を欠損している。つまみ部の挟りは顕著ではなく柄のある石槍の可能性もある。

78～81は横形もしくは横形に近い斜形のもの(ⅢA3)。79は側縁加工で背面に節理面が見られる。他は周縁加工である。つまみ部が他と比べて大きいことが特徴である。

82・83は素材の形状を大きく変えないもの(ⅢA4)。82は未完成品と推測される。83は背面に礫表皮面を残し、縦長剥片の側縁に刃部を作出したもの。

石材は54・70～72・75・82が黒曜石である。この内、原産地同定を行ったものは3点で、54は赤井川産、72・82は豊泉産であった(第Ⅵ章4参照)。残りは肉眼観察によると、70・71は豊泉産、75は赤井川産である。73はめのうで、その他は頁岩である。

スクレイパー(図V-33～37-84～148、表V-8、図版145～147)

475点が出土し、この内65点を図示した。剥片石器群では24.5%と最も高い出土比率を占める。ほとんどが片面加工で、両面もしくは半両面加工のものが少数ある。出土点数の分布は図V-58に示した。調査区のほぼ全域にわたって出土している。住居様式とその周辺、及び20～30ライン間の平坦部、北側斜面が比較的多い。

84～86は石筥と称されるもの・寛状石器で、84は片面加工のもの(ⅢB1a)であるが、刃部のみ両面加工である。85・86は両面加工のもの(ⅢB1b)でいずれも節理面が見える。

87～118は縦長剥片を用いたもので、87～100は刃部が外湾するもの(ⅢB2a)、101～114は刃部が直線状のもの(ⅢB2b)、115～118は刃部が内湾するもの(ⅢB2c)。この内、87・97・99・117は半両面加工である。両側縁に刃部を作出したものと、側縁のみのものがある。87・100・101・108・114・116は礫表皮面が残る、90・101・113・115・117は節理面が見える。114は42の石槍またはナイフと重なり、その下位から出土したもの(図V-29、図版52-10)。115はつまみ部を作出しようとした可能性のあるもの。118は背面に刃部が作出されたもの。

119～130は横長剥片を用いたもの(ⅢB3)。いずれも片面加工で主に下側縁に刃部が作出されている。119～124は刃部が外湾するもの、125～129は直線状のもの、130は内湾するものである。121・122は腹面に刃部のあるもの。128は背面に節理面が見える。

131・132はエンドスクレイパー(ⅢB5)。132は背面に礫表皮面が残る。133は縦長剥片の下側縁に刃部が作出されたもので、一般的なエンドスクレイパーとは異なるが、とりあえずここに分類した。

134～143は尖頭部のあるもの(ⅢB6)。両側縁に刃部を作出したものと、一側縁のみのものがある。135・143は腹面に刃部が作出されたもの。142は背面に礫表皮面が、135・136・139・141・143は背面に節理面が見える。

144・145は挟りこみのあるもの(ⅢB7)で、144の背面には節理面が見える。

146～148は素材となる剥片の形状をあまり変えず刃部を作出したもの(ⅢB8)。146・147は一側縁に刃部を作出したもの。148は両側縁に刃部を作出したもので尖頭部のあるもの。

石材はいずれも頁岩である。

両面調整石器(図V-37-149～151、表V-8、図版147)

両面が粗く加工されたもので、厚みがあり刃部の側面観は鋸歯状となる。尖頭部を持つものと持たないものがある。石槍またはナイフ・スクレイパーの未成品もしくは石核の可能性もあるが、使用痕と推測される微細な剝離が認められるものもあり、単独でツールとして機能する場合もあったと推測される。そのため、定形的な石器として分類した。

74点が出土し、この内3点を図示した。出土点数の分布は図V-58に示した。H-15区とR-20区を結ぶ範囲の外側平坦部・北側斜面を中心に出土している。剥片石器群での出土比率は包含層から3.8%、遺構から6.3%で、遺構と強い関連性を持つ。

149・150は円形のもの(Ⅳ1)。151は木葉形のもの(Ⅳ2)で、腹背面に節理面が見え、尖頭部のみを加工したもの。石材はいずれも頁岩である。

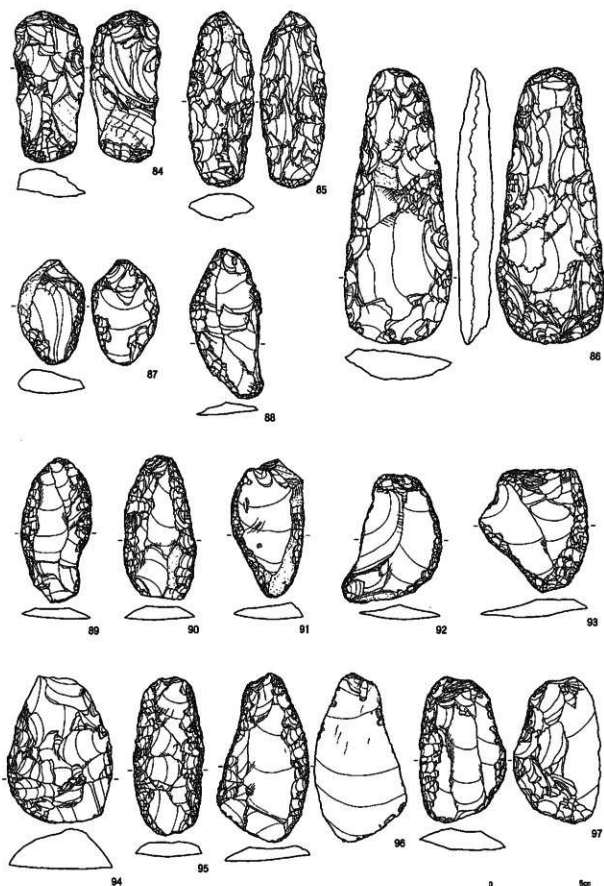
石核(図V-38-40-152～166、表V-8、図版147・148)

454点が出土した。この内15点を図示した。いずれも剥片剝離を行った後の残核と考えられる。剥片石器群では23.4%と2番目に高い出土比率を占める。出土点数の分布は図V-59に示した。調査区のはほぼ全域にわたって出土している。住居様遺構とその周辺、及び20～30ライン間の平坦部、北側・南側斜面が比較的多い。他の器種と比較して、南側斜面に多くまとまる傾向があることが特色である。フレイク(頁岩)の分布(図V-65・66)と重なり、主に南側斜面で石器製作を行っていたと推測される。

152～155は剥片剝離技術として打面と作業面を固定するもの。153～155は節理面を打点としており、礫打面的一种と考えられる。いずれも礫素材で礫表皮面を残し、推測される原石の大きさはソフトボール～バレーボール大である。154は河川などの転礫を用いている。155を除いて打面調整はあまり行われていない。

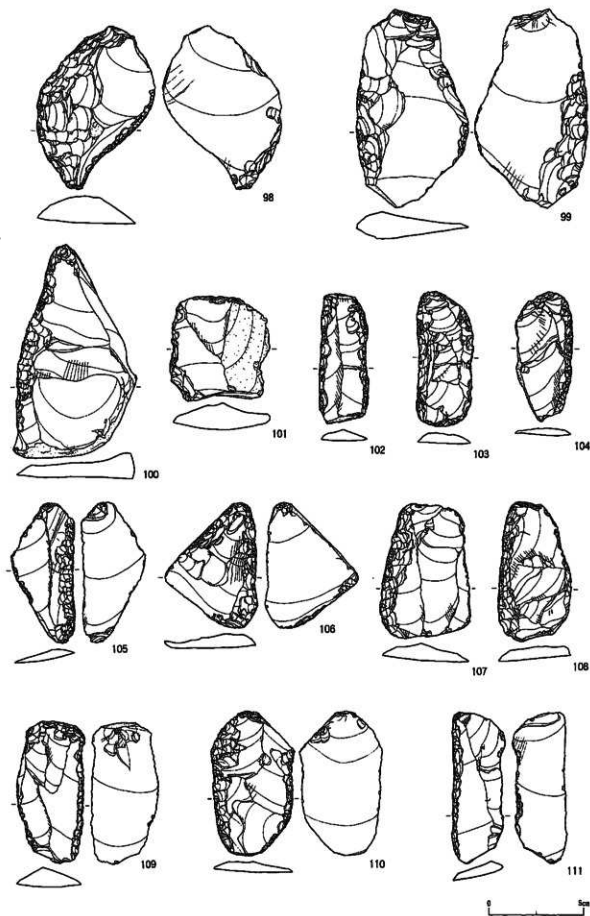
156～166は打面転移のあるもの。打面転移は少なくとも2回で、161・163・165・166は3回以上と推測される。いずれも節理面もしくは調整の乏しい平坦面を打面とする。158は礫表皮面を残す。打面転移の結果、礫表皮面を残すものは少なく、原石の大きさは推測できない。

石材はいずれも頁岩である。

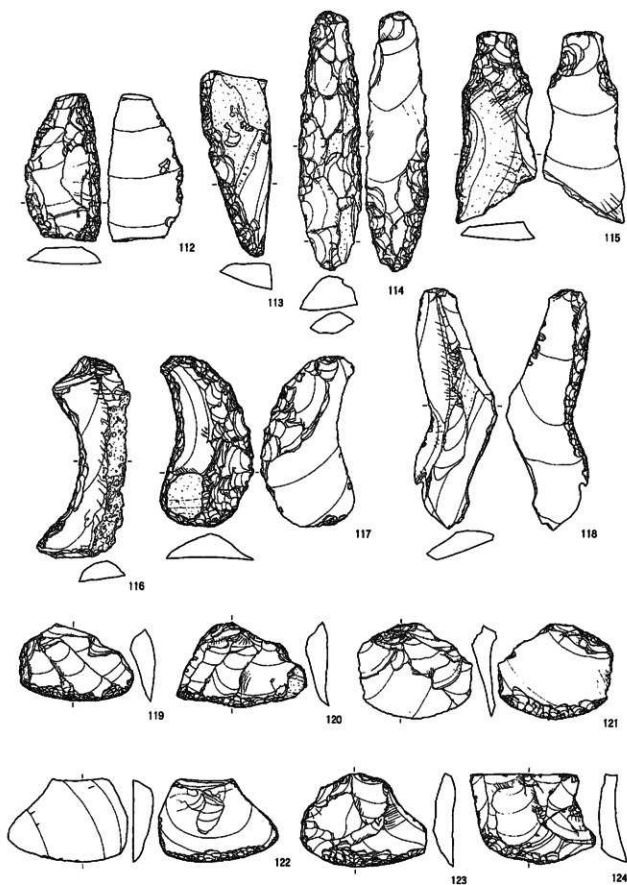


図V-33 包含層出土の石器(6)スクレイパー

V 包含層出土の遺物

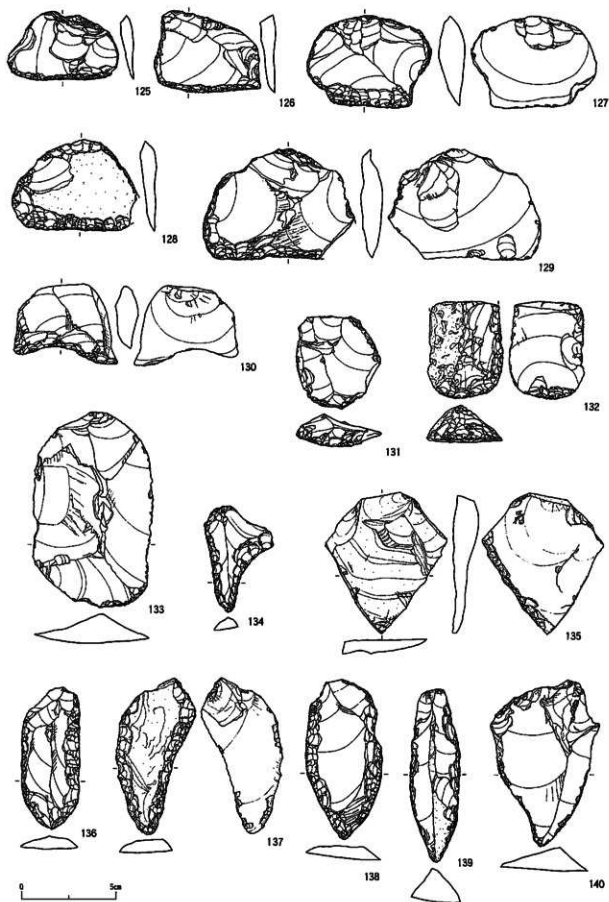


図V-34 包含層出土の石器(7)スクレイパー

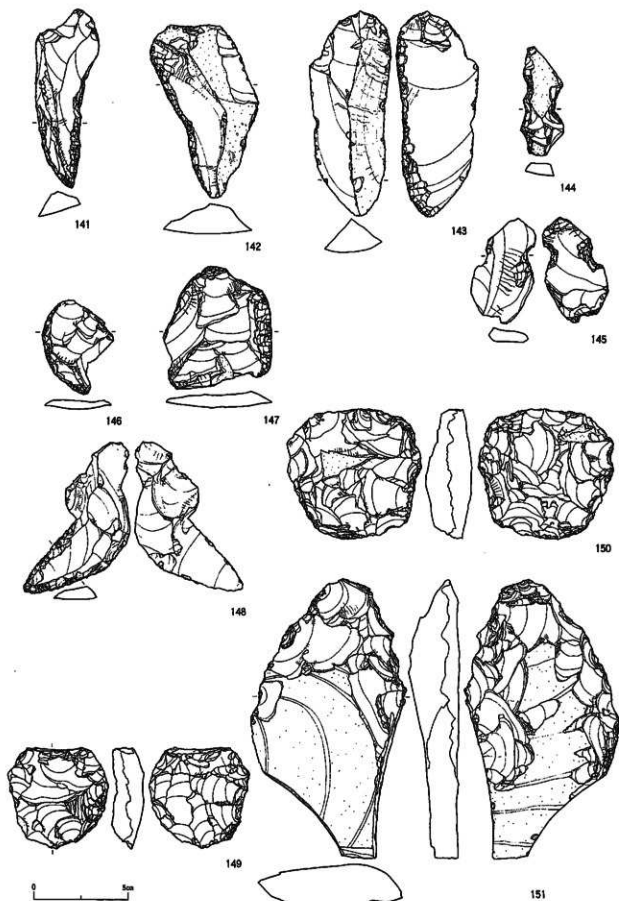


図V-35 包舎層出土の石器(8)スクレイパー

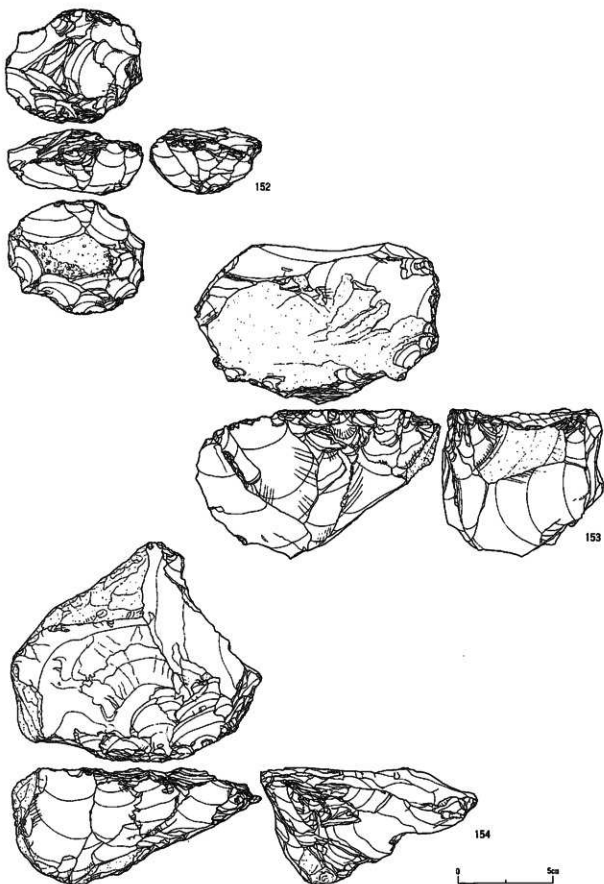
V 包含層出土の遺物



図V-36 包含層出土の石器(9)スクレイパー



図V-37 包含層出土の石器⑩スクレイパー、両面調製石器



図V-38 包含層出土の石鏃(1)石鏃

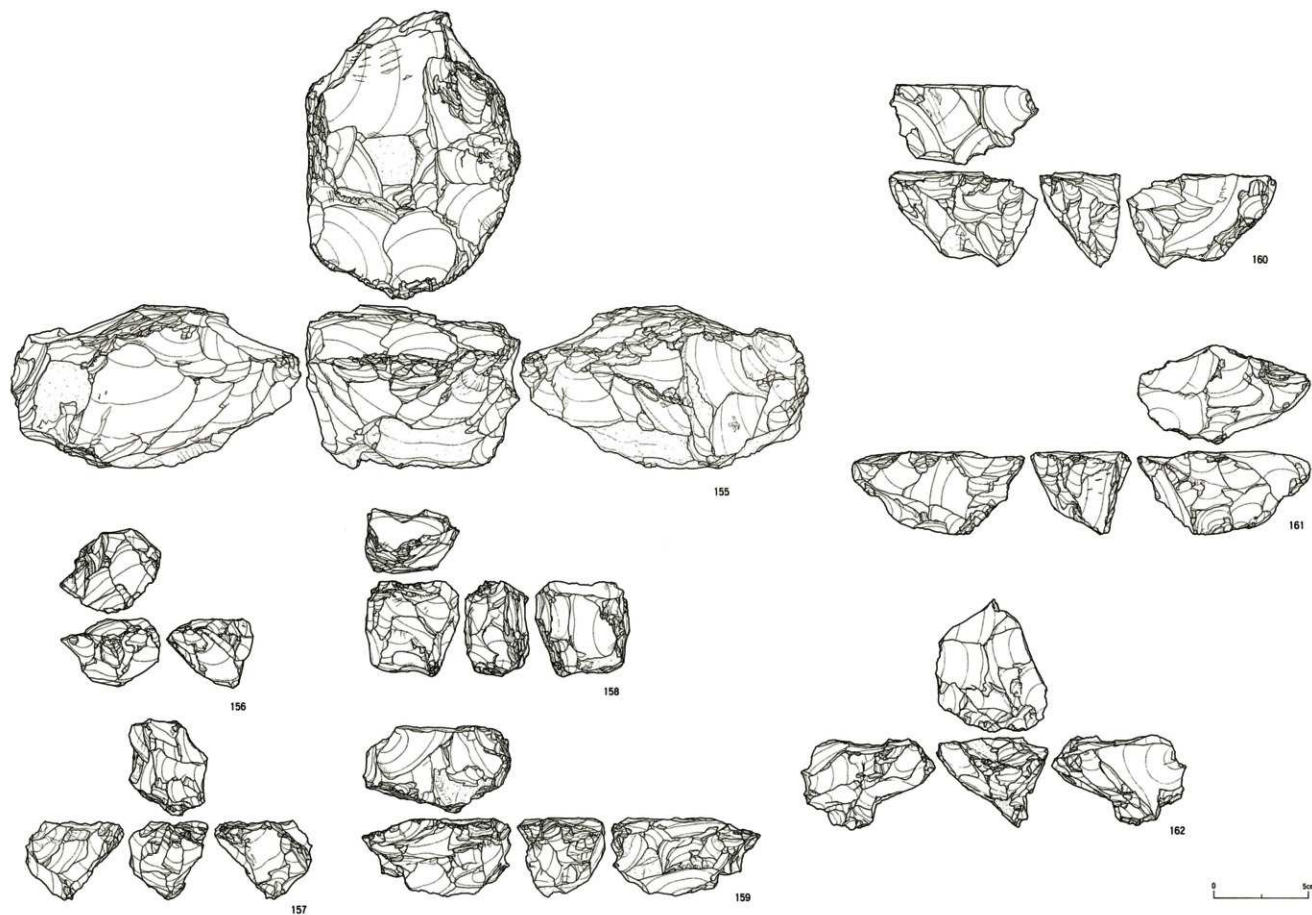
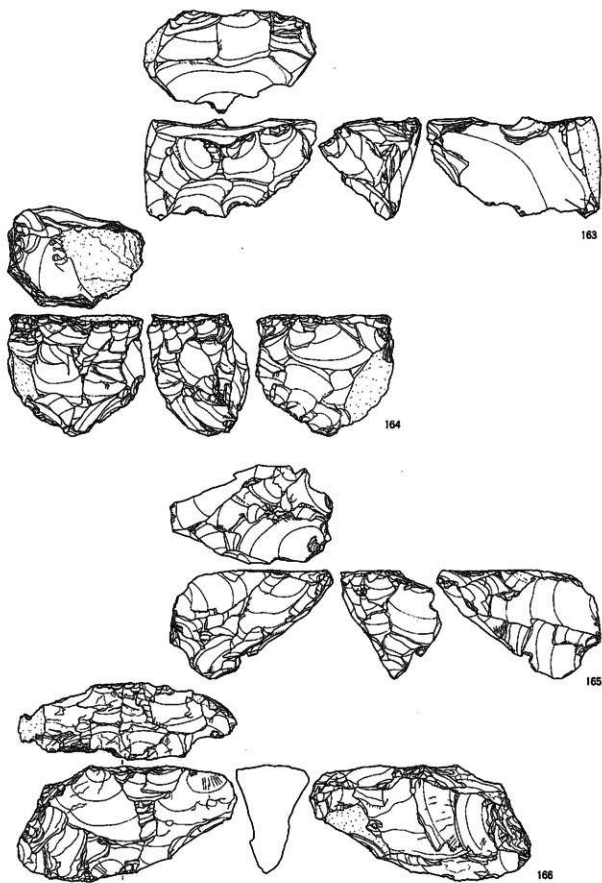
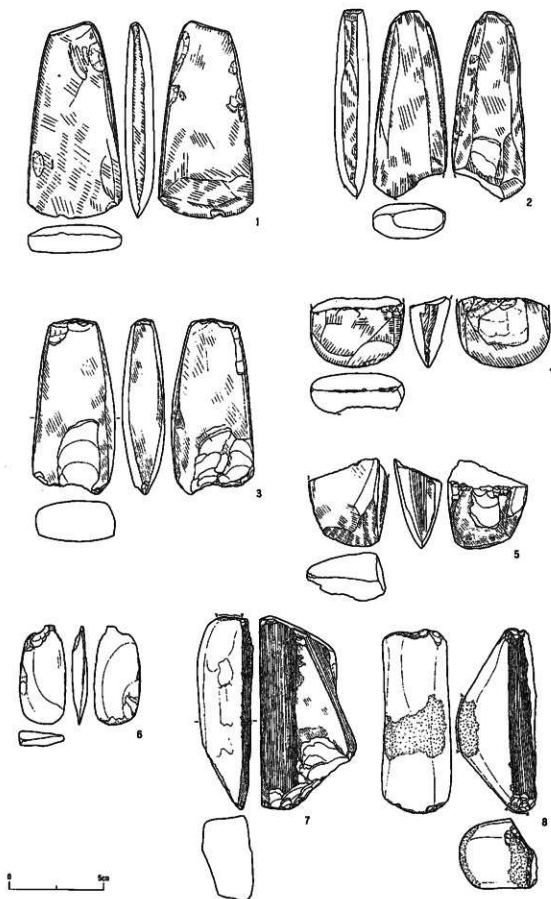


図 V-39 包含層出土の石器(12)石核

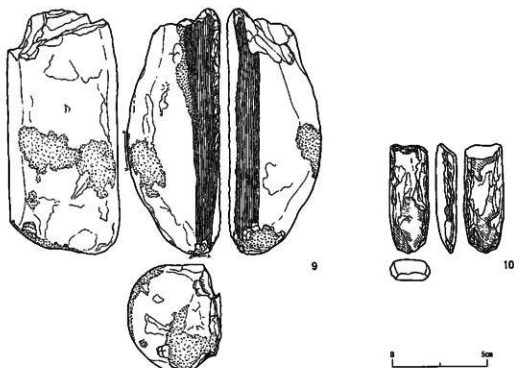


図V-40 包含層出土の石鏃・石核

V 包含層出土の遺物



図V-41 包含層出土の石器④石斧、擦り切り残片



図V-42 包含層出土の石器(9)擦り切り残片、石のみ

【磨製石器群】

石斧 (図V-41-1~6、表V-8、図版149)

62点が出土したが多くは器表面の剥落した小破片で、図示できたものは6点だけである。出土点数の分布は図V-60に示した。調査区から散点的に出土している。

1~6は全面磨製のもの(VIA 4)で、成・整形方法は不明である。1・2は片刃気味で円刃のもの。3・4は両刃で円刃のもの。5は両刃で偏刃のもの。6は両刃と推測される破片である。刃部の研ぎ出しは斜め方向が主である。2の右側縁には敲打痕があり、たたき石としても利用している。3の基部にはたたき痕があり、石のみとしても使用したと推測される。4・5は胴部腹面に折れ面を打点とした剥離がある。基部欠損後に折れ面をたたき、石のみとして再利用したものと推測される。

石材はいずれも緑色泥岩である。

擦り切り残片 (図V-41・42-7~9、表V-8、図版149)

18点が出土し、この内3点を図示した。出土点数の分布は図V-61に示した。石斧とほぼ重なる分布を示す。

7~9は擦り切り残片(VIA 5)で、いずれも側縁に擦り切り後の切断面を持つ。8・9は下端、左側縁に敲打痕があり、たたき石としても使用したものである。石材はいずれも緑色泥岩である。

石のみ (図V-42-10、表V-8、図版149)

1点のみがF1地区から出土した(図V-60)。10は石のみ(VIB)で、上下両端に細かい階段状剥離が見られる。石材は粘板岩である。

【礫石器群】

たたき石 (図V-43・44-1~21、表V-8、図版149)

474点が出土し、この内21点を図示した。礫石器群では36.9%と最も高い出土比率を占める。出土点数の分布は図V-61に示した。調査区のほぼ全域にわたって出土している。なかでも20~30ライン間の平坦部、南・北側斜面が比較的多い。剥片石器群の分布が希薄なM-15区周辺のH-4・6・7・17近くでも出土が見られ、住居跡と強い関連を示す。

1~13は棒状礫・扁平礫の一端もしくは両端にたたき痕のあるもの (Ⅶ1)。1~4は棒状礫、5~10は扁平礫、11~13は円礫もしくは亜円礫などの小型で厚みのある礫を用いている。10・12は剥離も見られる。

14~18は扁平礫の周縁にたたき痕があるもの (Ⅶ2)。17は一側縁に、14~16は周縁の所々に、18はほぼ全周縁にたたき痕がある。18は焼成を受けている。

19・20は扁平礫の腹背面にたたき痕のあるもの (Ⅶ3)。いずれも側縁の一部にもたたき痕がある。

21はくぼみ石と称されるもの (Ⅶ4)。腹面に2ヶ所、背面に1ヶ所の円形で浅い皿状のくぼみがある。両端、側縁にもたたき痕がある。石材は2が砂岩、11が珪岩、17は凝灰岩で、その他は全て安山岩である。

すり石 (図V-45~52-22~81、表V-8、図版151~154) すり石については細分ごとに記述する。

扁平礫の側縁にすり面をもつもの (Ⅶ2) (図V-45~22~25、表V-8、図版150)

扁平礫の側縁にすり面を持つすり石は20点出土し、この内4点を図示した。Ⅶ群2・4類を合わせた出土点数の分布は図V-61に示した。調査区のほぼ全域にわたって散点的に出土している。平面観が半円状を呈するものもあるが、すり面側の打ち欠きが顕著でないものはここに分類した。

22~25は扁平礫の側縁にすり面をもつもの。23・24の両側縁にはたたき痕が、25には長軸両端に打ち欠きがある。石材はいずれも安山岩である。

半円状扁平打製石器 (Ⅶ3) (図V-46~48-26~57、表V-8、図版151・152)

236点が出土し、この内32点を図示した。板状節理の石材を用い、周縁を半円状に打ち欠き、弦をするものである。平坦なすり面があるものでは、その幅は5~9mmほどである。また、平坦なすり面がほとんど無く、あっても4mm以下で、断面形が「V」字状になるものも多い。しばしば言及されているように、必ずしも「する」行為にのみ限定されるものではないようである。また、打ち欠きが全周していないものもあるが、機能部側の打ち欠きが顕著で石材・形態が類似するものはここに分類した。完全な形をとめているものは少なく、ほとんどのものは機能部に直交し欠損している。離れた発掘区から出土し接合したものもある。

なお、石鋸と石材の選択が共通しており、両者の機能が複合されたものもある。母岩を板状節理に沿って剥離した段階で、厚いものは半円状扁平打製石器、薄いものは石鋸とした傾向が伺われる。

礫石器群では18.3%と3番目に高い出土比率を占める。出土点数の分布は図V-62に示した。調査区のほぼ全域にわたって出土している。なかでも、20~30ライン間の平坦部、南・北側斜面が比較的多い。包含層での出土比率は18.4%、遺構では3.5%で大きな差があり、包含層と強い関連を示す。

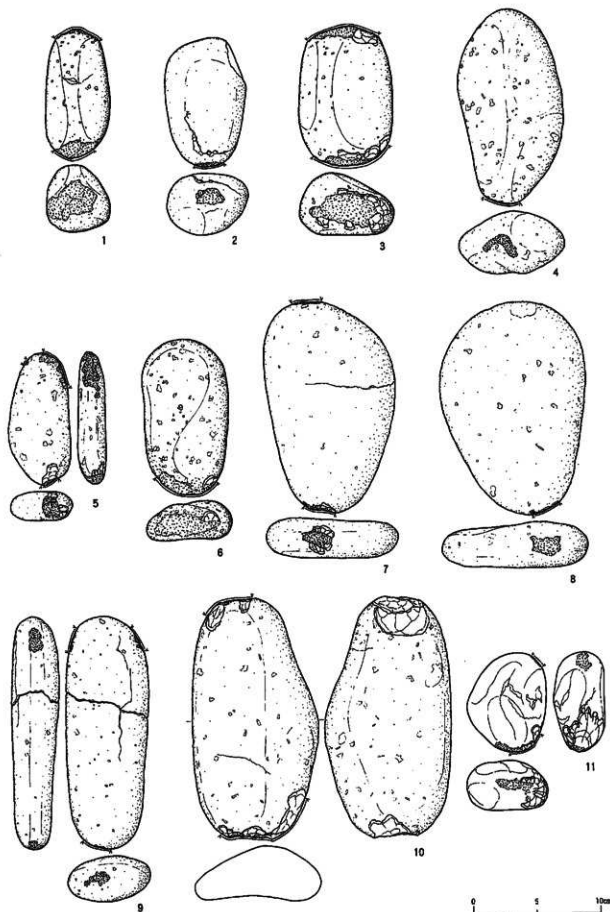


図 V-43 包含層出土の石器類(たたき石)

V 包含層出土の遺物

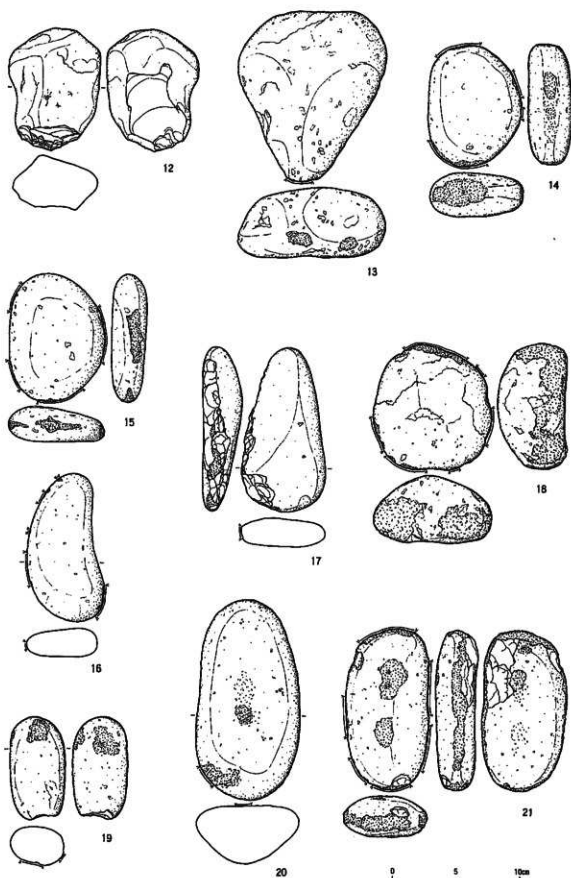
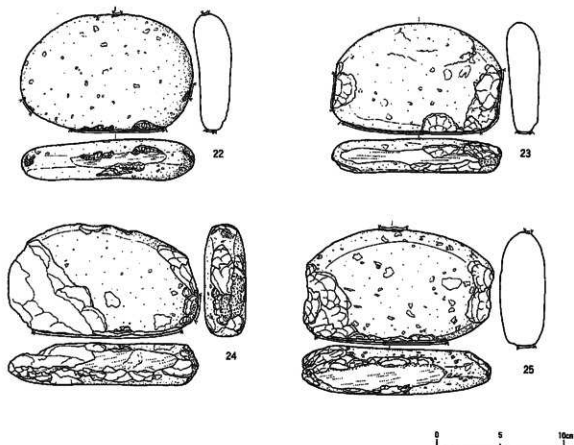


図 V-44 包含層出土の石器 14 たたき石



図V-45 包含層出土の石器のすり石

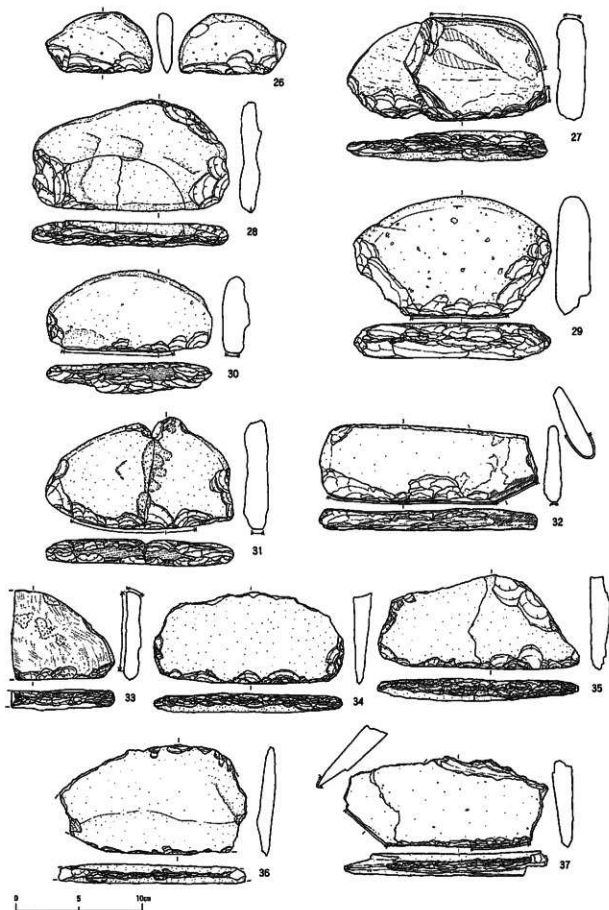
26～32は周縁に打ち欠きが無いが、一部のみで全周せず、稜面を残すもの。26～31は扁平礫を半割りし、弦部分を打ち欠いたもの。多く用いられる板状節理の石材ではない。平坦なすり面のあるもの(30・31)と、ないもの(26～29)がある。30は扁平な円礫を半割した後、更に縦方向に薄く割り、機能部を作出している。そのため、背面は礫面で、腹面は割れ面である。31は折れ部分にたたき痕があり、意図的に折ったものと推測される。32は一側縁を石鋸として使用している。27・32は器表面や側縁に平滑な部分があり、その部分をすり整形したものと推測される。

33～47は板状礫を横割りし、一側縁を打ち欠き機能部を作出したもの。機能部以外は折れ面で、打ち欠きが見られないか、一部のみを打ち欠いているものである。そのため「半円状」にならないものもある。この内、33～40は使用部の断面形が「V」字状になるもの。41～47は使用部に平坦なすり面のあるもの。33は砥石として使用した後、機能部を作出したもので、側縁にも擦痕がある。また、焼成を受け、炭化物が付着している。37は側縁の一部が更に薄く剥離され、そこを石鋸として使用している。39は約15m離れた破片が接合したもの。47は欠損後、図右破片のみ更に機能部を打ち欠き、使用している。そのため、機能部は図左破片と段差が生じている。

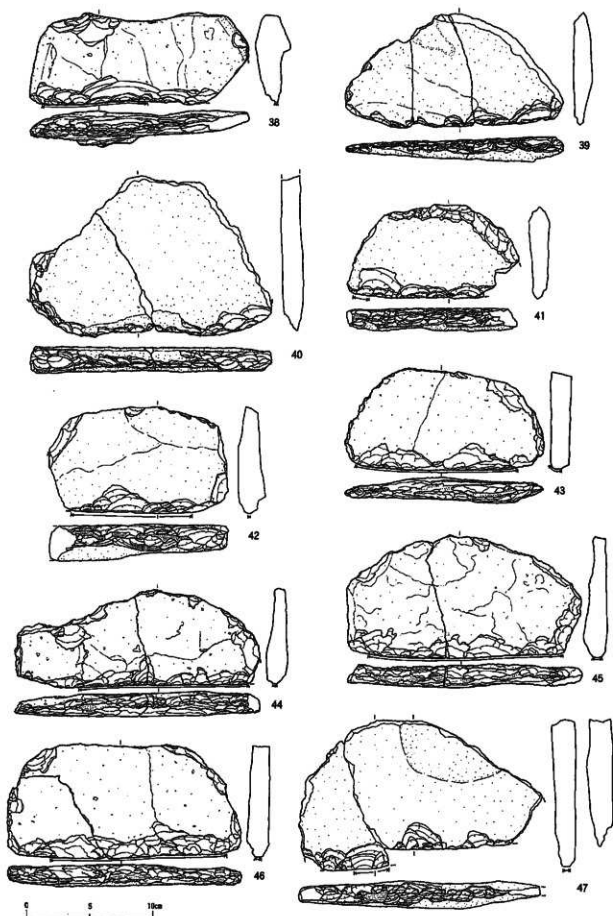
48～57は周縁のほぼ全周を半円状に打ち欠くもの。この内、48～52は使用部の断面形が「V」字状になるもの。53～57は使用部に平坦なすり面のあるもの。50は機能部の一部が石鋸、腹背面が砥石としても使用されている。52は一側縁に挟りこみがある。53は上下にすり面がある。55は背面の一部が平滑で、すり整形されたと推測されるもの。50・55・57は焼成を受け、炭化物が付着している。

石材は26・29～31・38・40～42・45・48・57が安山岩、27・28・33・50・52・56が凝灰岩、55が頁岩(?), 32が不明で、この他は流紋岩である。

V 包含層出土の遺物

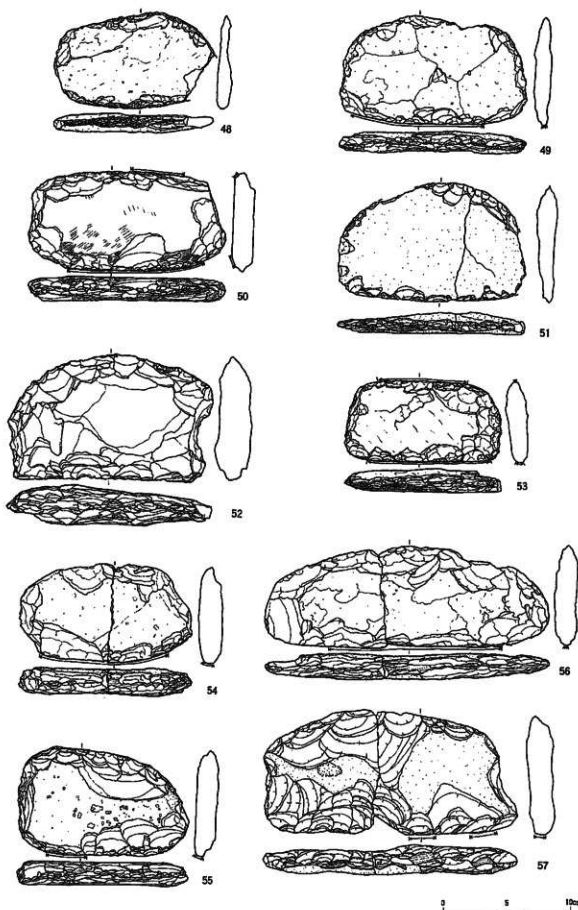


図V-46 包含層出土の石器の半円状扁平打製石器

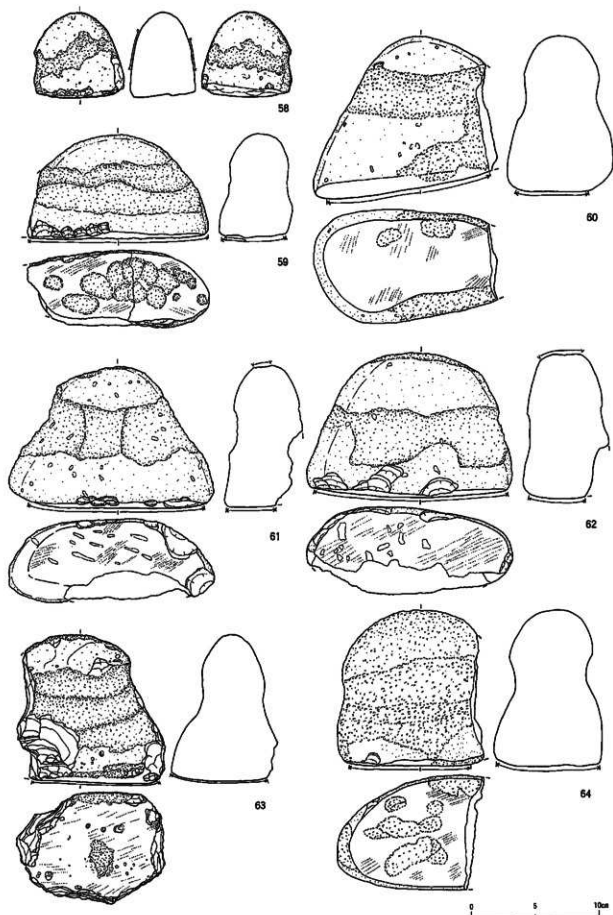


図V-47 包含層出土の石器・半円状扁平打製石器

V 包含層出土の遺物

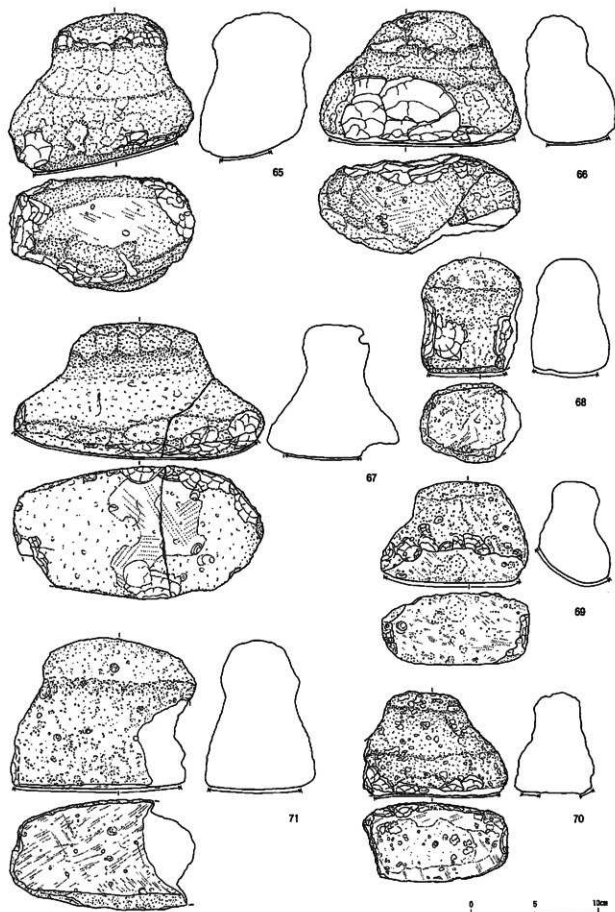


図V-48 包含層出土の石器(半円状扁平打製石器)

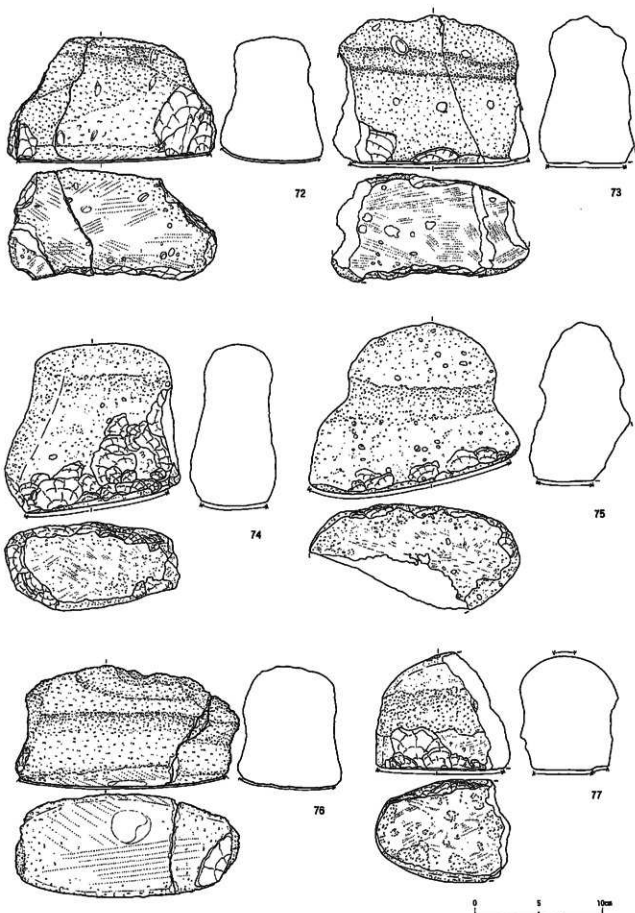


図V-49 包含層出土の石器・北海道式石冠

V 包含層出土の遺物



図V-50 包含層出土の石器・北海道式石冠



図V-51 包含層出土の石器(4北海道式石冠)

北海道式石冠 (Ⅷ4) (図V-49~52-58~80、表V-8、図版153・154)

113点が出土し、この内23点を図示した。礫石器群では36.9%と最も高い出土比率を占める。自然礫を半割し鉢巻状の把握部を作出したものと、全面敲打整形のものがある。すり面の幅は広く、またすり面にたたき痕があるものもある。完全な形をとどめているものは少なく、多くはすり面長軸に直交もしくは平行して欠損している。

出土点数の分布は図V-62に示した。調査区のほぼ全域にわたって出土している。なかでも、20~25ライン間の平坦部、M-20区周辺が比較的多く、住居跡の分布域と重なる傾向がある。

58~63は礫面を残し、把握部のみを敲打し作出したもの。扁平礫を半割し、底面をすったものである。58は浅い敲打が一周しており、すり面はなく、小型の未成品と考えられる。59・60・63はすり面にたたき痕がある。61~63は把握部頂部にたたき痕がある。

64~67は一部に礫面を残すが、ほぼ全面を敲打整形したもの。同じく扁平礫を半割し、製作したと推測される。いずれもすり面にたたき痕があるが、66・67は特にたたき痕が顕著で、すり面に炭化物が付着している。

68~76は全面敲打整形のもの。腹背面が滑らかなものがあり、敲打整形後に研磨整形していると推測されるが、擦痕が不明瞭なものはここにまとめた。68~70は比較的小型で、すり面にたたき痕がある。73は炭化物が付着している。

77~80は全面敲打の後、研磨整形されたもの。79は全面、その他は腹背面の一部が平滑で、擦痕が明瞭な部分もあり、敲打整形した後に研磨整形したものと推測した。77・79のすり面にはたたき痕もある。78は礫面を残す。80は焼成を受け、すり面が内湾している。

石材は64~67・69・71~73・75が凝灰岩で、その他は安山岩である。

円礫などの一部にすり面をもつもの (Ⅷ5) (図V-52-81、表V-8、図版154)

円礫などの一部にすり面を持つすり石は1点がP-20-a区から出土している。81は背面が平滑で光沢があるもので、擦痕は不明瞭であるが、すり石の一種と推測した。石材は安山岩である。

石鏟 (図V-53・54-82~96、表V-8、図版155)

50点が出土し、この内15点を図示した (IXA)。石材は半円状扁平打製石器と同じく板状節理の礫を用いるものが多い。擦痕のある機能部の断面形が「U」字「V」字状となるもので、擦痕が腹背面まで及んでいるものである。半円状扁平打製石器と同じく、完全な形をとどめているものは少なく、多くは機能部に直交し欠損している。

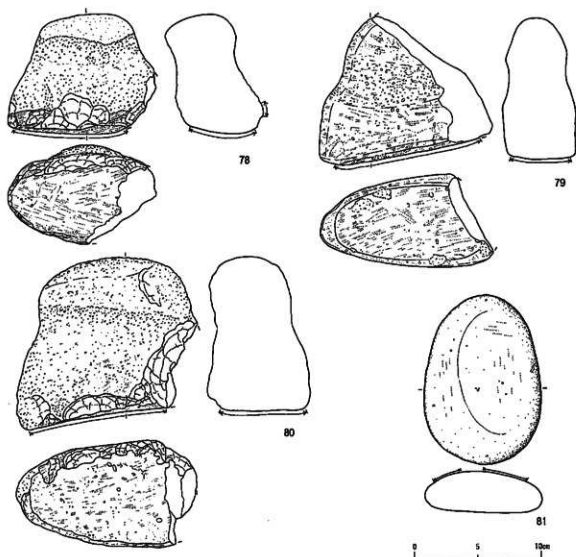
出土点数の分布は図V-62に示した。調査区の北側斜面に比較的多く分布している。

82~91は使用部が直線状のもの。83・87は両側縁が使用されている。83の上部の使用部は外湾している。84は周縁のほぼ全面を使用部とするもの。90は一側縁に打ち欠きがあり、半円状扁平打製石器の機能も持っている。91は半円状扁平打製石器として使用され、欠損後に図右破片の周縁を更に打ち欠き、石鏟として再利用している。

92~95は使用部が内湾もしくは内湾気味のもの。95は板状節理ではない扁平礫を用いたもので、図示したもののうち、最も厚みがある。打ち欠きにより機能部の厚みを減じている。腹背面にたたき痕があり、台石を転用したものと推測される。

96は大型板状礫片の一部に外湾する使用部のあるもの。使用痕はあまり顕著ではない。

石材は86・95が安山岩、91が凝灰岩で、その他は流紋岩である。



図V-52 包含層出土の石器(北海道式石冠、すり石)

砥石 (図V-63-97-103、表V-8、図版156)

126点が出土し、この内7点を図示した。有溝のもの(ⅨB1)は出土していない。礫石器群では9.8%と4番目に高い出土比率を占めるが、多くは器表面の剝落した小破片である。出土点数の分布は図V-63に示した。調査区のほぼ全域にわたって出土している。なかでも、20~30ラインにかけての平坦部など、住居跡が検出された周辺が比較的多い。包含層での出土比率は9.8%、遺構では23.0%で大きな差があり、遺構と強い関連を示す。

97~103は砥面が平滑かややくぼんだもの(ⅨB2)。97・98の石材は軽石で、1は手持ちの砥石と推測される。99~101・103の石材は砂岩、102は凝灰岩で、据え置き の砥石と考えられる。102を除き、両面が使用されている。102は欠損後、一側縁を打ち欠き、半円状扁平打製石器様に再加工したものの。100・101・103には炭化物が付着している。

V 包含層出土の遺物

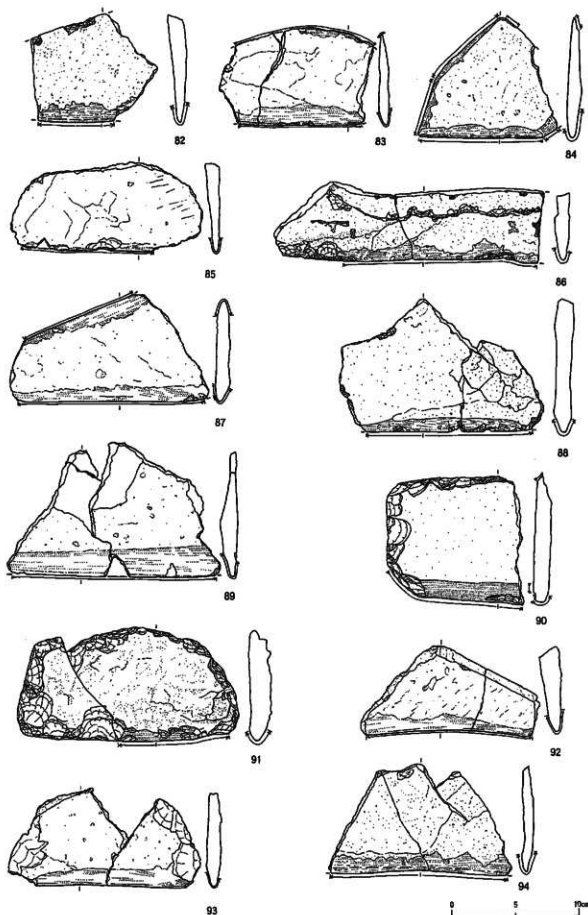
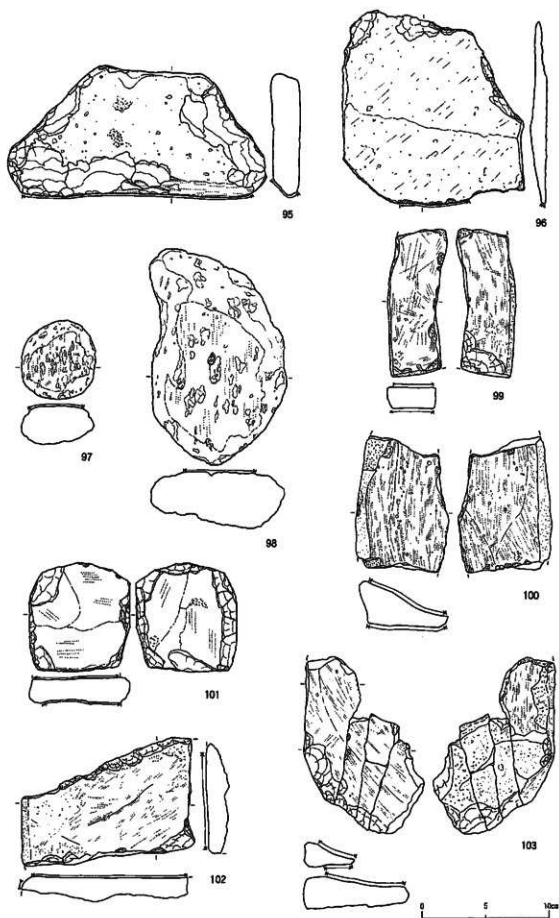
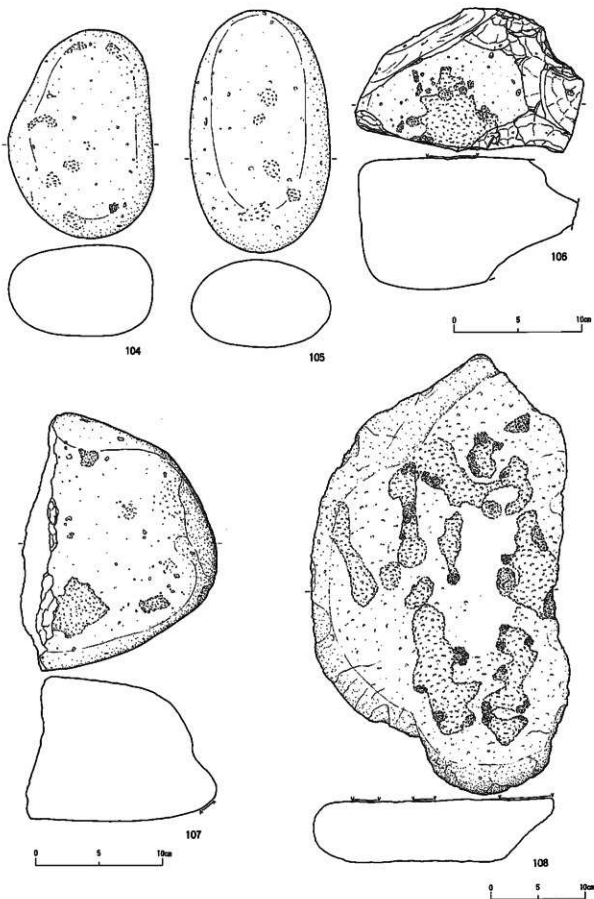


図 V-53 包含層出土の石器・石鏃



図V-54 包含層出土の石器の石鏃、砥石

V 包含層出土の遺物



図V-55 包含層出土の石器・燧石・石皿

台石・石皿 (図V-55・56-104~110、表V-8、図版156・157)

249点が出土した。この中には使用痕が見られないが、形態・出土状況から台石と推定したものも含んでいる。この内7点を図示した。礫石器群では19.4%と2番目に高い出土比率を占める。出土点数の分布は図V-63に示した。調査区のはほぼ全域にわたって出土している。なかでも、15~20ラインにかけての住居様遺構部分や住居跡が検出された周辺が比較的多い。包含層での出土比率は19.4%、遺構では35.5%で大きな差があり、遺構と強い関連を示す。

104~108は台石である。平板状・板状の礫を用い、いずれも背面に使用痕がある。106は焼成を受けている。108は板状礫の周縁の一部を敲打により整形している。たたき痕はほぼ全面にあり、一部には擦痕も見られる。

109・110は石皿である。いずれもすり面はくぼんでいる。109は大型で厚みのある礫を用いたもので、全体の約3分の1が欠損している。欠損部分には敲打痕がある。110は多孔質の大型礫を用い、たたき痕も一部に見られる。石材は110が凝灰岩で、この他は安山岩である。

石錘 (図V-57-111、表V-8、図版157)

5点が出土し、この内1点を図示した。出土点数の分布は図V-63に示した。

111は長軸両端に打ち欠きのあるもの (XI 2)。下側縁にも敲打による剥離痕がみられ、すり石未成品の可能性がある。石材は安山岩である。

加工痕のある礫 (図V-56-112、表V-8、図版157)

7点が出土し、この内1点を図示した。出土点数の分布は図V-64に示した。

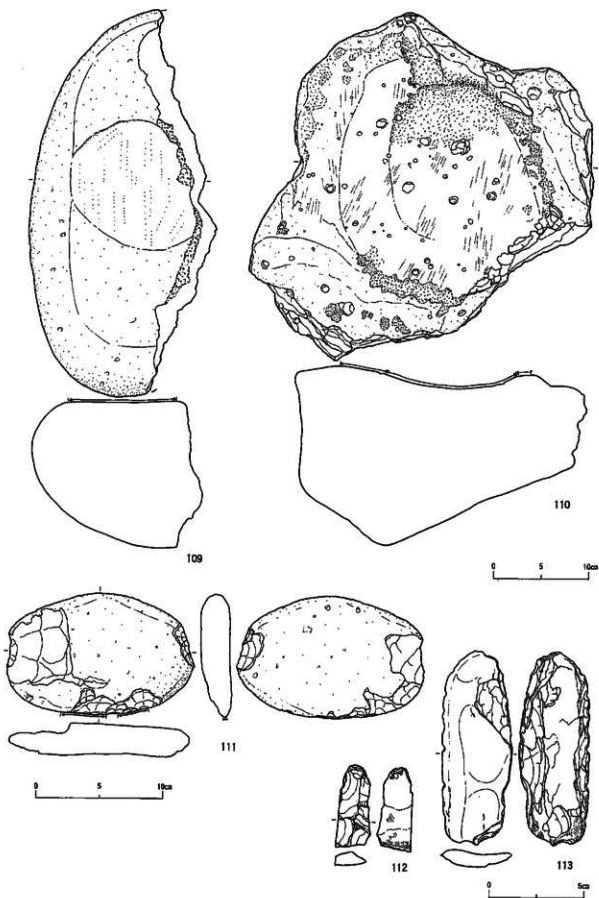
112は上端に敲打によるつぶれが、腹面には研磨された部分があるもの (XII 1)。左側縁には礫表皮面が残る。石材は緑色泥岩。

石製品 (図V-56-113、表V-8、図版157)

9点が出土し、この内1点を図示した。出土点数の分布は図V-69に示した。

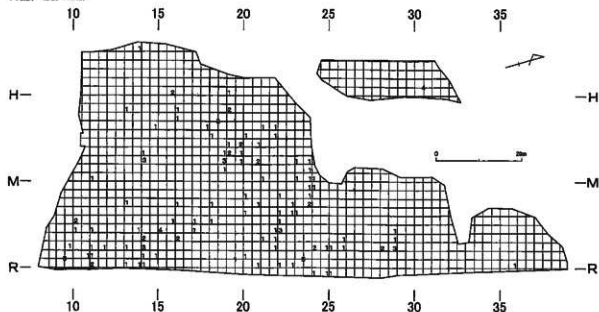
113は両側縁を打ち欠いた後、左側縁に6ヶ所の刻みがつけられている。刻みは大きさや形状から石鋸によるものと推測される。背面には礫表皮面が残る。石材は片岩である。 (藤原)

V 包含層出土の遺物

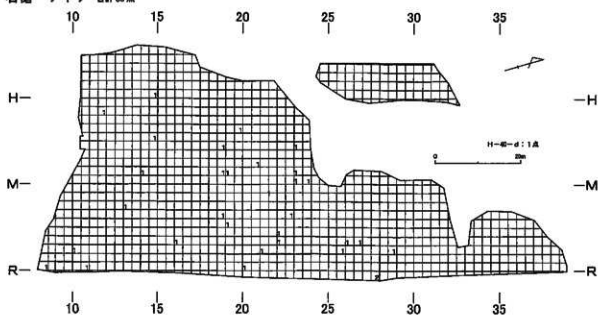


図V-56 包含層出土の石器(燧石・石皿、石錘、加工痕ある礫、石製品

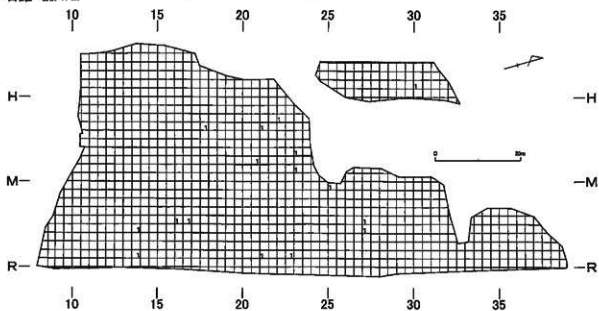
石鏃 合計 142 点



石槍・ナイフ 合計 33 点

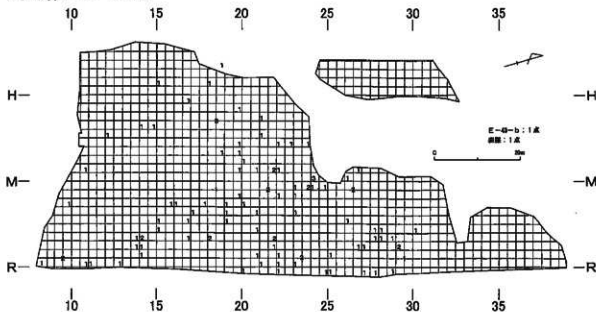


石鏃 合計 17 点

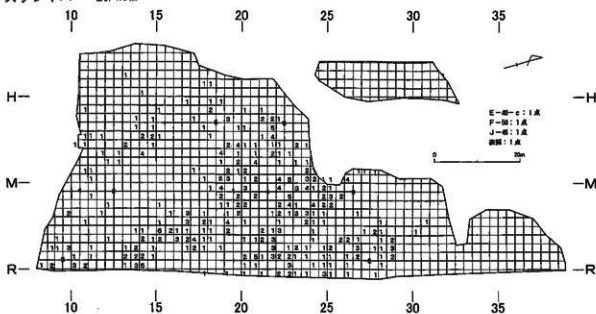


図V-57 包含層出土石器の器種別分布(1)石鏃、石槍またはナイフ、石鏃

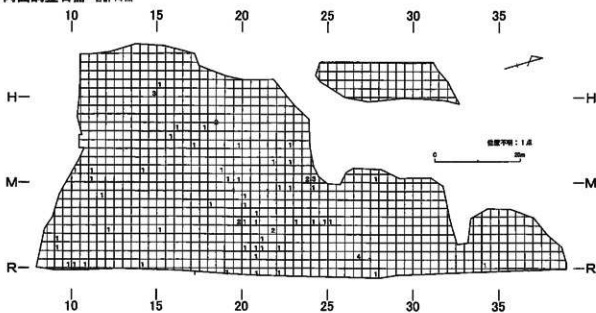
つまみ付ナイフ 合計108点



スクレイパー 合計475点

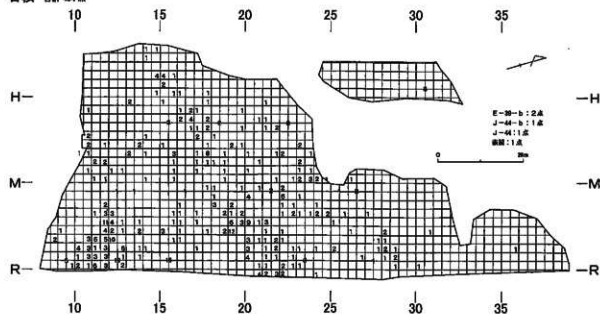


両面調整石器 合計74点

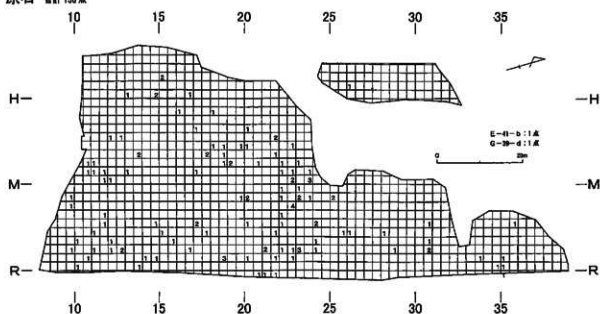


図V-58 包含層出土石器の器種別分布(2)つまみ付きナイフ、スクレイパー、両面調整石器

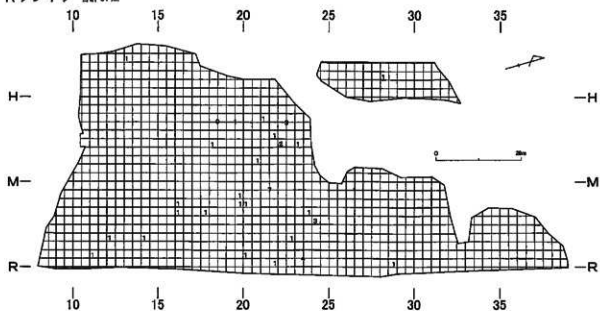
石核 合計 454 点



原石 合計 130 点

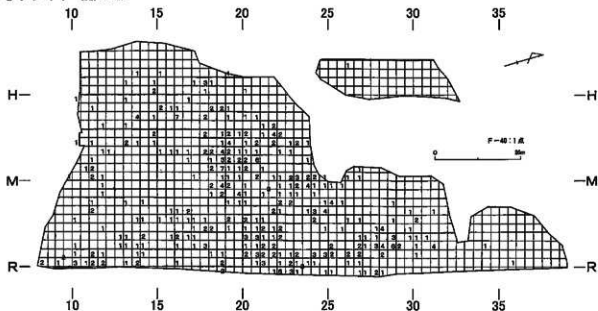


Rフレイク 合計 51 点

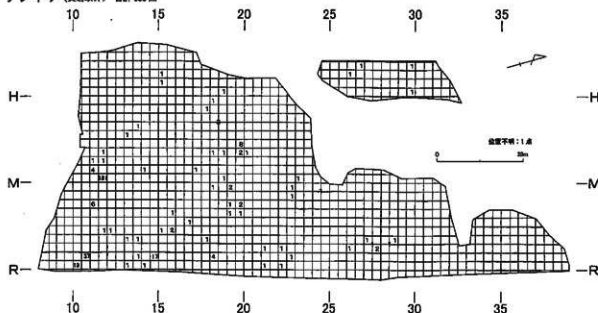


図V-59 包含層出土石器の器種別分布(3)石核、原石、Rフレイク

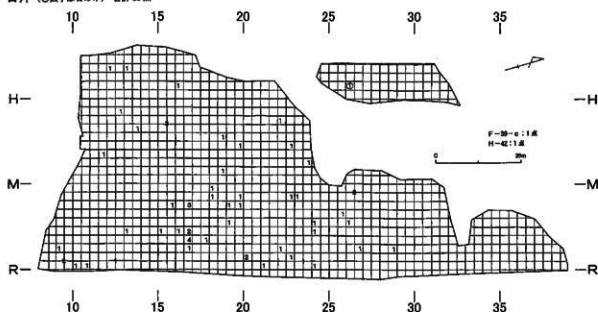
Uフレイク 合計 453 点



フレイク (頁岩以外) 合計 339 点

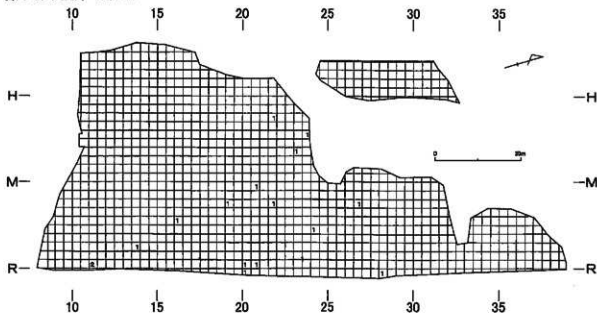


石斧 (○数字は石のみ) 合計 63 点

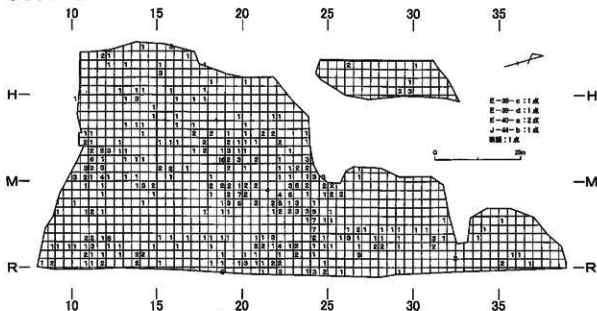


図V-60 包含層出土石器の器種別分布(4)Uフレイク、フレイク (頁岩以外)、石斧

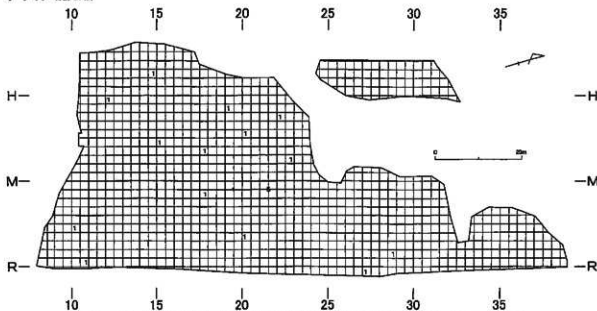
擦り切り残片 合計18点



たたき石 合計474点

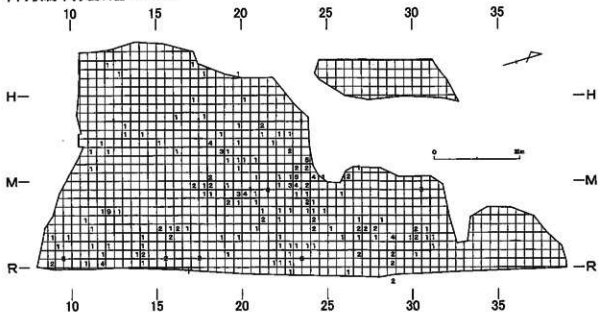


すり石 合計21点

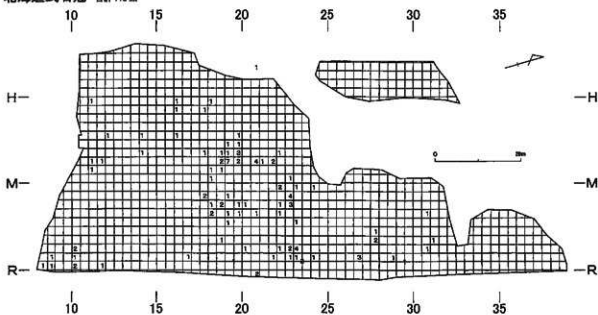


図V-61 包含層出土石器の器種別分布(5)擦り切り残片、たたき石、すり石

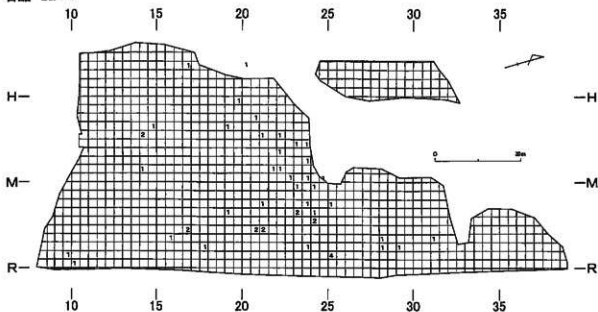
半円状扁平打製石器 合計 235 点



北海道式石冠 合計 113 点

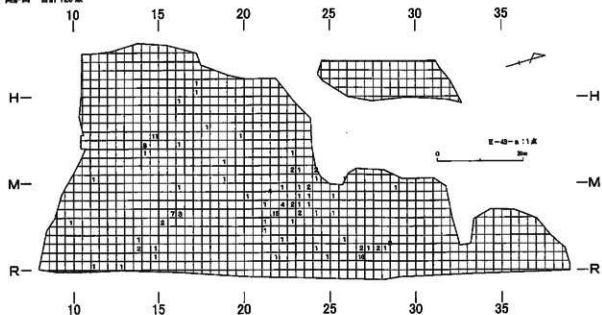


石鏝 合計 51 点

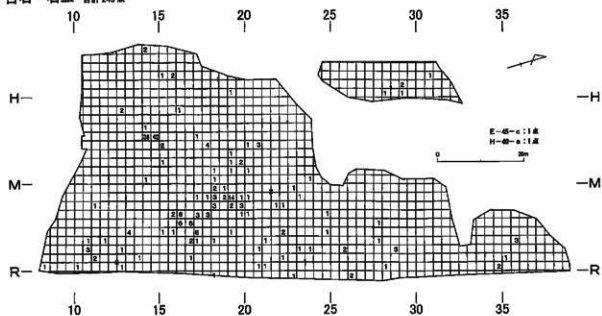


図V-62 包含層出土石器の器種別分布(6)半円状扁平打製石器、北海道式石冠、石鏝

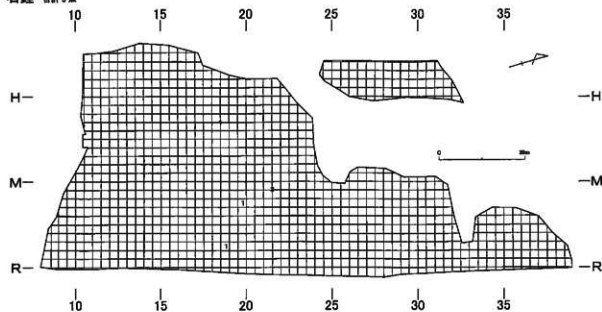
砥石 合計126点



台石・石皿 合計249点

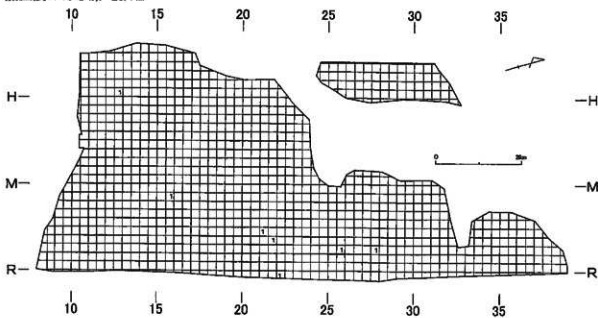


石鍾 合計5点

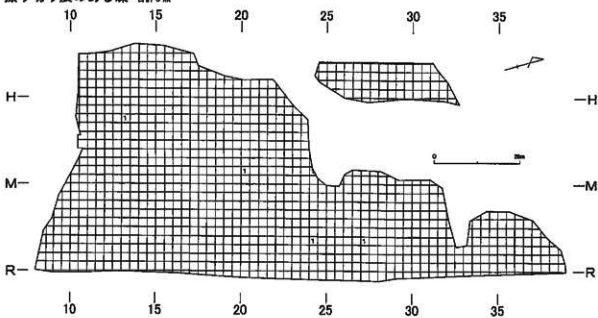


図V-63 包含層出土石器の器種別分布(7)砥石、台石・石皿、石鍾

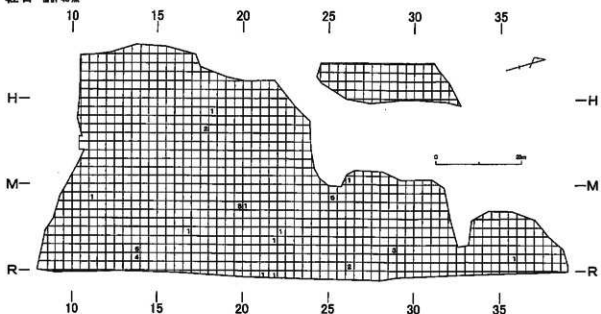
加工痕のある礫 合計7点



掘り切り痕のある礫 合計5点



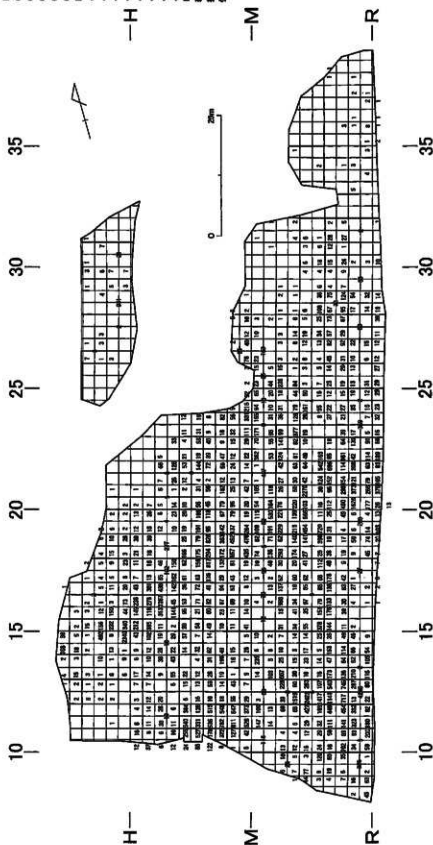
軽石 合計40点



図V-64 包含層出土石器の経緯別分布(8)加工痕ある礫、掘り切り痕のある礫、軽石

フレイク (頁岩) 合計 81992 点

E-30-b:11点
E-30-d:11点
E-40-b:77点
E-41-b:11点
F-30:22点
G-40:107点
G-40-c:13点
G-40-e:11点
G-40-f:13点
G-42-a:11点
H-41-c:30点
H-41-a:11点
J-41-b:2点
J-41-c:18点
J-41-d:6点
J-41:3点
J-45-a:11点
J-45:15点
J-49:11点
N-54:11点
備考 土:179点
位置不明:1点



図V-65 包含層出土石層の群種別分布(9)フレイク (頁岩)

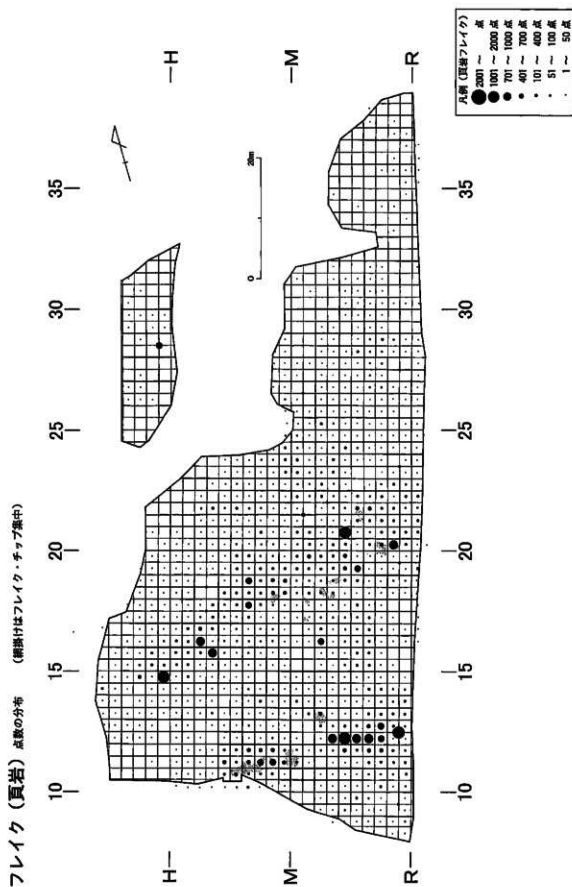
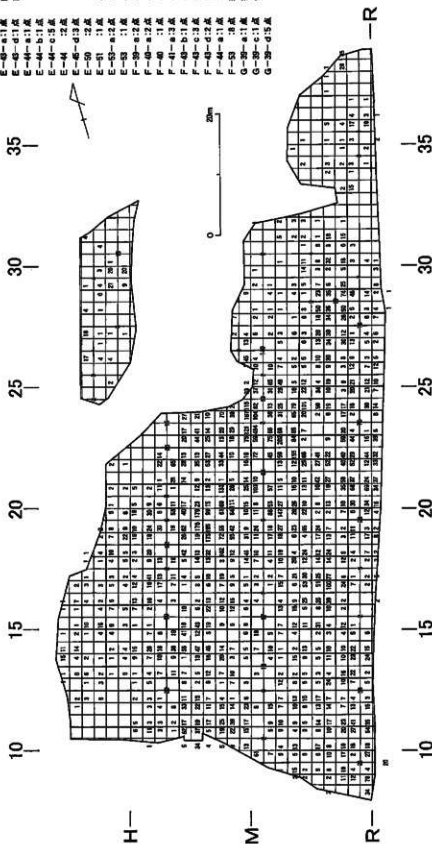


図 V-66 包含層出土石器の器種別分布のフレイク (頁岩)

B-7 12点
 D-44-b:3点
 G-41-c:1点
 G-42-c:1点
 G-42-d:1点
 G-41-b:1点
 G-43-a:1点
 G-53 1点
 E-42-b:1点
 H-5-b:1点
 E-42-c:1点
 H-41-a:1点
 E-41-d:1点
 H-43-a:1点
 E-43-d:1点
 H-44-b:1点
 E-44-a:1点
 I-41-c:1点
 I-42-b:3点
 E-44 12点
 I-42-c:2点
 I-44-b:1点
 E-50 12点
 E-51 11点
 J-42-c:1点
 E-53 11点
 J-43-a:1点
 F-33-a:2点
 J-44-a:1点
 F-44-c:2点
 F-40 1点
 J-44-b:1点
 F-41-a:3点
 J-45 3点
 F-43-b:1点
 J-53 1点
 F-43-c:3点
 K-43 1点
 F-44-a:1点
 K-44-b:1点
 F-53 3点
 G-33-a:1点
 G-33-c:1点
 G-33-b:3点
 計 未定
 数量不明:5点

礫・礫片 合計15430点



図V-67 包舍層出土石器の器種別分布(礫・礫片)

礫・礫片 点数の分布

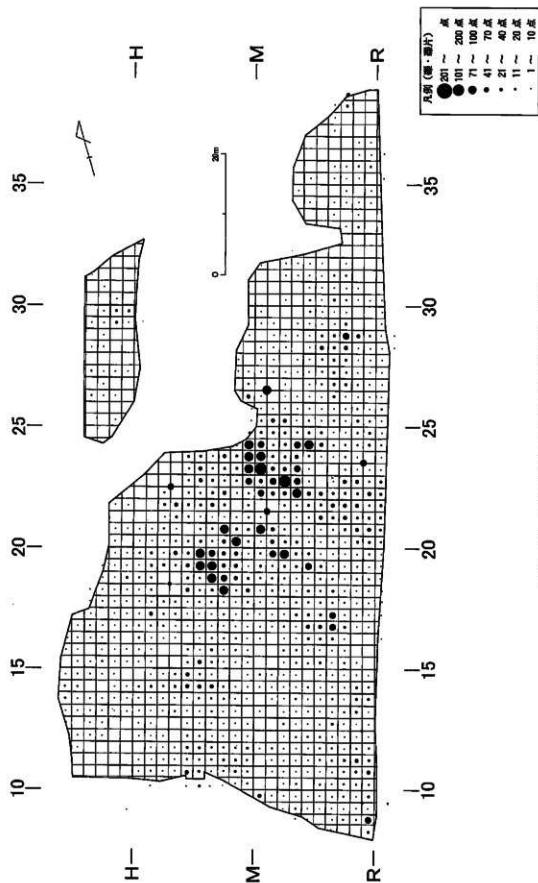
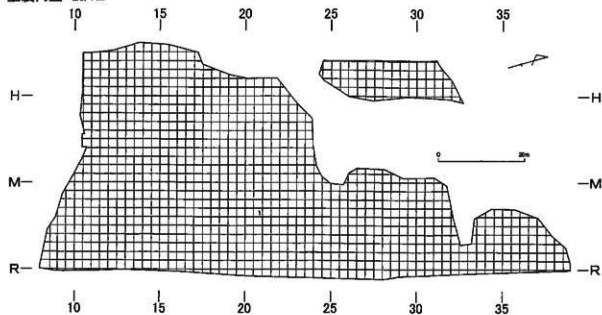
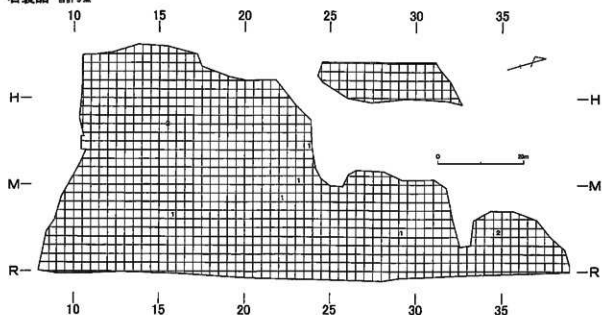


図 V-68 包含層出土石器の総数別分布(礫・礫片)

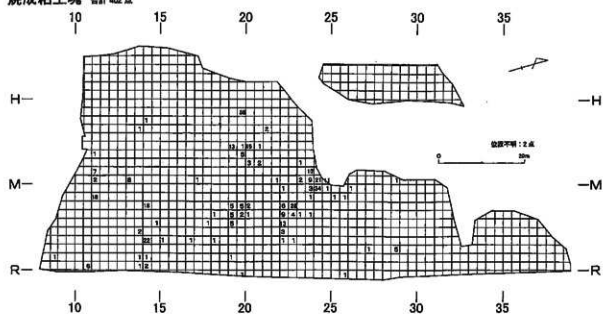
土製円盤 合計1点



石製品 合計9点



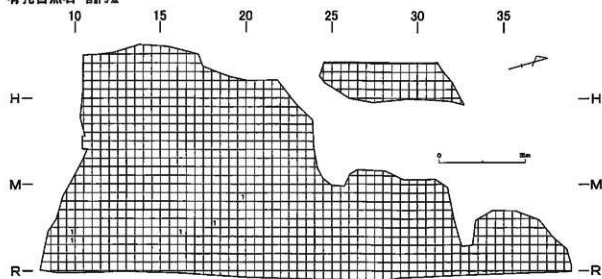
焼成粘土塊 合計402点



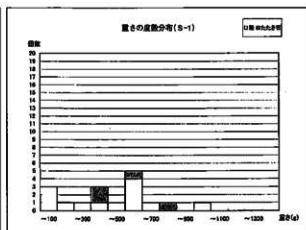
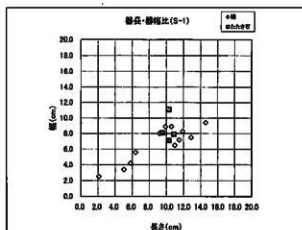
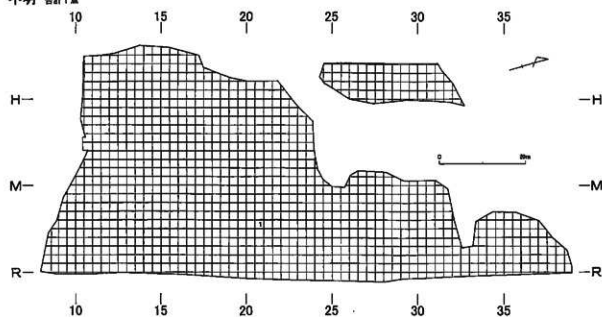
図V-69 包含層出土石器の器種別分布③土製円盤、石製品、焼成粘土塊

V 包含層出土の遺物

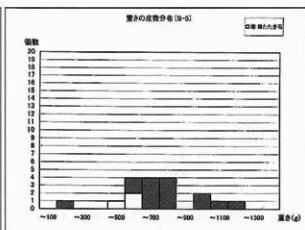
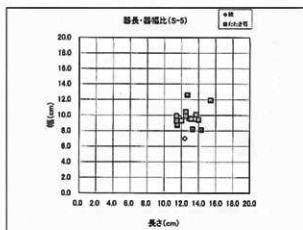
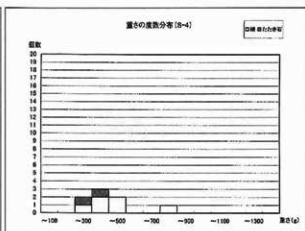
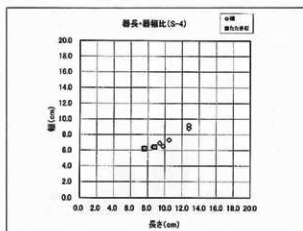
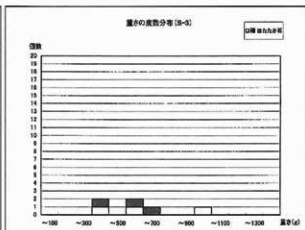
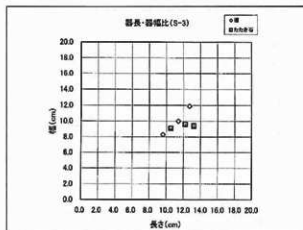
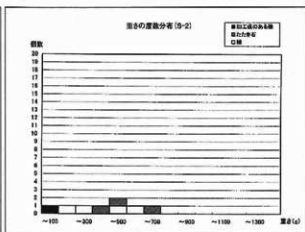
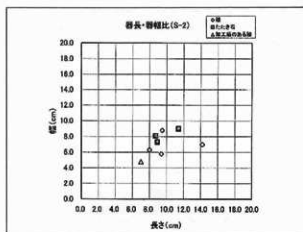
有孔自然石 合計5点



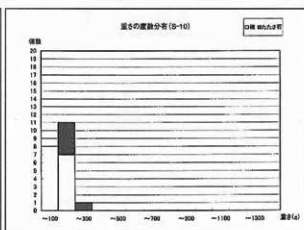
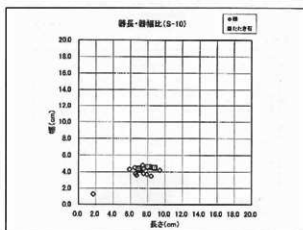
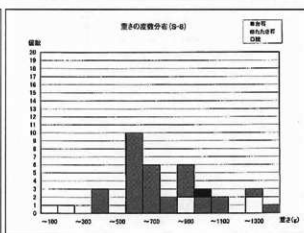
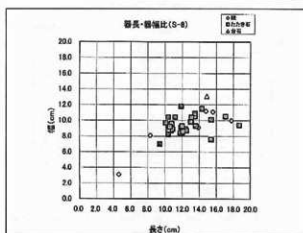
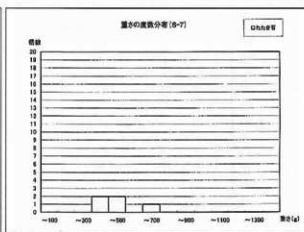
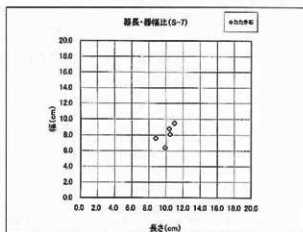
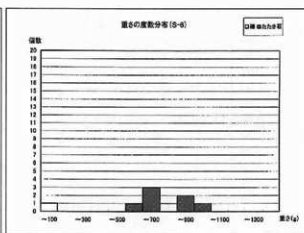
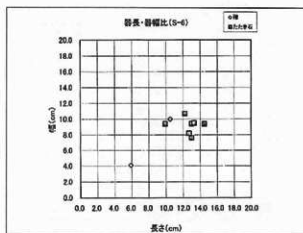
不明 合計1点



図V-70 包含層出土石器の器種別分布(4有孔自然石、その他 集石のグラフ(1))



図V-71 集石のグラフ(2)



図V-72 集石のグラフ(3)

表V-1 包含層出土掲載土器一覽 II群b類

図 号	整理番号	出土位置	単位	点数	図版番号	
図V-3-1	(153)	未接合	J-19-a Ⅲ	56	119-1	
			J-19-c Ⅲ	1		
			小計	56		
			J-19-a Ⅲ	38		
			J-19-b Ⅲ	1		
		小計	39			
		合計	62			
図V-3-2	(146)	未接合	L-26 Ⅲa	19	119-2	
			M-25-b Ⅲ	4		
			小計	23		
			M-21 Ⅲb	17		
			M-21 Ⅲc	1		
			M-22-c Ⅲ	1		
			M-22-c Ⅳ	1		
			M-23-d Ⅳ	1		
			M-26-b Ⅲ	4		
			M-26 Ⅲa	10		
			M-26 Ⅲc	1		
			M-26 Ⅲ上	1		
			P-22-a Ⅲ	2		
			小計	39		
						合計
図V-3-3	(168)	未接合	N-19-c Ⅲ	11	119-1	
			不明	1		
			小計	12		
			N-19-c Ⅲ	124		
			N-19-c 不明	2		
		未注記	25			
		小計	152			
		合計	164			
図V-3-4	(732)	未接合	Q-24-c Ⅲ	2	119-2	
			未接合	Q-28-b Ⅲ		1
			小計	3		
図V-3-5	(145)	未接合	K-19-a Ⅲ	2	119-1	
			K-19-a Ⅲ	11		
			小計	13		
			K-19-a Ⅲ	26		
			K-19-c Ⅲ	1		
		小計	27			
図V-3-6	(214)	未接合	Q-11-a Ⅲ	4	119-1	
			Q-11-a Ⅲ上	1		
			Q-11-b Ⅲ	7		
			小計	12		
			Q-11-a Ⅲ	5		
			Q-12 Ⅲb	3		
			小計	8		
			Q-12 Ⅲb	1		
			未接合	Q-12 Ⅲb		1
			小計	1		
図V-3-7	(702)	未接合	Q-12 Ⅲb	1	119-2	
			未接合	Q-12 Ⅲb		1
			小計	1		
図V-3-8	(215)	未接合	P-21-b Ⅲ	3	119-2	
			P-20-c Ⅲ	1		
			P-20-d Ⅲ	19		
			P-21-a Ⅲ	3		
			P-21-b Ⅲ	10		
			P-22-b Ⅲ	1		
			P-23-c Ⅲ	1		
			小計	35		
			R-22-a Ⅲ	3		
			N-27-b Ⅲ	1		
図V-3-9	(724)	未接合	O-26-b Ⅲ	3	119-2	
			O-28-b Ⅲ	3		
			小計	5		
			O-27-c Ⅲ	1		
			O-28-b Ⅲ	33		
			O-28-c Ⅲ	8		
			小計	42		
			O-20-d Ⅲ	1		
			P-21-c Ⅲ	1		
			小計	2		
図V-3-10	(683)	未接合	O-20-d Ⅲ	1	119-2	
			P-21-c Ⅲ	1		
			P-21-d Ⅲ	1		
			小計	3		
			Q-22-b Ⅲ	1		
			小計	45		
			L-21-c Ⅲ	2		
			未接合	L-21-c Ⅲ		2
			小計	4		
			P-28-c Ⅲ	3		
図V-3-11	(218)	未接合	O-24-b Ⅲ	1	119-2	
			O-13-c V	1		
			小計	2		
			O-13-c V	1		
			小計	1		
図V-3-12	(775)	未接合	O-20-d Ⅲ	1	119-2	
			P-21-c Ⅲ	1		
			小計	2		
			O-20-d Ⅲ	1		
			P-21-c Ⅲ	1		
			P-21-d Ⅲ	1		
			小計	3		
			Q-22-b Ⅲ	1		
			小計	45		
			L-21-c Ⅲ	2		
図V-3-13	(700)	未接合	L-21-c Ⅲ	2	119-2	
			未接合	L-21-c Ⅲ		2
			小計	4		
			P-28-c Ⅲ	3		
			未接合	O-24-b Ⅲ		1
図V-3-14	(290)	未接合	O-13-c V	1	119-2	
			O-13-c V	1		
			小計	2		
			O-13-c V	1		
			小計	1		
図V-3-15	(869)	未接合	O-13-c V	1	119-2	
			O-13-c V	1		
			小計	2		
			O-13-c V	1		
			O-13-c V	1		
			小計	4		
			P-28-c Ⅲ	3		
			未接合	O-24-b Ⅲ		1
			小計	1		
			O-13-c V	1		
図V-3-16	(882)	未接合	O-13-c V	1	119-2	
			O-13-c V	1		
			小計	2		
			O-13-c V	1		
			小計	1		
図V-3-17	(885)	未接合	O-13-c V	1	119-2	
			O-13-c V	1		
			小計	2		
			O-13-c V	1		
			O-13-c V	1		
			小計	4		
			P-28-c Ⅲ	3		
			未接合	O-24-b Ⅲ		1
			小計	1		
			O-13-c V	1		

図 番 号	整理番号	出土位置	単位	点数	図版番号			
		未接合	O-13-c V	2				
			O-13-c Ⅲ	5				
			O-13-c V	2				
			小計	7				
図V-3-18	(171)		O-19-a Ⅲ	3	119-2			
	未接合	O-19-a Ⅲ	9					
		合計	66					
図V-4-19	(325)		O-17-d Ⅲ	3	119-2			
	未接合	O-17-d Ⅲ	33					
		未注記	30					
		小計	69					
図V-4-20	(311)		Q-24-d Ⅲ	4	119-2			
	未接合	Q-24-d Ⅲ	1					
		Q-25-a Ⅲ	4					
		小計	5					
図V-4-21	(273)		N-22-a Ⅲ	3	120-1			
	未接合	R-21-d Ⅲ	2					
		小計	5					
		未接合	N-22-a Ⅲ		11			
図V-4-22	(136)		O-18-c Ⅲ	2	120-1			
	未接合	Q-12 Ⅲa	2					
		Q-12 Ⅲb	5					
		小計	9					
		O-11-b Ⅲ	12					
		O-18-c Ⅲ	1					
		O-20-d Ⅲ	2					
		P-10-b Ⅲ	2					
		Q-12-b Ⅲ	1					
		Q-12-d Ⅲ	3					
		Q-12 Ⅲa	2					
Q-12 Ⅲb	32							
Q-12 Ⅲ上	5							
小計	60							
図V-4-23	(173)		M-24-a Ⅲ	7	120-1			
	不明	不明	1					
		小計	8					
		未接合	M-24-a Ⅲ		1			
図V-4-24	(854)		I-21-d Ⅲ	1	120-1			
図V-4-25	(861)		P-28-c Ⅲ	1	120-1			
図V-4-26	(854)		Q-21-d Ⅲ	1	120-1			
図V-4-27	(172)		N-20-a Ⅲ	7	120-2			
	未接合	N-20-a Ⅲ	7					
		N-22-a Ⅲ	3					
		小計	10					
図V-4-28	(894)		P-10-b Ⅲ	3	120-2			
	未接合	O-11-b Ⅲ	2					
		O-17-b Ⅲ	2					
		O-19-a Ⅲ	2					
		P-10-b Ⅲ	33					
		Q-12 Ⅲb	1					
		Q-21-c Ⅲ	1					
		未注記	45					
		小計	61					
		図V-4-29	(181)			N-22-d Ⅲ	2	120-2
		a	b		未接合	N-22-d Ⅲ	5	
小計	5							
	未接合	N-22-b Ⅲ	2					
		N-22-d Ⅲ	51					
		N-22-d Ⅲ	3					
		小計	56					
図V-4-30	(221)		R-25-d Ⅲ	6	120-2			
図V-4-31	(254)		P-27-b Ⅲ	4	120-2			
	未接合	P-27-b Ⅲ	10					
		合計	120					
図V-4-32	(144)		H-13-b Ⅲ	3	120-2			
	未接合	H-12-c Ⅲ	1					
		H-12-c Ⅲ	1					
		H-12-c Ⅲ	1					
		H-13-b Ⅲ	87					
		H-13-b Ⅲ	1					
		H-15-b Ⅲ	1					
		H-17-b Ⅲ	1					
		H-20-a Ⅲ	2					
		I-20 Ⅲ中	1					
		J-14-a Ⅲ	10					
J-14-a Ⅲ	3							
J-14-d Ⅲ	1							
小計	117							

V 包含層出土の遺物

図 番 号	発掘番号	出土位置	層 位	点数	図説番号
ⅧV-4-33	(183)	未検出	O-29	20	120-2
			O-27-a	5	
			O-29	1	
			小計	14	
ⅧV-4-34	(707)	Q-10-a	Ⅲ	1	121-1
ⅧV-4-35	(816)	M-23-a	Ⅲ	1	121-1
ⅧV-4-36	(701)	Q-11-a	Ⅲ	1	121-1
ⅧV-4-37	(704)	Q-12	Ⅲa	1	121-1
ⅧV-4-38	(284)	未検出	Q-8-d	20	121-1
			Q-8-a	1	
			Q-8-b	5	
			Q-8-c	12	
			Q-8-d	1	
		小計		19	
ⅧV-4-39	(742)	Q-23	Ⅲb	2	121-1
ⅧV-4-40	(249)	未検出	Q-9	7	121-1
			Q-9	5	
ⅧV-4-41	(137)	未検出	Q-9	2	115-3
			L-11-c	66	
			不明	2	
			小計	68	
			L-11-b	1	
		未検出	L-11-c	51	
			L-11-c	30	
			不明	2	
		小計		66	
ⅧV-5-42	(132)	未検出	L-11-a	2	115-4
			L-22-c	47	
			小計	49	
			L-22-c	52	
			L-22-d	1	
		未検出	L-23-d	1	
			小計	54	
ⅧV-5-43	(782)	未検出	L-23-a	1	121-1
			L-23-b	1	
			L-23-d	2	
			小計	3	
ⅧV-5-44	(789)	L-11-a	Ⅲ	1	121-1
ⅧV-5-45	(301)	未検出	M-22-b	62	121-1
			小計	4	
ⅧV-5-46	(820)	M-20-d	Ⅲ	6	121-1
ⅧV-5-47	(698)	Q-10-a	Ⅲ	2	121-1
ⅧV-5-48	(664)	R-19-d	Ⅲ	3	121-1
ⅧV-5-49	(653)	P-17-a	Ⅲ	1	121-1
ⅧV-5-50	(9)	未検出	O-30-c	112	115-5
			O-30-d	2	
			小計	40	
			O-30-c	42	
			O-30-d	5	
		未検出	O-30-c	106	
			未検出	20	
		小計		130	
ⅧV-5-51	(163)	未検出	L-22-c	113	121-2
			N-24-c	27	
			N-不明-c	1	
			小計	28	
			N-24-c	63	
		未検出	N-24-d	1	
			O-24-b	1	
			未検出	20	
		小計		85	
ⅧV-5-52	(248)	N-22-a	Ⅲ	10	121-1
ⅧV-5-53	(728)	Q-23-a	Ⅲb	1	121-1
ⅧV-5-54	(786)	未検出	L-22-c	2	121-1
			小計	1	
ⅧV-5-55	(755)	O-11-b	Ⅲ	1	121-1
ⅧV-5-56	(786)	R-25-a	Ⅲ	2	121-1
ⅧV-5-57	(799)	M-26	Ⅲa	1	121-1
ⅧV-5-58	(811)	M-23-a	Ⅲ	2	121-1
ⅧV-5-59	(881)	R-25-d	Ⅲ	1	121-1
ⅧV-5-60	(771)	F-23-d	Ⅲ	1	121-1
ⅧV-5-61	(1)	未検出	Q-23	83	122-2
			Q-23	1	
			Q-23	22	
			小計	23	
			Q-23	5	
		未検出	Q-23	55	
			小計	60	
ⅧV-5-62	(247)	未検出	F-31-b	122-1	
			小計	2	

図 番 号	発掘番号	出土位置	層 位	点数	図説番号
b	未検出	P-31-a	Ⅲ	1	
			小計	3	
			P-31-b	4	
			P-31-c	1	
		小計		5	
ⅧV-6-63	(783)	R-20-c	Ⅲ	1	122-1
ⅧV-6-64	(186)	未検出	N-23-a	11	122-1
			N-23-a	2	
			N-23-d	9	
			N-23-d	1	
			小計	9	
ⅧV-6-65	(725)	未検出	Q-23	4	122-1
			Q-24-d	3	
ⅧV-6-66	(308)	未検出	N-23-a	25	122-1
			N-23-a	5	
ⅧV-6-67	(291)	未検出	N-23-a	15	122-1
			M-22-d	11	
			M-22-d	1	
			小計	2	
			I-21-c	1	
		未検出	M-22-c	6	
			M-22-c	1	
			M-22-c	1	
		未検出	M-22-d	1	
			小計	8	
ⅧV-6-68	(230)	未検出	N-22-d	12	122-2
			小計	8	
ⅧV-6-69	(327)	未検出	N-22-d	6	122-1
			L-24-b	1	
			L-24-b	3	
			小計	4	
		未検出	L-24-c	1	
			小計	31	
ⅧV-6-70	(317)	未検出	Q-10-d	1	123-1
			Q-11-b	2	
			N-21-c	1	
			O-18-b	6	
			小計	2	
			N-21	2	
			M-22-b	3	
			P-17-a	11	
		未検出	P-17-b	4	
			P-17-c	1	
			P-19-d	3	
		小計		25	
ⅧV-6-71	(140)	未検出	M-26-a	28	123-1
			小計	12	
ⅧV-6-72	(377)	未検出	M-26-a	16	123-1
			P-20-c	2	
			P-20-c	1	
			Q-20-d	1	
		小計		2	
ⅧV-6-73	(169)	未検出	L-11-b	110	123-2
			L-11-b	9	
			不明	12	
			小計	2	
			L-11-b	87	
ⅧV-6-74	(102)	未検出	L-26-b	64	115-6
			M-26-a	7	
			M-26-a	57	
			未検出	1	
			小計	60	
		未検出	M-26-a	3	
			未検出	1	
		小計		1	
ⅧV-6-75	(176)	未検出	Q-23	19	123-1
			P-28	3	
			P-28	8	
			小計	12	
		未検出	P-28	7	
			小計	34	
ⅧV-6-76	(174)	未検出	L-18-d	2	123-2
			L-18-d	17	
			不明	1	
			小計	20	
			L-18-d	11	
			L-20-a	3	
			小計	14	
			小計	18	
ⅧV-6-77	(184)	未検出	Q-23-b	8	124-1
			Q-23-b	2	

區 番 号	整理番号	出 社 氏 名	職 位	点 数	回数番号
	未組合	Q-23-b	重 b	小計 4	
		Q-23	重 b	3	
		不明		3	
				小計 10	
				合計 7	
区 V-7-78	(257)	Q-11-d	重	5	126-1
区 V-7-79	(252)			合計 7	124-1
	未組合	Q-9	重上	2	
		Q-9	重中	3	
			小計	5	
		Q-9	重上	1	
		Q-9	重中	1	
区 V-7-80	(760)	R-22-d	重	小計 2	124-1
区 V-7-81	(259)			合計 6	124-1
	未組合	O-26-c	重	3	
		O-26-d	重	1	
				小計 4	
		O-26-c	重	2	
		P-27-c	重	2	
区 V-7-82	(763)	P-27-c	重	2	124-1
区 V-7-83	(678)	N-26-a	重	2	124-1
区 V-7-84	(796)	M-26	重	1	124-2
区 V-7-85	(694)			合計 2	124-2
	未組合	Q-9	重	1	
		Q-9	重中	1	
				小計 2	
		M-26-d	重	1	
		R-22-c	重	3	
区 V-7-86	(798)	M-26-d	重	1	124-2
区 V-7-87	(778)	R-22-c	重	3	124-2
区 V-7-88	(715)	Q-20-c	重	1	124-2
区 V-7-89	(740)	O-21	重	2	124-2
区 V-7-90	(693)	Q-9	重中	1	124-2
区 V-7-91	(774)	L-24-b	重	1	124-2
区 V-7-92	(757)			合計 2	124-2
	未組合	R-22-a	重	1	
		R-22-a	重	1	
		K-25-a	重	1	
		Q-13-d	重	2	
		O-22-a	重	1	
区 V-7-93	(777)	K-25-a	重	1	124-2
区 V-7-94	(710)	Q-13-d	重	2	124-2
区 V-7-95	(731)	O-22-a	重	1	124-2
区 V-7-96	(669)			合計 8	124-2
	未組合	F-18-b	重	3	
		F-17-a	重	1	
		F-18-b	重	4	
				小計 5	
				合計 1	
区 V-7-97	(519)	M-20-a	重	2	124-2
区 V-7-98	(712)	Q-10-c	重	2	124-2
区 V-7-99	(719)	Q-29	重	1	124-2
区 V-7-100	(720)	Q-29	重 b	2	124-2
区 V-7-101	(761)			合計 2	124-2
	未組合	P-28-c	重	1	
		P-28-c	重	1	
		O-15-d	重	3	
		M-28-a	重	3	
				合計 11	125-1
	未組合	M-22-c	重	3	
		M-22-c	重	3	
		M-22-c	重	5	
				小計 8	
				合計 2	125-1
区 V-8-105	(905)	M-22-d	重	2	125-1
区 V-8-106	(797)	M-26-a	重	1	125-1
区 V-8-107	(135)			合計 116	125-2
	未組合	M-22-a	重	10	
		M-22-a	重	83	
		未定形		21	
		不明		2	
				小計 106	
区 V-8-108	(296)			合計 4	125-1
	未組合	Q-13-d	重	3	
		Q-18-a	重	1	
				合計 29	
		P-26-c	重	5	
		P-26-c	重	23	
区 V-8-110	(253)			合計 12	125-1
	未組合	Q-20-d	重	3	
		Q-20-d	重	9	
				合計 30	
		Q-22-d	重	2	
		Q-22-d	重	21	
区 V-8-111	(890)			合計 23	125-1
	未組合	Q-22-d	重	2	
		Q-10-c	重	2	
		Q-22-d	重	21	
				小計 23	
				合計 169	116-1
区 V-8-112	(157)			合計 96	
	未組合	K-11-b	重	96	
		K-11-c	重	2	
		L-11-a	重	3	
		未定形		10	
				小計 111	
	未組合	K-11-b	重	47	
		L-11-a	重	3	
				合計 8	
				合計 3	
				合計 3	

区 番 号	整理番号	出 社 氏 名	職 位	点 数	回数番号
	未組合	M-17-a	重上	2	
		M-17-a	重中	5	
		M-17-b	重中	2	
				合計 25	
				合計 125-1	
区 V-8-113	(255)			合計 125-1	
区 V-8-114	(210)			合計 125-2	
	未組合	K-22-b	重	15	
		K-22-b	重	10	
				合計 12	
		Q-21-b	重	7	
		Q-21-b	重	5	
区 V-8-115	(237)			合計 12	126-1
区 V-8-116	(841)	L-18-d	重	5	126-1
区 V-8-117	(857)	P-21-a	重	1	126-1
区 V-8-118	(963)	I-21-c	重	4	126-1
区 V-8-119	(252)			合計 41	126-1
	未組合	I-19-b	重	9	
		I-19-b	重	30	
		P-21-b	重	3	
		P-25-a	重	7	
				合計 42	126-2
区 V-8-120	(850)	P-21-b	重	3	126-1
区 V-8-121	(856)	P-25-a	重	7	126-2
区 V-8-122	(253)			合計 7	126-2
	未組合	Q-27	重 a	2	
		Q-27	重 a	4	
				合計 45	
				合計 126-2	
				合計 4	
区 V-8-123	(170)			合計 4	126-2
	未組合	K-18-c	重	4	
		K-18-c	重	6	
				合計 3	
		K-17-d	重	1	
		K-18-c	重	32	
区 V-8-124	(847)			合計 34	126-2
	未組合	P-21-d	重	2	
		P-21-d	重	2	
				合計 14	
				合計 126-2	
				合計 2	
区 V-8-125	(830)			合計 14	126-2
	未組合	M-25	重	1	
		P-21-d	重	2	
				合計 2	
				合計 1	
				合計 1	
区 V-8-126	(540)	N-23-a	重	3	126-2
区 V-8-127	(523)	M-24-a	重	1	126-2
区 V-8-128	(844)			合計 6	126-2
	未組合	P-26-c	重	4	
		P-26-c	重	2	
				合計 2	
				合計 2	
				合計 2	
区 V-8-129	(848)	P-26-c	重	2	126-2
区 V-8-130	(838)	L-26	重	1	126-2
区 V-8-131	(532)	M-21	重 b	1	127-1
区 V-8-132	(852)			合計 2	127-1
	未組合	N-22-d	重	1	
		N-22-d	重	1	
		M-26-b	重	2	
		M-19-b	重	1	
		R-22-d	重	4	
区 V-8-133	(856)			合計 130	116-2
区 V-8-134	(852)			合計 127-1	
区 V-8-135	(849)			合計 4	127-1
区 V-8-136	(143)			合計 130	116-2
	未組合	L-25	重	2	
		M-26-a	重	42	
		M-26-a	重	1	
		N-26-a	重	10	
				合計 55	
	未組合	L-25	重	38	
		L-26-b	重	1	
		L-27-c	重	1	
		M-22-b	重	1	
		M-25-b	重	2	
	未組合	M-25-d	重	4	
		M-26-a	重	25	
		N-23-d	重	1	
		N-26-a	重	2	
				合計 75	
区 V-8-137	(773)			合計 2	127-1
	未組合	P-23-d	重	1	
		P-21-d	重	1	
		P-23-d	重	1	
		P-23-d	重	1	
		P-23-d	重	1	
区 V-8-138	(258)			合計 4	127-1
区 V-8-139	(814)	M-25-d	重	1	127-1
区 V-8-140	(295)			合計 10	127-1
	未組合	N-19-b	重	5	
		M-25	重	5	
		N-19-c	重	5	
				合計 5	
				合計 5	
区 V-8-141	(516)			合計 34	127-1
	未組合	P-27-b	重	2	
		P-27-b	重	2	
				合計 6	
				合計 6	
				合計 6	

V 包含層出土の遺物

図 号	整理番号	出土位置	単位	点数	図版番号
図 V-9-142	(749)	P-28-d	Ⅲ	27	127-2
		小計		28	
図 V-9-143	(970)	G-17-b	Ⅲ	1	127-2
		未検合		1	
図 V-9-144	(972)	G-16-e	Ⅲ	1	127-2
		未検合		1	
図 V-9-145	(336)	I-18	Ⅲ a	1	127-2
		未検合		56	
図 V-9-146	(973)	K-18-d	Ⅲ	3	127-2
		未検合		8	
図 V-9-147	(888)	K-18-c	Ⅲ	5	127-2
		未検合		45	
図 V-9-148	(208)	Q-20-a	Ⅲ	3	127-2
		未検合		3	
図 V-9-149	(5)	L-10-d	Ⅲ	5	127-2
		未検合		4	
図 V-9-150	(779)	N-23-a	Ⅲ	5	127-2
		未検合		8	
図 V-9-151	(138)	N-23-a	Ⅲ	5	127-2
		未検合		8	
図 V-10-152	(234)	I-18	Ⅲ a	10	128-1
		未検合		102	
図 V-10-153	(751)	I-18	Ⅲ a	1	128-1
		未検合		1	
図 V-10-154	(970)	L-10-d	Ⅲ	5	128-1
		未検合		4	
図 V-10-155	(138)	L-24-b	Ⅲ	1	128-1
		未検合		3	
図 V-10-156	(234)	K-18-c	Ⅲ	8	128-1
		未検合		128-1	
図 V-10-157	(746)	Q-20-c	Ⅲ	1	128-2
		未検合		3	
図 V-10-158	(213)	L-24-b	Ⅲ	2	128-2
		未検合		3	
図 V-10-159	(711)	Q-13-c	Ⅲ	1	128-2
		未検合		1	
図 V-10-160	(652)	P-17-a	Ⅲ	1	128-2
		未検合		1	
図 V-10-161	(750)	K-25-a	Ⅲ	2	128-2
		未検合		2	
図 V-10-162	(886)	N-23-a	Ⅲ	3	128-2
		未検合		3	
図 V-10-163	(980)	N-19-b	Ⅲ	1	128-2
		未検合		2	
図 V-10-164	(822)	M-17-c	Ⅲ	1	128-2
		未検合		1	
図 V-10-165	(224)	P-23-c	Ⅲ	3	128-2
		未検合		3	
図 V-10-166	(963)	I-17-d	Ⅲ	1	128-2
		未検合		1	
図 V-10-167	(196)	I-18-b	Ⅲ	12	128-2
		未検合		12	

図 号	整理番号	出土位置	単位	点数	図版番号
図 V-10-168	(318)	Q-20-d	Ⅲ	27	129-1
		未検合		14	
図 V-11-169	(162)	Q-20-d	Ⅲ	9	129-1
		未検合		9	
図 V-11-170	(735)	O-24-c	Ⅲ	2	129-2
		未検合		1	
図 V-11-171	(690)	N-23-a	Ⅲ	1	129-2
		未検合		2	
図 V-11-172	(661)	J-13-a	Ⅲ	1	129-2
		未検合		1	
図 V-11-173	(685)	N-23-d	Ⅲ	2	129-2
		未検合		2	
図 V-11-174	(692)	Q-8-b	Ⅲ	1	129-2
		未検合		2	
図 V-11-175	(674)	H-20-c	Ⅲ	1	129-2
		未検合		1	
図 V-11-176	(741)	Q-21-b	Ⅲ	1	129-2
		未検合		1	
図 V-11-177	(801)	M-24-a	Ⅲ	1	129-2
		未検合		1	
図 V-11-178	(729)	Q-23	Ⅲ b	1	129-2
		未検合		30	
図 V-11-179	(206)	N-19-d	Ⅲ	2	129-2
		未検合		16	
図 V-11-180	(786)	K-18-d	Ⅲ	1	129-2
		未検合		1	
図 V-11-181	(758)	E-18-a	Ⅲ	2	129-2
		未検合		23	
図 V-11-182	(185)	Q-8-c	Ⅲ	7	129-2
		未検合		14	
図 V-11-183	(466)	L-18-b	Ⅲ	4	129-2
		未検合		1	
図 V-11-184	(151)	Q-20-d	Ⅲ	20	130-1
		未検合		17	
図 V-11-185	(187)	H-20-b	Ⅲ	27	130-1
		未検合		36	
図 V-11-186	(547)	P-20-d	Ⅲ	1	130-1
		未検合		6	
図 V-11-187	(967)	E-20-d	Ⅲ	1	130-1
		未検合		21	
図 V-11-188	(830)	Q-14-a	Ⅲ	11	130-1
		未検合		3	
図 V-11-189	(211)	N-22-d	Ⅲ	5	130-1
		未検合		7	
図 V-11-190	(131)	L-23-c	Ⅲ	4	130-2
		未検合		13	
図 V-12-191	(16)	Q-20-a	Ⅲ	111	130-2
		未検合		111	

国 参 号	要項番号	出 立 位 置	席 位	点数	国参番号
国 V-12-193	(180)	未組合	Q-20-a	52	130-2
			合計	50	
			H-15-c	5	
			H-15-b	31	
			H-16-b	10	
国 V-12-194	(669)	未組合	O-23-a	2	130-2
			O-22-b	2	
			小計	45	
			N-23-d	1	
			合計	118	
国 V-13-195	(143)	未組合	I-16-d	87	116-6
			I-16-a	60	
			I-16-b	61	
			小計	50	
			合計	118	
国 V-12-196	(179)	未組合	H-17-b	8	130-2
			H-17-b	2	
			H-17-b	2	
			小計	12	
			合計	36	
国 V-12-197	(225)	未組合	H-16-b	1	131-2
			H-17-b	36	
			未注記	1	
			小計	38	
			合計	40	
国 V-12-198	(161)	未組合	Q-23	2	131-1
			Q-23	2	
			Q-23	2	
			小計	7	
			合計	31	
国 V-12-199	(818)	未組合	Q-21-b	30	131-2
			不明	1	
			小計	31	
			合計	36	
			不明	1	
国 V-12-200	(813)	未組合	Q-21-b	36	131-2
			Q-21-c	1	
			R-17-d	1	
			未注記	7	
			小計	45	
国 V-12-201	(245)	未組合	Q-21-b	3	131-2
			O-28-a	1	
			L-23-d	2	
			小計	6	
			合計	13	
国 V-12-202	(766)	未組合	M-23-a	1	131-2
			M-20-b	5	
			M-20-b	36	
			M-22-c	1	
			小計	42	
国 V-12-203	(766)	未組合	P-22-a	37	131-2
			L-23-d	2	
			合計	7	
			L-24-b	2	
			L-20-c	1	
国 V-12-204	(674)	未組合	L-23-c	2	131-2
			L-23-d	1	
			L-23-d	1	
			N-24-b	1	
			小計	5	
国 V-13-205	(176)	未組合	G-15-c	20	131-2
			G-16-c	3	
			G-16-c	12	
			G-17-b	5	
			小計	17	
国 V-13-206	(884)	未組合	M-25-d	15	131-2
			M-25-d	14	
			合計	15	
			M-25-d	1	
			合計	14	
国 V-13-207	(129)	未組合	Q-23	9	132-1
			Q-23-b	3	
			Q-23-c	4	
			O-25-b	1	
			小計	17	
国 V-13-208	(884)	未組合	O-16-a	1	131-2
			O-18-b	1	
			O-21-c	1	
			O-22-a	1	
			P-9-b	1	
国 V-13-209	(326)	未組合	Q-22-c	18	132-2
			Q-23-b	18	
			Q-23-c	1	
			未注記	1	
			小計	43	
国 V-13-210	(884)	未組合	P-20-d	8	131-2
			合計	12	
			Q-10-b	2	
			Q-10-b	4	
			Q-10-b	2	

国 参 号	要項番号	出 立 位 置	席 位	点数	国参番号
国 V-13-211	(226)	未組合	Q-10-c	4	132-2
			小計	10	
			M-23-d	3	
			合計	18	
			小計	4	
国 V-13-212	(665)	未組合	M-21	2	132-2
			M-21	2	
			小計	6	
			M-21	4	
			M-21	6	
国 V-14-213	(665)	未組合	M-21	2	132-2
			M-21	2	
			小計	12	
			合計	5	
			小計	2	
国 V-14-214	(661)	未組合	Q-8-a	2	132-2
			Q-8-c	2	
			Q-8-d	1	
			小計	5	
			合計	19	
国 V-14-215	(159)	未組合	P-19-b	1	132-2
			P-19-c	1	
			P-19-b	1	
			小計	3	
			合計	15	
国 V-14-216	(159)	未組合	O-19-b	5	132-2
			P-19-a	1	
			P-19-a	1	
			P-19-b	7	
			P-19-c	1	
国 V-14-217	(10)	未組合	R-22-d	28	133-1
			R-22-d	28	
			小計	30	
			合計	62	
			未注記	5	
国 V-14-218	(159)	未組合	L-23-d	5	132-2
			L-23-d	6	
			小計	11	
			合計	61	
			未注記	3	
国 V-14-219	(896)	未組合	Q-23	6	132-2
			Q-23	3	
			小計	9	
			合計	206	
			未注記	31	
国 V-14-220	(7)	未組合	P-21-d	118	117-1
			P-21-d	20	
			未注記	23	
			小計	52	
			合計	267	
国 V-14-221	(4)	未組合	Q-23	134	117-2
			不明	4	
			小計	47	
			合計	28	
			未注記	37	
国 V-15-212	(812)	未組合	Q-23	7	134-1
			不明	5	
			未注記	5	
			小計	77	
			合計	1	
国 V-15-213	(727)	未組合	M-23-d	1	134-1
			Q-26-d	1	
			M-23-d	1	
			合計	1	
			小計	1	
国 V-15-214	(764)	未組合	P-26-c	1	134-1
			P-26-c	1	
			小計	1	
			合計	3	
			未注記	2	
国 V-15-215	(669)	未組合	L-23-d	1	134-1
			L-23-d	1	
			小計	1	
			合計	1	
			未注記	1	
国 V-15-216	(665)	未組合	J-14-d	41	133-1
			J-20-b	1	
			J-20-c	20	
			J-20-c	20	
			小計	25	
国 V-15-217	(227)	未組合	J-20-c	12	134-1
			N-19-c	2	
			N-19-d	1	
			小計	3	
			合計	3	

V 包含層出土の遺物

図 号	整理番号	出土位置	単位	点数	図版番号
		P-16-a	Ⅱ	6	
		未注記		1	
		合計		7	
図V-15-228	(330)			63	133-2
		L-11-a	Ⅱ	2	
		L-10-b	Ⅱ	16	
		不明		1	
		小計		21	
		未整合		3	
		L-10-b	Ⅱ	3	
		L-10-d	Ⅱ	14	
		L-11-a	Ⅱ	6	
		L-19-a	Ⅱ	1	
		L-19-b	Ⅱ	1	
		L-19-d	Ⅱ	11	
		小計		42	
図V-15-229	(228)			24	133-2
		O-19-b	Ⅱ	14	
		P-11-b	Ⅱ	6	
		小計		20	
		未整合		2	
		P-16-b	Ⅱ	2	
		Q-19-b	Ⅱ	1	
		Q-20-b	Ⅱ	1	
		小計		4	
図V-15-230	(331)			50	134-1
		N-22-d	Ⅱ	3	
		N-22-d	Ⅱ	2	
		小計		5	
		未整合		1	
		N-19-c	Ⅱ	1	
		N-19-d	Ⅱ	1	
		N-22-d	Ⅱ	42	
		N-23-a	Ⅱ	1	
		小計		49	
図V-15-231	(138)			128	134-2
		O-22-a	Ⅱ	8	
		O-22-b	Ⅱ	25	
		O-22-b	Ⅱ	2	
		不明		2	
		小計		37	
		未整合		1	
		O-17-b	Ⅱ	2	
		O-18-a	Ⅱ	2	
		O-22-a	Ⅱ	3	
		O-22-b	Ⅱ	82	
		O-23-b	Ⅱ	2	
		R-25-d	Ⅱ	1	
		小計		91	
図V-15-232	(223)			10	134-1
		I-15	風割	1	
		Q-23	Ⅱ	2	
		Q-23	Ⅱ	2	
		小計		4	
		未整合		1	
		I-15	風割	3	
		Q-23	Ⅱ	1	
		不明		1	
		小計		6	
図V-15-233	(728)	O-21-b	Ⅱ	2	134-1
図V-15-234	(722)	O-24-a	Ⅱ	1	134-1
図V-15-235	(772)	P-21-c	Ⅱ	2	134-1
図V-15-236	(691)	N-20-a	Ⅱ	1	134-1
図V-15-237	(744)	O-17-b	Ⅱ	2	134-1
図V-15-238	(778)	L-24-c	Ⅱ	1	134-1
図V-15-239	(613)	M-20-a	Ⅱ	2	134-1
図V-15-240	(755)			6	134-1
		R-26-d	Ⅱ	3	
		未整合		3	
図V-15-241	(229)			18	134-2
		O-20-a	Ⅱ	2	
		O-20-a	Ⅱ	6	
		小計		8	
		未整合		6	
		P-20-a	Ⅱ	6	
		P-21-a	Ⅱ	2	
		小計		10	
図V-15-242	(787)	K-22-d	Ⅱ	2	135-1
図V-15-243	(799)	P-28	Ⅱ	1	135-1
図V-15-244	(915)	M-23-d	Ⅱ	1	135-1
図V-15-245	(658)			2	135-1
		J-18-c	Ⅱ	1	
		未整合		1	
図V-15-246	(717)	Q-22-a	Ⅱ	1	135-1
図V-15-247	(676)	N-13-c	Ⅱ	1	135-1
図V-15-248	(675)	Q-23	Ⅱ	2	135-1
図V-15-249	(597)			16	135-1
		M-25-b	Ⅱ	3	
		未整合		3	
		M-25	Ⅱ	10	
		小計		13	

図 号	整理番号	出土位置	単位	点数	図版番号
図V-15-250	(293)			3	135-1
		O-16-a	Ⅱ	1	
		風割		1	
		小計		4	
		未整合		1	
		M-23-b	Ⅱ	1	
		O-16-a	Ⅱ	2	
		P-22-c	Ⅱ	1	
		不明		1	
		小計		5	
図V-15-251	(291)			7	135-1
		P-31-b	Ⅱ	4	
		未整合		1	
		P-30-c	Ⅱ	1	
		P-31-b	Ⅱ	2	
		小計		3	
図V-15-252	(220)			54	135-1
		O-21-b	Ⅱ	3	
		未整合		3	
		O-21-a	Ⅱ	37	
		O-21-b	Ⅱ	9	
		O-21-c	Ⅱ	1	
		O-21-d	Ⅱ	1	
		不明		1	
		小計		51	
図V-15-253	(318)			7	135-1
		Q-29	Ⅱ	3	
		未整合		1	
		O-21-b	Ⅱ	3	
		Q-29	Ⅱ	4	
		小計		4	
図V-15-254	(867)	Q-11-b	Ⅱ	3	135-1
図V-15-255	(219)			44	135-1
		O-11-c	Ⅱ	4	
		未整合		1	
		O-11-a	Ⅱ	38	
		O-11-c	Ⅱ	1	
		P-29-c	Ⅱ	1	
		小計		40	
図V-15-256	(885)			6	135-1
		Q-13-c	Ⅱ	3	
		未整合		1	
		Q-13-c	Ⅱ	2	
		Q-21-d	Ⅱ	1	
		小計		3	
図V-15-257	(292)			41	135-2
		M-19-c	Ⅱ	6	
		未整合		30	
		M-19	Ⅱ	2	
		N-19-a	Ⅱ	2	
		不明		1	
		小計		39	
図V-15-258	(193)			56	117-3
		M-25-b	Ⅱ	28	
		M-25	Ⅱ	18	
		未注記		5	
		小計		51	
		未整合		5	
図V-15-259	(232)			17	135-2
		K-18-d	Ⅱ	2	
		未整合		15	
図V-15-260	(262)			5	135-2
		P-20-c	Ⅱ	5	
		未整合		5	
図V-17-261	(264)			74	135-2
		O-21	風割	3	
		O-29-b	Ⅱ	3	
		小計		6	
		未整合		1	
		O-21-b	Ⅱ	37	
		O-21	風割	29	
		不明		1	
		小計		68	
図V-17-262	(953)	M-19-b	Ⅱ	2	134-2
図V-17-263	(943)	P-21-c	Ⅱ	1	134-2
図V-17-264	(943)	P-26-d	Ⅱ	3	135-2
図V-17-265	(959)	P-15-c	Ⅱ	1	135-2
図V-17-266	(241)			65	136-1
		Q-13-a	Ⅱ	1	
		Q-13-a	Ⅱ	11	
		未整合		30	
		Q-13-a	Ⅱ	6	
		Q-13-a	Ⅱ	17	
		未注記		33	
図V-17-267	(239)			42	136-2
		Q-25-a	Ⅱ	3	
		未整合		29	
		Q-25-a	Ⅱ	10	
		未注記		30	
		小計		30	
図V-17-268	(842)	O-18-a	Ⅱ	2	135-2
図V-17-269	(951)	M-25-d	Ⅱ	1	135-2
図V-17-270	(960)	R-17-d	Ⅱ	1	135-2

國 番 号	発現番号	出 土 位 置	点 数	総数
国 V-17-271	(896)	合計	139	117-5
		O-22-a Ⅲ	36	
		不明	1	
		小計	37	
		未検合	1	
		O-16-a Ⅲ	1	
		O-16-d Ⅲ	1	
		O-17-a Ⅲ	9	
		O-17-a 不明	1	
		O-22-a Ⅲ	78	
		O-27-d Ⅲ	1	
		不明	1	
		小計	92	
国 V-17-272	(110)	合計	186	136-1
		R-22-a Ⅲ	22	
		未検合	3	
		小計	25	
		未検合	60	
		小計	80	
国 V-17-273	(128)	合計	159	136-2
		J-10-c Ⅲ	2	
		J-10-d Ⅲ	18	
		J-10-c Ⅳ	5	
		小計	25	
		未検合	32	
		J-15-d Ⅲ	15	
		J-10-d Ⅳ	16	
		J-20-c Ⅲ	21	
		不明	1	
		小計	85	
国 V-18-274	(270)	合計	39	136-2
		M-25-b Ⅲ	2	
		M-25-b Ⅲ中	1	
		M-25-b Ⅲ	2	
		M-25-b Ⅳ	1	
		小計	6	
		未検合	2	
		M-25-b Ⅲ	22	
		M-25-c Ⅲ	1	
		M-25 Ⅲ中	5	
		O-16-d Ⅲ	2	
		不明	1	
		小計	33	
国 V-18-275	(212)	合計	64	136-2
		N-19-d Ⅲ	6	
		未検合	50	
		N-20-a Ⅲ	8	
		小計	56	
国 V-18-276	(575)	H-19-a Ⅲ	1	136-2
国 V-18-277	(233)	合計	33	137-1
		H-16-c Ⅲ	8	
		F-15-b Ⅲ	1	
		F-17-b Ⅲ	1	
		H-16-a Ⅲ	1	
		H-16-b Ⅲ	6	
		H-16-c Ⅲ	8	
		H-16-d Ⅲ	1	
		J-15-d Ⅲ	3	
		P-13-a Ⅲ	4	
		小計	25	
国 V-18-278	(154)	合計	73	137-1
		Q-24-d Ⅲ	3	
		Q-24-c Ⅲ	10	
		Q-24-d Ⅲ	1	
		小計	14	
		未検合	2	
		P-21-a Ⅲ	1	
		Q-24-a Ⅲ	1	
		Q-24-b Ⅲ	1	
		Q-24-c Ⅲ	19	
		Q-24-d Ⅲ	36	
		小計	59	
国 V-18-279	(802)	合計	5	137-1
		R-24-d Ⅲ	2	
		未検合	3	
国 V-18-280	(200)	合計	7	137-1
		M-25-b Ⅲ	3	
		未検合	4	
国 V-18-281	(801)	合計	9	137-1
		P-12-a Ⅲ	4	
		N-11-c Ⅲ	1	
		N-11-c Ⅳ	3	
		P-12-b Ⅲ	1	
		小計	5	
国 V-18-282	(523)	合計	10	137-1
		P-31-b Ⅲ	1	
		未検合	3	
		P-31-b Ⅲ	6	

國 番 号	発現番号	出 土 位 置	点 数	総数
国 V-18-283	(524)	合計	52	117-4
		N-22-a Ⅲ	9	
		N-22-b Ⅲ	20	
		N-22-b Ⅳ	1	
		小計	30	
		未検合	1	
		L-19-a Ⅲ	1	
		L-19-d Ⅲ	6	
		N-21-c Ⅲ	1	
		N-21-d Ⅲ	4	
		N-22-a Ⅲ	1	
		N-22-b Ⅲ	7	
		N-22-d Ⅲ	1	
		N-22-b Ⅳ	5	
		N-22-a Ⅲ	4	
		小計	30	
国 V-18-284	(836)	合計	7	137-1
		O-17-b Ⅲ	5	
		未検合	2	
国 V-18-285	(831)	M-25-a Ⅲ	1	137-2
国 V-18-286	(221)	合計	41	137-2
		M-22-c Ⅲ	1	
		M-22-c Ⅲ	1	
		M-22-c Ⅳ	2	
		小計	4	
		未検合	16	
		M-22-c Ⅳ	16	
		M-22-c Ⅳ	1	
		O-29 Ⅲ	13	
		P-25-b Ⅲ	1	
		小計	37	
国 V-18-287	(283)	合計	39	137-2
		K-22-d Ⅲ	3	
		K-22-d Ⅲ	1	
		小計	4	
		未検合	25	
国 V-18-288	(340)	合計	6	137-2
		Q-13-b Ⅲ	5	
		未検合	1	
		Q-13-c Ⅲ	2	
		小計	7	
国 V-18-289	(830)	M-23-c Ⅲ	1	137-2
国 V-18-290	(829)	M-23-b Ⅲ	1	137-2
国 V-18-291	(294)	合計	10	137-2
		Q-20-d Ⅲ	1	
		未検合	9	
		Q-20-d Ⅲ	1	
国 V-18-292	(945)	N-25-c Ⅲ	1	137-2
国 V-18-293	(835)	合計	2	137-2
		O-30-b Ⅲ	1	
		未検合	1	
国 V-18-294	(866)	合計	4	137-2
		P-28-a Ⅲ	3	
		未検合	1	
国 V-19-295	(130)	合計	151	138-1
		G-19-b Ⅲ	26	
		G-19-b Ⅲ	105	
		未検合	20	
		小計	125	
国 V-18-296	(310)	合計	21	137-2
		Q-21-d Ⅲ	2	
		Q-21-d Ⅲ	2	
		小計	4	
		未検合	17	
国 V-18-297	(301)	N-25-a Ⅲ	1	137-2
国 V-18-298	(805)	L-23-a Ⅲ	1	137-2
国 V-18-299	(238)	合計	22	137-2
		I-20-b Ⅲ	3	
		I-20-b Ⅲ	18	
		I-20-a Ⅲ	1	
		小計	19	
国 V-19-300	(152)	合計	124	118-1
		K-11-b Ⅲ	48	
		L-11-a Ⅲ	8	
		不明	7	
		小計	63	
		未検合	32	
		K-11-b Ⅲ	32	
		L-11-a Ⅲ	3	
		L-19-a Ⅲ	1	
		未検合	18	
		不明	6	
		小計	60	
国 V-19-301	(141)	合計	61	118-2
		M-26-a Ⅲ	63	
		未検合	18	
国 V-19-302	(329)	合計	17	138-2
		Q-10-c Ⅲ	3	
		Q-10-c Ⅲ	13	

V 包含層出土の遺物

図 番 号	発掘番号	出土位置	単 位	点数	図版番号
		Q-10-c	Ⅱ	2	
図V-20-303	(886)	Q-23	Ⅲb	5	130-2
図V-20-304	(924)			合計 13	130-2
		F-31-a	Ⅲ	2	
		F-31-b	Ⅲ	5	
		未検出		小計 7	
		P-30-c	Ⅲ	1	
		P-31-a	Ⅲ	2	
		P-31-b	Ⅲ	3	
		未検出		小計 6	
図V-20-305	(134)			合計 288	118-3
		I-20-c	Ⅲ	1	
		I-20-d	Ⅲ	87	
		I-20-d	Ⅲ	2	
		未検出		小計 91	
		F-20-d	Ⅲ	5	
		I-20-c	Ⅲ	1	
		I-20-d	Ⅲ	112	
		未検出		79	
		未検出		小計 197	
図V-20-306	(706)	Q-13-b	Ⅲ	1	130-1
図V-20-307	(827)			合計 10	130-1
		K-11-b	Ⅲ	6	
		K-11-b	Ⅲ	1	
		K-18-c	Ⅲ	1	
		L-24-b	Ⅲ	1	
		未検出		小計 4	
図V-20-308	(696)	Q-10	Ⅲ	1	130-1
図V-20-309	(684)	N-24-a	Ⅲ	1	130-1
図V-20-310	(716)	Q-21-d	Ⅲ	1	130-1
図V-20-311	(679)			合計 17	130-1
		N-19-b	Ⅲ	3	
		未検出		小計 1	
		N-19-d	Ⅲ	10	
		N-20-a	Ⅲ	3	
		未検出		小計 14	
図V-20-312	(681)			合計 3	130-1
		N-19-d	Ⅲ	1	
		未検出		小計 1	
		N-20-a	Ⅲ	1	
		未検出		小計 2	
図V-20-313	(617)	M-21	Ⅲb	1	130-1
図V-20-314		O-17-b	Ⅲ	1	130-1
		未検出		小計 1	
		未検出		小計 1	
図V-20-315	(759)	R-18-a	Ⅲ	1	130-1
図V-20-316	(730)	O-24-d	Ⅲ	2	130-1
図V-20-317	(790)	K-23-c	Ⅲ	1	130-1
図V-20-318	(678)			合計 3	130-1
		N-19-a	Ⅲ	1	
		未検出		小計 2	
図V-20-319	(784)	L-23-a	Ⅲ上	1	130-1
図V-21-320	(246)			合計 40	130-1
		L-18-c	Ⅲ	5	
		O-20-d	Ⅲ	6	
		未検出		小計 11	
		未検出		小計 1	
		L-18-c	Ⅲ	19	
		L-19-c	Ⅲ	1	
		O-20-d	Ⅲ	6	
		P-21-a	Ⅲ	1	
		P-22-b	Ⅲ	1	
		未検出		小計 29	
図V-21-321	(697)	Q-10-b	Ⅲ	1	130-1
図V-21-322	(828)			合計 12	130-1
		K-19-c	Ⅲ	4	
		未検出		小計 2	
		K-19-c	Ⅲ	2	
		K-19-d	Ⅲ	2	
		未検出		小計 8	
図V-21-323	(748)	O-17-d	Ⅲ	2	130-1
図V-21-324	(824)	P-31-b	Ⅲ	1	130-1
図V-21-325	(222)			合計 5	130-1
		P-31-a	Ⅲ	1	
		未検出		小計 1	
		P-30-b	Ⅲ	1	
		P-31-a	Ⅲ	1	
		P-31-b	Ⅲ	5	
		未検出		小計 7	
図V-21-326	(780)			合計 3	130-1
		L-24-b	Ⅲ	2	
		未検出		小計 1	
図V-21-327	(753)			合計 2	130-2
		L-18-d	Ⅲ	1	
		R-21-d	Ⅲ	1	
図V-21-328	(695)	Q-8-d	Ⅲ	1	130-2
図V-21-329	(673)	H-17-b	Ⅲ	1	130-2

図 番 号	発掘番号	出土位置	単 位	点 数	図版番号
図V-21-330	(666)	I-17-c	Ⅲ	2	130-2
図V-21-331	(793)		合計	4	130-2
		K-20-c	Ⅲ	2	
	未検出	K-20-b	Ⅲ	1	
		L-20-a	Ⅲ	1	
		小計	2		
図V-21-332	(587)		合計	6	130-2
		N-23-d	Ⅲ	2	
	未検出	N-22-d	Ⅲ	1	
		N-23-b	Ⅲ	1	
		N-23-d	Ⅲ	2	
		小計	4		
図V-21-333	(871)		合計	2	130-2
		N-20-b	Ⅲ	1	
		N-21-d	Ⅲ	1	
図V-21-334	(700)	Q-11-b	Ⅲ	1	130-2
図V-21-335	(671)	G-16-c	Ⅲ	1	130-2
図V-21-336	(680)	K-19-d	Ⅲ	1	130-2
図V-21-337	(822)	M-22-d	Ⅲ	1	130-2
図V-21-338	(672)	H-18-c	Ⅲ	1	130-2
図V-21-339	(667)	I-19-c	Ⅲ	1	130-2
図V-21-340	(705)		合計	3	130-2
		Q-13-d	Ⅲ	2	
	未検出	Q-20-c	Ⅲ	1	
図V-21-341	(660)		合計	3	130-2
		J-18-a	Ⅲ	1	
		J-18-b	Ⅲ	1	
		小計	2		
	未検出	J-18-b	Ⅲ	1	
図V-21-342	(690)	M-21	Ⅲb	1	130-2
図V-21-343	(688)		合計	5	130-2
		N-23-d	Ⅲ	1	
	未検出	N-23-a	Ⅲ	1	
		N-23-b	Ⅲ	1	
		N-23-d	Ⅲ	2	
		小計	4		
図V-21-344	(807)	N-23-a	Ⅲ	1	130-2
図V-21-345	(718)	Q-19	Ⅲ上	1	130-2
図V-21-346	(687)	J-14-d	Ⅲ	1	130-2
図V-21-347	(806)		合計	2	130-2
		M-22-b	Ⅲ	1	
		M-22-b	Ⅲ	1	
図V-21-348	(745)	R-23-d	Ⅲ	1	130-2
図V-21-349	(754)	R-22-d	Ⅲ	1	130-2
図V-21-350	(737)	O-22-a	Ⅲ	1	130-2
図V-21-351	(781)		合計	6	130-2
		L-23-b	Ⅲ	3	
	未検出	L-23-b	Ⅲ	2	
		L-23-d	Ⅲ	1	
		小計	3		
図V-21-352	(767)	F-26-c	Ⅲ	2	130-2
図V-21-353	(713)	Q-19	Ⅲb	2	140-1
図V-21-354	(709)	Q-18-b	Ⅲ	1	140-1
図V-21-355	(684)	P-11-d	Ⅲ	1	140-1
図V-21-356	(703)	Q-12	Ⅲ中	1	140-1
図V-21-357	(734)	O-19-a	Ⅲ	2	140-1
図V-21-358	(720)		合計	9	140-1
		Q-27	Ⅲ	1	
	未検出	Q-27	Ⅲa	5	
図V-21-359	(786)		合計	3	140-1
		P-22-a	Ⅲ	2	
		P-22-c	Ⅲ	1	
図V-21-360	(677)	N-18-d	Ⅲ	1	140-1
図V-21-361	(739)		合計	3	
		O-21-b	Ⅲ	1	
	未検出	O-21-b	Ⅲ	1	
図V-21-362	(792)	K-19-a	Ⅲ	1	140-1
図V-21-363	(770)	P-24-b	Ⅲ	1	140-1
図V-21-364	(721)		合計	5	140-1
		Q-23	Ⅲb	2	
	未検出	Q-12	Ⅲb	1	
		Q-23	Ⅲb	2	
		小計	3		
図V-21-365	(714)	Q-19-c	Ⅲ	1	140-1
図V-21-366	(623)		合計	3	140-1
		M-18-b	Ⅲ	2	
	未検出	M-18-b	Ⅲ	1	
図V-21-367	(682)		合計	3	140-1
		N-19-d	Ⅲ	1	
	未検出	N-19-d	Ⅲ	2	
図V-21-368	(821)		合計	12	140-1
		M-19-c	Ⅲ	3	
		M-19-c	Ⅲ	2	
		小計	5		
	未検出	M-19-c	Ⅲ	5	
		M-19-c	Ⅲ上	2	
		小計	7		

V 包含層出土の遺物

表V-7 包含層出土実測土器一覧

図番	図番	出土位置・層位	分類	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	写真図版	備考
1	図V-3-1	J-19-a 直壁	Ⅱ群b類	16.9	11.4	21.1	115-1	
2	図V-3-2	L-26 直壁	Ⅱ群b類	16.7	(13.9)	22.5	115-2	
3	図V-4-41	L-11-c 直壁ほか	Ⅱ群b類	16.3	10.5	26.0	115-3	
4	図V-5-42	L-11-a・L-22-c 直壁	Ⅱ群b類	18.0	10.2	31.6	115-4	
5	図V-5-50	O-20-c 直壁	Ⅱ群b類	21.2	10.5	28.2	115-5	
6	図V-7-74	M-26-a 直壁ほか	Ⅱ群b類	17.3	10.3	30.4	115-6	
7	図V-8-112	K-11-b 直壁ほか	Ⅱ群b類	(16.0)	8.1	(16.4)	116-1	
8	図V-9-136	M-26-a 直壁ほか	Ⅱ群b類	19.7	(9.9)	(26.4)	116-2	
9	図V-10-151	Q-20-d 直壁ほか	Ⅱ群b類	11.2	8.3	22.9	116-3	
10	図V-12-192	A-20-d 直壁	Ⅱ群b類	23.1	12.5	28.1	116-5	
11	図V-14-217	P-21-d 直壁	Ⅱ群b類	22.5	12.3	36.8	117-1	
12	図V-14-218	Q-23 直壁ほか	Ⅱ群b類	19.8	11.9	31.3	117-2	
13	図V-19-300	K-11-b・L-11-a 直壁	Ⅱ群b類	16.8	8.6	23.5	118-1	
14	図V-22-4	R-22-d IV類	I群a類	(12.3)	4.0	(11.5)	118-4	
15	図V-22-5	Q-27-b IV類	I群a類	9.8	5.6	12.6	118-5	
16	図V-24-1	G-25-20 IV類	IV群a類	13.6	5.5	14.3	118-6	

表V-8 包含層出土 掲載土器等一覧

掲載番号	器名	分類	発掘区	図番	層位	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	重量(g)	材質	備考	図版番号	備考
図V-26-1	石碗	IA2a	R-24-a	2	Ⅱ	2.9	1.1	0.3	0.9	頁岩		143	
2	石碗	IA2a	K-23-c	14	Ⅱ	3.4	1.0	0.3	0.9	頁岩		143	
3	石碗	IA2b	P-25-b	4	Ⅱ	3.0	1.3	0.4	2.1	頁岩		143	
4	石碗	IA2b	O-13-c	10	赤褐色土	5.0	2.0	0.3	3.7	黒曜石		143	赤井川産と鑑別
5	石碗	IA4	N-20-b	3	Ⅱ	1.8	0.8	0.2	0.3	頁岩		143	
6	石碗	IA4	Q-19	5	Ⅱb上	2.5	1.2	0.3	0.7	頁岩		143	
7	石碗	IA4	L-24-a	2	Ⅱ	3.0	1.4	0.2	1.0	黒曜石		143	赤井川産と鑑別
8	石碗	IA4	K-19-c	10	Ⅱ	2.9	1.4	0.3	1.0	頁岩		143	
9	石碗	IA4	P-21-d	25	Ⅱ	3.4	1.4	0.2	1.1	頁岩		143	
10	石碗	IA4	Q-9	5	Ⅱ中	3.5	1.3	0.4	1.5	頁岩		143	
11	石碗	IA4	O-16-a	1	Ⅱ	3.4	1.4	0.2	0.9	頁岩		143	
12	石碗	IA4	J-19-b	28	Ⅱ	4.3	1.5	0.3	2.2	頁岩		143	
13	石碗	IA4	K-19-a	8	Ⅱ	4.8	1.7	0.4	3.0	頁岩		143	
14	石碗	IA4	I-21-b	11	Ⅱ	2.1	1.1	0.2	0.4	頁岩		143	
15	石碗	IA4	Q-22-d	13	Ⅱ	3.0	1.3	0.3	1.0	頁岩		143	
16	石碗	IA4	Q-23	14	Ⅱa	3.4	1.3	0.3	1.2	頁岩		143	
17	石碗	IA4	O-17-c	22	Ⅱ	3.5	1.5	0.4	1.6	頁岩		143	
18	石碗	IA4	K-19-a	9	Ⅱ	3.6	1.8	0.3	1.5	頁岩		143	
19	石碗	IA4	O-15-b	2	Ⅱ	3.3	1.5	0.4	2.0	頁岩		143	
20	石碗	IA4	O-21-c	3	Ⅱ	3.7	1.5	0.3	1.8	頁岩		143	
21	石碗	IA4	P-14-a	1	Ⅱ	3.9	1.3	0.4	1.6	頁岩		143	
22	石碗	IA4	L-23-b	22	Ⅱ	5.8	1.6	0.4	2.9	頁岩		143	
23	石碗	IA4	Q-14-d	3	Ⅱ	3.0	1.6	0.2	1.4	頁岩		143	
24	石碗	IA4	G-15-c	2	Ⅱ	3.2	1.5	0.3	1.3	頁岩		143	
25	石碗	IA4	O-15-b	3	Ⅱ	3.8	1.6	0.5	2.1	頁岩		143	
26	石碗	IA4	Q-23	50	Ⅱb	3.9	1.9	0.4	2.0	頁岩		143	
27	石碗	IA4	Q-11-b	24	Ⅱ	5.0	1.8	0.4	2.5	頁岩		143	
28	石碗	IA4	Q-20-c	28	IV	3.9	1.4	0.4	1.6	頁岩		143	
29	石碗	IA4	I-15-a	7	Ⅱ	4.6	1.5	0.4	2.7	頁岩		143	
30	石碗	IA5	L-23-c	21	Ⅱ	3.4	1.1	0.3	1.2	頁岩		143	
31	石碗	IA5	P-24-c	2	Ⅱ	3.5	1.6	0.4	1.7	頁岩		143	条部欠損
32	石碗	IA5	G-30	19	IV	3.0	1.1	0.4	1.1	60%磁石		143	
33	石碗	IA5	G-30	18	IV	4.0	1.3	0.6	2.6	頁岩		143	
34	石碗	IA5	Q-35-c	14	Ⅱ	2.9	1.3	0.4	1.0	黒曜石		143	矢部欠損
35	石碗	IA5	G-30	3	IV	4.2	1.4	0.6	2.7	頁岩		143	
36	石碗またはナイフ	IB1	M-23-a	22	Ⅱ	7.0	2.9	0.8	13.9	頁岩		143	
37	石碗またはナイフ	IB2	K-20-c	28	黒褐色土	8.4	2.6	1.3	26.2	頁岩		143	
38	石碗またはナイフ	IB2	R-27-d	7	Ⅱ	5.4	2.0	0.4	4.2	頁岩		143	
39	石碗またはナイフ	IB2	P-22-a	1	Ⅱ上	11.0	3.4	1.0	39.7	頁岩		143	
40	石碗またはナイフ	IB2	P-21-b	31	Ⅱ	11.4	3.0	1.2	31.5	頁岩		143	
41	石碗またはナイフ	IB2	J-18-c	18	Ⅱ	14.9	3.6	1.5	65.1	頁岩		143	
図V-29-43	石碗またはナイフ	IB2	O-19-a	18	Ⅱ	20.0	5.1	2.5	206.9	頁岩		143	114と合併

掲載番号	群 名	分 類	発 掘 区	遺物番号	層位	長さ(m)	幅(m)	高さ(g)	石質	備 考	図説番号	備 考
国Ⅳ-29-43	石鏡	Ⅱ 1	O-27-a	5	Ⅲ	3.9	2.1	0.9	4.9	頁岩	143	
44	石鏡	Ⅲ 1	O-27-b	13	Ⅲ	4.2	2.6	0.6	6.3	頁岩	143	つまみ付きナイフ両利用
45	石鏡	Ⅲ 1	Q-13-d	30	Ⅲ	5.8	2.1	1.2	13.7	頁岩	143	スケレイバー両利
46	石鏡	Ⅲ 1	M-18-d	2	Ⅲ	5.1	2.0	0.5	4.2	頁岩	143	
47	石鏡	Ⅲ 1	M-25-a	9	Ⅲ	5.0	1.8	0.4	4.5	頁岩	143	
48	石鏡	Ⅲ 1	O-15-b	42	Ⅲ	5.5	1.5	0.5	4.4	頁岩	143	
49	石鏡	Ⅲ 1	P-26-c	7	Ⅲ	7.7	1.7	0.7	7.8	頁岩	143	
50	石鏡	Ⅲ 1	Q-23-a	2	Ⅲ	7.7	2.9	1.0	14.5	頁岩	143	
51	石鏡	Ⅲ 2	I-17-c	14	Ⅲ	7.8	2.3	1.0	15.0	頁岩	143	
国Ⅴ-30-52	つまみ付きナイフ	Ⅲ 1a	P-14-a	8	Ⅲ	6.8	3.2	0.5	14.6	頁岩	144	
53	つまみ付きナイフ	Ⅲ 1a	G-15-a	23	Ⅲ	8.7	2.6	0.7	17.1	頁岩	144	
54	つまみ付きナイフ	Ⅲ 1b	I-18	26	Ⅲ上	7.3	2.9	0.8	17.9	燧石	144	赤井川産。焼成を受ける
55	つまみ付きナイフ	Ⅲ 1b	L-24-b	32	Ⅲ	11.5	3.2	1.4	47.0	頁岩	144	
56	つまみ付きナイフ	Ⅲ 1b	O-20-c	11	Ⅲ	7.9	6.2	0.7	16.3	頁岩	144	
57	つまみ付きナイフ	Ⅲ 1c	L-26-d	4	Ⅲ	6.7	4.2	0.8	22.3	頁岩	144	
58	つまみ付きナイフ	Ⅲ 1c	M-23-d	2	Ⅲ上	8.0	2.9	1.5	30.5	頁岩	144	
59	つまみ付きナイフ	Ⅲ 1c	O-15-d	45	Ⅲ	8.3	4.4	0.8	31.2	頁岩	144	
60	つまみ付きナイフ	Ⅲ 1c	R-22-a	22	Ⅲ	8.7	3.9	0.5	13.7	頁岩	144	
61	つまみ付きナイフ	Ⅲ 1c	P-29-b	11	Ⅲ	9.1	4.0	0.8	20.4	頁岩	144	
62	つまみ付きナイフ	Ⅲ 1c	P-18-a	20	Ⅲ	9.2	4.7	1.1	30.9	頁岩	144	
63	つまみ付きナイフ	Ⅲ 1c	M-23-a	14	Ⅲ	9.3	4.0	0.8	20.5	頁岩	144	
64	つまみ付きナイフ	Ⅲ 1c	H-19-c	13	Ⅲ	9.7	3.0	0.7	13.8	頁岩	144	
国Ⅴ-31-65	つまみ付きナイフ	Ⅲ 1c	O-26-a	8	Ⅲ	6.0	2.4	0.8	10.0	頁岩	144	
66	つまみ付きナイフ	Ⅲ 1c	Q-14-a	15	Ⅲ	7.4	3.9	0.8	24.5	頁岩	144	
67	つまみ付きナイフ	Ⅲ 1c	M-18	1	Ⅲ上	8.5	3.0	0.6	17.4	頁岩	144	
68	つまみ付きナイフ	Ⅲ 1c	Q-12	13	Ⅲa	8.9	2.1	0.7	15.6	頁岩	144	
69	つまみ付きナイフ	Ⅲ 1c	M-21	3	Ⅲ中	9.1	4.6	1.0	28.1	頁岩	144	
70	つまみ付きナイフ	Ⅲ 2	P-28-d	31	Ⅲ	3.7	2.7	0.5	3.3	燧石	144	倉庫裏と隣。小割
71	つまみ付きナイフ	Ⅲ 2	N-17-b	15	Ⅲ	3.1	1.9	0.7	2.8	燧石	144	倉庫裏と隣。小割
72	つまみ付きナイフ	Ⅲ 2	Q-20	14	Ⅲ上	3.7	3.2	0.7	8.3	燧石	144	倉庫裏。小割
73	つまみ付きナイフ	Ⅲ 2	O-18-a	3	Ⅲ	4.5	3.4	0.9	9.7	のう	144	
74	つまみ付きナイフ	Ⅲ 2	P-21-d	2	Ⅲ	7.0	2.9	0.8	15.3	頁岩	144	
75	つまみ付きナイフ	Ⅲ 2	P-13-d	1	Ⅲ	7.4	3.4	1.3	25.6	燧石	144	赤井川と隣
76	つまみ付きナイフ	Ⅲ 2	J-23-c	8	Ⅲ	9.1	3.0	1.4	32.2	頁岩	144	石鏡の可能性あり
77	つまみ付きナイフ	Ⅲ 2	P-9-a	6	Ⅲ	9.5	3.6	1.0	28.8	頁岩	144	
78	つまみ付きナイフ	Ⅲ 3	K-18-d	52	Ⅲ	5.4	5.1	0.8	17.8	頁岩	144	
79	つまみ付きナイフ	Ⅲ 3	P-13-e	5	Ⅲ	6.7	5.5	0.8	28.7	頁岩	144	
国Ⅴ-32-80	つまみ付きナイフ	Ⅲ 3	R-27-d	9	Ⅲ	7.1	6.3	0.8	30.6	頁岩	144	
81	つまみ付きナイフ	Ⅲ 3	R-27-a	3	Ⅲ	7.5	7.5	0.8	39.2	頁岩	144	
82	つまみ付きナイフ	Ⅲ 4	Q-23	60	Ⅲ上	4.9	2.1	1.1	11.6	燧石	144	倉庫裏
83	つまみ付きナイフ	Ⅲ 4	R-25-d	30	Ⅲ	9.9	3.0	0.9	22.1	頁岩	144	未成産
国Ⅴ-33-84	スケレイバー	Ⅲ 1b	P-23-b	1	Ⅲ	8.0	3.7	1.5	52.9	頁岩	145	
85	スケレイバー	Ⅲ 1b	Q-13-a	6	Ⅲ	9.2	3.5	1.4	51.8	頁岩	145	
86	スケレイバー	Ⅲ 1b	P-18-a	3	Ⅲ	14.5	5.7	1.6	153.7	頁岩	145	
87	スケレイバー	Ⅲ 2a	M-23-a	15	Ⅲ	5.5	3.6	1.3	22.9	頁岩	145	
88	スケレイバー	Ⅲ 2a	P-28-c	12	Ⅲ	7.9	3.8	0.7	17.4	頁岩	145	
89	スケレイバー	Ⅲ 2a	L-26-b	40	Ⅲ	7.6	3.7	0.6	17.7	頁岩	145	
90	スケレイバー	Ⅲ 2a	P-27-c	7	Ⅲ	7.6	3.8	0.7	28.6	頁岩	145	
91	スケレイバー	Ⅲ 2a	R-22-d	8	Ⅲ	7.3	3.9	1.3	27.7	頁岩	145	
92	スケレイバー	Ⅲ 2a	O-27-c	5	Ⅲ	6.8	5.2	0.8	29.1	頁岩	145	
93	スケレイバー	Ⅲ 2a	J-19-c	25	Ⅲ	6.5	5.7	0.9	22.2	頁岩	145	
94	スケレイバー	Ⅲ 2a	R-22-d	7	Ⅲ	7.7	5.5	2.2	79.8	頁岩	145	
95	スケレイバー	Ⅲ 2a	M-10	7	Ⅲ上	8.5	3.7	0.8	35.1	頁岩	145	
96	スケレイバー	Ⅲ 2a	P-26-c	2	Ⅲ	8.9	4.9	0.8	36.6	頁岩	145	
97	スケレイバー	Ⅲ 2a	I-18	13	Ⅲ上	7.7	4.6	1.2	48.4	頁岩	145	
国Ⅴ-34-98	スケレイバー	Ⅲ 2a	J-20-c	3	Ⅲ上	8.6	6.3	1.5	40.8	頁岩	145	
99	スケレイバー	Ⅲ 2a	P-20-d	9	Ⅲ	10.4	5.9	1.4	68.1	頁岩	145	
100	スケレイバー	Ⅲ 2a	M-10	7	Ⅲ	11.2	6.6	1.4	41.9	頁岩	145	
101	スケレイバー	Ⅲ 2a	P-14-c	14	Ⅲ	5.5	5.3	1.4	46.5	頁岩	145	
102	スケレイバー	Ⅲ 2a	Q-25-b	4	Ⅲ	6.9	2.6	1.1	14.0	頁岩	145	
103	スケレイバー	Ⅲ 2a	L-26-b	23	Ⅲ	7.1	3.0	0.6	18.6	頁岩	145	
104	スケレイバー	Ⅲ 2a	P-28-c	42	Ⅲ	6.8	3.0	0.4	12.8	頁岩	145	
105	スケレイバー	Ⅲ 2a	M-25-b	3	Ⅲ	7.4	3.4	0.7	12.9	頁岩	145	

V 包含層出土の遺物

発掘番号	器 名	分類	発掘区	発掘番号	層位	長さ[m]	幅[m]	厚さ[m]	重さ[g]	材質	備 考	図版番号	備 考
106	ステレタイプ	B22b	K-18-d	3	Ⅲ	6.6	4.9	0.8	25.7	頁岩		145	
107	ステレタイプ	B22b	Q-25-a	6	Ⅲ	7.1	4.8	1.0	30.3	頁岩		145	
108	ステレタイプ	B22b	N-11-c	9	Ⅲ	7.3	3.9	0.7	27.2	頁岩		145	
109	ステレタイプ	B22b	Q-23-d	2	Ⅲ	7.6	3.5	1.1	32.4	頁岩		145	
110	ステレタイプ	B22b	Q-28-c	11	Ⅲ	7.6	4.4	0.5	29.3	頁岩		146	
111	ステレタイプ	B22b	Q-23	15	Ⅲa	8.0	2.8	1.0	21.0	頁岩		146	
ⅧV-35-112	ステレタイプ	B22b	H-16-d	4	Ⅲ	7.7	4.0	0.9	38.3	頁岩		146	
113	ステレタイプ	B22b	M-21	36	Ⅲb	8.7	3.8	1.4	50.9	頁岩		146	
114	ステレタイプ	B22b	O-19-a	19	Ⅲ	13.6	3.4	3.0	84.7	頁岩		146	組と異件
115	ステレタイプ	B22c	Q-23	92	Ⅲb	10.0	4.3	1.0	43.9	頁岩		145	
116	ステレタイプ	B22c	I-21-d	7	Ⅲ	10.6	4.9	1.1	60.0	頁岩		145	
117	ステレタイプ	B22c	M-15-a	5	Ⅲ	9.0	4.9	1.4	56.4	頁岩		146	
118	ステレタイプ	B22c	P-28-d	5	Ⅲ	12.6	4.3	1.6	67.6	頁岩		146	
119	ステレタイプ	B23	N-12-a	5	Ⅲ	6.0	4.1	1.2	25.1	頁岩		146	
120	ステレタイプ	B23	O-16-c	34	Ⅲ	4.5	6.9	1.2	26.9	頁岩		146	
121	ステレタイプ	B23	I-21-e	7	Ⅲ	8.0	6.0	1.3	24.0	頁岩		146	
122	ステレタイプ	B23	Q-8-c	4	Ⅲ	5.5	6.3	1.1	24.7	頁岩		146	
123	ステレタイプ	B23	P-16-d	48	V上層	5.0	6.7	1.2	32.5	頁岩		146	
124	ステレタイプ	B23	R-17-d	4	Ⅲ	4.8	6.6	1.5	42.4	頁岩		146	
ⅧV-36-125	ステレタイプ	B23	P-28-a	10	Ⅲ	3.7	5.9	0.7	13.1	頁岩		146	
126	ステレタイプ	B23	P-21-c	7	Ⅲ	4.3	5.6	0.8	22.5	頁岩		146	
127	ステレタイプ	B23	Q-9	10	Ⅲ中	4.9	6.6	1.4	33.3	頁岩		146	
128	ステレタイプ	B23	L-17-a	10	Ⅲ	4.6	6.6	0.9	23.7	頁岩		146	
129	ステレタイプ	B23	P-8-c	3	Ⅲ	5.8	8.0	1.2	54.6	頁岩		146	
130	ステレタイプ	B23	Q-23	41	Ⅲb	4.2	5.5	1.2	22.4	頁岩		146	
131	ステレタイプ	B25	P-13-c	17	Ⅲ	4.9	4.5	1.7	28.5	頁岩		146	
132	ステレタイプ	B25	R-25-a	7	Ⅲ	5.2	4.0	2.0	68.0	頁岩		146	
133	ステレタイプ	B25?	F-31-c	1	Ⅲ	10.2	6.3	1.5	93.2	頁岩		146	
134	ステレタイプ	B26	H-15-b	15	Ⅲ	5.5	3.7	0.7	12.4	頁岩		146	
135	ステレタイプ	B26	P-21-c	1	Ⅲ	7.4	6.4	0.8	45.1	頁岩		146	
136	ステレタイプ	B26	Q-22-a	9	Ⅲ	7.6	3.1	0.7	21.0	頁岩		147	
137	ステレタイプ	B26	Q-21-d	13	Ⅲ	8.2	4.3	0.7	24.1	頁岩		147	
138	ステレタイプ	B26	R-22-a	30	Ⅲ	8.5	4.1	0.8	30.6	頁岩		147	
139	ステレタイプ	B26	J-18-a	20	Ⅲ	9.1	2.7	1.8	39.2	頁岩		147	
140	ステレタイプ	B26	O-17-c	16	Ⅲ	8.8	5.8	1.3	56.8	頁岩		147	
ⅧV-37-141	ステレタイプ	B26	K-19-c	4	Ⅲ	9.4	3.4	1.4	26.6	頁岩		147	
142	ステレタイプ	B26	I-21-d	6	Ⅲ	9.1	5.8	1.6	63.3	頁岩		147	
143	ステレタイプ	B26	I-19-a	12	Ⅲb	10.8	4.3	1.7	70.3	頁岩		147	
144	ステレタイプ	B27	L-26-d	2	Ⅲ	5.8	2.3	0.7	10.2	頁岩		147	
145	ステレタイプ	B27	M-24-c	9	Ⅲ	5.6	3.4	0.8	14.0	頁岩		147	
146	ステレタイプ	B28	L-18-c	20	Ⅲ	5.0	3.3	0.5	8.7	頁岩		147	
147	ステレタイプ	B28	Q-14-b	27	Ⅲ	6.5	5.8	0.9	32.5	頁岩		147	
148	ステレタイプ	B28	K-12-b	1	Ⅲ	7.9	5.7	0.7	34.5	頁岩		147	
149	両面磨光石器	V1	k-17-c	9	Ⅲ	5.3	5.3	1.8	43.8	頁岩		147	
150	両面磨光石器	V1	P-28-c	24	Ⅲ	6.8	7.1	2.5	108.7	頁岩		147	
151	両面磨光石器	V2	O-20-a	36	Ⅲ	14.7	8.2	2.3	261.7	頁岩		147	
ⅧV-38-152	石核	VA1	O-25-a	5	Ⅲ	3.4	7.2	6.0	139.1	頁岩		147	
153	石核	VA1	H-18-d	9	Ⅲ	7.8	13.0	8.5	860.0	頁岩		147	
154	石核	VA1	I-17-c	16	Ⅲ	6.2	13.3	11.6	710.0	頁岩		147	
ⅧV-39-155	石核	VA1	E-14-b	1	Ⅲ	8.7	11.4	15.3	1670.0	頁岩		146	
156	石核	VA1	O-19-d	11	Ⅲ	3.6	5.3	4.5	65.9	頁岩		146	
157	石核	VA1	J-19-b	9	Ⅲ	4.1	3.7	5.1	72.5	頁岩		146	
158	石核	VA1	L-12-a	1	Ⅲ	5.1	6.0	3.4	105.5	頁岩		146	
159	石核	VA1	O-20-a	15	Ⅲ	4.1	7.9	4.6	143.1	頁岩		146	
160	石核	VA1	O-11-d	2	Ⅲ	5.0	7.9	4.2	140.4	頁岩		146	
161	石核	VA1	P-21-c	16	Ⅲ	4.4	9.1	5.3	172.7	頁岩		146	
162	石核	VA1	M-11-a	7	Ⅲ	4.7	5.9	7.0	127.8	頁岩		146	
ⅧV-40-163	石核	VA1	O-11-d	7	Ⅲ	5.3	9.1	5.4	195.0	頁岩		146	
164	石核	VA1	P-10-d	5	Ⅲ	6.4	7.3	5.4	266.2	頁岩		146	
165	石核	VA1	Q-11-b	32	Ⅲ	5.7	8.6	6.2	183.7	頁岩		146	
166	石核	VA1	J-13-c	4	Ⅲ	6.1	11.6	4.1	227.4	頁岩		146	
ⅧV-41-1	石片	WA4	F-39-c	2	Ⅲ	10.3	6.0	2.0	121.9	褐色泥岩		149-1	
2	石片	WA4	O-15-b	95	V	9.8	3.8	1.8	107.1	褐色泥岩		149-1	

採集番号	標 本 名	分類	地 域 区	産出地	層位	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重さ(g)	石質	備 考	図面番号	備 考
3	石片	ⅥA-4	Q-23	13	Ⅲ a	9.2	4.4	2.2	147.7	緑色泥岩		149-1	ほぼたたら
4	石片	ⅥA-4	Q-10-b	14	Ⅲ	3.7	4.9	2.1	48.4	緑色泥岩		149-1	石のみとして再発行
5	石片	ⅥA-4	L-23-b	6	Ⅲ	4.6	4.2	2.5	51.1	緑色泥岩		149-1	石のみとして再発行
6	石片	ⅥA-4	P-26-c	12	Ⅲ	5.2	2.4	0.8	12.1	緑色泥岩		149-1	
7	磨り切り片	ⅥA-5	Q-11-b	27	Ⅲ	10.2	5.1	2.7	300.0	緑色泥岩		149-1	
8	磨り切り片	ⅥA-5	N-19-a	15	Ⅲ	9.7	3.7	2.7	218.2	緑色泥岩		149-1	たたらあり
ⅨV-42-9	磨り切り片	ⅥA-5	P-13-c	28	Ⅲ	12.9	5.9	4.9	594.4	緑色泥岩		149-1	たたらあり
10	石のみ	ⅥB	G-26-a	2	IV 礫層	5.7	2.0	1.1	15.9	結核岩		149-1	
ⅨV-43-1	たたら	Ⅶ1	Q-21-c	9	Ⅲ	10.2	5.1	5.0	337.6	安山岩		149-2	
2	たたら	Ⅶ1	P-21-d	1	Ⅲ	10.1	6.4	4.9	443.8	砂岩		149-2	
3	たたら	Ⅶ1	J-17-c	12	Ⅲ	11.0	7.5	5.0	640.0	安山岩		149-2	
4	たたら	Ⅶ1	P-9-b	7	Ⅲ	15.3	8.3	4.7	780.0	安山岩		149-2	
5	たたら	Ⅶ1	K-19-c	13	Ⅲ	10.4	4.9	2.3	168.3	安山岩		149-2	
6	たたら	Ⅶ1	O-19-b	23	Ⅲ	12.3	6.8	2.9	372.2	安山岩		149-2	
7	たたら	Ⅶ1	O-26-b	2	Ⅲ	16.6	10.4	3.0	850.0	安山岩		149-2	
8	たたら	Ⅶ1	P-22-a	12	Ⅲ	16.7	11.5	3.6	1020.0	安山岩		149-2	
9	たたら	Ⅶ1	O-17-b	8	Ⅲ	18.4	6.6	3.7	690.0	安山岩	P-18-d・5(Ⅸ)	149-2	
10	たたら	Ⅶ1	L-19-a	27	Ⅲ	19.1	10.0	4.4	1180.0	安山岩		150-1	
11	たたら	Ⅶ1	K-19-b	19	Ⅲ	7.8	6.2	3.8	259.2	砂岩		150-1	
ⅨV-44-12	たたら	Ⅶ1	H-17-d	1	Ⅲ上	9.1	6.8	5.6	414.8	安山岩		150-1	
13	たたら	Ⅶ1	Q-10-d	15	Ⅲ	13.4	11.7	5.5	1090.0	安山岩		150-1	
14	たたら	Ⅶ2	P-24-a	2	Ⅲ	9.6	7.4	3.5	375.8	安山岩		150-1	
15	たたら	Ⅶ2	P-9-c	11	Ⅲ	10.0	7.6	2.8	296.9	安山岩		150-1	
16	たたら	Ⅶ2	O-29-b	2	Ⅲ	11.6	6.1	2.4	242.4	安山岩		150-1	
17	たたら	Ⅶ2	Q-21-c	10	Ⅲ	12.9	6.7	2.9	300.6	凝灰岩		150-1	
18	たたら	Ⅶ2	Q-8-c	16	Ⅲ	9.8	9.3	5.3	665.0	安山岩		150-1	構造を受ける
19	たたら	Ⅶ3	P-10-b	4	Ⅲ	8.2	4.5	3.4	152.8	安山岩		150-2	
20	たたら	Ⅶ3	P-27-d	4	Ⅲ	15.6	8.2	4.8	900.0	安山岩		150-2	
21	たたら	Ⅶ4	P-26-c	19	Ⅲ	12.8	6.7	3.2	375.2	安山岩		150-2	
ⅨV-45-22	すり石	Ⅶ2	M-17-c	4	Ⅲ上	9.1	13.6	3.5	584.6	安山岩		150-2	
23	すり石	Ⅶ2	Q-10-c	11	Ⅲ	8.5	13.3	2.7	485.0	安山岩		150-2	
24	すり石	Ⅶ2	J-20-a	8	Ⅲ	9.0	15.0	3.2	630.0	安山岩		150-2	
25	すり石	Ⅶ2	O-11-b	12	Ⅲ	8.9	14.9	3.6	777.0	安山岩		150-2	
ⅨV-46-26	半円状扁平打撃石	Ⅶ3	K-22-d	1	Ⅲ上	4.7	8.4	1.2	64.8	安山岩		151-1	
27	半円状扁平打撃石	Ⅶ3	M-19-c	7	Ⅲ	7.9	15.8	2.1	277.5	凝灰岩		151-1	
28	半円状扁平打撃石	Ⅶ3	P-11-b	20	Ⅲ	8.7	15.5	1.7	245.9	凝灰岩		151-1	
29	半円状扁平打撃石	Ⅶ3	M-20-b	53	Ⅳ	9.5	15.6	2.7	596.2	安山岩		151-1	
30	半円状扁平打撃石	Ⅶ3	N-19-a	25	Ⅲ	6.3	12.9	2.3	232.1	安山岩		151-1	
31	半円状扁平打撃石	Ⅶ3	M-23-a	24	Ⅲ	8.7	14.9	1.9	334.0	安山岩	M-20-a・3(Ⅸ)	151-1	
32	半円状扁平打撃石	Ⅶ3	Q-11-d	18	Ⅲ	6.0	17.2	1.5	242.9	?		151-1	
33	半円状扁平打撃石	Ⅶ3	L-20-c	10	I	7.1	8.0	1.5	85.9	凝灰岩		151-1	炭石としても使用
34	半円状扁平打撃石	Ⅶ3	M-19-c	29	Ⅲ	7.2	15.0	1.3	300.0	凝灰岩		151-1	
35	半円状扁平打撃石	Ⅶ3	L-26-b	26	Ⅲ	7.4	15.9	1.4	240.5	凝灰岩		151-2	
36	半円状扁平打撃石	Ⅶ3	O-28-a	1	Ⅲ	8.7	14.8	1.2	212.9	凝灰岩		151-2	
37	半円状扁平打撃石	Ⅶ3	Q-28-d	9	Ⅲ	7.2	16.0	1.7	223.8	凝灰岩		151-2	
ⅨV-47-38	半円状扁平打撃石	Ⅶ3	M-18-a	3	Ⅲ	7.3	17.3	2.8	353.8	凝灰岩		151-2	
39	半円状扁平打撃石	Ⅶ3	Q-28-d	18	Ⅲ	8.8	17.1	1.8	255.0	凝灰岩		151-2	
40	半円状扁平打撃石	Ⅶ3	O-26-c	15	Ⅲ	12.0	19.3	2.0	590.4	安山岩	O-26-d・1(Ⅸ)	151-2	
41	半円状扁平打撃石	Ⅶ3	M-20-c	4	Ⅲ	7.2	13.6	1.7	214.0	安山岩		151-2	
42	半円状扁平打撃石	Ⅶ3	P-12-b	23	Ⅲ	8.3	14.1	2.6	403.4	安山岩		151-2	
43	半円状扁平打撃石	Ⅶ3	Q-14-b	3	Ⅲ	8.0	15.6	1.7	264.8	凝灰岩		152-1	
44	半円状扁平打撃石	Ⅶ3	P-30-a	3	Ⅲ	7.6	19.4	1.8	310.4	凝灰岩	P-26-d・4(Ⅸ)	152-1	
45	半円状扁平打撃石	Ⅶ3	J-16-b	4	Ⅲ	9.7	18.5	1.9	358.0	安山岩	J-18-b・12(Ⅸ)	152-1	
46	半円状扁平打撃石	Ⅶ3	L-24-b	20	Ⅲ	9.1	18.6	1.8	386.0	凝灰岩	L-24-b・3(Ⅸ)	152-1	
47	半円状扁平打撃石	Ⅶ3	L-25-b	4	Ⅲ	11.6	19.3	2.0	525.2	凝灰岩	L-26-d・6(Ⅸ)	152-1	
ⅨV-48-49	半円状扁平打撃石	Ⅶ3	K-20-c	38	Ⅲ	7.6	12.6	1.5	150.5	安山岩		152-1	
50	半円状扁平打撃石	Ⅶ3	L-18-b	9	Ⅲ	8.5	14.8	1.4	235.2	凝灰岩		152-1	
51	半円状扁平打撃石	Ⅶ3	Q-15	2	Ⅲ上	7.8	15.5	1.8	235.3	凝灰岩		152-1	
52	半円状扁平打撃石	Ⅶ3	L-22-b	24	Ⅲ	9.2	14.8	1.5	274.3	凝灰岩	N-22-d・17(Ⅸ)	152-1	
53	半円状扁平打撃石	Ⅶ3	Q-26-d	22	Ⅲ	9.9	16.2	2.9	421.4	凝灰岩		152-1	
54	半円状扁平打撃石	Ⅶ3	N-20-d	9	Ⅲ	6.4	12.3	1.8	150.4	凝灰岩		152-1	
55	半円状扁平打撃石	Ⅶ3	L-23-b	25	Ⅲ	7.8	13.7	1.9	307.0	凝灰岩	K-22-d・3(Ⅸ)	152-1	
56	半円状扁平打撃石	Ⅶ3	K-18-d	23	Ⅲ	8.5	13.5	1.8	232.1	凝灰岩		152-1	

V 包含層出土の遺物

発掘番号	部 名	分類	発掘区	遺物番号	層位	長さ(m)	幅(m)	高さ(m)	重量(g)	材質	備 考	図録番号	備 考
56	平戸段層下打石部	Ⅲ	F-18-d	4	Ⅲ	8.0	22.4	1.8	329.6	凝灰岩?	P-22-b-5 (Ⅲ)	152-1	
57	平戸段層下打石部	Ⅲ	K-23-c	9	Ⅲ	9.7	30.2	1.9	496.8	安山岩	M-24-d-5 (Ⅲ)	152-1	
Ⅲ V-49-58	北海道式石甕	Ⅳ	M-22-a	5	Ⅲ	6.6	7.1	5.0	306.0	安山岩		153-1	未製品
59	北海道式石甕	Ⅳ	O-27-c	9	Ⅲ	8.4	14.5	5.6	827.0	安山岩		153-1	
60	北海道式石甕	Ⅳ	F-20-d	2	Ⅲ	11.8	14.2	8.7	1880.0	安山岩?		153-1	
61	北海道式石甕	Ⅳ	Q-11-c	27	Ⅲ	11.2	16.1	6.0	1030.0	安山岩		153-1	
62	北海道式石甕	Ⅳ	N-22-a	14	Ⅲ	11.4	16.1	6.0	1382.0	安山岩		153-1	
63	北海道式石甕	Ⅳ	P-19-b	30	Ⅲ	11.7	12.2	8.4	1180.0	安山岩		153-1	
64	北海道式石甕	Ⅳ	H-15-b	15	Ⅲ	12.4	10.7	9.0	1608.0	凝灰岩		153-2	
Ⅲ V-50-65	北海道式石甕	Ⅳ	L-18-a	6	Ⅲ	12.4	14.7	8.9	1525.0	凝灰岩		153-2	
66	北海道式石甕	Ⅳ	K-19-b	14	Ⅲ	15.9	10.5	7.1	1150.0	凝灰岩		153-2	
67	北海道式石甕	Ⅳ	P-22-b	2	Ⅲ上	10.6	19.7	10.4	1880.0	凝灰岩	Q-23-d-8 (Ⅲ)	153-2	
68	北海道式石甕	Ⅳ	Q-25-d	23	Ⅲ	9.0	7.9	6.2	561.8	安山岩		153-2	
69	北海道式石甕	Ⅳ	H-17-c	2	Ⅲ	8.2	11.6	5.5	565.0	凝灰岩		153-2	
70	北海道式石甕	Ⅳ	P-18-d	9	Ⅲ	11.3	8.3	6.2	830.0	安山岩		154-1	
71	北海道式石甕	Ⅳ	N-22-d	22	Ⅲ	11.8	14.8	8.8	1620.0	凝灰岩		154-1	
Ⅲ V-51-72	北海道式石甕	Ⅳ	P-21-c	10	Ⅲ	9.7	16.4	8.1	1450.0	凝灰岩	P-21-c-6-P-21-c-10	154-1	
73	北海道式石甕	Ⅳ	M-19-b	3	Ⅲ	11.7	15.5	8.3	1728.0	凝灰岩	N-18-d-8 (Ⅲ)	154-1	
74	北海道式石甕	Ⅳ	N-22-b	24	Ⅲ	12.6	13.7	6.9	1743.0	安山岩		154-1	
75	北海道式石甕	Ⅳ	Q-12	28	Ⅲ	12.5	17.0	7.8	1570.0	凝灰岩?		154-1	
76	北海道式石甕	Ⅳ	P-22-c	17	Ⅲ	9.6	17.6	8.2	2050.0	安山岩	P-22-c-3 (Ⅲ)	154-2	
77	北海道式石甕	Ⅳ	M-22-a	26	Ⅲ	9.3	10.6	7.8	880.0	安山岩		154-2	
Ⅲ V-52-78	北海道式石甕	Ⅳ	Q-29	7	Ⅲ	9.4	11.6	7.2	928.0	安山岩		154-2	
79	北海道式石甕	Ⅳ	J-16-a	9	Ⅲ	11.1	14.0	7.1	1287.0	安山岩		154-2	
80	北海道式石甕	Ⅳ	O-16-a	45	Ⅲ	12.1	15.2	8.2	1738.0	安山岩		154-2	
81	すり石	Ⅴ	P-20-a	30	Ⅲ	13.4	9.2	3.3	620.0	安山岩		154-2	
Ⅲ V-53-82	石甕	Ⅴ	L-22-a	30	Ⅲ	8.4	9.8	1.3	128.2	凝灰岩		155-1	
83	石甕	Ⅴ	F-20-a	1	Ⅲ	7.6	12.1	0.8	127.0	凝灰岩	N-22-d-5 (Ⅲ)	155-1	
84	石甕	Ⅴ	L-24-c	7	Ⅲ	9.4	10.9	0.9	113.3	凝灰岩		155-1	
85	石甕	Ⅴ	P-28-a	23	Ⅲ	7.0	15.1	1.2	133.1	凝灰岩		155-1	
86	石甕	Ⅴ	N-24-b	5	Ⅲ	6.0	21.4	1.6	224.8	安山岩	O-21-a-3 (Ⅲ)	155-1	
87	石甕	Ⅴ	N-19-b	20	Ⅲ	8.4	15.7	1.2	192.5	凝灰岩		155-1	
88	石甕	Ⅴ	Q-23	82	Ⅲ	10.4	16.1	1.5	291.5	凝灰岩	Q-23-9 (Ⅲ)	155-1	
89	石甕	Ⅴ	Q-25-a	9	Ⅲ	10.5	17.0	1.4	300.2	凝灰岩		155-1	
90	石甕	Ⅴ	M-21	30	Ⅲ	9.9	10.6	1.4	243.2	凝灰岩		155-2	
91	石甕	Ⅴ	Q-22-d	32	Ⅲ	8.8	17.7	1.9	342.4	凝灰岩	Q-22-54 (Ⅲ)	155-2	
92	石甕	Ⅴ	P-28-b	20	Ⅲ	7.0	14.1	1.6	164.1	凝灰岩	P-28-a-9 (Ⅲ)	155-2	
93	石甕	Ⅴ	K-22-a	10	Ⅲ	7.8	15.1	1.2	149.5	凝灰岩		155-2	
94	石甕	Ⅴ	J-22-a	1	Ⅲ	8.5	14.5	1.2	147.2	凝灰岩	M-23-a-3 (Ⅲ)	155-2	
Ⅲ V-54-95	石甕	Ⅴ	O-16-c	5	Ⅲ	10.3	20.4	2.4	600.0	安山岩		155-2	
96	石甕	Ⅴ	O-20-c	21	Ⅲ	14.4	15.2	1.3	329.6	凝灰岩		155-2	
97	凝石	Ⅴ	N-21-a	5	Ⅲ	6.2	5.9	3.0	26.0	凝石		156-1	
98	凝石	Ⅴ	L-25-c	3	Ⅲ	16.9	11.0	4.4	194.5	凝石		156-1	
99	凝石	Ⅴ	Q-23	83	Ⅲ	10.7	4.0	2.7	124.1	砂岩		156-1	
100	凝石	Ⅴ	M-21	52	Ⅲ	10.5	7.5	3.1	204.4	砂岩		156-1	
101	凝石	Ⅴ	H-16-a	9	Ⅲ	7.9	8.6	2.1	176.9	砂岩		156-1	
102	凝石	Ⅴ	L-11-b	16	Ⅲ	14.6	8.9	2.2	237.0	凝灰岩		156-1	
103	凝石	Ⅴ	N-25-b	4	Ⅲ	13.9	14.7	2.6	208.3	砂岩		156-1	
Ⅲ V-55-104	台石・石皿	Ⅵ	E-45-c	1		16.5	11.5	7.1	1020.0	砂岩		156-2	
105	台石・石皿	Ⅵ	C-28-b	1	Ⅲ	19.1	11.0	6.8	2130.0	安山岩		156-2	
106	台石・石皿	Ⅵ	Q-12-c	13	Ⅲ	11.4	18.0	10.9	3600.0	安山岩		156-2	
107	台石・石皿	Ⅵ	F-20-c	18	Ⅲ	20.2	15.5	11.5	4380.0	安山岩		156-2	
108	台石・石皿	Ⅵ	Q-35-a	7	Ⅲ	46.3	27.2	6.7	10000.0	安山岩		157-1	石皿
Ⅲ V-56-109	台石・石皿	Ⅵ	O-13-b	9	Ⅲ	40.7	19.9	15.5	15900.0	安山岩		157-2	石皿
110	台石・石皿	Ⅵ	N-21-d	26	Ⅲ	36.2	36.8	18.9	23800.0	凝灰岩		157-3	石皿
111	石甕	Ⅵ	N-19-d	15	Ⅲ	9.6	14.8	2.5	423.4	安山岩		157-4	すり石・砂岩の可塑性
112	加工痕のある凝石	Ⅵ	L-18-c	15	Ⅲ	4.5	1.8	0.8	7.6	凝灰岩		157-4	
113	石甕	Ⅵ	N-25-c	1	Ⅲ上	10.3	3.7	0.9	47.7	片岩		157-4	

VI 自然科学的分析

1 山崎5遺跡から出土した土壌に残存する脂肪の分析

帯広畜産大学生物資源科学科 中野益男
 ㈱ズコーシャ・総合科学研究所 中野寛子・清水 了
 門 利恵・星山賢一

動植物を構成している主要な生体成分にタンパク質、核酸、糖質（炭水化物）および脂質（脂肪・油脂）がある。これらの生体成分は環境の変化に対して不安定で、圧力、水分などの物理的作用を受けて崩壊してゆくだけでなく、土の中に棲んでいる微生物による生物的作用によっても分解してゆく。これまで生体成分を構成している有機質が完全な状態で遺存するのは、地下水位の高い低地遺跡、泥炭遺跡、貝塚などごく限られた場所にすぎないと考えられてきた。

最近、ドイツ新石器時代後期にバター脂肪が存在していたこと⁽¹⁾、古代遺跡から出土した約2千年前のトウモロコシ種子⁽²⁾、約5千年前のハーゼルナッツ種子⁽³⁾に残存する脂肪の脂肪酸は安定した状態に保持されていることがわかった。このように脂肪は微量ながら比較的安定した状態で千年・万年という長い年月を経過しても変化しないで遺存することが判明した⁽⁴⁾。

脂質は有機溶媒に溶けて、水に溶けない成分を指している。脂質はさらに構造的な違いによって誘導脂質、単純脂質および複合脂質に大別される。これらの脂質を構成している主要なクラス（種）が脂肪酸であり、その種類、含量ともに脂質中では最も多い。その脂肪酸には炭素の鎖がまっすぐに延びた飽和型と鎖の途中に二重結合をもつ不飽和型がある。動物は炭素数の多い飽和型の脂肪酸、植物は不飽和型の脂肪酸を多く持つというように、動植物は種ごとに固有の脂肪酸を持っている。ステロールについても、動物性のものはコレステロール、植物性のものはシステロール、微生物はエルゴステロールというように動植物に固有の特徴がある。従って、出土物の脂質の種類およびそれらを構成している脂肪酸組成と現生動植物のそれとを比較することによって、目に見える形では遺存しない原始古代の動植物を判定することが可能となる。

このような出土遺構・遺物に残存する脂肪を分析する方法を「残存脂肪分析法」という。この「残存脂肪分析法」を用いて山崎5遺跡から出土した土壌の性格を解明しようとした。

1 土壌試料

北海道山越郡八雲町に所在する山崎5遺跡は縄文時代前期後半のものと推定されている。この遺跡から出土した同時期の土壌内外の土壌試料を分析した。遺跡内での土壌の配置状況および土壌内外での土壌試料採取地点を図1に示す。試料No1～No5は土壌P-35のもので、No1～No4は土壌内、No5は対照試料として土壌外から、No6～No8はP-10のもので、No6とNo7を土壌内、No8を土壌外から、No9とNo10はP-61のもので、No9を土壌内、No10を土壌外から、No11～No14はP-43のもので、No11～No13は土壌内、No14は土壌外から、No15とNo16はP-11のもので、No15を土壌内、No16を土壌外から、No17～No24はP-32のもので、No17～No23は土壌内、No24は土壌外から、それぞれ採取した。これらの土壌のうちP-35、P-10、P-43、P-32からは焼土、P-35とP-43からは埋設土器、P-11からは土器片が、それぞれ検出されている。

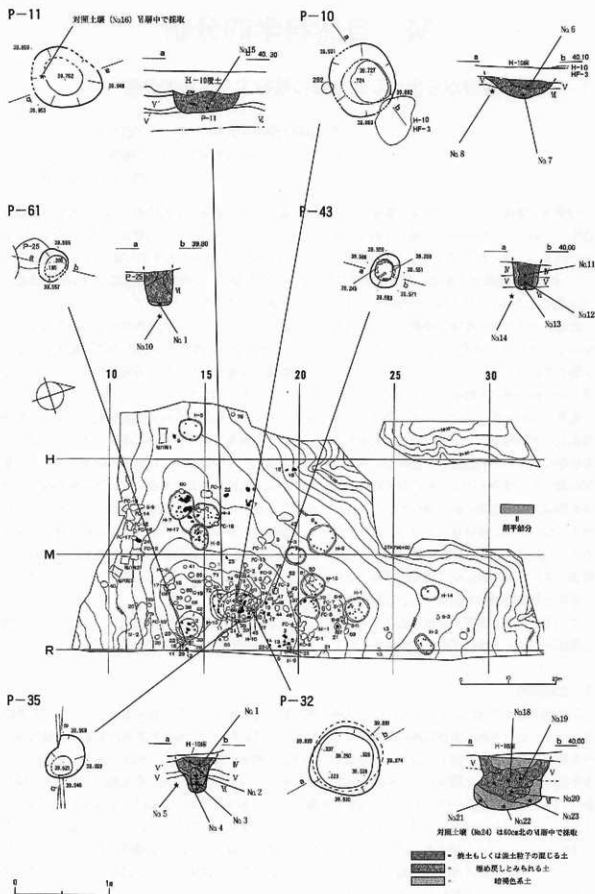


図1 土壤試料採取地点

表1 土壌試料の残存脂肪抽出量

試料No	試料名	湿重量(g)	全脂肪(mg)	抽出率(%)
1	P-35 上層地土	10.9	9.1	0.0836
2	* 覆土3層	12.1	5.4	0.0447
3	* 覆土7層	13.3	6.0	0.0452
4	* 覆土6層	14.0	5.3	0.0379
5	* 対照土壌	14.1	4.1	0.0292
6	P-10 上層地土	6.0	2.0	0.0331
7	* 覆土3層	10.2	1.8	0.0177
8	* 対照土壌	12.6	2.6	0.0207
9	P-61 覆土5層	7.5	4.8	0.0637
10	* 対照土壌	38.3	1.1	0.0028
11	P-43 覆土2層	14.3	11.0	0.0772
12	* 覆土2層	17.5	11.2	0.0640
13	* 覆土1層	17.6	7.4	0.0420
14	* 対照土壌	12.6	2.7	0.0215
15	P-11 覆土1層	10.3	5.3	0.0517
16	* 対照土壌	77.0	5.0	0.0065
17	P-32 覆土4層	18.7	6.5	0.0348
18	* 覆土4層	19.4	6.9	0.0357
19	* 覆土4層	21.8	11.0	0.0505
20	* 覆土5層	19.7	10.5	0.0534
21	* 覆土9層	14.6	7.5	0.0512
22	* 覆土7層	21.4	6.7	0.0313
23	* 覆土8層	25.6	8.6	0.0336
24	* 対照土壌	16.8	5.6	0.0334

表2 試料中に分布するステロールの割合

試料No	プロスタノール(%)	ゴスチノール(%)	ジステロール(%)	コレステロール + プラズマノール
1	4.98	3.33	31.90	0.10
2	4.37	2.56	22.28	0.11
3	5.59	3.23	21.74	0.15
4	4.01	2.73	14.12	0.19
5	2.90	1.53	17.23	0.09
6	1.60	1.58	23.98	0.07
7	2.99	2.93	17.68	0.17
8	5.65	6.20	18.96	0.33
9	2.35	3.42	32.16	0.11
10	2.89	6.81	5.26	1.29
11	3.83	2.54	24.88	0.10
12	3.69	2.53	23.19	0.11
13	3.25	4.54	12.93	0.35
14	3.64	6.61	13.97	0.47
15	1.56	3.60	22.95	0.16
16	2.42	3.37	18.58	0.18
17	3.88	2.94	18.40	0.16
18	3.11	2.19	16.25	0.13
19	3.94	2.11	15.79	0.13
20	4.31	3.81	13.65	0.28
21	2.42	4.12	10.63	0.39
22	7.37	5.82	22.31	0.26
23	6.07	4.26	17.50	0.24
24	4.02	10.20	1.43	7.16

2 残存脂肪の抽出

土壌試料8～77gに3倍量のクロロホルム-メタノール(2:1)混液を加え、超音波浴槽中で30分間処理し残存脂肪を抽出した。処理液をろ過後、残渣に再度クロロホルム-メタノール混液を加え、再び30分間超音波処理をする。この操作をさらに2回繰り返して残存脂肪を抽出した。得られた全抽出溶媒に1%塩化バリウムを全抽出溶媒の4分の1容量を加え、クロロホルム層と水層に分配し、下層のクロロホルム層を濃縮して残存脂肪を分離した。

残存脂肪の抽出量を表1に示す。抽出率は0.0028～0.0836%、平均0.0402%であった。この値は全国各地の遺跡から出土した土壌、石器、土器などの試料の平均抽出率0.0010～0.0100%よりもかなり高いものであった。土壌内外の抽出率を比較すると、土壌内の方が土壌外よりも約1.5～3倍高く、P-11試料No15では約8倍も高かった。このことは土壌内の方に残存脂肪と考えられる脂溶性の有機物が多いことを示している。

残存脂肪をケイ酸薄層クロマトグラフィーで分析した結果、脂肪は単純脂質で構成されていた。その中では遊離脂肪酸が最も多く、次いでグリセロールと脂肪酸が結合したトリアシルグリセロール(トリグリセリド)、ステロールエステル、ステロールの順に多く、微量の長鎖炭化水素も存在していた。

3 残存脂肪の脂肪酸組成

分離した残存脂肪の遊離脂肪酸とトリアシルグリセロールに5%メタノール性塩酸を加え、125℃封管中で2時間分解し、メタノール分解によって生成した脂肪酸メチルエステルを含む画分をクロロホルムで分離し、さらにジアゾメタンで遊離脂肪酸を完全にメチルエステル化してから、ヘキサノール-エチルエーテル-酢酸(80:30:1)またはヘキサノール-エーテル(85:15)を展開溶媒とするケイ酸薄層クロマトグラフィーで精製後、ガスクロマトグラフィーで分析した⁽¹⁾。

残存脂肪の脂肪酸組成を図2に示す。残存脂肪から11種類の脂肪酸を検出した。このうちパルミチン酸(C16:0)、ステアリン酸(C18:0)オレイン酸(C18:1)、リノール酸(C18:2)、ア

ラキジン酸(C20:0)、エイコサモノエン酸(C20:1)、ペヘン酸(C22:0)、エルシン酸(C22:1)、リグノセリン酸(C24:0)の9種類の脂肪酸をガスクロマトグラフィー質量分析により同定した。

試料中の脂肪酸組成をみると大きく3つのパターンに分かれた。1つめはオレイン酸が最も多く含まれているもので、試料No1、No6、No11、No12、No15～No17がこれにあたる。2つめはパルミチン酸が最も多く含まれているもので、No3～No5、No7～No10、No13、No14、No21～No24がこれにあたる。3つめはパルミチン酸とオレイン酸が同程度含まれているもので、No2、No18～No20がこれにあたる。一般に考古遺物にはパルミチン酸が多く含まれている。これは長い年月の間にオレイン酸、リノール酸といった不飽和脂肪酸の一部が分解し、パルミチン酸を生成するため、主として植物遺体の土壌化に伴う腐植物から来ていると推定される。オレイン酸の分布割合の高いものとしては、動物性脂肪と植物性脂肪の両方が考えられ、植物性脂肪は特に根、茎、種子に多く分布するが、動物性脂肪の方が分布割合は高い。オレイン酸はまた、ヒトの骨のみを埋葬した再葬墓試料などにも多く含まれる。ステアリン酸は動物体脂肪や植物の根に比較的多く分布している。リノール酸は主として植物種子・葉に多く分布する。

一方、高等動物、特に高等動物の臓器、脳、神経組織、血液、胎盤に特徴的にみられる炭素数20以上のアラキジン酸、ペヘン酸、リグノセリン酸などの高級飽和脂肪酸はそれら3つの合計含有率が、試料No1、No2、No16、No17、No18、No20で約13～20%、他のすべての試料で約21～30%であった。通常の遺跡出土土壤中でのアラキジン酸、ペヘン酸、リグノセリン酸の高級飽和脂肪酸3つの合計含有率は約4～10%であるから、すべての試料中で高級飽和脂肪酸含有量は多めで、特に試料No3～No15、No19、No21～No24で多かった。高級飽和脂肪酸含有量が多い場合としては、試料中に高等動物の血液、脳、神経組織、臓器などの特殊部分が含まれている場合と、植物の種子・葉などの植物体の表面を覆うワックスの構成成分が含まれている場合とがある。高級飽和脂肪酸が動物、植物のどちらに由来するかはコレステロールの分布割合によって決めることができる。概して、動物に由来する場合はコレステロール含有量が多く、植物に由来する場合はコレステロール含有量が少ない。

以上、山崎5遺跡の試料中の脂肪酸組成パターンは主要な脂肪酸がオレイン酸かパルミチン酸であるものと、オレイン酸とパルミチン酸が同程度含まれているものの3つに分かれ、その中では主要な脂肪酸がパルミチン酸であるパターンのものがほぼ半数を占めることがわかった。高級飽和脂肪酸はすべての試料中で多いこともわかった。

4 残存脂肪のステロール組成

残存脂肪のステロールをヘキサノール-エチルエーテル-酢酸(80:30:1)を展開溶媒とするゲル薄層クロマトグラフィーで分離・精製後、ピリジン-無水酢酸(1:1)を窒素気流下で反応させてアセテート誘導体にする。得られた誘導体をもう一度同じ展開溶媒で精製してから、ガスクロマトグラフィーにより分析した。残存脂肪の主なステロール組成を図3に示す。残存脂肪から14～24種類のステロールを検出した。このうちコプロスタノール、コレステロール、エルゴステロール、カンベステロール、スチグマステロール、シトステロールなど8種類のステロールをガスクロマトグラフィー質量分析により同定した。

試料中のステロール組成をみると、動物由来のコレステロールは試料No10、No14、No24に約7～10%、他のすべての試料中に約2～6%分布していた。通常一般的な植物腐植土中にはコレステロールは2～6%分布している。従って、試料No10、No14、No24を除くすべての試料中でのコレステロー

ル含有量は通常の遺跡出土土壌中の植物腐植土並みで、Na10、Na14、Na24のそれはわずかに多かった。P-10、P-61、P-43、P-32では土壌外対照試料中のコレステロール含有量の方が土壌内試料中のそれよりも多かった。

植物由来のシトステロールは試料Na1とNa9に32%前後、Na10とNa24に約1~5%、他のすべての試料中に約11~25%分布していた。通常の遺跡出土土壌中にはシトステロールは30~40%、もしくはそれ以上分布している。従って、試料Na1とNa9のシトステロール含有量は通常の遺跡出土土壌中の植物腐植土並みで、Na10とNa24のそれは非常に少なく、他のすべての試料中のそれは少なめであった。

クリ、クルミなどの堅果植物由来のカンベステロール、スチグマステロールは、すべての試料中にカンベステロールが約3~10%、スチグマステロールが約2~6%分布していた。通常の遺跡出土土壌中にはカンベステロール、スチグマステロールは1~10%分布している。従って、試料中のカンベステロール、スチグマステロール含有量はすべて通常の遺跡出土土壌中の植物腐植土並みであった。

微生物由来のエルゴステロールは試料Na21で検出されず、他のすべての試料中に約0.3~4.3%分布していた。通常の遺跡出土土壌中にはエルゴステロールは数%分布している。従って、この程度の量は土壌微生物の存在による結果と考えられる。

哺乳動物の腸および糞便中に特異的に分布するコプロスタノールは、試料Na6、Na9、Na15、Na16、Na21に約2%、Na3、Na8、Na22、Na23に約6~7%、他のすべての試料中に約3~5%分布していた。コプロスタノールは通常の遺跡出土土壌中には分布していないが、1~2%程度の量は検出されることがある。また、コプロスタノールの分布により試料中での哺乳動物の存在を確認することができる他に、コプロスタノールが10%以上含まれていると、試料中に残存している脂肪の動物種や性別、また遺体の配置状況などが特定できる場合がある⁽⁶⁾。今回はコプロスタノールが10%以上含まれている試料はなかったが、試料Na6、Na9、Na15、Na16、Na21を除くすべての試料中に通常よりはわずかに多く含まれており、これらの試料中には哺乳動物の腸もしくは糞便由来の脂肪が残存していた可能性が考えられる。特に、試料Na3、Na8、Na22、Na23はその可能性が高い。

一般に動物遺体の存在を示唆するコレステロールとシトステロールの分布比の指標値は土壌で0.6以上⁽⁷⁾、土器・石器・石製品で0.8~23.5である^(8,9)。試料中のコレステロールとシトステロールの分布比を表2に示す。表からわかるように、分布比は試料Na10とNa24を除くすべての試料中に動物遺体もしくは動物由来の脂肪がほとんど残存していないことになる。この分布比を各土壌の内外で比較するとP-35を除くすべての土壌で土壌外対照試料の方が高かった。P-35では対照試料の方がごくわずかではあるが低かった。

以上、山崎5遺跡の試料中に含まれている各種ステロール類は、動物由来のコレステロールがP-61対照試料Na10、P-43対照試料Na14、P-11対照試料Na24にわずかに多く、哺乳動物由来のコプロスタノールがP-35試料Na3、P-10対照試料Na8、P-32試料Na22、Na23に多めで、他のほとんどすべての試料中でも通常の遺跡出土土壌中でよりはやや多めである他は、すべて通常の遺跡出土土壌中の植物腐植土並みか少なめであることがわかった。コレステロールとシトステロールの分布比は、P-61対照試料Na10とP-32対照試料Na24を除くすべての試料が0.6以下で、分布比で見るとNa10とNa24を除くすべての試料中に動物遺体もしくは動物由来の脂肪が残存している可能性が少ないことがわかった。これらの分布比はほぼ0.6以下ではあるが、土壌内外の試料で比較するとP-35を除くすべての土壌で土壌外対照試料の方が高かった。分布比が高めであった試料は他の試料に比べるとシトステロール含有量が少ない。シトステロールが土壌外対照試料中でなせ少なめであるのかは不

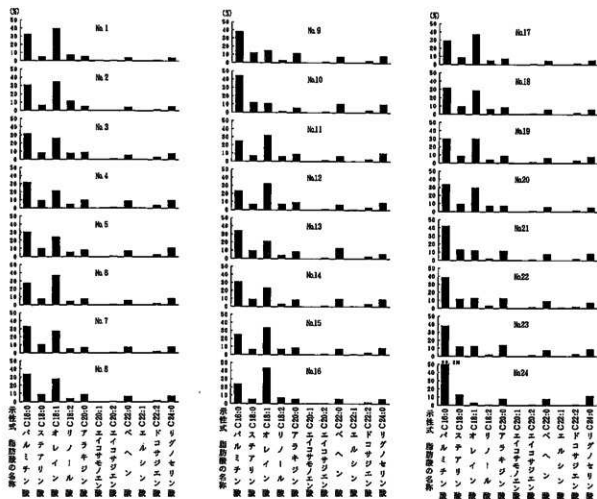


図2 試料中に残存する脂肪の脂肪酸組成

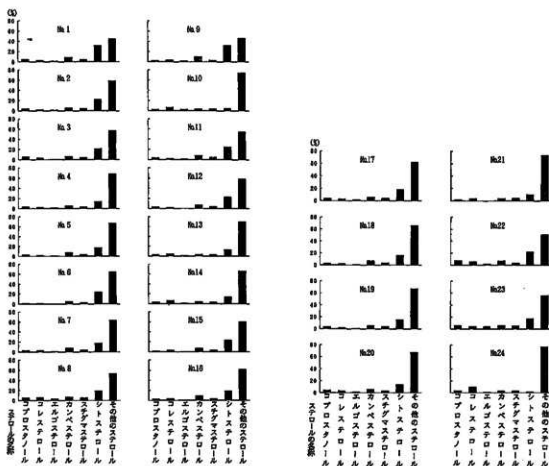


図3 試料中に残存する脂肪のステロール組成

明である。今回は試料ごとのコレステロールやコプロスタノールの含有量に大きな差異がなく、高級飽和脂肪酸含有量にも大きな差異がなかったために、ステロール分析の結果を考え合わせても、脂肪酸分析で多めに含まれていた高級飽和脂肪酸が動物、植物のどちらに由来するかは判断できなかった。

5 脂肪酸組成の数理解析

残存脂肪の脂肪酸組成をパターン化し、重回帰分析により各試料間の相関係数を求め、この相関係数を基礎にしてクラスター分析を行って各試料の類似度を調べた。同時に同じ北海道内の遺跡で出土土壌にヒト遺体を直接埋葬した場合と類似の脂肪やヒトの骨部分をよく含むヒト遺体全般の脂肪が残存していると判定した美沢3遺跡⁽³⁰⁾、納内3遺跡⁽³¹⁾、滝里38遺跡⁽³²⁾、キウス4B遺跡⁽³³⁾、キウス4遺跡I地区⁽³⁴⁾、キウス5遺跡A-2地区⁽³⁵⁾、キウス5遺跡B地区、C地区⁽³⁶⁾、キウス7遺跡⁽³⁷⁾、ユカンボシC15遺跡⁽³⁸⁾、ユカンボシE7遺跡⁽³⁹⁾、オバルベツ2遺跡^(20,21,22)、出土土壌を土壌墓と判定した兵庫県寺田遺跡⁽²⁰⁾、出土土器を幼児埋葬用甕棺と判定した静岡県原川遺跡⁽²⁰⁾、ヒトの体脂肪、出土土壌や出土土器にヒトの骨のみを埋納した場合と類似の脂肪が残存していると判定した北海道栄町5遺跡⁽²⁰⁾、出土土壌を再埋葬と判定した宮城県沼沢遺跡⁽²⁰⁾、ヒトの骨油試料など、各種遺跡試料や現生試料の脂肪酸との類似度も比較した。予めデータベースの脂肪酸組成と試料中のそれとでクラスター分析を行い、その中から出土状況を考慮して類似度の高い試料を選び出し、再びクラスター分析によりパターン間距離にして表したのが図4である。

図からわかるように、山崎5遺跡の試料No1、No2、No6、No11、No12、No15~No17はオバルベツ2遺跡、ユカンボシE7遺跡の試料と共に相関行列距離0.05以内でA群を形成し、非常によく類似していた。山崎5遺跡の試料No3~No5、No7、No8、No13、No14、No18~No20はキウス4遺跡I地区、キウス7遺跡、オバルベツ2遺跡の試料と共に相関行列距離0.05以内でC群を形成し、非常によく類似していた。山崎5遺跡の試料No9、No10、No21~No24はオバルベツ2遺跡、原川遺跡の試料と共に相関行列距離0.05以内でE群を形成し、非常によく類似していた。他の対照試料はB、D、F~H群を形成した。これらの群のうちA群とB群は相関行列距離0.1以内の所にあり互いによく類似しており、C群とD群も同様に互いによく類似していた。また、A~D群は相関行列距離0.15以内の所にあり、4つの群すべてが類似していた。E群とF群は相関行列距離0.1以内の所にあり互いによく類似しており、これらの群はG群、H群とも相関行列距離0.2以内の所にありかなり類似していた。

以上、山崎5遺跡のP-61内外試料No9、No10とP-32内底部試料No21~No23、P-32外試料No24に残存する脂肪はヒト遺体を直接埋葬したことに関わる遺跡試料の脂肪やヒトの体脂肪と類似しており、山崎5遺跡の他のすべての試料中に残存する脂肪はヒトの骨のみを埋納したことに関わる遺跡試料の脂肪やヒトの骨油、また、ヒトの骨部分をよく含むヒト遺体全般の脂肪と類似していることがわかった。

6 脂肪酸組成による種特異性相関

残存脂肪の脂肪酸組成から種を特定するために、中級脂肪酸（炭素数16のバルミチン酸から炭素数18のステアリン酸、オレイン酸、リノール酸、リノレン酸まで）と高級脂肪酸（炭素数20のアラキジン酸以上）との比をX軸に、飽和脂肪酸と不飽和脂肪酸との比をY軸にとり種特異性相関を求めた。この比例配分により第1象限の原点から離れた位置に高等動物の血液、脳、神経組織、臓器などに由来する脂肪、第1象限から第2象限の原点から離れた位置にヒト胎盤、第2象限の原点から離れた位

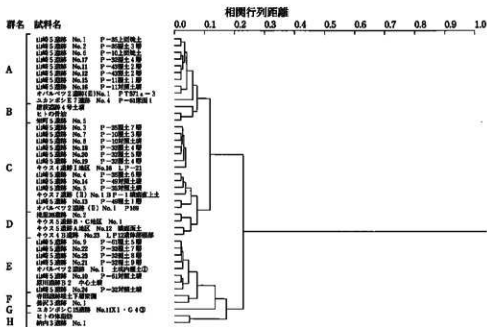


図4 試料中に残存する脂肪の脂肪酸組成樹状構造図

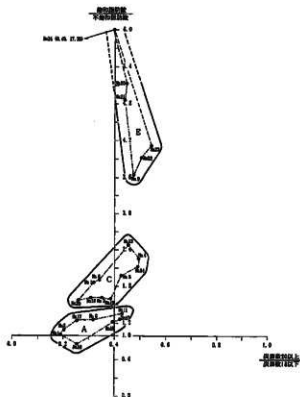


図5 試料中の残存する脂肪の脂肪酸組成による種特異性相関

置に高等動物の体脂肪、骨油に由来する脂肪がそれぞれ分布する。第2象限から第3象限にかけての原点付近に植物と微生物、原点から離れた位置に植物腐植、第3象限から第4象限にかけての原点から離れた位置に海産動物に由来する脂肪が分布する。

土壌試料の残存脂肪から求めた種特異性相関を図5に示す。図からわかるように、試料No1、No2、No6、No11、No12、No15～No17は第1、第2、第3象限にまたがって原点に近い所でA群を形成した。試料No3～No5、No7、No8、No13、No14、No18～No20は第1、第2象限にまたがって原点に近い所でC群を形成した。試料No9、No10、No21～No24は第1象限の広い範囲でE群を形成した。A群とC群の分布位置は試料中に残存する脂肪が高等動物の体脂肪や骨油、血液、脳、神経組織、臓器などの特殊な部分に由来し、E群のそれは高等動物の血液、脳、神経組織、臓器などの特殊な部分に由来することを示唆している。

以上、山崎5遺跡のP-61内外試料No9、No10とP-32内底部試料No21～No23、P-32外試料No24に残存する脂肪は高等動物の血液、脳、神経組織、臓器などの特殊な部分に由来し、他のすべての試料中に残存する脂肪は高等動物の体脂肪や骨油、血液、脳、神経組織、臓器などの特殊な部分に由来することがわかった。

7 総括

山崎5遺跡から出土した土壌の性格を判定するために、土壌内外の土壌試料の残存脂肪分析を行った。残存する脂肪の脂肪酸分析、ステロール分析、脂肪酸組成の分布に基づく数理解析の結果、土壌P-35、P-10、P-43、P-32に残存する脂肪はヒトの骨部分をよく含むヒト遺体全般の脂肪、P-61に残存する脂肪はヒト遺体を直接埋葬したことに関わる遺跡試料の脂肪やヒトの体脂肪、P-11に残存する脂肪はヒトの骨のみを埋葬したことに関わる遺跡試料の脂肪やヒトの骨油、また、ヒトの骨部分をよく含むヒト遺体全般の脂肪と類似していることがわかった。土壌外対照試料が土壌内試料とほとんど同一傾向を示すか、コレステロール含有量は対照試料の方が多い場合があった。これは対照試料採取地点が土壌と非常に近く、またこれらの土壌が存在した周辺が墓域であったと推測されているために、対照試料もその影響を受けている可能性が考えられる。また、今回はこれらの土壌が墓域であると判定された場合には、墓域に埋葬されたヒトの年齢や大きさも推測したかったが、それらの判定要因となる哺乳動物由来のコプロスタノールが判定基準の10%以上含まれておらず、推測は困難であった。

今回の試料採取量は土壌内外の土壌としては非常に少ないものであった。採取量が少ないと土壌内に特徴的に存在した物質が精確に採取されていない可能性が高くなる。土壌からの土壌試料は500～1000gくらいあるのが望ましい。

参考文献

- (1) R. C. A. Rottländer and H. Schlichtherle: 「Food identification of samples from archaeological sites」, 『Archaeo Physika』, 10巻, 1979, pp260.
- (2) D. A. Priestley, W. C. Gailat and A. C. Leopold: 「Preservation of polyunsaturated fatty acid in ancient Anasazi maize seed」, 『Nature』, 292巻, 1981, pp146.
- (3) R. C. A. Rottländer and H. Schlichtherle: 「Analyse frühgeschichtlicher Gefäß-inhalte」, 『Naturwissenschaften』, 70巻, 1983, pp33.
- (4) 中野益男: 「残存脂肪分析の現状」, 『歴史公論』, 第10巻(6), 1984, pp124.
- (5) M. Nakano and W. Fischer: 「The Glycolipids of *Lactobacillus casei* DSM 20021」, 『Hoppe-Seyler's Z. Physiol. Chem.』, 358巻, 1977, pp1439.
- (6) 中野益男: 「残留脂肪酸による古代復元」, 『新しい研究法は考古学になにをもたらしたか』, 田中 琢, 佐原 真編, クバプロ, 1995, pp148.
- (7) 中野益男, 伊賀 啓, 根岸 孝, 安本敦博, 畑 宏明, 矢吹俊男, 佐原 真, 田中 琢: 「古代遺跡に残存する脂肪の分析」, 『脂質生化学研究』, 第26巻, 1984, pp40.
- (8) 中野益男: 「真脇遺跡出土土器に残存する動物油脂」, 『真脇遺跡』, 石川県鳳至郡能登町教育委員会・真脇遺跡発掘調査団, 1986, pp401.
- (9) 中野益男, 根岸 孝, 長田正宏, 福島道広, 中野寛子: 「ヘロカルウス遺跡の石器製品に残存する脂肪の分析」, 『ヘロカルウス遺跡』, 北海道文化財研究所調査報告書第3集, 北海道文化財研究所, 1987, pp191.
- (10) 中野益男, 福島道広, 中野寛子, 長田正宏: 「美沢3遺跡の土壌に残存する脂肪の分析」, 『美沢川流域の遺跡群Ⅱ』, 北海道埋蔵文化財センター調査報告書第58集, 北海道埋蔵文化財センター, 1998, pp237.
- (11) 中野益男, 福島道広, 中野寛子, 長田正宏: 「納内3遺跡の遺構群に残存する脂肪の分析」, 『納内3遺跡』, 北海道埋蔵文化財センター調査報告書第60集, 北海道埋蔵文化財センター, 1998, pp141.
- (12) 中野寛子, 明瀬雅子, 長田正宏, 中野益男: 「滝里38遺跡の土壌に残存する脂肪の分析」, 『滝里遺跡群Ⅱ』, 北海道埋蔵文化財センター調査報告書第74集, 北海道埋蔵文化財センター, 1990, 1991, pp93.
- (13) 中野益男, 中野寛子, 星山賢一: 「キウス4B遺跡から出土した土壌に残存する脂肪の分析」, 『未発表』, 北海道埋蔵文化財センター。
- (14) 中野益男, 中野寛子, 星山賢一: 「キウス4遺跡I地区から出土した遺構に残存する脂肪の分析」, 『未発表』, 北海道埋蔵文化財センター。
- (15) 中野益男, 中野寛子, 長田正宏: 「キウス5遺跡A-2地区から出土した土器・土壌に残存する脂肪の分析」, 『キウス5遺跡(5)』, 北海道埋蔵文化財センター調査報告書第125集第2分冊, 北海道埋蔵文化財センター, 1998, pp331.
- (16) 中野益男, 中野寛子, 長田正宏: 「キウス5遺跡B地区、C地区から出土した土壌に残存する脂肪の分析」, 『未発表』, 北海道埋蔵文化財センター。
- (17) 中野益男, 中野寛子, 長田正宏: 「キウス7遺跡から出土した土壌・土器に残存する脂肪の分析」, 『未発表』, 北海道埋蔵文化財センター。
- (18) 中野益男, 中野寛子, 星山賢一: 「ユカンボシC15遺跡から出土した土壌・土器に残存する脂肪の分析」, 『未発表』, 北海道埋蔵文化財センター。
- (19) 中野益男, 中野寛子, 星山賢一: 「ユカンボシE7遺跡から出土した土壌に残存する脂肪の分析」, 『未発表』, 北海道埋蔵文化財センター。
- (20) 中野益男, 中野寛子, 長田正宏: 「オバルベツ2遺跡・栄原2遺跡の土壌・礫に残存する脂肪の分析」, 『未発表』, 北海道山越郡長万部町教育委員会。(1回目)
- (21) 中野益男, 中野寛子, 清水 了, 門 利恵, 長田正宏: 「オバルベツ2遺跡から出土した土壌に残存する脂肪の分析」, 『未発表』, 北海道山越郡長万部町教育委員会。(2回目)
- (22) 中野益男, 中野寛子, 清水 了, 門 利恵, 星山賢一: 「オバルベツ2遺跡から出土した土壌に残存する脂肪の分析」, 『オバルベツ2遺跡(2)』, 北海道文化財保護協会調査報告書第13集, 北海道文化財保護協会, 2000, pp29.
- (23) 中野益男, 中野寛子, 福島道広, 長田正宏: 「寺田遺跡土壌基状遺構に残存する脂肪の分析」, 『未発表』, 兵庫県芦屋市教育委員会。
- (24) 中野益男, 樋口 剛, 福島道広, 中野寛子, 長田正宏: 「原川遺跡の土器棺に残存する脂肪の分析」, 『原川遺跡Ⅰ』, 静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第17集, 静岡県埋蔵文化財調査研究所, 1988, pp79.
- (25) 中野寛子, 明瀬雅子, 長田正宏, 中野益男, 福島道広: 「栄町5遺跡の土壌に残存する脂肪の分析」, 『余市町フグツペ貝塚』, 北海道埋蔵文化財センター調査報告書第66集, 北海道埋蔵文化財センター, 1991, pp578.
- (26) 中野益男, 福島道広, 中野寛子, 長田正宏: 「猪萩遺跡の遺構に残存する脂肪の分析」, 『猪萩遺跡』, 宮城県文化財調査報告書第132集, 宮城県教育委員会・宮城県土木部水資源開発課, 1990, pp929.

2 放射性炭素年代測定結果

(株)地球科学研究所

放射性炭素年代測定の依頼を受けました試料について、別表の結果を得ましたでご報告申し上げます。

報告内容の説明

14C age (y BP)	: ¹⁴ C年代 "measured radiocarbon age" 試料の ¹⁴ C/ ¹² C比から、単純に現在(1950年AD)から何年前(BP)かを計算した年代。半減期はリビーの5568年を用いた。
補正14C age (y BP)	: 補正 ¹⁴ C年代 "conventional radiocarbon age" 試料の炭素安定同位体比(¹³ C/ ¹² C)を測定して試料の炭素の同位体分別を知り ¹⁴ C/ ¹² Cの測定値に補正値を加えた上で、算出した年代。 試料の ¹³ C値を-25(‰)に標準化することによって得られる年代値である。暦年代を得る際にはこの年代値をもちいる。

δ13C (permil) : 試料の測定¹³C/¹²C比を補正するための¹³C/¹²C比。
この安定同位体比は、下式のように標準物質(PDB)の同位体比からの千分偏差(‰)で表現する。

$$\delta^{13}\text{C} (\text{‰}) = \frac{(^{13}\text{C}/^{12}\text{C})_{\text{[試料]}} - (^{13}\text{C}/^{12}\text{C})_{\text{[標準]}}}{(^{13}\text{C}/^{12}\text{C})_{\text{[標準]}}} \times 1000$$

ここで、 $^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$ [標準] = 0.0112372 である。

暦年代 : 過去の宇宙線強度の変動による大気中¹⁴C濃度の変動に対する補正により、暦年代を算出する。具体的には年代既知の樹木年輪の¹⁴Cの測定、サンゴのU-T h年代と¹⁴C年代の比較により、補正曲線を作成し、暦年代を算出する。最新のデータベース ("INTCAL 98 Radiocarbon Age Calibration" Stuiver et al, 1998, Radiocarbon 40(3)) により約19000 y BPまでの換算が可能となった。*

*但し、10000yBP以前のデータはまだ不完全であり今後も改善される可能性が高いので、補正前のデータの保管を推奨します。

"The calendar calibrations were calculated using the newest calibration data as published in Radiocarbon, Vol.40, No. 3, 1998 using the cubic spline fit mathematics as published by Talma and Vogel, Radiocarbon, Vol.35, No. 2, pg317-322, 1993: A Simplified Approach to Calibrating C14 Dates. Results are reported both as cal BC and cal BP. Note that calibration for samples beyond about 10,000 years is still very subjective. The calibration data beyond about 13,000 years is a "best fit" compilation of modeled data and, although an improvement on the accuracy of the radiocarbon date, should be considered illustrative. It is very likely that calibration data beyond 10,000 years will change in the future. Because of this, it is very important to quote the original BP dates and these references in your publications so that future refinements can be applied to your results."

測定方法などに関するデータ

測定方法	AMS : 加速器質量分析 Radiometric : 液体シンチレーションカウンタによるβ-線計数法
処理・調整・その他 : 試料の前処理、調整などの情報	
前処理	acid-alkali-acid : 酸-アルカリ-酸洗浄 acid washes : 酸洗浄 acid etch : 酸によるエッチング none : 未処理
調整、その他	Bulk-Low Carbon Material : 低濃度有機物処理 Bone Collagen Extraction : 骨、歯などのコラーゲン抽出 Cellulose Extraction : 木材のセルロース抽出 Extended Counting: Radiometricによる測定の際、測定時間を延長する
分析機関	BETA ANALYTIC INC. 4985 SW 74 Court, Miami, FL, U.S.A 33155

試料データ	C14年代(y BP) (Measured C14 age)	$\delta^{13}\text{C}$ (permil)	補正 C14年代(y BP) (Conventional C14 age)
Beta-150460	4700 $\pm$ 40	-27.7	4660 $\pm$ 40
試料名 (16463) YAM5-1			
測定方法、期間 AMS-Standard			
試料種、前処理など charred material		acid/alkali/acid	
Beta-150461	4590 $\pm$ 50	-24.8	4590 $\pm$ 50
試料名 (16464) YAM5-2			
測定方法、期間 AMS-Standard			
試料種、前処理など charred material		acid/alkali/acid	
Beta-150462	4830 $\pm$ 50	-25.7	4820 $\pm$ 50
試料名 (16465) YAM5-3			
測定方法、期間 AMS-Standard			
試料種、前処理など charred material		acid/alkali/acid	
Beta-150463	4780 $\pm$ 40	-26.1	4760 $\pm$ 40
試料名 (16466) YAM5-4			
測定方法、期間 AMS-Standard			
試料種、前処理など charred material		acid/alkali/acid	
Beta-150464	4610 $\pm$ 50	-26.4	4590 $\pm$ 50
試料名 (16467) YAM5-5			
測定方法、期間 AMS-Standard			
試料種、前処理など charred material		acid/alkali/acid	
Beta-150465	4810 $\pm$ 40	-26.4	4790 $\pm$ 40
試料名 (16468) YAM5-6			
測定方法、期間 AMS-Standard			
試料種、前処理など charred material		acid/alkali/acid	

年代値はRCYBL(1950 A. D. を0年とする)で表記。モダンリファレンススタンダードは、国際的な慣例として、NBS Oxalic AcidのC14濃度の95%を使用し、半減期はリビークの5568年を使用した。エラーは1シグマ(68%確率)である。

試料データ	C14年代(y BP) (Measured C14 age)	$\delta^{13}\text{C}$ (permil)	補正 C14年代(y BP) (Conventional C14 age)
Beta-150466	4780 $\pm$ 50	-25.3	4780 $\pm$ 50
試料名 (16469) YAM5-7 測定方法、期間 AMS-Standard 試料種、前処理など charred material		acid/alkali/acid	
Beta-150467	4580 $\pm$ 50	-26.7	4550 $\pm$ 50
試料名 (16470) YAM5-8 測定方法、期間 AMS-Standard 試料種、前処理など charred material		acid/alkali/acid	
Beta-150468	4680 $\pm$ 50	-28.1	4630 $\pm$ 50
試料名 (16471) YAM5-9 測定方法、期間 AMS-Standard 試料種、前処理など charred material		acid/alkali/acid	
Beta-150469	4720 $\pm$ 40	-26.0	4700 $\pm$ 40
試料名 (16472) YAM5-10 測定方法、期間 AMS-Standard 試料種、前処理など charred material		acid/alkali/acid	
Beta-150470	4790 $\pm$ 40	-27.6	4750 $\pm$ 40
試料名 (16473) YAM5-11 測定方法、期間 AMS-Standard 試料種、前処理など charred material		acid/alkali/acid	
Beta-150471	4770 $\pm$ 50	-28.0	4720 $\pm$ 50
試料名 (16474) YAM5-12 測定方法、期間 AMS-Standard 試料種、前処理など charred material		acid/alkali/acid	

試料データ	C14年代(y BP) (Measured C14 age)	$\delta^{13}\text{C}$ (permil)	補正 C14年代(y BP) (Conventional C14 age)
Beta-150472	4630 $\pm$ 40	-24.1	4640 $\pm$ 40
試料名 (16475) YAM5-13 測定方法、期間 AMS-Standard 試料種、前処理など charred material acid/alkali/acid			
Beta-150473	4710 $\pm$ 40	-26.9	4680 $\pm$ 40
試料名 (16476) YAM5-14 測定方法、期間 AMS-Standard 試料種、前処理など charred material acid/alkali/acid			
Beta-150474	4750 $\pm$ 50	-25.0	4750 $\pm$ 50
試料名 (16477) YAM5-15 測定方法、期間 AMS-Standard 試料種、前処理など charred material acid/alkali/acid			

表1 放射性炭素年代測定一覧

測定番号	試料名	出土地点	層位	14C年代 (y BP)	補正C14年代	校正年代	
						交点	1 σ の範囲
Beta-150460	YAM5-1	H-1	覆土3層	4700 $\pm$ 40	4660 $\pm$ 40	cal B C 3500 cal B C 3460 cal B C 3390	cal B C 3510to3420 cal B C 3390to3370
Beta-150461	YAM5-2	H-1	覆土2 b層	4590 $\pm$ 50	4580 $\pm$ 50	cal B C 3360	cal B C 3480to3470 cal B C 3370to3340
Beta-150462	YAM5-3	H-1	床面	4830 $\pm$ 50	4820 $\pm$ 50	cal B C 3640	cal B C 3660to3630 cal B C 3670to3540
Beta-150463	YAM5-4	H-1	床面	4780 $\pm$ 40	4760 $\pm$ 40	cal B C 3620 cal B C 3580 cal B C 3530	cal B C 3640to3520
Beta-150464	YAM5-5	H-3	床面	4610 $\pm$ 50	4590 $\pm$ 40	cal B C 3360	cal B C 3480to3470 cal B C 3370to3340
Beta-150465	YAM5-6	H-15	覆土2 b層	4810 $\pm$ 40	4790 $\pm$ 40	cal B C 3630	cal B C 3640to3630 cal B C 3590to3530
Beta-150466	YAM5-7	H-15	床面	4780 $\pm$ 50	4780 $\pm$ 50	cal B C 3630 cal B C 3560 cal B C 3540	cal B C 3640to3520
Beta-150467	YAM5-8	H-15	床面	4580 $\pm$ 50	4550 $\pm$ 50	cal B C 3350	cal B C 3360to3320 cal B C 3220to3120
Beta-150468	YAM5-9	H-15	覆土2 c層	4680 $\pm$ 50	4630 $\pm$ 50	cal B C 3370	cal B C 3500to3440 cal B C 3380to3360
Beta-150469	YAM5-10	F-1	覆土	4720 $\pm$ 40	4700 $\pm$ 40	cal B C 3510 cal B C 3420 cal B C 3390	cal B C 3620to3600 cal B C 3530to3500 cal B C 3460to3390
Beta-150470	YAM5-11	F-6	覆土6層	4730 $\pm$ 40	4750 $\pm$ 40	cal B C 3650 cal B C 3590 cal B C 3530	cal B C 3630to3510
Beta-150471	YAM5-12	F-4	覆土3層	4770 $\pm$ 50	4720 $\pm$ 50	cal B C 3620	cal B C 3630to3570 cal B C 3540to3500 cal B C 3450to3390
Beta-150472	YAM5-13	F-9	覆土2層	4630 $\pm$ 40	4640 $\pm$ 40	cal B C 3680 cal B C 3470 cal B C 3370	cal B C 3500to3440 cal B C 3380to3360
Beta-150473	YAM5-14	F-23	床面	4710 $\pm$ 40	4680 $\pm$ 40	cal B C 3600 cal B C 3440 cal B C 3390	cal B C 3620to3490 cal B C 3470to3370
Beta-150474	YAM5-15	P-35	覆土3層	4750 $\pm$ 50	4750 $\pm$ 50	cal B C 3620 cal B C 3590 cal B C 3530	cal B C 3640to3510 cal B C 3420to3390

CALIBRATION OF RADIOCARBON AGE TO CALENDAR YEARS

試料名 YAM G-1 (Variables: C13/C12=27.7‰, $\delta^{13}C$ =-1)

Laboratory number: Beta-150466

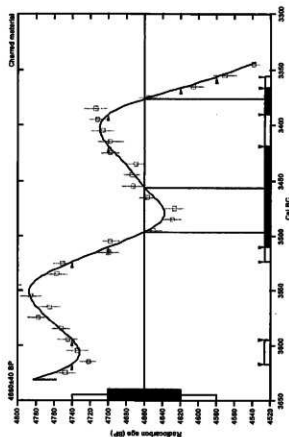
Conventional radiocarbon age: 4669±49 BP

2 Sigma calibrated results: Cal BC 3628 to 3690 (Cal BP 5570 to 5540) and
Cal BC 3528 to 3560 (Cal BP 5470 to 5318)

Intercept data

Intercept of radiocarbon age
with calibration curve:
Cal BC 3509 (Cal BP 5450) and
Cal BC 3469 (Cal BP 5410) and
Cal BC 3386 (Cal BP 5330)

1 Sigma calibrated results: Cal BC 3510 to 3420 (Cal BP 5460 to 5370) and
Cal BC 3390 to 3370 (Cal BP 5340 to 5320)



References:

- Bombardier
- Calibrated Dates
- Adrian, M., von der Ploik, H., 1996, Radiocarbon 49(3), p41-48
- INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration
- Adrian, M., von der Ploik, H., 1996, Radiocarbon 49(3), p41-48
- Adrian, M., von der Ploik, H., 1996, Radiocarbon 49(3), p41-48
- A Simplified Approach to Calibrating C14 Dates
- Tobias, A. S., Vogel, J. C., 1991, Radiocarbon 33(2), p317-323

CALIBRATION OF RADIOCARBON AGE TO CALENDAR YEARS

試料名 YAM G-5 (Variables: C13/C12=-26.4‰, $\delta^{13}C$ =-1)

Laboratory number: Beta-150464

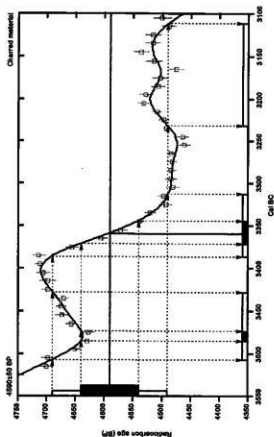
Conventional radiocarbon age: 4596±50 BP

2 Sigma calibrated results: Cal BC 3510 to 3438 (Cal BP 5469 to 5380) and
Cal BC 3396 to 3318 (Cal BP 5340 to 5260) and
Cal BC 3236 to 3118 (Cal BP 5180 to 5060)

Intercept data

Intercept of radiocarbon age
with calibration curve:
Cal BC 3350 (Cal BP 5310)

1 Sigma calibrated results: Cal BC 3480 to 3470 (Cal BP 5440 to 5420) and
Cal BC 3370 to 3340 (Cal BP 5320 to 5290)



References:

- Bombardier
- Calibrated Dates
- Adrian, M., von der Ploik, H., 1996, Radiocarbon 49(3), p41-48
- INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration
- Adrian, M., von der Ploik, H., 1996, Radiocarbon 49(3), p41-48
- Adrian, M., von der Ploik, H., 1996, Radiocarbon 49(3), p41-48
- A Simplified Approach to Calibrating C14 Dates
- Tobias, A. S., Vogel, J. C., 1991, Radiocarbon 33(2), p317-323

CALIBRATION OF RADIOCARBON AGE TO CALENDAR YEARS

試料名 YAM 5 - 3 (Variables: C13/C12~25.7‰, sub=1)

Laboratory number Beta-158462

Conventional radiocarbon age: 4820±58 BP

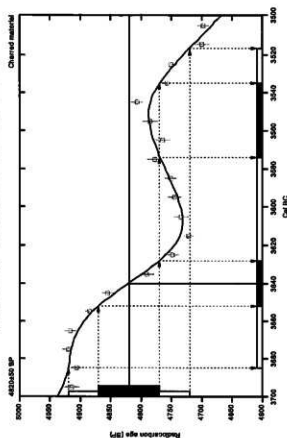
2 Sigma calibrated result: Cal BC 3698 to 3528 (Cal BP 5648 to 5478)
(95% probability)

Intercept data

Intercept of radiocarbon age

with calibration curve:

Cal BC 3640 (Cal BP 5590)
Cal BC 3650 to 3630 (Cal BP 5600 to 5580) and
Cal BC 3570 to 3540 (Cal BP 5520 to 5480)
(68% probability)



References:
Stuiver and

Calibrated Dates
Bertoldi Curren
Stuiver, M., van der Plicht, W., 1998, Radiocarbon 40(3), p10-11
1998, Radiocarbon 40(3), p101-103
Mathematics
A Simplified Approach to Calibrating C14 Data
Taylor, A. S., Vogel, J. C., 1993, Radiocarbon 35(2), p17-32

CALIBRATION OF RADIOCARBON AGE TO CALENDAR YEARS

試料名 YAM 5 - 4 (Variables: C13/C12~26.1‰, sub=1)

Laboratory number Beta-158463

Conventional radiocarbon age: 4760±40 BP

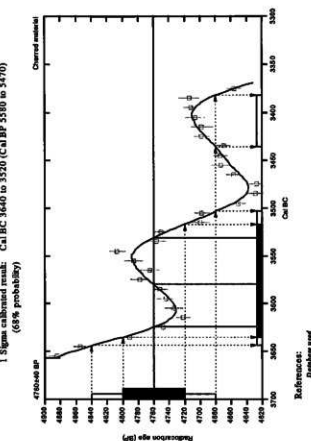
2 Sigma calibrated result: Cal BC 3648 to 3560 (Cal BP 5598 to 5456) and
(95% probability) Cal BC 3448 to 3380 (Cal BP 5398 to 5336)

Intercept data

Intercept of radiocarbon age

with calibration curve:

Cal BC 3620 (Cal BP 5580) and
Cal BC 3580 (Cal BP 5530) and
Cal BC 3550 (Cal BP 5480)
1 Sigma calibrated result: Cal BC 3640 to 3520 (Cal BP 5580 to 5470)
(68% probability)



References:
Stuiver and

Calibrated Dates
Bertoldi Curren
Stuiver, M., van der Plicht, W., 1998, Radiocarbon 40(3), p10-11
1998, Radiocarbon 40(3), p101-103
Mathematics
A Simplified Approach to Calibrating C14 Data
Taylor, A. S., Vogel, J. C., 1993, Radiocarbon 35(2), p17-32

CALIBRATION OF RADIOCARBON AGE TO CALENDAR YEARS

試料名 YAM5-5 (Variables: C13/C12=-26.4‰, mole^{-1})

Laboratory number: Beta-150464

Conventional radiocarbon age: 4590±50 BP

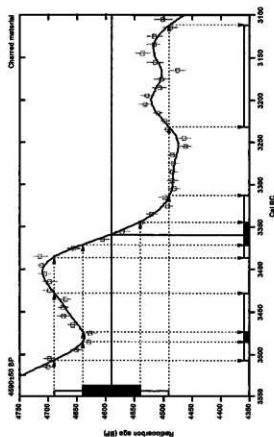
2 Sigma calibrated results:
Cal BC 3510 to 3430 (Cal BP 4460 to 5380) and
Cal BC 3390 to 3310 (Cal BP 5340 to 5260) and
Cal BC 3250 to 3110 (Cal BP 5180 to 5060)

Intercept data

Intercept of radiocarbon age
with calibration curve:

Cal BC 3360 (Cal BP 5310)

1 Sigma calibrated results: Cal BC 3480 to 3470 (Cal BP 5440 to 5420) and
(68% probability) Cal BC 3370 to 3340 (Cal BP 5320 to 5290)



References:
Stuiver and
Reimer and

Calibration Database

IntCal98

Stuiver, M., van der Plicht, J., 1998, Radiocarbon 40(3), p.41-48

INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration

Stuiver, M., et al., 1998, Radiocarbon 40(3), p.1041-1043

Mathematics

A Simplified Approach to Calibrating C14 Dates

Table, A. S., Vogel, J. C., 1993, Radiocarbon 35(2), p.17-22

CALIBRATION OF RADIOCARBON AGE TO CALENDAR YEARS

試料名 YAM5-6 (Variables: C13/C12=-26.4‰, mole^{-1})

Laboratory number: Beta-150465

Conventional radiocarbon age: 4790±40 BP

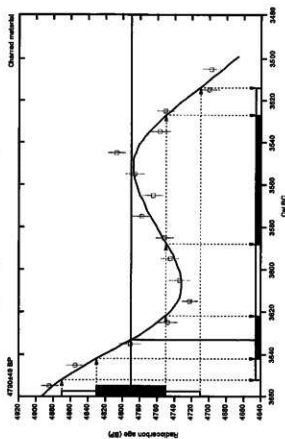
2 Sigma calibrated results:
Cal BC 3460 to 3510 (Cal BP 5600 to 5440)
(95% probability)

Intercept data

Intercept of radiocarbon age
with calibration curve:

Cal BC 3630 (Cal BP 5580)

1 Sigma calibrated results: Cal BC 3640 to 3620 (Cal BP 5590 to 5570) and
(68% probability) Cal BC 3590 to 3550 (Cal BP 5540 to 5480)



References:
Stuiver and
Reimer and

Calibration Database

IntCal98

Stuiver, M., van der Plicht, J., 1998, Radiocarbon 40(3), p.41-48

INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration

Stuiver, M., et al., 1998, Radiocarbon 40(3), p.1041-1043

Mathematics

A Simplified Approach to Calibrating C14 Dates

Table, A. S., Vogel, J. C., 1993, Radiocarbon 35(2), p.17-22

CALIBRATION OF RADIOCARBON AGE TO CALENDAR YEARS

試料名 YAM 5-7 (Variables: C13/C12=25.3‰, $\delta^{13}C$ =-1)

Laboratory number Beta-159466

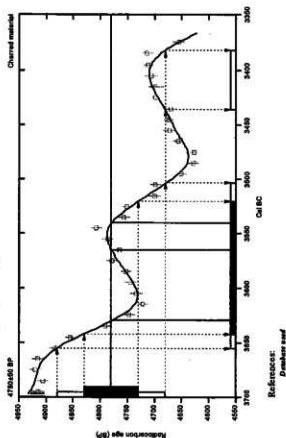
Conventional radiocarbon age 4780±50 BP

2 Sigma calibrated results:
Cal BC 3660 to 3590 (Cal BP 5600 to 5450) and
Cal BC 3440 to 3380 (Cal BP 5390 to 5230)

Intercept data

Intercept of radiocarbon age
with calibration curve:
Cal BC 3630 (Cal BP 5580) and
Cal BC 3560 (Cal BP 5520) and
Cal BC 3540 (Cal BP 5490)

1 Sigma calibrated result:
(68% probability)
Cal BC 3640 to 3520 (Cal BP 5590 to 5470)



References:
Deininger and
Calibrated Dates
Radiocarbon
Interpretation
Jahres, M., et al., 1996, Radiocarbon 40(3), p.101-103
Zhu, M., et al., 1996, Radiocarbon 40(3), p.104-103
Mathematics
A Simplified Approach to Calibrating C14 Dates
Taylor, A. S., Vogel, J. C., 1991, Radiocarbon 35(2), p.17-22

CALIBRATION OF RADIOCARBON AGE TO CALENDAR YEARS

試料名 YAM 5-8 (Variables: C13/C12=26.7‰, $\delta^{13}C$ =-1)

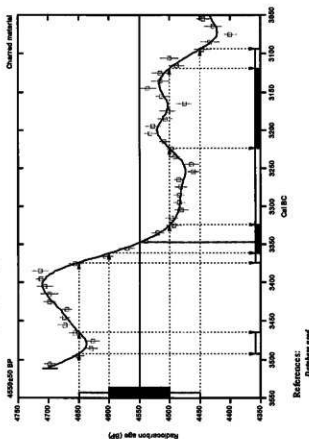
Laboratory number Beta-159467

Conventional radiocarbon age 4550±50 BP

2 Sigma calibrated results:
Cal BC 3490 to 3460 (Cal BP 5440 to 5410) and
Cal BC 3370 to 3090 (Cal BP 5320 to 5040)

Intercept data

Intercept of radiocarbon age
with calibration curve:
Cal BC 3550 (Cal BP 5300)
Cal BC 3560 to 3320 (Cal BP 5310 to 5270) and
Cal BC 3220 to 3120 (Cal BP 5170 to 5070)



References:
Deininger and
Calibrated Dates
Radiocarbon
Interpretation
Jahres, M., et al., 1996, Radiocarbon 40(3), p.101-103
Zhu, M., et al., 1996, Radiocarbon 40(3), p.104-103
Mathematics
A Simplified Approach to Calibrating C14 Dates
Taylor, A. S., Vogel, J. C., 1991, Radiocarbon 35(2), p.17-22

CALIBRATION OF RADIOCARBON AGE TO CALENDAR YEARS

試料名 YAM 5-9 (Variables: C13/C12=-28.1‰, $\delta_{\text{lab}}=1$)

Laboratory number: Beta-150468

Conventional radiocarbon age: 4630±59 BP

2 Sigma calibrated results: Cal BC 3520 to 3340 (Cal BP 5470 to 5290) (95% probability)

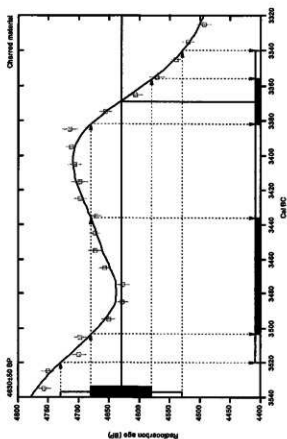
Intercept data

Intercepts of radiocarbon age

with calibration curve:

Cal BC 3370 (Cal BP 5320)

1 Sigma calibrated results: Cal BC 3520 to 3440 (Cal BP 5450 to 5390) and Cal BC 3380 to 3360 (Cal BP 5330 to 5310) (68% probability)



References:

Dauwe and

Calibrated Dates

Laboratory number

Stuiver, M., et al. 1998. Radiocarbon 40(3), p.108

INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration

Stuiver, M., et al. 1998. Radiocarbon 40(3), p.104-108

Manninen

A Simplified Approach to Calibrating C14 Data

Taylor, R. S., Vogel, J. C. 1991. Radiocarbon 33(3), p.317-322

CALIBRATION OF RADIOCARBON AGE TO CALENDAR YEARS

試料名 YAM 5-10 (Variables: C13/C12=-26.1‰, $\delta_{\text{lab}}=1$)

Laboratory number: Beta-150469

Conventional radiocarbon age: 4708±40 BP

2 Sigma calibrated results: Cal BC 3500 to 3560 (Cal BP 5580 to 5520) and Cal BC 3540 to 3370 (Cal BP 5490 to 5320) (95% probability)

Intercept data

Intercepts of radiocarbon age

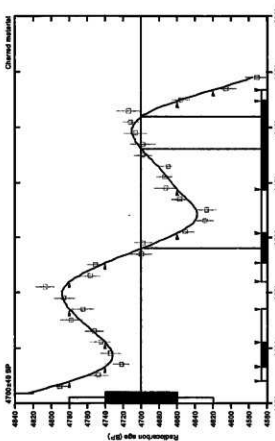
with calibration curve:

Cal BC 3510 (Cal BP 5460) and

Cal BC 3420 (Cal BP 5370) and

Cal BC 3390 (Cal BP 5340)

1 Sigma calibrated results: Cal BC 3620 to 3600 (Cal BP 5570 to 5540) and Cal BC 3520 to 3500 (Cal BP 5470 to 5450) and Cal BC 3460 to 3380 (Cal BP 5410 to 5330) (68% probability)



References:

Dauwe and

Calibrated Dates

Laboratory number

Stuiver, M., et al. 1998. Radiocarbon 40(3), p.108

INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration

Stuiver, M., et al. 1998. Radiocarbon 40(3), p.104-108

Manninen

A Simplified Approach to Calibrating C14 Data

Taylor, R. S., Vogel, J. C. 1991. Radiocarbon 33(3), p.317-322

CALIBRATION OF RADIOCARBON AGE TO CALENDAR YEARS

试样名 YAM5-1.1 (Variables: C13C12=27.6‰, mair1)

Laboratory number: Beta-159476

Conventional radiocarbon age: 47594±40 BP

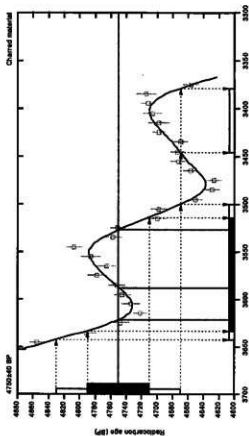
2 Sigma calibrated results: Cal BC 3640 to 3580 (Cal BP 5590 to 5450) and
(95% probability) Cal BC 3450 to 3380 (Cal BP 5400 to 5330)

Intercept data

Intercept of radiocarbon age
with calibration curve:

Cal BC 3620 (Cal BP 5570) and
Cal BC 3590 (Cal BP 5540) and
Cal BC 3530 (Cal BP 5480)

1 Sigma calibrated result:
(68% probability) Cal BC 3630 to 3510 (Cal BP 5580 to 5460)



References:
Database and

Calibration Database

Editorial Comment

Calibration Database, from the IAEA, 1998, Radiocarbon 40(3), p.1041

INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration

Stuiver, M., et al., 1998, Radiocarbon 40(3), p.1041-1083

Mathematics

A Simplified Approach to Calibrating C14 Dates

Talbot, A. J., Vogel, J. C., 1995, Radiocarbon 35(2), p.177-222

CALIBRATION OF RADIOCARBON AGE TO CALENDAR YEARS

试样名 YAM5-1.2 (Variables: C13C12=28.4‰, mair1)

Laboratory number: Beta-159471

Conventional radiocarbon age: 4720±50 BP

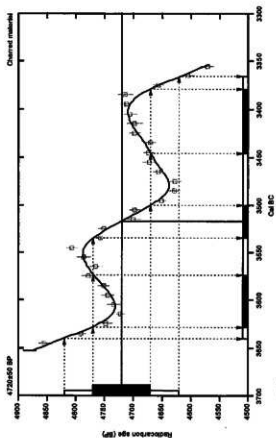
2 Sigma calibrated results: Cal BC 3640 to 3370 (Cal BP 5590 to 5320)
(95% probability)

Intercept data

Intercept of radiocarbon age
with calibration curve:

Cal BC 3520 (Cal BP 5470)

1 Sigma calibrated results: Cal BC 3630 to 3570 (Cal BP 5580 to 5520) and
(68% probability) Cal BC 3540 to 3500 (Cal BP 5480 to 5450) and
Cal BC 3450 to 3380 (Cal BP 5400 to 5330)



References:
Database and

Calibration Database

Editorial Comment

Calibration Database, from the IAEA, 1998, Radiocarbon 40(3), p.1041

INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration

Stuiver, M., et al., 1998, Radiocarbon 40(3), p.1041-1083

Mathematics

A Simplified Approach to Calibrating C14 Dates

Talbot, A. J., Vogel, J. C., 1995, Radiocarbon 35(2), p.177-222

CALIBRATION OF RADIOCARBON AGE TO CALENDAR YEARS

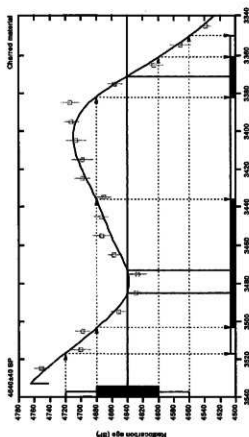
試料名 YAM5-13 (Variable: C13/C12=24.1‰, $\text{mbt}=1$)

Laboratory number: Beta-150472

Conventional radiocarbon age: 4646±40 BP

2 Sigma calibrated results: Cal BC 3528 to 3356 (Cal BP 5476 to 5380)
(95% probability)

Intercept data

Intercept of radiocarbon age
with calibration curve:Cal BC 3480 (Cal BP 5440) and
Cal BC 3470 (Cal BP 5420) and
Cal BC 3370 (Cal BP 5320)1 Sigma calibrated results: Cal BC 3500 to 3440 (Cal BP 5450 to 5390) and
(68% probability) Cal BC 3380 to 3360 (Cal BP 5330 to 5310)References:
Braucher and

Calibrated Dates
 Edited by
 International Radiocarbon Age Calibration
 Stuiver, M., et al. 1991. Radiocarbon 46(3), p1041-1083
 Mathematisches
 Institut
 A Simplex Approach to Calibrating C14 Dates
 Stuiver, M., et al. 1991. Radiocarbon 33(2), p177-222

CALIBRATION OF RADIOCARBON AGE TO CALENDAR YEARS

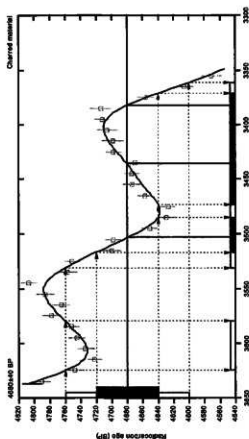
試料名 YAM5-14 (Variable: C13/C12=26.9‰, $\text{mbt}=1$)

Laboratory number: Beta-150473

Conventional radiocarbon age: 4686±40 BP

2 Sigma calibrated results: Cal BC 3626 to 3580 (Cal BP 5586 to 5536) and
(95% probability) Cal BC 3530 to 3340 (Cal BP 5480 to 5316)

Intercept data

Intercept of radiocarbon age
with calibration curve:Cal BC 3500 (Cal BP 5450) and
Cal BC 3440 (Cal BP 5390) and
Cal BC 3380 (Cal BP 5330)1 Sigma calibrated results: Cal BC 3520 to 3460 (Cal BP 5470 to 5440) and
(68% probability) Cal BC 3470 to 3370 (Cal BP 5420 to 5320)References:
Braucher and

Calibrated Dates
 Edited by
 International Radiocarbon Age Calibration
 Stuiver, M., et al. 1991. Radiocarbon 46(3), p1041-1083
 Mathematisches
 Institut
 A Simplex Approach to Calibrating C14 Dates
 Stuiver, M., et al. 1991. Radiocarbon 33(2), p177-222

CALIBRATION OF RADIOCARBON AGE TO CALENDAR YEARS

試料名 YAM 5-15 (Variables: C13/C12=25.1‰, unlab=1)

Laboratory number: Beta-150474

Conventional radiocarbon age: 4750±50 BP

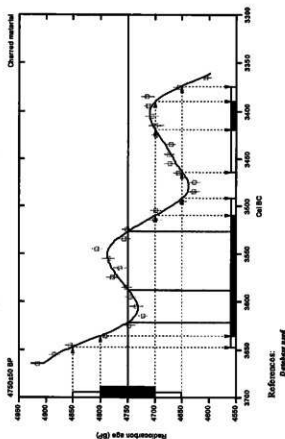
2 Sigma calibrated results:
Cal BC 3650 to 3490 (Cal BP 5600 to 5440) and
(95% probability)
Cal BC 3460 to 3370 (Cal BP 5410 to 5320)

Intercept data

Intercepts of radiocarbon age
with calibration curve:

Cal BC 3620 (Cal BP 5570) and
Cal BC 3590 (Cal BP 5540) and
Cal BC 3530 (Cal BP 5480)

1 Sigma calibrated results:
Cal BC 3640 to 3510 (Cal BP 5580 to 5460) and
(68% probability)
Cal BC 3420 to 3390 (Cal BP 5370 to 5340)



Ref: Stuiver &
Reimer 1993

Calibration Database

Stuiver, M., & Reimer, P. M. (1993). Radiocarbon Age Calibration
1950-1980. Radiocarbon, 46(1), 103-108.
Stuiver, M., & Reimer, P. M. (1993). Radiocarbon Age Calibration
1950-1980. Radiocarbon, 46(1), 103-108.
A Short Course in Radiocarbon Dating
Taylor, A. J., & Vogel, J. C. (1993). Radiocarbon, 35(2), 117-122.

3 山崎5遺跡から出土した炭化植物種子

吉崎昌一・椿坂恭代

1) 遺跡と調査の概要

遺跡の名称：山崎5遺跡（B-16-62）

遺跡の所在：北海道山越郡山崎195-1ほか

調査の機関：財団法人北海道埋蔵文化財センター

調査担当者：遠藤香澄、皆川洋一、藤原秀樹、立田 理ほか

調査期間：平成12年（2000年）5月8日～9月14日

遺跡の立地：噴火湾に面する標高35～40mの海岸段丘上に位置している。沢を挟んで南には縄文時代中期の遺跡である山崎4遺跡が隣接している。

遺跡の年代：縄文文化早期、前期、後期

検出遺構：住居跡17軒、土壇75基、Tピット1基、焼土24ヶ所、柱穴状ピット441基、フレイク集中域19ヶ所、集石10ヶ所、調査区の南側にあたる段丘の最頂部は広い範囲で浅く削平されており、この排土と見られる堆積がM-1、M-2とした再堆積層（盛土）である。遺構の大部分が縄文時代前期後半の円筒土器下層式c式の時期に構築されたものと見られる。

2) 扱った資料

分析資料として扱った炭化植物は、縄文時代前期後半の各遺構から土壌を採取し、フローテーション法と水洗別法とで処理後、第一次選別を経て送付されてきた。これらの資料について実体顕微鏡と走査型電子顕微鏡で観察並びに撮影を行った。検出された植物種子の計測表及び出土表は表1に示しておいた。

3) 各地区から検出された種子

表1に示したとおり、少量の植物種子が整備番号53、54のH-6（6号住居、縄文時代後期初頭）から採取された土壌と縄文文化前期後半の円筒下層式土器の層準から採取された土壌中からそれぞれ抽出されている。また、53、54の資料は発掘中に肉眼で抽出されたもので、フローテーション法が用いられていない。

抽出された植物遺体はきわめて少ない。ニワトコ属 *Sambucus* L. が1点、それにクルミ属 *Juglans* L. 果皮破片が2.20gのみであった。ニワトコ属 *Sambucus* L. は図版1-1に示した長さ1.7mm、幅1.3mm、厚さ0.7mmで表面に特有の凹凸を有するもの、円筒下層式土器の層準から得られた、クルミ属 *Juglans* L. は、各層順から微量ずつ検出された。その中から大きなものを選んで図版1-2に示しておいた。

4) 若干のコメント

各地点から採取された土壌から採取された植物遺体の量が、異常に少ない。本年度発掘された周辺の遺跡でも（財団法人北海道埋蔵文化財センターの調査した山越2、山崎4など）、同様の現象が見られる。奇妙である。原因としては第一次選別の際に、草本部分が廃棄され、種子とわかるもののみが選別された可能性はないだろうか。また、これまで調査された他の地域の焼失住居例を見ると、層

根材の炭化物の中には種子の含有量がきわめて少ない様に思う。この場合、炭化建築用材を注意深く取り除き、その直下の土壌を大量に採取してみる必要がある。つまり、大量に見いだされる炭化物を中心に土壌を採取し、生活面の土壌が十分でないケースもあり得るかもしれない。もう一つ、包含土壌が特別な粘土質に傾いている場合、採取した土壌をあまり乾燥しすぎると炭化種子がうまく抽出できないことがある。今回調べた遺跡の規模、住居数などから見て、これほど少ない植物遺体の検出量は説明しがたい。周辺遺跡においても同様な例が見られるので、発掘された地域の遺物包含量土壌が、特別な科学組成であった可能性もチェックする必要がある。

図版1 山崎5遺跡出土の炭化種子

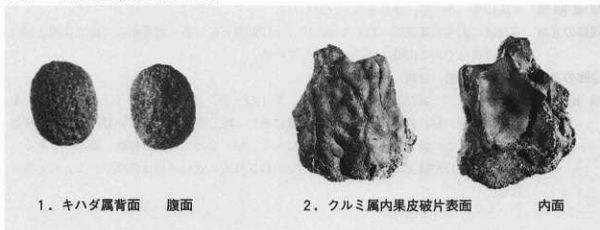


表1 山崎5遺跡炭化種子出土表

遺跡番号	遺跡名	遺体種	資料採取位置	層位	資料採取方法	土壌採取量 (g)	時期	土器形式	ニワトコ属 (粒)	タルミ属 (g)	不明 (件)
1	H1	壺穴住居	一括土層 (No135) 内の土壌	覆土3層	フローチーシオン	4.0	縄文時代前期後半	円筒下層式			
6	H1	壺穴住居	No197a	床面	フローチーシオン	1.4	縄文時代前期後半	円筒下層式		0.05	
17	H1	壺穴住居	焼土		フローチーシオン	5.0	縄文時代前期後半	円筒下層式			
20	H5	壺穴住居	H P-3	床面	フローチーシオン	5.0	縄文時代前期後半	円筒下層式			1
21	H6	壺穴住居	一括土層内の土壌	床面	フローチーシオン	2.5	縄文時代前期後半	円筒下層式		0.02	
25	H15	壺穴住居	焼土	覆土	フローチーシオン	5.0	縄文時代前期後半	円筒下層式		0.02	1
26	H15	壺穴住居	焼土	覆土	フローチーシオン	5.0	縄文時代前期後半	円筒下層式			
27	H15	壺穴住居	焼土	覆土	フローチーシオン	2.4	縄文時代前期後半	円筒下層式		<0.00	
28	H15	壺穴住居	焼土	覆土	フローチーシオン	1.1	縄文時代前期後半	円筒下層式		0.01	
30	H15	壺穴住居	焼土	覆土	フローチーシオン	1.0	縄文時代前期後半	円筒下層式		<0.00	
35	P7	土壌		覆土2層	フローチーシオン	5.0	縄文時代前期後半	円筒下層式		<0.00	
37	P10	土壌	焼土		フローチーシオン	5.0	縄文時代前期後半	円筒下層式		0.02	
38	P24	土壌	焼土		フローチーシオン	5.0	縄文時代前期後半	円筒下層式		0.12	
39	P24	土壌	焼土		フローチーシオン	5.0	縄文時代前期後半	円筒下層式		1.36	
41	P35	土壌		覆土1層	フローチーシオン	5.0	縄文時代前期後半	円筒下層式		0.07	6
42	P35	土壌		覆土3層	フローチーシオン	5.0	縄文時代前期後半	円筒下層式			2
43	P35	土壌	一括土層内の土壌		フローチーシオン	5.0	縄文時代前期後半	円筒下層式		0.02	
44	P49	土壌		覆土2層	フローチーシオン	5.0	縄文時代前期後半	円筒下層式		0.07	1
45	P75	土壌			フローチーシオン	5.0	縄文時代前期後半	円筒下層式			1
46	H12	壺穴住居	焼土 (H F-1)		フローチーシオン	5.0	縄文時代前期後半	円筒下層式	1		
52	包舎層		Q-20-a (一括土層内の土壌)	Ⅲ層	フローチーシオン	5.0	縄文時代前期後半	円筒下層式			
53	H6	壺穴住居		覆土3層	手掘り採取	5.0	縄文時代後期初頭	余市式		0.12	
54	H6	壺穴住居		覆土3層	手掘り採取		縄文時代後期初頭	余市式		0.25	
55	包舎層		J-23-C	Ⅳ層	手掘り採取		縄文時代前期後半	円筒下層式		0.17	
						92.4			1	2.20	12

4 平成11年度山崎5遺跡、山崎4遺跡、山越2遺跡出土の 黒曜石製石器の原産地分析

京都大学原子炉実験所 藤科哲男

はじめに

石器石材の産地を自然科学的な手法を用いて、客観的に、かつ定量的に推定し、古代の交流、交易および文化圏、交易圏を探ると言う目的で、蛍光X線分析法によりサヌカイトおよび黒曜石遺物の石材産地推定を行なっている^{1,2,3)}。黒曜石、サヌカイトなどの主成分組成は、原産地ごとに大きな差はみられないが、不純物として含有される微量成分組成には異同があると考えられるため、微量成分を中心に元素分析を行ない、これを産地を特定する指標とした。分類の指標とする元素組成を遺物について求め、あらかじめ、各原産地ごとに数十個の原石を分析して求めておいた各原石群の元素組成の平均値、分散などと遺物のそれと対比して産地を推定する。この際多変量解析の手法を用いて、各産地に帰属される確率を求めて産地を同定する。蛍光X線分析法は試料を破壊せずに分析することができて、かつ、試料調整が単純、測定の操作も簡単である。石器のような古代人の日用品で多数の試料を分析しなければ遺跡の正しい性格が分からないという場合にはことさらに有利な分析法である。今回分析を行なった試料は、山崎5遺跡、山崎4遺跡、山越2遺跡から出土した黒曜石製石器、剥片の合計47個で、産地分析の結果が得られたので報告する。

黒曜石原石の分析

黒曜石原石の風化面を打ち欠き、新鮮面を出し、塊状の試料を作り、エネルギー分散型蛍光X線分析装置によって元素分析を行なう。主に分析した元素はK、Ca、Ti、Mn、Fe、Rb、Sr、Y、Zr、Nbの各元素である。塊試料の形状差による分析値への影響を打ち消すために元素量の比を取り、それをもって産地を特定する指標とした。黒曜石は、Ca/K、Ti/K、Mn/Zr、Fe/Zr、Rb/Zr、Sr/Zr、Y/Zr、Nb/Zrの比量をそれぞれ用いる。黒曜石の原産地は北海道、東北、北陸、東関東、中信高原、伊豆箱根、伊豆七島の神津島、山陰、九州の各地に黒曜石の原産地は分布する。調査を終えた原産地を図1に示す。黒曜石原産地のほとんどすべてがつくされている。元素組成によってこれら原石を分類し表1に示す。この原石群に原産地は不明の遺物で作った遺物群を加えると170個の原石群になる。ここでは北海道地域および一部の東北地域の産地について記述すると、白滝地域の原産地は、北海道紋別郡白滝村に位置し、鹿港北方2kmの採石場の赤石山の露頭、鹿港東方約2kmの幌加沢地点、また白土沢、八号沢などより転搬として黒曜石が採取できる。赤石山の産地の黒曜石は色に関係無く赤石山群（旧白滝第1群）にまとまる。また、あじさいの滝の露頭からは赤石山と肉眼観察では区別できない原石が採取でき、あじさい群を作った（旧白滝第2群）、また、八号沢の黒曜石原石と白土沢の転搬は梨肌の黒曜石で組成はあじさい滝群に似るが石肌で区別できる。幌加沢よりの転搬の中で70%は幌加沢群になりあじさい滝群と元素組成から両群を区別できず、残りの30%は赤石山群に一致する。置戸産原石は、北海道常呂郡置戸町の清水の沢林道より採取され、この原石の元素組成は置戸群にまとまる。この原産地は、常呂川に通じる流域にあり、この常呂川流域で黒曜石の円礫が採取されるが現在まだ調査していない。十勝三股産原石は、北海道河東郡上士幌町の十勝三股の十三ノ沢の谷筋および沢の中より原石が採取され、この原石の元素組成は十勝三股群にまとまる。この十勝三股産原石は十三ノ沢から音更川さらに十勝川に流れた可能

性があり、十勝川から採取される黒曜石円礫の組成は、十勝三股産の原石の組成と相互に近似している。また、上士幌町のサンケオルベ川より採取される黒曜石円礫の組成も十勝三股産原石の組成と相互に近似している。これら組成の近似した原石の原産地は区別できず、遺物石材の産地分析でたとえ、この遺物の原産地が十勝三股群に同定されたとしても、これら十勝三股、音更川、十勝川、サンケオルベ川の複数の地点を考えなければならない。しかし、この複数の産地をまとめて、十勝地域としても、古代の地域間の交流を考察する場合、問題はないと考えられる。また、清水町、新得町、鹿追町にかけて広がる美瑛台地から産出する黒曜石から2個の美瑛原石群が作られた。この原石は産地近傍の遺跡で使用されている。名寄市の智南地域、智恵文川および忠烈貯水池から上名寄にかけて黒曜石の円礫が採集される。これらを組成で分類すると88%は名寄第一群に、また12%は名寄第二群にそれぞれなる。旭川市の近文台、嵐山遺跡付近および雨文台北部などから採集される黒曜石の円礫は、20%が近文台第一群、69%が近文台第二群、11%が近文台第三群それぞれ分類された。また、滝川市江別乙で採集される親指大の黒曜石の礫は、組成で分類すると約79%が滝川群にまとり、21%が近文台第二、三群に組成が一致する。滝川群に一致する組成の原石は、北竜市意袋別川増本社からも採取される。秩父別町の雨竜川に開折された平野を見下す丘陵中腹の緩斜面から小円礫の黒曜石原石が採取される。産出状況とか礫状は滝川産黒曜石と同じで、秩父別第一群は滝川第一群に組成が一致し、第二群も滝川第二群に一致しさらに近文台第二群にも一致する。赤井川産原石は、北海道余市郡赤井川村の土木沢上流域およびこの付近の山腹より採取できる。この原石には、少球果の列が何層にも重なり石器の原料として良質とはいえない原石で赤井川第1群を、また、球果の非常に少ない握り拳半分大の良質な原石などで赤井川第2群を作った。これら第1、2群の元素組成は非常に似ていて、遺物を分析したときしばしば、赤井川両群に同定される。豊泉産原石は豊浦町から産出し、組成によって豊泉第1、2群の2群に区別され、豊泉第2群の原石は珪晶が少なく良質な黒曜石である。豊泉産原石の使用圏は道南地方に広がり、一部は青森県に伝播している。出来島群は青森県西津軽郡木造町七里長浜の海岸部より採取された円礫の原石で作られた群で、この出来島群と相互に似た組成の原石は、岩木山の西側を流れ鯉ヶ沢地区に流入する中村川の上流で1点採取され、また、青森市の鶴ヶ坂および西津軽郡森田村鶴ヶ沢地区より採取されている。青森県西津軽郡深浦町の海岸とか同町の六角沢およびこの沢筋に位置する露頭より採取された原石で六角沢群をまた、八森山産出の原石で八森山群をそれぞれ作った。深浦の両群と相互に似た群は青森市戸門地区より産出する黒曜石で作られた戸門第二群である。戸門第一群、成田群、浪岡町民の森地区より産出の大釈道群（旧浪岡群）は赤井川産原石の第1、2群と弁別は可能であるが原石の組成は比較的似ている。戸門、大釈道産黒曜石の産出量は非常に少なく、希に石鉄が作れる大きさがみられる程度であるが、鷹森群は鷹森山麓の成田地区産出の黒曜石で中には5cm大のものもみられる。また、考古学者の話題になる下湯川産黒曜石についても原石群を作った。

結果と考察

遺跡から出土した石器、石片は風化しているが、黒曜石製のものは風化に対して安定で、表面に薄い水和層が形成されているにすぎないため、表面の泥を水洗するだけで完全な非破壊分析が可能であると考えられる。産地分析で水和層の影響は、軽い元素の分析ほど大きいと考えられるが、影響はほとんど見られない。 Ca/K 、 Ti/K の両軽元素比量を除いて産地分析を行なった場合、また除かずに産地分析を行った場合同定される原産地に差はない。他の元素比量についても風化の影響を完全に否定することができないので、得られた確率の数値にはや、不確実さを伴うが、遺物の石材産地の

判定を誤るようなことはない。

今回分析した山崎4遺跡、山崎5遺跡、山越2遺跡から出土した黒曜石製石器、剥片の分析結果を表2に示した。石器の分析結果から石材産地を同定するためには数理統計の手法を用いて原石群と比較をする。説明を簡単にするため Rb/Zr の一変量だけを考えると、表2の試料番号65739番の遺物では Rb/Zr の値は0.968で、赤井川第1群の[平均値] ± [標準偏差値] は、 0.969 ± 0.060 である。遺物と原石群の差を標準偏差値(σ)を基準にして考えると遺物は原石群から 0.02σ 離れている。ところで赤井川原産地から100ヶの原石を採ってきて分析すると、平均値から $\pm 0.02\sigma$ のずれより大きいものが98個ある。すなわち、この遺物が、赤井川第1群の原石から作られていたと仮定しても、 0.02σ 以上離れる確率は98%であると言える。だから、赤井川第1群の平均値から 0.02σ しか離れていないときには、この遺物が赤井川第1群の原石から作られたものでないとは、到底言い切れない。ところがこの遺物を赤石山群に比較すると、赤石山群の平均値からの隔たりは、約 6σ である。これを確率の言葉で表現すると、赤石山群の原石を採ってきて分析したとき、平均値から 6σ 以上離れている確率は、百万分の一であると言える。このように、百万個に一個しかないような原石をたまたま採取して、この遺物が作られたとは考えられないから、この遺物は、赤石山群の原石から作られたものではないと断定できる。これらのことを簡単にまとめて言うと、「この遺物は赤井川第1群に98%の確率で帰属され、信頼限界の0.1%を満たしていることから赤井川第1群原石が使用されていると同定され、さらに赤石山群に一万分の一の低い確率で帰属され、信頼限界の0.1%に満たないことから赤石山原産地でないと同定される」。遺物が一ヶ所の産地(赤井川産地)と一致したからと言って、例えば赤井川第1群と赤石山群の原石は成分が異なっているも、分析している試料は原石でなく遺物で、さらに分析誤差が大きくなる不定形(非破壊分析)であることから、他の産地に一致しないとは言えない、同種岩石の中での分類である以上、他の産地にも一致する可能性は推測される。即ちある産地(赤井川産地)に一致したと言っても一致した産地の原石とは限らないために、帰属確率による判断を表1の170個すべての原石群について行ない、低い確率で帰属された原石群を消していくことにより、はじめて赤井川産地の石材のみが使用されていると判定される。実際は Rb/Zr といった唯一ヶの変量だけでなく、前述した8ヶの変量で取り扱うので変量間の相関を考慮しなければならない。例えばA原産地のA群で、Ca元素とRb元素との間に相関があり、Caの量を計ればRbの量は分析しなくても分かるようなときは、A群の石材で作られた遺物であれば、A群と比較したとき、Ca量が一致すれば当然Rb量も一致するはずである。したがって、もしRb量だけが少しずれている場合には、この試料はA群に属していないと言わなければならない。このことを数量的に導き出せるようにしたのが相関を考慮した多変量統計の手法であるマハラノビスの距離を求めて行なうホテリングのT²検定である。これによって、それぞれの群に帰属する確率を求めて産地を同定する^{4,5)}。産地の同定結果は1個の遺物に対して、黒曜石製では170個の推定確率結果が得られている。今回産地分析を行った遺物の産地推定結果については低い確率で帰属された原産地の推定確率は紙面の都合上記入を省略しているが、本研究ではこれら産地の可能性が非常に低いことを確認したという非常に重要な意味を含んでいる。すなわち、赤井川産地と判定された遺物について、カムチャッカ産原石とかロシア、北朝鮮の遺跡で使用されている原石および信州和田峠産の原石の可能性を考える必要がない結果で、高い確率で同定された産地のみの結果を表3に記入した。原石群を作った原石試料は直径3cm以上であるが、多数の試料を処理するために、小さな遺物試料の分析に多くの時間をかけられない事情があり、短時間で測定を打ち切る。このため、得られた遺物の測定値には、大きな誤差範囲が含まれ、ときには原石群の元素組成のパラッキの範囲を越えて大きくなる。したがって、小

さな遺物の産地推定を行なったときに、判定の信頼限界としている0.1%に達しない確率を示す場合が比較的多くみられる。この場合には、原石産地（確率）の欄の確率値に替えて、マハラノビスの距離 D^2 の値を記した。この遺物については、記入された D^2 の値が原石群の中で最も小さな D^2 値で、この値が小さい程、遺物の元素組成はその原石群の組成と似ていると言え、推定確率は低いが、その原石産地と考えては間違いないと判断されたものである。赤井川および十勝産原石を使用した遺物の判定は複雑である。これは青森市戸門、鷹森山地区、浪岡町大釈迦より産出する黒曜石で作られた戸門第一、鷹森山、大釈迦の各群の組成が赤井川第一、二群、十勝三股群に比較的似ているため、遺物の産地を同定したときに、戸門原産地と赤井川または十勝産地、またこれら3ヶ所の原産地に同時に同定される場合がしばしば見られる。戸門産地の原石が使用されたか否かは、一遺跡で多数の遺物を分析し戸門第1群と第2群に同定される頻度を求め、これを戸門産地における第1群（50%）と第2群（50%）の産出頻度と比較し戸門産地の原石である可能性を推定する。今回分析した遺物のなかに全く戸門第2群に帰属される遺物が見られないことから戸門産地からの原石は使用されなかったと推測できる。また浪岡町大釈迦産原石は非常に小さく分析した遺物よりも小さい原石で本遺跡で使用された可能性は低いと推測された。鷹森山産地の原石、赤井川産原石と十勝産原石を使用した遺物の産地分析では、これら産地に同定された遺物の帰属確率の差が十分の一〜百分の一がほとんどで、遺物の中には、赤井川、十勝、鷹森山の各群の帰属確率の差がほとんどない遺物があり原石産地の特定に苦慮するが、この場合は、客観的な産地分析法により赤井川産、十勝産、鷹森山産と限定したうえで、肉眼観察により遺物と似た原石が赤井川産地、十勝産地、鷹森山産地のいずれに多いかを考慮して原石産地を判定した遺物も一部ある。また、白滝地域のあじさい滝、八号沢、白土沢、幌加沢の一部の原石は、相互に元素比組成が似ていて産地分析の結果で区別できない遺物がみられる場合があり、梨肌表面の遺物を八号沢、白土沢地区の原石、滑らかな表面の遺物をあじさい滝または幌加沢地区の原石と肉眼で判断し、判定の欄に記した。今回分析を行なった山崎4遺跡、山崎5遺跡、山越2遺跡から出土した黒曜石製石器、剥片の合計47個の結果中で産地が特定された遺物について、赤井川産と同定された遺物は30個（64%）、豊泉産が10個（21%）、十勝産は1個（2%）で、分析番号65755、65757番の石鏃は軽元素比 Ca/K 、 Ti/K を入れると帰属確率が非常に低く同定され、この群にも信頼限界の0.1%に達しない。本来、赤井川諸群に一致する遺物であるが、異常な風化の影響で同定確率が低くなっていると推測した。仮にこれら遺物に被熱の履歴があり異常風化を起こしている可能性を推測した。異常（厚い）風化の場合には、表2に示すようにKの元素が他の赤井川諸群に同定された遺物より大きく観測される。これは推測であるが、風化層内のK元素が黒曜石表面に移動し濃縮し、マトリクス効果の自己吸収によるK元素蛍光X線の減衰が減少するために、K元素のピークが大きく観測される。従ってK元素が分母の Ca/K 、 Ti/K の比値が小さくなる。将来的には風化層の厚さから補正が可能な様に見える。現時点では軽元素比を抜いてマハラノビスの距離を求めて行うホテリングの T^2 検定を表1の全ての原石、遺物群について行なった結果を推定確率の欄に【】内に区別して記した。また分析番号65761、65776番の石槍に一致する原石産地は見られず、未発見の産地の可能性が推測される。また、原石産地（確率）の欄に（遺物微小で薄い）と記した遺物についても産地が特定されなかったが、これら遺物には未発見の原石産地の原石が使用されたと推測するより、遺物が小さすぎて、分析誤差および試料薄さの影響が元素比に無視できない影響を与えたために、本来同定される原石産地に帰属されなかったと推測した。これら産地分析の結果は、他の出土遺物の様式学と組み合わせ、総合的に考古学することにより、本遺跡の性格を考察する上に貴重な資料を与えることができると思われる。

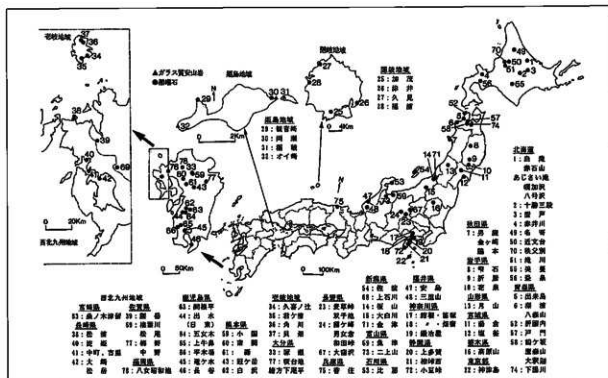


図1 黒曜石原産地

参考文献

- 1) 薬科哲男・東村武信 (1975)、蛍光X線分析法によるサマカイトの石器の原産地推定 (Ⅱ)。考古学と自然科学、8: 61-69
- 2) 薬科哲男・東村武信・鎌木義昌 (1977)、(1978)、蛍光X線分析法によるサマカイト石器の原産地推定 (Ⅲ)。(Ⅳ)。考古学と自然科学、10、11: 53-81: 33-47
- 3) 薬科哲男・東村武信 (1983)、石器原材の産地分析。考古学と自然科学、16: 59-89
- 4) 東村武信 (1976)、産地推定における統計的手法。考古学と自然科学、9: 77-90
- 5) 東村武信 (1990)、考古学と物理化学。学生社

4 平成11年度山崎5遺跡、山崎4遺跡、山崎2遺跡出土の
黒曜石製品の原料産地分析

表1 各黒曜石の原料産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値

産地		番号	Si/K	Ca/K	Ti/K	Mg/K	Fe/K	Na/K	Al/K	Sr/K		
山崎5遺跡	第一層	114	0.478±0.013	0.131±0.006	0.065±0.007	0.511±0.013	0.544±0.002	0.139±0.017	0.038±0.010	0.038±0.007	0.401±0.010	
		115	0.520±0.013	0.059±0.005	0.081±0.006	0.724±0.006	0.686±0.004	0.265±0.011	0.301±0.027	0.028±0.007	0.401±0.010	
		116	0.513±0.014	0.061±0.003	0.079±0.013	0.714±0.142	0.540±0.269	0.263±0.019	0.341±0.035	0.079±0.025	0.374±0.019	
		117	0.539±0.019	0.022±0.002	0.105±0.017	0.538±0.127	0.566±0.013	0.104±0.019	0.470±0.043	0.049±0.015	0.374±0.019	
		118	0.539±0.009	0.023±0.001	0.089±0.015	0.975±0.302	0.794±0.372	0.104±0.040	0.070±0.337	0.023±0.007	0.374±0.019	
		119	0.512±0.020	0.023±0.001	0.101±0.034	0.539±0.125	0.787±0.025	0.115±0.015	0.627±0.035	0.079±0.044	0.374±0.019	
		120	0.519±0.013	0.185±0.002	0.051±0.001	0.561±0.013	0.541±0.013	0.146±0.013	0.347±0.013	0.049±0.013	0.374±0.019	
		121	0.517±0.011	0.091±0.005	0.067±0.003	0.773±0.097	0.812±0.037	0.184±0.034	0.197±0.024	0.041±0.019	0.035±0.002	0.442±0.020
		122	0.514±0.012	0.038±0.005	0.068±0.014	0.769±0.125	0.618±0.048	0.189±0.039	0.078±0.008	0.036±0.002	0.443±0.011	0.443±0.011
		123	0.519±0.016	0.129±0.006	0.079±0.011	0.614±0.068	0.606±0.037	0.488±0.032	0.226±0.034	0.029±0.011	0.713±0.130	0.713±0.130
山崎4遺跡	第一層	124	0.506±0.016	0.068±0.008	0.070±0.011	0.730±0.090	0.805±0.042	0.197±0.028	0.627±0.036	0.077±0.015	0.713±0.130	
		125	0.523±0.018	0.122±0.006	0.077±0.009	0.613±0.030	0.617±0.048	0.439±0.025	0.233±0.029	0.038±0.018	0.713±0.130	
		126	0.519±0.016	0.068±0.005	0.069±0.009	0.749±0.072	0.802±0.019	0.612±0.019	0.162±0.028	0.022±0.023	0.713±0.130	
		127	0.519±0.016	0.068±0.005	0.069±0.009	0.813±0.002	0.584±0.034	0.454±0.030	0.179±0.023	0.044±0.020	0.713±0.130	
		128	0.464±0.018	0.138±0.005	0.069±0.008	0.725±0.072	0.649±0.034	0.407±0.023	0.133±0.019	0.025±0.014	0.713±0.130	
		129	0.525±0.006	0.110±0.011	0.051±0.011	0.595±0.095	0.585±0.058	0.636±0.027	0.387±0.027	0.030±0.020	0.356±0.016	0.356±0.016
		130	0.575±0.011	0.145±0.009	0.056±0.014	0.531±0.126	0.600±0.030	0.712±0.027	0.170±0.028	0.030±0.013	0.356±0.016	
		131	0.526±0.018	0.014±0.005	0.068±0.013	0.761±0.087	0.897±0.295	0.434±0.023	0.044±0.025	0.029±0.022	0.356±0.016	
		132	0.499±0.020	0.124±0.007	0.053±0.010	0.620±0.181	0.852±0.043	0.190±0.029	0.081±0.012	0.035±0.029	0.356±0.016	
		133	0.503±0.006	0.144±0.012	0.056±0.010	0.582±0.251	0.782±0.360	0.187±0.120	0.738±0.392	0.034±0.020	0.449±0.020	
山崎3遺跡	第一層	134	0.504±0.009	0.070±0.004	0.061±0.003	0.713±0.104	0.989±0.060	0.438±0.021	0.049±0.024	0.057±0.022	0.371±0.019	
		135	0.526±0.005	0.072±0.002	0.060±0.002	0.707±0.045	0.435±0.028	0.545±0.031	0.221±0.029	0.025±0.027	0.371±0.019	
		136	0.473±0.019	0.148±0.007	0.060±0.015	0.764±0.072	0.438±0.027	0.607±0.028	0.157±0.020	0.025±0.017	0.469±0.023	
		137	0.517±0.017	0.138±0.006	0.065±0.008	0.723±0.006	0.516±0.019	0.113±0.018	0.177±0.016	0.030±0.015	0.451±0.010	
		138	0.526±0.002	0.123±0.007	0.071±0.019	0.589±0.095	0.581±0.046	0.318±0.014	0.141±0.013	0.047±0.021	0.451±0.010	
		139	0.526±0.002	0.123±0.007	0.071±0.019	0.589±0.095	0.581±0.046	0.318±0.014	0.141±0.013	0.047±0.021	0.451±0.010	
		140	0.526±0.002	0.123±0.007	0.071±0.019	0.589±0.095	0.581±0.046	0.318±0.014	0.141±0.013	0.047±0.021	0.451±0.010	
		141	0.526±0.002	0.123±0.007	0.071±0.019	0.589±0.095	0.581±0.046	0.318±0.014	0.141±0.013	0.047±0.021	0.451±0.010	
		142	0.526±0.002	0.123±0.007	0.071±0.019	0.589±0.095	0.581±0.046	0.318±0.014	0.141±0.013	0.047±0.021	0.451±0.010	
		143	0.526±0.002	0.123±0.007	0.071±0.019	0.589±0.095	0.581±0.046	0.318±0.014	0.141±0.013	0.047±0.021	0.451±0.010	
山崎2遺跡	第一層	144	0.526±0.002	0.123±0.007	0.071±0.019	0.589±0.095	0.581±0.046	0.318±0.014	0.141±0.013	0.047±0.021	0.451±0.010	
		145	0.526±0.002	0.123±0.007	0.071±0.019	0.589±0.095	0.581±0.046	0.318±0.014	0.141±0.013	0.047±0.021	0.451±0.010	
		146	0.526±0.002	0.123±0.007	0.071±0.019	0.589±0.095	0.581±0.046	0.318±0.014	0.141±0.013	0.047±0.021	0.451±0.010	
		147	0.526±0.002	0.123±0.007	0.071±0.019	0.589±0.095	0.581±0.046	0.318±0.014	0.141±0.013	0.047±0.021	0.451±0.010	
		148	0.526±0.002	0.123±0.007	0.071±0.019	0.589±0.095	0.581±0.046	0.318±0.014	0.141±0.013	0.047±0.021	0.451±0.010	
		149	0.526±0.002	0.123±0.007	0.071±0.019	0.589±0.095	0.581±0.046	0.318±0.014	0.141±0.013	0.047±0.021	0.451±0.010	
		150	0.526±0.002	0.123±0.007	0.071±0.019	0.589±0.095	0.581±0.046	0.318±0.014	0.141±0.013	0.047±0.021	0.451±0.010	
		151	0.526±0.002	0.123±0.007	0.071±0.019	0.589±0.095	0.581±0.046	0.318±0.014	0.141±0.013	0.047±0.021	0.451±0.010	
		152	0.526±0.002	0.123±0.007	0.071±0.019	0.589±0.095	0.581±0.046	0.318±0.014	0.141±0.013	0.047±0.021	0.451±0.010	
		153	0.526±0.002	0.123±0.007	0.071±0.019	0.589±0.095	0.581±0.046	0.318±0.014	0.141±0.013	0.047±0.021	0.451±0.010	
山崎1遺跡	第一層	154	0.526±0.002	0.123±0.007	0.071±0.019	0.589±0.095	0.581±0.046	0.318±0.014	0.141±0.013	0.047±0.021	0.451±0.010	
		155	0.526±0.002	0.123±0.007	0.071±0.019	0.589±0.095	0.581±0.046	0.318±0.014	0.141±0.013	0.047±0.021	0.451±0.010	
		156	0.526±0.002	0.123±0.007	0.071±0.019	0.589±0.095	0.581±0.046	0.318±0.014	0.141±0.013	0.047±0.021	0.451±0.010	
		157	0.526±0.002	0.123±0.007	0.071±0.019	0.589±0.095	0.581±0.046	0.318±0.014	0.141±0.013	0.047±0.021	0.451±0.010	
		158	0.526±0.002	0.123±0.007	0.071±0.019	0.589±0.095	0.581±0.046	0.318±0.014	0.141±0.013	0.047±0.021	0.451±0.010	
		159	0.526±0.002	0.123±0.007	0.071±0.019	0.589±0.095	0.581±0.046	0.318±0.014	0.141±0.013	0.047±0.021	0.451±0.010	
		160	0.526±0.002	0.123±0.007	0.071±0.019	0.589±0.095	0.581±0.046	0.318±0.014	0.141±0.013	0.047±0.021	0.451±0.010	
		161	0.526±0.002	0.123±0.007	0.071±0.019	0.589±0.095	0.581±0.046	0.318±0.014	0.141±0.013	0.047±0.021	0.451±0.010	
		162	0.526±0.002	0.123±0.007	0.071±0.019	0.589±0.095	0.581±0.046	0.318±0.014	0.141±0.013	0.047±0.021	0.451±0.010	
		163	0.526±0.002	0.123±0.007	0.071±0.019	0.589±0.095	0.581±0.046	0.318±0.014	0.141±0.013	0.047±0.021	0.451±0.010	
山崎6遺跡	第一層	164	0.526±0.002	0.123±0.007	0.071±0.019	0.589±0.095	0.581±0.046	0.318±0.014	0.141±0.013	0.047±0.021	0.451±0.010	
		165	0.526±0.002	0.123±0.007	0.071±0.019	0.589±0.095	0.581±0.046	0.318±0.014	0.141±0.013	0.047±0.021	0.451±0.010	
		166	0.526±0.002	0.123±0.007	0.071±0.019	0.589±0.095	0.581±0.046	0.318±0.014	0.141±0.013	0.047±0.021	0.451±0.010	
		167	0.526±0.002	0.123±0.007	0.071±0.019	0.589±0.095	0.581±0.046	0.318±0.014	0.141±0.013	0.047±0.021	0.451±0.010	
		168	0.526±0.002	0.123±0.007	0.071±0.019	0.589±0.095	0.581±0.046	0.318±0.014	0.141±0.013	0.047±0.021	0.451±0.010	
		169	0.526±0.002	0.123±0.007	0.071±0.019	0.589±0.095	0.581±0.046	0.318±0.014	0.141±0.013	0.047±0.021	0.451±0.010	
		170	0.526±0.002	0.123±0.007	0.071±0.019	0.589±0.095	0.581±0.046	0.318±0.014	0.141±0.013	0.047±0.021	0.451±0.010	
		171	0.526±0.002	0.123±0.007	0.071±0.019	0.589±0.095	0.581±0.046	0.318±0.014	0.141±0.013	0.047±0.021	0.451±0.010	
		172	0.526±0.002	0.123±0.007	0.071±0.019	0.589±0.095	0.581±0.046	0.318±0.014	0.141±0.013	0.047±0.021	0.451±0.010	
		173	0.526±0.002	0.123±0.007	0.071±0.019	0.589±0.095	0.581±0.046	0.318±0.014	0.141±0.013	0.047±0.021	0.451±0.010	
山崎7遺跡	第一層	174	0.526±0.002	0.123±0.007	0.071±0.019	0.589±0.095	0.581±0.046	0.318±0.014	0.141±0.013	0.047±0.021	0.451±0.010	
		175	0.526±0.002	0.123±0.007	0.071±0.019	0.589±0.095	0.581±0.046	0.318±0.014	0.141±0.013	0.047±0.021	0.451±0.010	
		176	0.526±0.002	0.123±0.007	0.071±0.019	0.589±0.095	0.581±0.046	0.318±0.014	0.141±0.013	0.047±0.021	0.451±0.010	
		177	0.526±0.002	0.123±0.007	0.071±0.019	0.589±0.095	0.581±0.046	0.318±0.014	0.141±0.013	0.047±0.021	0.451±0.010	
		178	0.526±0.002	0.123±0.007	0.071±0.019	0.589±0.095	0.581±0.046	0.318±0.014	0.141±0.013	0.047±0.021	0.451±0.010	
		179	0.526±0.002	0.123±0.007	0.071±0.019	0.589±0.095	0.581±0.046	0.318±0.014	0.141±0.013	0.047±0.021	0.451±0.010	
		180	0.526±0.002	0.123±0.007	0.071±0.019	0.589±0.095	0.581±0.046	0.318±0.014	0.141±0.013	0.047±0.021	0.451±0.010	
		181	0.526±0.002	0.123±0.007	0.071±0.019	0.589±0.095	0.581±0.046	0.318±0.014	0.141±0.013	0.047±0.021	0.451±0.010	
		182	0.526±0.002	0.123±0.007	0.071±0.019	0.589±0.095	0.581±0.046	0.318±0.014	0.141±0.013	0.047±0.021	0.451±0.010	
		183	0.526±0.002	0.123±0.007	0.071±0.019	0.589±0.095	0.581±0.046	0.318±0.014	0.141±0.013	0.047±0.021	0.451±0.010	
山崎8遺跡	第一層	184	0.526±0.002	0.123±0.007	0.071±0.019	0.589±0.095	0.581±0.046	0.318±0.014	0.141±0.013	0.047±0.021	0.451±0.010	
		185	0.526±0.002	0.123±0.007	0.071±0.019	0.589±0.095	0.581±0.046	0.318±0.014	0.141±0.013	0.047±0.021	0.451±0.010	
		186	0.526±0.002	0.123±0.007	0.071±0.019	0.589±0.095	0.581±0.046	0.318±0.014	0.141±0.013	0.047±0.021	0.451±0.010	
		187	0.526±0.002	0.123±0.007	0.071±0.019	0.589±0.095	0.581±0.046	0.318±0.014	0.141±0.013	0.047±0.021	0.451±0.010	
		188	0.526±0.002	0.123±0.007	0.071±0.019	0.589±0.095	0.581±0.046	0.318±0.014	0.141±0.013	0.047±0.021	0.	

国名	通貨	単位	通貨別平均相場									
			ドル	ユーロ	ポンド	フラン	マルカ	ペソ	ルビ	ウォン	円	新台
アメリカ	ドル	100	1.0000	0.7500	0.6900	6.5500	1.6600	20.3600	336.0000	1.0000	1.0000	1.0000
	ユーロ	100	1.3333	1.0000	0.9127	9.3750	2.3600	29.1200	475.2000	1.3333	1.3333	1.3333
	ポンド	100	1.4545	1.1111	1.0000	9.7500	2.5000	31.2500	516.6666	1.4545	1.4545	1.4545
	フラン	100	1.6667	1.3333	1.2000	11.8000	3.1000	38.7000	633.3333	1.6667	1.6667	1.6667
	マルカ	100	1.8182	1.4545	1.3000	12.7000	3.5000	43.7500	727.2727	1.8182	1.8182	1.8182
	ペソ	100	2.0000	1.6000	1.4286	14.0000	3.9000	48.0000	792.0000	2.0000	2.0000	2.0000
	ルビ	100	2.2222	1.7778	1.6000	15.3000	4.2000	51.0000	850.0000	2.2222	2.2222	2.2222
	ウォン	100	2.4690	1.9753	1.7857	16.7000	4.6000	56.0000	933.3333	2.4690	2.4690	2.4690
	円	100	2.9629	2.3704	2.1429	19.7000	5.4000	66.0000	1093.3333	2.9629	2.9629	2.9629
	新台	100	3.2143	2.5714	2.3333	21.3000	5.9000	72.0000	1183.3333	3.2143	3.2143	3.2143
ヨーロッパ	ユーロ	100	0.7500	1.0000	0.9127	9.3750	2.3600	29.1200	475.2000	0.7500	0.7500	0.7500
	ポンド	100	0.6900	0.9127	1.0000	9.7500	2.5000	31.2500	516.6666	0.6900	0.6900	0.6900
	フラン	100	0.6550	0.8719	0.7843	11.8000	3.1000	38.7000	633.3333	0.6550	0.6550	0.6550
	マルカ	100	0.7260	0.9677	0.8696	12.7000	3.5000	43.7500	727.2727	0.7260	0.7260	0.7260
	ペソ	100	0.8000	1.0667	0.9643	14.0000	3.9000	48.0000	792.0000	0.8000	0.8000	0.8000
	ルビ	100	0.8889	1.1764	1.0667	15.3000	4.2000	51.0000	850.0000	0.8889	0.8889	0.8889
	ウォン	100	0.9524	1.2667	1.1429	16.7000	4.6000	56.0000	933.3333	0.9524	0.9524	0.9524
	円	100	1.1111	1.4667	1.3333	19.7000	5.4000	66.0000	1093.3333	1.1111	1.1111	1.1111
	新台	100	1.2500	1.6667	1.5000	21.3000	5.9000	72.0000	1183.3333	1.2500	1.2500	1.2500
	ドル	100	1.3333	1.7778	1.6000	24.6000	6.7000	83.0000	1383.3333	1.3333	1.3333	1.3333
アジア	ドル	100	0.6900	0.9127	1.0000	9.7500	2.5000	31.2500	516.6666	0.6900	0.6900	0.6900
	ユーロ	100	0.9127	1.0000	0.9127	9.3750	2.3600	29.1200	475.2000	0.9127	0.9127	0.9127
	ポンド	100	0.8719	1.1111	1.0000	9.7500	2.5000	31.2500	516.6666	0.8719	0.8719	0.8719
	フラン	100	0.8333	1.0667	0.9643	11.8000	3.1000	38.7000	633.3333	0.8333	0.8333	0.8333
	マルカ	100	0.9091	1.1764	1.0667	12.7000	3.5000	43.7500	727.2727	0.9091	0.9091	0.9091
	ペソ	100	1.0000	1.2667	1.1429	14.0000	3.9000	48.0000	792.0000	1.0000	1.0000	1.0000
	ルビ	100	1.1111	1.3704	1.2381	15.3000	4.2000	51.0000	850.0000	1.1111	1.1111	1.1111
	ウォン	100	1.1764	1.4667	1.3333	16.7000	4.6000	56.0000	933.3333	1.1764	1.1764	1.1764
	円	100	1.3704	1.6667	1.5000	19.7000	5.4000	66.0000	1093.3333	1.3704	1.3704	1.3704
	新台	100	1.5000	1.8182	1.6667	21.3000	5.9000	72.0000	1183.3333	1.5000	1.5000	1.5000
オセアニア	ドル	100	0.6900	0.9127	1.0000	9.7500	2.5000	31.2500	516.6666	0.6900	0.6900	0.6900
	ユーロ	100	0.9127	1.0000	0.9127	9.3750	2.3600	29.1200	475.2000	0.9127	0.9127	0.9127
	ポンド	100	0.8719	1.1111	1.0000	9.7500	2.5000	31.2500	516.6666	0.8719	0.8719	0.8719
	フラン	100	0.8333	1.0667	0.9643	11.8000	3.1000	38.7000	633.3333	0.8333	0.8333	0.8333
	マルカ	100	0.9091	1.1764	1.0667	12.7000	3.5000	43.7500	727.2727	0.9091	0.9091	0.9091
	ペソ	100	1.0000	1.2667	1.1429	14.0000	3.9000	48.0000	792.0000	1.0000	1.0000	1.0000
	ルビ	100	1.1111	1.3704	1.2381	15.3000	4.2000	51.0000	850.0000	1.1111	1.1111	1.1111
	ウォン	100	1.1764	1.4667	1.3333	16.7000	4.6000	56.0000	933.3333	1.1764	1.1764	1.1764
	円	100	1.3704	1.6667	1.5000	19.7000	5.4000	66.0000	1093.3333	1.3704	1.3704	1.3704
	新台	100	1.5000	1.8182	1.6667	21.3000	5.9000	72.0000	1183.3333	1.5000	1.5000	1.5000
中東	ドル	100	0.6900	0.9127	1.0000	9.7500	2.5000	31.2500	516.6666	0.6900	0.6900	0.6900
	ユーロ	100	0.9127	1.0000	0.9127	9.3750	2.3600	29.1200	475.2000	0.9127	0.9127	0.9127
	ポンド	100	0.8719	1.1111	1.0000	9.7500	2.5000	31.2500	516.6666	0.8719	0.8719	0.8719
	フラン	100	0.8333	1.0667	0.9643	11.8000	3.1000	38.7000	633.3333	0.8333	0.8333	0.8333
	マルカ	100	0.9091	1.1764	1.0667	12.7000	3.5000	43.7500	727.2727	0.9091	0.9091	0.9091
	ペソ	100	1.0000	1.2667	1.1429	14.0000	3.9000	48.0000	792.0000	1.0000	1.0000	1.0000
	ルビ	100	1.1111	1.3704	1.2381	15.3000	4.2000	51.0000	850.0000	1.1111	1.1111	1.1111
	ウォン	100	1.1764	1.4667	1.3333	16.7000	4.6000	56.0000	933.3333	1.1764	1.1764	1.1764
	円	100	1.3704	1.6667	1.5000	19.7000	5.4000	66.0000	1093.3333	1.3704	1.3704	1.3704
	新台	100	1.5000	1.8182	1.6667	21.3000	5.9000	72.0000	1183.3333	1.5000	1.5000	1.5000
南米	ドル	100	0.6900	0.9127	1.0000	9.7500	2.5000	31.2500	516.6666	0.6900	0.6900	0.6900
	ユーロ	100	0.9127	1.0000	0.9127	9.3750	2.3600	29.1200	475.2000	0.9127	0.9127	0.9127
	ポンド	100	0.8719	1.1111	1.0000	9.7500	2.5000	31.2500	516.6666	0.8719	0.8719	0.8719
	フラン	100	0.8333	1.0667	0.9643	11.8000	3.1000	38.7000	633.3333	0.8333	0.8333	0.8333
	マルカ	100	0.9091	1.1764	1.0667	12.7000	3.5000	43.7500	727.2727	0.9091	0.9091	0.9091
	ペソ	100	1.0000	1.2667	1.1429	14.0000	3.9000	48.0000	792.0000	1.0000	1.0000	1.0000
	ルビ	100	1.1111	1.3704	1.2381	15.3000	4.2000	51.0000	850.0000	1.1111	1.1111	1.1111
	ウォン	100	1.1764	1.4667	1.3333	16.7000	4.6000	56.0000	933.3333	1.1764	1.1764	1.1764
	円	100	1.3704	1.6667	1.5000	19.7000	5.4000	66.0000	1093.3333	1.3704	1.3704	1.3704
	新台	100	1.5000	1.8182	1.6667	21.3000	5.9000	72.0000	1183.3333	1.5000	1.5000	1.5000
東南アジア	ドル	100	0.6900	0.9127	1.0000	9.7500	2.5000	31.2500	516.6666	0.6900	0.6900	0.6900
	ユーロ	100	0.9127	1.0000	0.9127	9.3750	2.3600	29.1200	475.2000	0.9127	0.9127	0.9127
	ポンド	100	0.8719	1.1111	1.0000	9.7500	2.5000	31.2500	516.6666	0.8719	0.8719	0.8719
	フラン	100	0.8333	1.0667	0.9643	11.8000	3.1000	38.7000	633.3333	0.8333	0.8333	0.8333
	マルカ	100	0.9091	1.1764	1.0667	12.7000	3.5000	43.7500	727.2727	0.9091	0.9091	0.9091
	ペソ	100	1.0000	1.2667	1.1429	14.0000	3.9000	48.0000	792.0000	1.0000	1.0000	1.0000
	ルビ	100	1.1111	1.3704	1.2381	15.3000	4.2000	51.0000	850.0000	1.1111	1.1111	1.1111
	ウォン	100	1.1764	1.4667	1.3333	16.7000	4.6000	56.0000	933.3333	1.1764	1.1764	1.1764
	円	100	1.3704	1.6667	1.5000	19.7000	5.4000	66.0000	1093.3333	1.3704	1.3704	1.3704
	新台	100	1.5000	1.8182	1.6667	21.3000	5.9000	72.0000	1183.3333	1.5000	1.5000	1.5000
東アジア	ドル	100	0.6900	0.9127	1.0000	9.7500	2.5000	31.2500	516.6666	0.6900	0.6900	0.6900
	ユーロ	100	0.9127	1.0000	0.9127	9.3750	2.3600	29.1200	475.2000	0.9127	0.9127	0.9127
	ポンド	100	0.8719	1.1111	1.0000	9.7500	2.5000	31.2500	516.6666	0.8719	0.8719	0.8719
	フラン	100	0.8333	1.0667	0.9643	11.8000	3.1000	38.7000	633.3333	0.8333	0.8333	0.8333
	マルカ	100	0.9091	1.1764	1.0667	12.7000	3.5000	43.7500	727.2727	0.9091	0.9091	0.9091
	ペソ	100	1.0000	1.2667	1.1429	14.0000	3.9000	48.0000	792.0000	1.0000	1.0000	1.0000
	ルビ	100	1.1111	1.3704	1.2381	15.3000	4.2000	51.0000	850.0000	1.1111	1.1111	1.1111
	ウォン	100	1.1764	1.4667	1.3333	16.7000	4.6000	56.0000	933.3333	1.1764	1.1764	1.1764
	円	100	1.3704	1.6667	1.5000	19.7000	5.4000	66.0000	1093.3333	1.3704	1.3704	1.3704
	新台	100	1.5000	1.8182	1.6667	21.3000	5.9000	72.0000	1183.3333	1.5000	1.5000	1.5000
台湾	ドル	100	0.6900	0.9127	1.0000	9.7500	2.5000	31.2500	516.6666	0.6900	0.6900	0.6900
	ユーロ	100	0.9127	1.0000	0.9127	9.3750	2.3600	29.1200	475.2000	0.9127	0.9127	0.9127
	ポンド	100	0.8719	1.1111	1.0000	9.7500	2.5000	31.2500	516.6666	0.8719	0.8719	0.8719
	フラン	100	0.8333	1.0667	0.9643	11.8000	3.1000	38.7000	633.3333	0.8333	0.8333	0.8333
	マルカ	100	0.9091	1.1764	1.0667	12.7000	3.5000	43.7500	727.2727	0.9091	0.9091	0.9091
	ペソ	100	1.0000	1.2667	1.1429	14.0000	3.9000	48.0000	792.0000	1.0000	1.0000	1.0000
	ルビ	100	1.1111	1.3704	1.2381	15.3000	4.2000	51.0000	850.0000	1.1111	1.1111	1.1111
	ウォン	100	1.1764	1.4667	1.3333	16.7000	4.6000	56.0000	933.3333	1.1764	1.1764	1.1764
	円	100	1.3704	1.6667	1.5000	19.7000	5.4000	66.0000	1093.3333	1.3704	1.3704	1.3704
	新台	100	1.5000	1.8182	1.6667	21.3000	5.9000	72.0000	1183.3333	1.5000	1.5000	1.5000
日本	ドル	100	0.6900	0.9127	1.0000	9.7500	2.5000	31.2500	516.6666	0.6900	0.6900	0.6900
	ユーロ	100	0.9127	1.0000	0.9127	9.3750	2.3600	29.1200	475.20			

表2 山崎5、山崎4、山越2遺跡出土黒曜石製遺物の元素比分析結果

分析 番号	元 素 比									
	Ca/K	Ti/K	Mn/Zr	Fe/Zr	Rb/Zr	Sr/Zr	Y/Zr	Nb/Zr	Al/K	Si/K
65739	0.256	0.073	0.100	2.174	0.968	0.404	0.263	0.000	0.026	0.349
65740	0.240	0.065	0.068	2.229	1.023	0.468	0.258	0.034	0.022	0.348
65741	0.247	0.064	0.067	2.117	0.955	0.421	0.307	0.071	0.026	0.361
65742	0.257	0.064	0.073	2.129	1.016	0.472	0.220	0.053	0.023	0.342
65743	0.255	0.068	0.089	2.178	0.954	0.425	0.325	0.050	0.022	0.353
65744	0.268	0.073	0.076	2.100	0.995	0.448	0.288	0.034	0.028	0.361
65745	0.259	0.069	0.086	2.037	0.931	0.414	0.286	0.048	0.024	0.343
65746	0.274	0.070	0.111	2.143	0.870	0.395	0.275	0.058	0.027	0.351
65747	0.255	0.071	0.061	2.212	0.973	0.455	0.259	0.088	0.023	0.346
65748	0.252	0.068	0.102	2.189	0.986	0.461	0.212	0.131	0.023	0.350
65749	0.256	0.074	0.069	2.110	0.910	0.400	0.247	0.045	0.025	0.335
65750	0.490	0.148	0.066	1.806	0.418	0.571	0.147	0.030	0.032	0.474
65751	0.490	0.138	0.057	1.736	0.426	0.561	0.179	0.022	0.025	0.447
65752	0.487	0.140	0.045	1.680	0.425	0.588	0.163	0.036	0.032	0.428
65753	0.505	0.143	0.071	1.792	0.458	0.606	0.177	0.031	0.040	0.458
65754	0.254	0.065	0.073	2.246	0.987	0.473	0.255	0.073	0.027	0.335
65755	0.131	0.038	0.093	2.041	1.066	0.458	0.246	0.047	0.015	0.206
65756	0.272	0.071	0.053	2.066	1.059	0.419	0.318	0.051	0.027	0.383
65757	0.147	0.051	0.081	2.083	0.964	0.406	0.281	0.030	0.022	0.277
65758	0.220	0.066	0.093	2.173	0.971	0.469	0.253	0.054	0.020	0.305
65759	0.251	0.076	0.088	2.105	0.996	0.411	0.232	0.068	0.020	0.350
65760	0.474	0.145	0.072	1.774	0.440	0.582	0.115	0.051	0.020	0.450
65761	0.271	0.075	0.050	1.862	0.763	0.314	0.324	0.072	0.018	0.363
65762	0.251	0.067	0.059	2.108	0.961	0.433	0.279	0.046	0.023	0.344
65763	0.245	0.069	0.072	2.072	0.921	0.437	0.288	0.041	0.030	0.351
65764	0.272	0.067	0.086	2.335	1.007	0.441	0.240	0.148	0.017	0.352
65765	0.231	0.066	0.071	2.005	0.919	0.379	0.234	0.021	0.028	0.343
65766	0.249	0.074	0.079	2.096	0.969	0.442	0.219	0.089	0.022	0.327
65767	0.324	0.159	0.060	1.682	0.386	0.570	0.161	0.017	0.029	0.442
65768	0.472	0.151	0.077	1.826	0.476	0.586	0.184	0.033	0.016	0.396
65769	0.500	0.146	0.081	1.791	0.501	0.583	0.164	0.046	0.023	0.438
65770	0.536	0.151	0.061	1.711	0.406	0.564	0.168	0.053	0.025	0.456
65771	0.495	0.150	0.112	2.079	0.423	0.650	0.174	0.069	0.023	0.468
65772	0.505	0.155	0.093	2.009	0.502	0.556	0.252	0.068	0.029	0.463
65773	0.553	0.146	0.084	1.827	0.366	0.536	0.177	0.073	0.019	0.449
65774	0.511	0.142	0.083	2.833	0.486	0.782	0.244	0.062	0.029	0.474
65775	0.218	0.063	0.098	2.146	0.934	0.412	0.279	0.055	0.020	0.295
65776	0.173	0.051	0.097	2.523	1.060	0.514	0.293	0.092	0.017	0.296
65777	0.253	0.066	0.078	2.128	0.938	0.437	0.279	0.060	0.024	0.332
65778	0.253	0.073	0.110	2.243	0.969	0.384	0.298	0.067	0.024	0.348
65779	0.273	0.069	0.115	2.278	1.047	0.476	0.278	0.092	0.021	0.361
65780	0.270	0.067	0.095	2.076	0.942	0.430	0.298	0.095	0.017	0.338
65781	0.513	0.152	0.061	1.836	0.426	0.571	0.164	0.037	0.034	0.456
65782	0.260	0.070	0.107	2.623	1.023	0.513	0.259	0.055	0.028	0.353
65783	0.262	0.071	0.069	2.238	0.965	0.387	0.256	0.021	0.026	0.343
65784	0.268	0.076	0.111	2.524	1.019	0.426	0.286	0.045	0.027	0.358
65785	0.275	0.075	0.097	2.404	0.985	0.430	0.259	0.050	0.025	0.372
JG-1	0.792	0.215	0.084	4.045	0.999	1.352	0.219	0.091	0.021	0.312

JG-1: 標準試料—Ando, A., Kurasawa, H., Ohmori, T. & Takeda, E. 1974 compilation of data on the GUS geochemical reference samples JG-1 granodiorite and JB-1 basalt. Geochemical Journal Vol. 8, 175-192(1974)

表3 平成11年度山崎5遺跡、山崎4遺跡、山崎2遺跡出土黒曜石石器の原産地推定結果

分析番号	資料番号・遺物番号・遺構・グリッド・層位	原 石 産 地 (確率)	判 定	器 種	備 考
65739	1-1, M-10, Ⅲ	赤井川第2群 (82%)、赤井川第1群 (24%)	赤井川	石鏢	
65740	2-42, H-1, 覆土1	大沢通 (76%)、鷹森山 (63%)、赤井川第1群 (14%)	赤井川	石鏢	遺構出土
65741	3-1, M-61-b, I	大沢通 (11%)、鷹森山 (11%)、赤井川第1群 (5%)	赤井川	石鏢	
65742	4-5, Q-55, 5	大沢通 (16%)、鷹森山 (5%)、赤井川第1群 (4%)	赤井川	石鏢片	
65743	5-5, I-34, 覆土	赤井川第1群 (10%)、赤井川第2群 (6%)、大沢通 (1%)	赤井川	ドリル	
65744	6-26, I-18, Ⅲ-a	赤井川第1群 (34%)、十勝三股 (21%)、赤井川第2群 (25%)	赤井川	つまみ付きナイフ	山崎5遺跡
65745	7-8, I-50-a, Ⅲ	赤井川第1群 (41%)、赤井川第2群 (17%)	赤井川	スクレイパー	
65746	8-9, I-50-b, Ⅲ	赤井川第1群 (2%)	赤井川	スクレイパー	
65747	9-4, I-50-a-b, Ⅲ	赤井川第1群 (18%)、鷹森山 (17%)、赤井川第2群 (25%)	赤井川	スクレイパー	
65748	10-9, Q-60, Ⅲ	赤井川第1群 (2%)、大沢通 (1%)、赤井川第2群 (3%)	赤井川	異形石器	
65749	11-3, I-61-d, I	赤井川第2群 (89%)、赤井川第1群 (54%)	赤井川	石鏢	
65750	12-161, H-5, 覆土	豊泉第1群 (77%)	豊 泉	石鏢	遺構出土
65751	13-162, H-5, 覆土	豊泉第1群 (15%)	豊 泉	石鏢	遺構出土
65752	14-13, I-50, Ⅲ	豊泉第1群 (41%)	豊 泉	石鏢	
65753	15-55, H-5, 覆土	豊泉第1群 (18%)	豊 泉	石鏢未成品	遺構出土
65754	16-14, I-50, Ⅲ	鷹森山 (45%)、大沢通 (25%)、赤井川第1群 (30%)	赤井川	ドリル?	
65755	17-2, R-60-c, I	【赤井川第1群 (6%)、戸門第1群 (5%)】	赤井川	石鏢	
65756	18-3, R-60-d, I	十勝三股 (29%)、戸門第1群 (6%)	十 勝	石鏢未成品	
65757	19-2, K-40-a, Ⅲ	【赤井川第2群 (51%)、赤井川第1群 (34%)、大沢通 (2%)】	赤井川	石鏢	
65758	20-6, G-7, Ⅲ上	赤井川第1群 (37%)、大沢通 (8%)、鷹森山 (3%)	赤井川	石鏢	
65759	21-5, M-24, Ⅲ上	赤井川第1群 (47%)、赤井川第2群 (29%)、十勝三股 (1%)	赤井川	フレイク	山崎5遺跡
65760	22-60, Q-23, Ⅲb	豊泉第1群 (39%)	豊 泉	つまみ付きナイフ	山崎5遺跡
65761	23-9, G-7, Ⅲ上		不 明	石鏢片	
65762	24-1, G-8, Ⅲ中	赤井川第1群 (29%)、大沢通 (18%)、鷹森山 (11%)	赤井川	石鏢	
65763	25-29, H-1, 床面	赤井川第1群 (53%)、大沢通 (11%)、鷹森山 (6%)	赤井川	フレイク	遺構出土
65764	26-156, H-3, 覆土2	赤井川第1群 (3%)	赤井川	フレイク	遺構出土
65765	27-8, G-7, Ⅲ上	赤井川第1群 (14%)、大沢通 (2%)	赤井川	石鏢片	
65766	28-10, G-7, Ⅲ上	赤井川第1群 (37%)、赤井川第2群 (46%)、大沢通 (3%)	赤井川	石鏢片	
65767	29-14, Q-29, Ⅲa	豊泉第1群 (34%)	豊 泉	つまみ付きナイフ	山崎5遺跡
65768	30-44, H-1, 覆土1	豊泉第1群 (24%)	豊 泉	フレイク	遺構出土
65769	31-64, H-5, 覆土	豊泉第1群 (0.2%)	豊 泉	フレイク	
65770	32-224, H-5, 覆土	豊泉第1群 (1%)	豊 泉	フレイク	遺構出土
65771	33-258, H-5, 床面	豊泉第1群 (0.02%)、遺物減少で薄い	フレイク	FC-1出土	
65772	34-262, H-5, 床面	豊泉第1群 (D ⁺ =100) 遺物減少で薄い	フレイク	FC-1出土	
65773	35-260, H-5, 床面	遺物減少で薄い	フレイク	FC-1出土	
65774	36-264, H-5, 床面	遺物減少で薄い	フレイク	FC-1出土	
65775	37-46, H-9, 覆土2	赤井川第1群 (5%)	赤井川	フレイク	遺構出土
65776	38-2, G-6, Ⅲ上		不 明	石鏢片	
65777	39-21, H-7, Ⅲ上	赤井川第1群 (73%)、大沢通 (9%)、鷹森山 (9%)	赤井川	石鏢片	
65778	40-12, H-1, 床面	赤井川第2群 (2%)、赤井川第1群 (1%)	赤井川	フレイク	遺構出土
65779	41-47, H-1, 覆土2	赤井川第1群 (2%)、赤井川第2群 (2%)	赤井川	フレイク	遺構出土
65780	42-57, H-1, H-P-1	赤井川第1群 (2%)	赤井川	フレイク	遺構出土
65781	43-56, H-5, 覆土	豊泉第1群 (15%)	豊 泉	フレイク	遺構出土
65782	44-179, H-3, 覆土1	大沢通 (1%)、鷹森山 (1%)、赤井川第1群 (1%)	赤井川	フレイク	
65783	45-2, H-6, 覆土	赤井川第1群 (16%)、赤井川第2群 (21%)	赤井川	フレイク	遺構出土
65784	46-4, H-2, 覆土	赤井川第1群 (51%)、戸門第1群 (10%)、十勝三股 (2%)	赤井川	フレイク	遺構出土 山崎2遺跡
65785	47-12, H-2, 覆土	赤井川第1群 (43%)、赤井川第2群 (1%)	赤井川	フレイク	遺構出土 (北トレンチ) 山崎2遺跡

注意：近年産地分析を行う者が多くなりましたが、判定根拠が曖昧にも関わらず結果のみを報告される場合があります。

本報告では日本における各産地の産地分析の判定基準を一定にして、産地分析を行っています。判定基準の異なる研究方法（土器製の基準も研究方法で異なるように）にも関わらず、似た産地名のために同じ結果のように思われるが、全く関係（相互チェックなし）ありません。本研究結果に連続させるには本報告法で再分析が必要。本報告の分析結果を考古学資料とする場合には常に同じ基準で判定されている結果で古代文脈などを考察を必要とあります。

【赤井川第1群 (48%)】：【 】で示された推定確率は風化層の影響を受けやすい軽元素 (Ca/K, Ti/K) の軽元素比を基に判定を行った結果で、170個黒石群の中で1%以上の確率で判定された黒石産地を記した。

VII 成果と問題点

1 山崎5遺跡の遺構について

1) 山崎5遺跡の土壌墓について

・山崎5遺跡の墓の概要

第VI章でも述べたように、2カ年の調査で11基の土壌墓(P-1、4、38、39、55、56、68、69、71、72、76)を検出した。このうちP-55を除く10基は埋め戻しとみられる堆積状況と規模から、P-55は規模の点から墓とするには疑問が残るが、堆積状況に加えて副葬品と考えられる出土遺物の存在から土壌墓とした。

これらは多少の時期差はあるものの円筒下層式に相当する時期のものとみられ、P-76を除いて調査区の南西側に比較的集中して検出されている。同時期とみられる遺構に削平部分と住居群があるが、削平部分が標高の最も高い位置に、すべての遺構の中心となる位置にあり、墓はその周囲に隣接して配置されている。また住居群はその外側に標高にして6mほど低い位置にあり、あたかも墓域を取り巻くように位置している。

墓は比較的接近しているもののすべて重複関係がない。掘込面上部から堆積状況を確認できたP-4について見るとわずかに中央がへこみ、ほぼ開口部まで埋め戻されている、そのことから、憶測ではあるがそれぞれの墓域はくぼみとして後世に位置がわかる状態ではなかったと思われる。他の10基の土壌墓が火山灰の落ち込みで確認されることがないことから裏付けられる可能性があるが、墓はほぼ同時のものであるか、何か墓標のような目印がありそれが何らかの形で伝承されている極短い期間に作られたと思われる。

これらの墓は削平部分に隣接した黒褐色土の堆積の薄い部分に作られるため、比較的容易に壁、墳底を確認することができ、覆土の堆積状態も明瞭であった。そのため、本遺跡では形態と堆積状態について若干の分類を行っておきたい。

・墓の形態と堆積状況について

11基の墓の平面形は概ね3種類に分けることができる。楕円形を呈するもの(P-38、39、56、71、72、76)、ほぼ円形を呈するもの(P-55、68) 隅丸方形を呈するもの(P-1、4、69)の3種である。

また長短軸の断面形は2種類あり、墳底が明確な平坦面を呈するもの、碗状を呈するものがある。平面形と断面形の対応関係はすべてでないものの隅丸方形=平坦、楕円形=碗状、円形=混在、の3つの組み合わせがある。

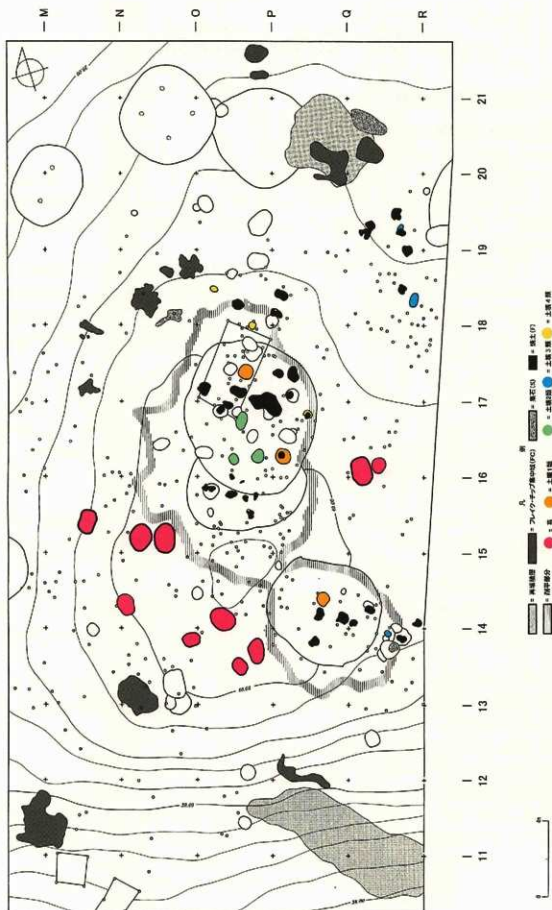
また、埋め戻しを呈するものの堆積状況には次の2者がある。

①基本層序のⅢ層下部付近の灰褐色土にⅤ層の黄褐色土のブロックが混入する土

②Ⅲ層下部の黒褐色土とⅤ層の黄褐色土が大きな塊で入り、交互に堆積している状況を呈するもの

11基中①は9基であり、②は2基で圧倒的に前者の数が多い。後者は楕円形=碗状の形態で、いずれも墳底から剥片石器が出土しており(P-38、P-56)、強い規制が伺われる。

これらのちがいは、同時期での埋葬法の違いを示している可能性があり、本遺跡の資料からは被葬者の生前のどのような区別を反映したものは判断できないが、今後同時期の遺跡の調査において注意しなければならないと思われる。



図Ⅶ-1 山崎5遺跡の削平部分とその周辺の遺構

2) 削平部分で検出された土壌の4種について

本遺跡の削平部分からは30基の土壌が検出された。このうち覆土が一部埋め戻し状になるもの、遺物が大量に出土するものなど特殊な土壌があった。これらは削平部分を意識して作られた種類の土壌である可能性がある。これらについて4つに分類して解説する。

土壌1類(小型フラスコビット)(P-2、P-7、P-32)

平面形は直径約80cmの円形で、深さは確認面から約50cmの小型のフラスコビットである。規模についてみると3土壌間であまり差がなく比較的規格性が高い。覆土は埋め戻しの状況を呈しており、P-7には上面に焼土が、P-32では覆土中から焼土粒子が出土している。また、いずれの土壌からも炭化物が出土している。出土遺物が多いことも特徴のひとつであり、P-7では土器が103点出土し、2個体が復元されている。また、P-2、P-32からは被熱したたたき石が共通して出土している。

土壌2類(P-9、P-11、P-14)

平面形は小判状あるいは不整な楕円形を呈し、断面形は緩やかな碗状を呈する。大きさは長軸で約60~100cm程度のものである。土壌の大きさに比べ遺物は比較的多く、出土遺物点数はP-9が土器15点石器等24点、P-11が土器48点、石器等21点、P-14が土器44点、石器等8点である。P-11、14では復元個体が出土している。土層堆積状況はⅢ層下部からⅣ層に相当する灰褐色~褐灰色土を基調とするもので、不確定なものもあるが埋め戻されたものとみられる。形態上類似する土壌は削平部分に多いが、層界の不明瞭なものや風倒木や木の根によって正確な形状を確認できないものも多い。これらもこの類に入る可能性がある。

土壌3類(P-12、P-61・P-23) P-23は削平部分の外で検出された。

平面形は円形もしくは楕円形、大きさは長軸で35~72cm、深さは確認面から23~58cmである。柱穴状小土壌よりやや大きく、覆土は埋め戻しとみられるしまりのないボソボソの土が上位に壤底付近には黒色土の堆積がある。遺物は少なく、上面あるいは周囲から焼土が検出されている。

土壌4類(埋設土器)(P-35、P-75・P-43)

4類は土器を正立の状態で埋設した土壌である。掘り方のあまりないもの(P-43)、上面で焼土が作られるもの(P-35)。底部のみが残存していたもの(P-75)がある。後者2基の埋設土器は土器の径を大きく上回る掘り方が確認されている。またすべての土器は口縁部を欠く状態で検出されたが、P-35はM-1から出土した胴部片と、P-43はM-1の上面から出土した口縁部と接合し、P-75は同一個体と見られる胴部上半の破片がM-1出土土器に存在している。

これらのほかに上面に焼土を伴う遺構(P-10、P-57、P-27など)がある。青森県南津軽郡大面遺跡等で検出されている「焼土状遺構」に類似するものである。ただしこれらの土壌については形態的共通性はない。

以上の分類はおもに土壌の形態を中心に行っており、これらの特徴は複合するもの(例えばP-7や、P-14は埋設土器の性格も兼ね備えているとも考えられる)があり、より複雑な過程を経てこれらの土壌群が形成されたと考えられる。

土壌の位置関係を示したものが図Ⅷ-1である。意図は不明であるが、2類を除く各種の遺構は南北方向の直線に配置されているようにみることができる。埋設土器において埋設される土器が北に行くほど新しい特徴を備えるようになり、期間をおいて作られたとみられる。

3) 柱穴状土壌群について

山崎5遺跡では441基の柱穴状土壌を調査した。詳細は第四章-(5)に述べてある。

これらの土壌群のうち「方形柱穴列」として抽出した19基以外の422基は、配列に規則性が無く、単独あるいは複数の組み合わせで何らかの遺構となるのかは今のところ不明である。小土壌は斜面やくぼみに位置するものも多く、出土土器の9割近くを占める円筒下層c式期の短期間に形成されていることから、調査で見逃した重複する住居跡の柱穴である可能性は低いと考えられる。

この点について今後の調査のために時空的に近似する遺跡において、本遺跡の柱穴小土壌と類似するものを、配列をなすいわゆる掘立柱建物と呼ばれるものとそうでないものの別なくいくつか挙げておきたい。

北海道南茅部町八木A遺跡において、本遺跡にやや先行する円筒下層a～b式の時期に相当する「小ピット群」が29基検出されている。上部構造や用途は言及されていないが、報告者は住居址の確証がないため小ピットとしている。この小ピットは焼土、埋設土器に近接して作られており、本遺跡例と類似する点があるといえる。

木古内町新道4遺跡H地区においても「小ピット」が75基検出されている。構築時期は明確ではないが、周囲から出土する遺物、検出された遺構から円筒下層式の時期の可能性が高いとされるものがこのうち68基あり、調査区の西側に集中しているという。これらは深さと覆土の状態から2種に分かれており、具体例は挙げられていないが、時期や用途に差があったのではないかとしている。この小ピットには近接して本遺跡の土壌2類に近い焼土の詰まった土壌が検出されている。

岡町蛇内遺跡においても、「柱穴状ピット」が63基検出されている。これらは土壌と分布を同じくしており「柱穴状ピット」に近接する土壌の中には明確な副葬品を伴う墓がある。そのうちの1つである15Pからは円筒下層b式の土器が出土しており、「柱穴状ピット」も同時期の可能性がある。報告者はこれらのピットについて掘立柱建物、櫓列、墓標などの施設、ウッドサークルのようなものを想定している。これらは本遺跡例と時期、また土壌墓との関係においても類似した例といえる。

東北地方では本遺跡と同じ円筒下層式期の例に秋田県池内遺跡がある。池内遺跡は堅穴住居跡79軒、土壌墓45基、フラスコ（袋）状土壌171基、土壌177基、土器埋設遺構9基の他、掘立柱建物跡63棟が検出されている。このうち掘立柱建物は北東～南西方向に長い帯状に集中して検出されており、集中の北側に土壌墓群があり、南側には南に延びる大型堅穴住居群に一部接した状態で検出されている。この掘立柱建物の帯状の集中は、土壌墓の集中域と同じ方向に隣接して延びており、両者の強い関連が伺われる。

縄文時代前期の検出例に関しては、まだ類例が少ないが、集落のある一部分に土壌墓や本遺跡の土壌2類に類似する土壌に近接してこのような柱穴状ピットが集中する場所が存在していたと考えてもよいようである。またこの時期の掘立柱建物は近年ようやく存在が明らかになってきており、今後類例が増加していくものとみられる。

縄文時代中期の例は多く、集落構成中に掘立柱建物の存在が明確になる。

岩手県西田遺跡は縄文時代中期（大木8a）の集落跡で墓域群、長方形柱穴列（掘立柱建物）住居跡群、貯蔵穴群が、墓域群を中心とした同心円状に配置される。報告者はこれらの柱穴列を分類し、それぞれ構成単位ごとに墓域群と対応関係がみられるといい、墓と密接に関係した「殯」を行う施設を想定している。

青森県三内丸山遺跡では、すでに40棟近い掘立柱建物が調査されている。これらは1軒×2軒の6本柱となるものが最も多い。また検出される位置は集落内においてある程度限定されており、空間的

な古地の意図があったと考えられている。

同県富ノ沢(2)遺跡では、墓壕を取り囲むように配置された9棟の掘立柱建物で調査されている。時期は円筒上層c～e期のものとされ、9棟のうち7棟までが1軒×2軒のものである。

これらの縄文中期の掘立柱建物に共通しているのは柱穴の規模が大きいことである。西田遺跡では「その大半が掘り方を持つ」もの、三内丸山遺跡では「掘り方が直径1.0～1.5m」であるといい、柱穴が柱の太さを大きく超えてつくられるものである。集落における位置も明確になり特に墓域と隣接してもしくは重なって作られるようになるということがいえる。

これらの類例から何らかの結論を導くことは現時点では難しいが、住居域から区分された墓域付近に柱穴状の土壌が検出されることは縄文時代前期の円筒土器下層式においても特異ではないことは本遺跡の検出例を通じてははっきりしたものとみられる。用途や上部構造の解明は今後の調査に期待したい。

(立田)

参考文献

- 石井 寛 1995 「縄文時代掘立柱建物に関する諸議論」 『帝京大学山梨文化財研究所研究報告第6集』
- 石井 寛 1998 「縄文集落と掘立柱建物跡」 『先史日本の住居とその周辺』
- 佐々木 勝 1994 「岩手県における縄文時代の掘立柱建物について」 『岩手県立博物館研究報告第12号』
- 青森県教育委員会 1978 「近野遺跡発掘調査報告書」 青埋調報47
- 青森県教育委員会 1979 「大面遺跡発掘調査報告書」 青埋調報55
- 青森県教育委員会 1993 「富ノ沢遺跡VI発掘調査報告書(3)」 青埋調報147
- 青森県教育委員会 1994 「三内丸山(2)遺跡II」 青埋調報157
- 秋田県教育委員会 1997 「池内遺跡 遺構篇」 秋文調報268
- 秋田県教育委員会 1999 「池内遺跡 遺物・資料篇」 秋文調報282
- 岩手県教育委員会 1980 「東北新幹線関係埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅶ」(西田遺跡) 岩埋調報51
- 木古内町教育委員会 2001 「蛇内遺跡」
- 南茅部町埋蔵文化財調査団 1993 「八木A遺跡 ハマナス野遺跡」
- 南茅部町埋蔵文化財調査団 1995 「八木A遺跡 ハマナス野遺跡」
- 南茅部町埋蔵文化財調査団 1997 「八木A遺跡Ⅲ 八木C遺跡」
- 北海道埋蔵文化財センター 1987 「建川2・新道4遺跡」 北埋調報43

2 円筒土器文化圏における墓制について

1) 山崎5遺跡における集落構造と墓域

平成11・12年度の山崎5遺跡の調査より、円筒下層b式末からc式の前半にかけての住居跡9軒、土壌墓11基などで構成される集落が確認された(図Ⅷ-2)。遺跡は調査区外にも広がるが、調査区内で確認された範囲では半円状に住居跡が配置され、その内側に10基の土壌墓がまとまり一つの墓域を形成している。さらに内側には小高い部分を人為的に削平し、小規模の土壌墓が構築された部分がある。この削平部分の土壌の一部は脂肪酸分析によるとヒトの骨部分もしくは遺体を直接埋葬したものとの結果が示されている。また、同じく住居跡の内側で削平部分の外縁と接するかその外側に埋設土器が3基検出されている。この内の2基についても脂肪酸分析を行った結果、ヒトの骨部分を良く含むヒト遺体全般の脂肪酸が検出されたとの結果が示されている。

このように本遺跡では住居跡の内側に、1土壌墓を中心とする墓域、2削平部分を中心とする墓域、3埋設土器、の大きく3つの墓域が近接しながら重複せずに配置されており、このような集落構造や遺構は他に類例を見ない特異なものである。

そこで、ここでは主に土壌墓を中心とする墓域について考察してみたい。

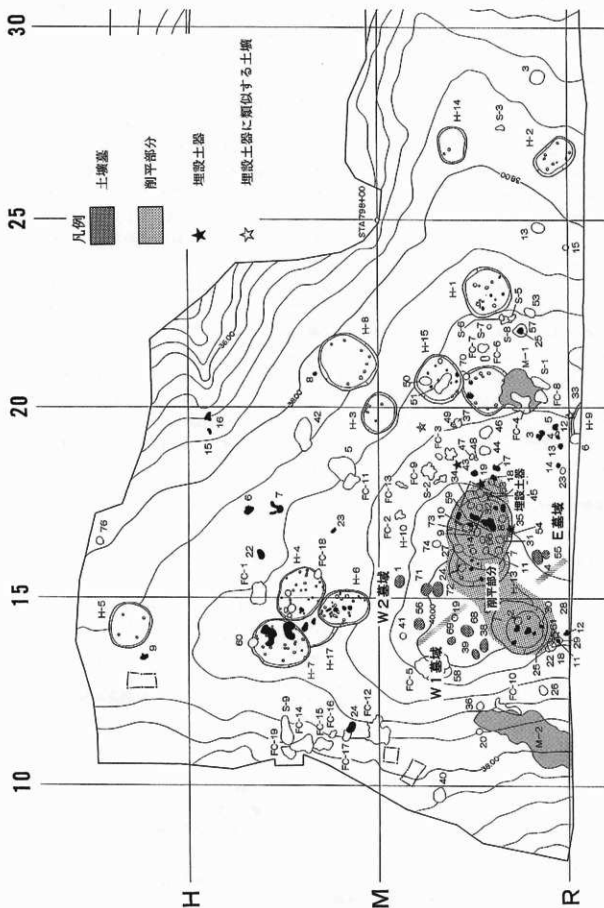
1土壌墓を中心とする墓域、は削平部分をはさんで大きく2ヶ所に分かれ、西側の墓域では2基単位の土壌墓が8基まとまって列状を呈している。また、東側の墓域で確認された墓は2基である。しかし、西側墓域との対応関係から推定すると、調査区範囲外に墓域が広がり、列状の墓域が2対になる可能性がある。

そして、大きく2ヶ所に分かれる削平部分に対応するように、西側墓域のP-38・39・68・69とP-1・56・71・72の間に空地が見られ更に2つの土壌墓群に細分される。仮に前者をW1墓域、後者をW2墓域とする。東側墓域のP-4・55はその位置からW2墓域と対になるものと推測される(以下E墓域とする)。このように、大きく2分された墓域は更に3細分される。このような細分は埋葬された時期の差、もしくは集落における双分制原理(林1977など)を反映するものとも考えられるが、本遺跡においてはそれを具体的に検証する材料に乏しく、判断は保留せざるを得ない。

これら土壌墓の規模を示したものが図Ⅷ-3である。床面での長軸長が1m以上もしくはそれに近いものと、0.7~0.8m前後のものに大きく分かれる。W1・W2・E墓域内にはそれぞれに大小の墓域があり、規模の大きいものは削平部分寄り、規模の小さいものはその外側に位置する傾向がある。削平部分を意識し、それに規制された土壌墓の構築が行われていたと言える。

土壌墓の規模と被葬者の年齢については中村氏の、年齢・性別については山田氏の研究がある(中村1998、山田1999)。中村氏によると東北地方北部における晩期の土壌墓は墳底面の規模から小形、中形、大形に細分され、それぞれ子供用、若年者用、大人用の土壌墓であると推測している。山田氏によると腰角度が90°もしくはそれ以下で膝関節角度が90°以内の同じ屈葬の埋葬姿勢では土壌長0.8m程度を境として幼児期(2~5歳程度)以前と小児期(6~12歳程度)以降を識別できるといふ。なお、事例が少ないため積極的には主張していないが、思春期(13~16歳程度)以前と青年期(17~20歳程度)以降で土壌長に20cmほどの差がある埋葬姿勢もある。また、上記と同じ埋葬姿勢では男女間に0.2mの土壌長さ差が見られるという。これらのことを勘案すると、本遺跡における土壌墓の規模の差は年齢差もしくは男女差を示す可能性がある。

各小墓域内にはいずれも規模の小さい土壌墓が存在していること、規模の大小にかかわらず狩猟具などの剥片石器が副葬されていること、後述するように削平部分の土壌は再葬墓もしくは幼児・小児



図Ⅳ-2 山崎5遺跡における集落構造と墓域

用の墓と推測されること、などから土墳墓の規模の差は男女差ではなく被葬者が成人と小児期・思春期以上の若年者とを分ける年齢差である蓋然性が高いといえる。

土墳墓の長軸方向は斉一性がないが、隣接して2基一對となる土墳墓は基本的に同一方向である(図Ⅶ-3)。

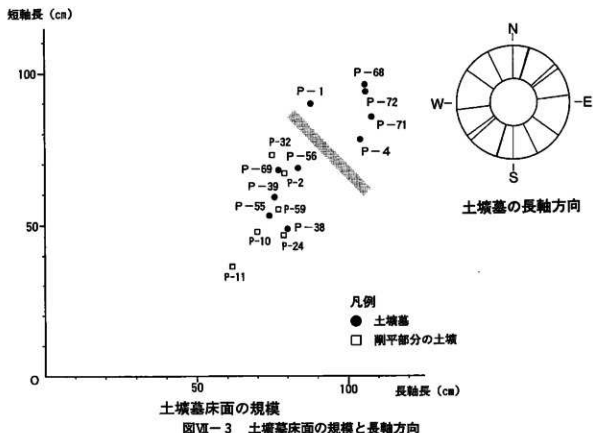
副葬品の検出された土墳墓は10基中6基で、副葬比率は高い。全てが剥片石器で、2点以上副葬されていたものもあった。ベンガラが散布されたものはない。また、P-39が墳口部に礫を配置していた可能性を残すが、その他には墳口部・覆土中に土器や礫石器・礫が配置された土墳墓は無い。

2の削平部分の土墳群、では隣接したものも含めて脂肪酸分析をおこなった4基の土墳からヒトに由来する脂肪酸が検出されている。削平部分に位置する土墳の全てが墓であるとの断定は出来ないが、規模や埋め戻しの状態など、様相の類似する土墳の少なくとも6基(第Ⅶ章1参照)は同じようにヒトを埋葬した可能性がある。これらの土墳の規模を示したものが図Ⅶ-3である。1の土墳墓群の小さい墓墳と重なるものもあるが、さらにより規模が小さい方にまどまっている。このような規模では大人を直接埋葬することは不可能で、再葬墓もしくは幼児・小児用の墓であったと推測される。

3の埋設土器、は3基で全てが正立であり、直線状に並び台石でふさがれた同規模の土墳であるP-52へと続いている。胎児・幼児の埋葬施設と推測されているこれら埋設土器は、1の土墳墓群の北側で、更に2の削平部分の外縁かその外側の区域に配置されている^(注1)。

このように、本遺跡では居住域の内側に成人もしくはそれに準じる者の墓域=東・西側墓域、再葬墓もしくは幼児・小児の墓域=削平部分、胎児・幼児の墓域=埋設土器もしくはそれに準じる土墳、の大きく3つの墓域が近接しながらも重複せずに形成されていたと推測できる。

次に、縄文時代前期後半、円筒土器下層 a～d 式に相当する時期の道南部～道央部および東北地方北部における墓域と墓制について類例を検討してみる。



2) 道南部における墓域と集落構造

縄文時代前期から中期にかけては各地に拠点的集落と呼ばれる大規模な集落が形成された時期である。よって、墓域の位置や埋葬形態も集落の規模により異なることが推測される⁽¹⁸²⁾。以下では大まかに集落の規模を大・中・小の3つに分け、それぞれの遺跡における墓域や埋葬形態について見ていくこととする。

継続的に集落が営まれ、20軒以上の住居跡が確認された前期後半の大規模集落として南茅部町ハマナス野遺跡、八雲町栄浜1遺跡、函館市函館空港第4地点などが挙げられる。

ハマナス野遺跡の集落は下層d式の頃に発達し、現状を呈するという(阿部 1995など)。廃絶された住居内やその周辺から、副葬品が検出されたり、ベンガラが散布された土壌墓が確認されている(図Ⅶ-4)。栄浜1遺跡も前期から中期にかけて中央部に墓域と土壌群を配置した環状集落の形態を呈する。居住域内や内側の土壌群から、人骨が確認されたものや完形土器が出土した土壌墓・フラスコ状ビットが検出されている(図Ⅶ-4)。函館空港第4地点は下層a・b式を中心とする集落である。居住域内の住居跡と重なる位置、もしくは10m程離れて一群の土壌が確認できる。この内のいくつかはリン酸の分析から墓域の可能性が指摘されている(図Ⅶ-5)。

このような大規模集落では居住域の一部重なり、その内側もしくは外側に墓域が形成されるようである。ただし、土壌墓は住居廃絶後に掘り込まれたものが多く、同時期に住居と重複するものではない。当時の居住域から程近い場所に埋葬した結果と推測される。

また、墓の形態も多様である。一般的な土壌墓の他に、住居廃絶後の覆土内の墓、フラスコ転用墓、埋設土器がある。ハマナス野遺跡では配石墓・土器片墓と呼ばれる独特の形態もある(図Ⅶ-4)。

次に大規模集落ほど住居軒数は多くはないものの、土器2形式程度にわたって集落が営まれ住居跡が10~20軒程度のものを中規模集落とする。本遺跡は調査区外にも遺跡が広がっており、実際には10軒以上の住居跡が存在すると推測されるので、この規模の集落に該当する。

南茅部町八木A遺跡(下層a・b式主体)は住居跡が15軒検出された。居住域は2分されており、墓域は住居とやや離れて列状に配置され同じく2分されている。また、2~3基が頭位を揃えて近接し一単位となっており、その集積が墓域列をなしているように見える。土壌墓は人骨が検出されたものも多く、平面形は楕円形が基本であるが、伸展葬を想定させる長軸長が2m以上の長楕円形のものもある。盛土下にある土壌のない墓(図Ⅶ-6)はコタン温泉遺跡第3貝塚で見られたような掘り込みを持たない貝層下の墓(図Ⅶ-7)と同じものである。この点でも盛土遺構と貝塚の類似性(大島 1999など)が指摘できる。また、フラスコ状ビット転用墓が1基想定され(図Ⅶ-5)、北海道では初現と考えられる円筒下層b式の埋設土器も存在する。このような規模の集落では大規模集落と比べて墓域や埋葬形態のバリエーションが少なくなるようである。

更に、住居跡数軒の小規模集落として南茅部町八木B遺跡(下層a式主体)、七飯町桜町7遺跡(下層d式主体)、上磯町茂別遺跡(下層a式主体)、上ノ国町原歌遺跡(下層a・b式主体)などが挙げられる。南茅部町八木B遺跡では楡川式の住居跡7軒が検出され、土壌墓は前期のものと推測されるもの3基を含めて合計6基が調査された(図Ⅶ-6)。調査区外にも遺跡は広がり、実際には7軒以上の住居跡が存在したと推測され、中規模集落に属するものと考えられる。土壌墓は住居跡に近接もしくは廃絶後に重複して構築されている。土壌長から、伸展葬と屈葬が並存していたと考えられている。墳底から出土した副葬品に剥片石器、石皿がある。覆土下位から上位にかけて大型礫が検出されたものが3基、長軸墳底に小ビットがあるものが1基で、ベンガラが散布されていたものはない。桜町7遺跡では住居跡が離れて2軒あり、この2軒をつなぐように土壌が環状に配置されている。中央

部には若干の空閑地があり、そこに墓墳と推測された土壌が位置している。土壌墓には大型の扁平礫を周囲に配置したものがある(図Ⅶ-7)。茂別遺跡は円筒土器下層式a～d式土器が出土している。明確な前期の住居はなく、段丘縁に前期を含む土壌墓が列状に配置されている。前期後半の土壌墓はベンガラが散布されており、小型の完形土器やつまみ付きナイフ・石斧などが出土している(図Ⅶ-7・8)。原歌遺跡では住居跡に近接して墓墳と推測された土壌が直線状に配置されており、その内の1基は山崎5遺跡削平部分のP-32と類似した、小型の袋状土壌である(図Ⅶ-8)。

このような小規模集落では土壌墓が主体となり、フラスコ状ピット転用墓や埋設土器はほとんど見られなくなる。また、土壌墓はその数が少ないこともあり、明確な配列を呈さない。

以上、大まかに集落の規模別に墓域と墓制について見てきた。墓域は居住域の近くに作られる場合が多く、大規模集落では継続して集落が営まれた結果、住居跡と重複するものもあった。また、墓域群が本遺跡例と同じく2対と考えられるのはハマナス野遺跡・八木A遺跡・函館空港第4地点?で、大～中規模集落に特有のものである。本遺跡の特徴である削平部分が構築された遺跡はない。しかし、規模の大きい墓域が小さい墓域を取り囲む構造と類似する例は、八木A遺跡・コタン温泉遺跡で見られる。八木A遺跡では内側の小さい土壌墓を子供の墓と考えている。コタン温泉遺跡第3貝塚では後期までを含む広い時期にわたって、大人の人骨に囲まれた中央部に幼児～小児骨が検出されている。

墓の形態は大規模集落ほど多様であるが、最も一般的なものは土壌墓である。平面形は楕円形(長軸1m以上)、長円形に大きく2分され、前者は屈葬、後者は伸展葬と考えられている。伸展葬は下層a・b式の時期に多いと言(福田 1993など、阿部 1995)。なお、住居廃絶後の窪みに土壌墓が構築される例は、一部例外(八木B遺跡)はあるが大規模集落に特徴的で、ハマナス野遺跡で「廃屋墓」と言われたもの(小笠原 1982)や、函館空港第4地点に類似するもの(図Ⅶ-5)が見られる。

また、小礫を遗体に被せるものがハマナス野遺跡の下層c・d式の時期にある(図Ⅶ-4)。横口部に大きな礫を配置するものは下層d式の桜町遺跡にある(図Ⅶ-7)。

フラスコ状ピット転用墓は八木A遺跡例が最も古く、下層d式頃の大規模集落で多くなる(注3)。栄浜1遺跡では多人数の合葬が確認され(図Ⅶ-4)、覆土中に多数の大型礫や倒立土器があることが特徴である。

埋設土器は八木A遺跡の下層b式が最も古く、下層d式から頻例が増加する。これらは大規模集落によく見られる傾向がある。なお、コタン温泉遺跡では新生児もしくは胎児骨が土器中から検出されている(図Ⅶ-7)。

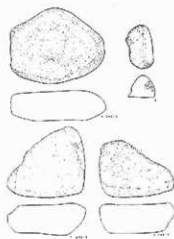
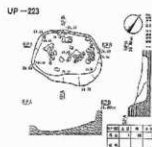
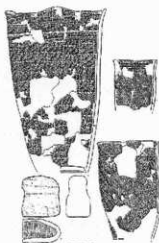
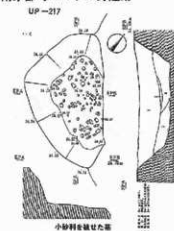
墳底もしくは墳底付近から検出される副葬品は少なく、全く検出されない遺跡もある。副葬品のある例では石鏃・ナイフ・スクレイパー・フレイクなどの剥片石器が多い。また石斧や北海道式石冠・たたき石などの礫石器例が少数ある。特異な例では墳底に土器が置かれた八木A遺跡・茂別遺跡(図Ⅶ-7・8)、サメ歯・漆製品・土製円盤などが出土したハマナス野遺跡(図Ⅶ-4)、サケ椎骨垂飾のコタン温泉遺跡(図Ⅶ-7)が挙げられる。

一方で、覆土中に大型礫や土器、横口部に土器、礫石器、礫などが置かれる例は多い。覆土中の礫は「抱き石」とみなす見解もある(阿部 1995)。

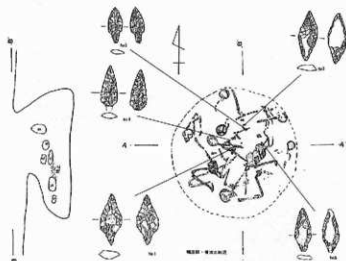
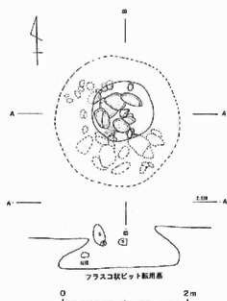
ベンガラの散布される例は大規模集落でやや多い傾向があるが、全般的に例は少ない。また、墓域の頭位方向は遺跡ごとにまとまる例がある(八木A遺跡:北頭位、コタン温泉遺跡:北～西頭位)。

このように大規模集落の方が埋葬形態のバリエーションが豊富で、副葬品の出現率も高く、ベンガラ散布例も多い。しかし横口部・覆土中からの土器・礫石器・礫の出土はいずれの規模の集落でも見られ、あまり偏りは見られない。

南茅部町ハマナス野遺跡



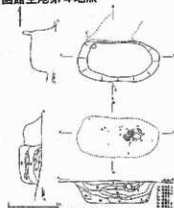
八雲町栄浜1遺跡



第117図 185号土器実測図

図Ⅶ-4 道南部における前期後半の墓制(1)

函館市函館空港第4地点



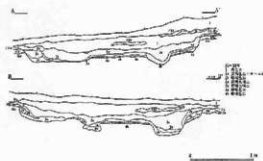
墓土中に土器が散在された土層



住居跡後の墓土中を掘り込んだ土層



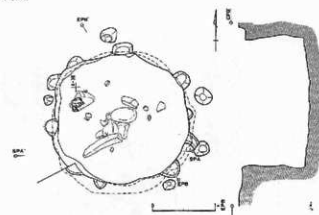
第1図 1号土器の断面図・出土位置



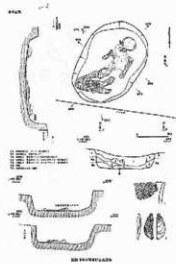
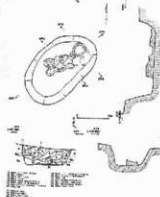
第2図 第1-2号土器の断面図

南茅部町八木A遺跡

7号土器

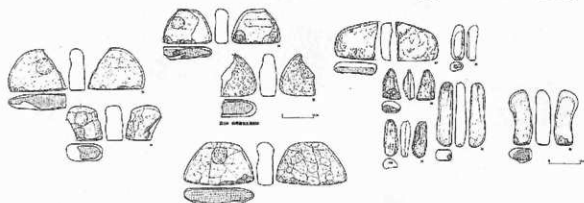
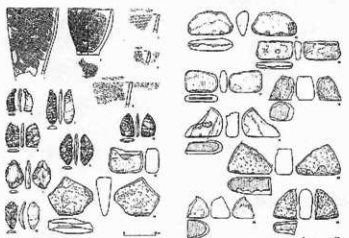
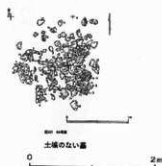


プラスチックビッド断面図



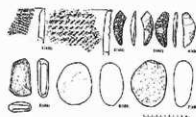
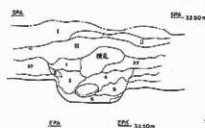
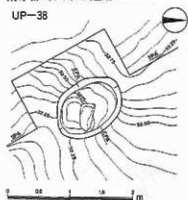
図Ⅶ-5 道南部における前期後半の墓制(2)

南茅部町八木A遺跡

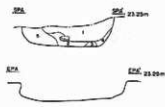
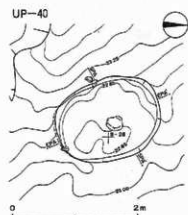


南茅部町八木B遺跡

UP-38



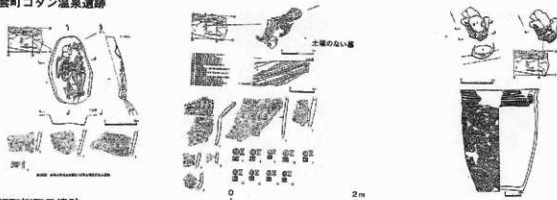
UP-40



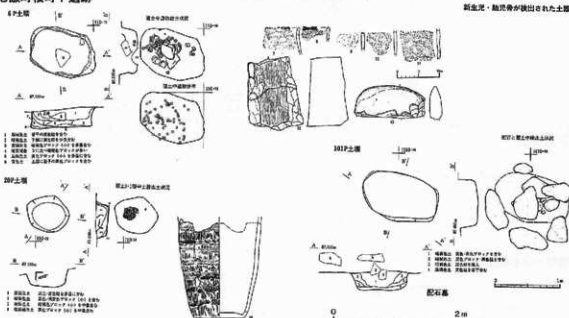
図Ⅴ-6 道南部における前期後半の墓制(3)

Ⅷ 成果と問題点

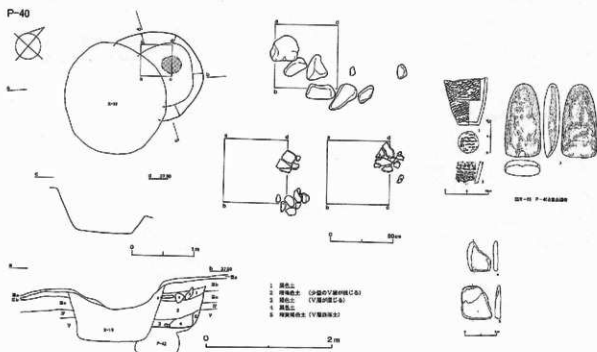
八雲町コタン温泉遺跡



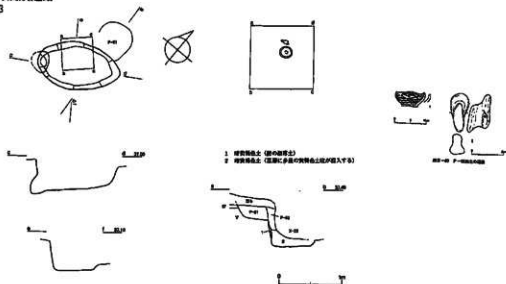
七飯町桜町7遺跡



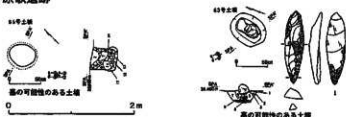
上磯町茂別遺跡



図Ⅶ-7 道南部における前期後半の墓制(4)

上磯町茂別遺跡
P-63

上ノ国町原歌遺跡



図Ⅷ-8 道南部における前期後半の墓制(5)

なお、2～3基の墓のまとまりはいずれの規模の集落でも想定され、このことから一住居もしくは2軒程度で一単位を構成する世帯(家族)の墓と推測される。これらの単位がまとまって中規模集落では列状となり、大規模集落ではさらにまとまり環状配置に類似するものが出現すると考えられる。

3) 道央部における墓域と集落構造

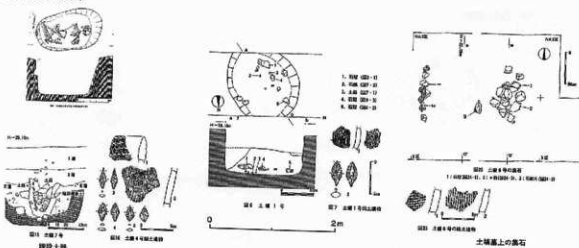
石狩低地帯や後志・胆振地方において前期後半の土墳墓が確認された集落としては円筒下層d式主体の苫小牧市植村遺跡(図Ⅷ-8)、伊達市北黄金貝塚(図Ⅷ-9)、虻田町入江貝塚、下層a・b式の虎杖浜2遺跡がある。在地系の大塚V式、植苗式、フゴッペ貝塚式の時期では千歳市美々5遺跡(図Ⅷ-9)、恵庭市柏木B遺跡(図Ⅷ-10)、余市町フゴッペ貝塚(図Ⅷ-10)、江別市元江別1遺跡(図Ⅷ-11)がある。円筒系・在地系の両者が混在するものとして苫小牧市静川22遺跡(図Ⅷ-9)が挙げられる。このうち、北黄金貝塚・フゴッペ貝塚・柏木B遺跡は比較的大規模な集落と言える。

墓域の位置は、居住域からやや離れた斜面下(静川22遺跡)・斜面上(美々5遺跡・虎杖浜2遺跡)に作られるもの、居住域近くの内側に作られるもの(北黄金貝塚)、更に近接して廃絶した住居内にも見られるもの(フゴッペ貝塚・柏木B遺跡)がある。また、周辺に住居跡が確認できなかったもの(植村遺跡・元江別1遺跡)もある。

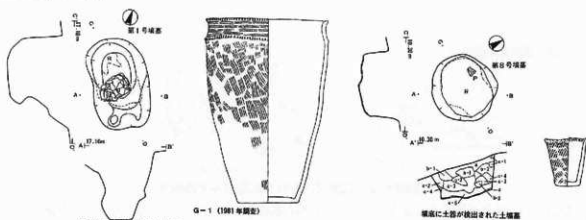
土墳墓の平面プランは円形・楕円形で、長軸長は1m内外である。静川22遺跡・フゴッペ貝塚・植村遺跡は規模がやや小さく、柏木B遺跡はやや大きい傾向がある。道南部で見られたような伸展葬を推測させる長い土壇は虎杖浜2遺跡の長軸長2m以上の例があるだけで、ほとんどが屈葬と考えられ

Ⅶ 成果と問題点

伊達市北黄金貝塚



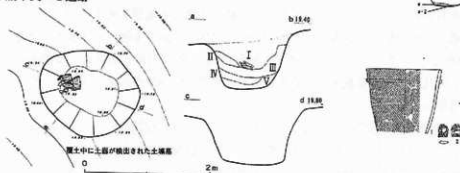
苫小牧市静川 22 遺跡



苫小牧市植村遺跡

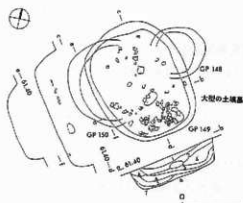
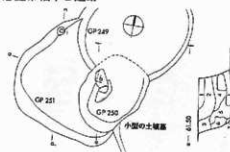


千歳市美々5遺跡



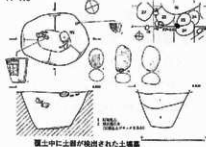
図Ⅶ-9 道央部における前期後半の墓制(1)

恵庭市柏木B遺跡



余市町フゴベ貝塚

FP-110



FP-110



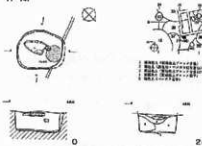
FP-130



FP-130



FP-141



FP-147

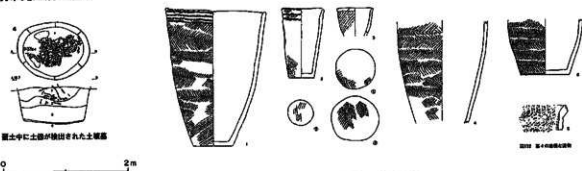


FP-147



図Ⅷ-10 道央部における前期後半の墓制(2)

江別市元江別1遺跡



図Ⅷ-11 道央部における前期後半の墓制(3)

る。規模が小さい静川22遺跡・植村遺跡では平面の長径が1mもしくはそれ以下と小さいのに対して、深く掘り込まれている土壌墓があり座葬の可能性もある。

管見の限り、埋設土器は北黄金貝塚の下層d式例のみで、フラスコ状ビット転用墓は今のところ見られない。

副葬品はない土壌墓が多い。10基以上の墓が検出された場合でも各遺跡1～2例で、副葬比率は1割程度である。副葬品がある場合では剥片石器が主体となる。虎杖浜2遺跡では4基全てにつまみ付ナイフが副葬されていた。特異な例ではフゴッペ貝塚のひすい玉(図Ⅷ-10)、静川22遺跡の墳底部からの植苗式土器(図Ⅷ-9)、植村遺跡の石斧(図Ⅷ-9)が挙げられる。

一方で墳口部もしくは覆土上位に土器・北海道式石冠・礫の配置される例は多く、副葬品がない場合でも墳口部には何か置かれる場合が多い(北黄金貝塚の集石、静川22遺跡の下層d式土器、元江別1遺跡の大麻V式土器と礫など)。ベンガラは静川22遺跡で11基の土壌墓全て、および元江別1遺跡の墓において確認され、虎杖浜2遺跡で1基から赤色物質(分析中)が検出された他は、ほとんど散布例がない。頭位方向は遺跡ごとにややまとまりがあり、北西～北、南西、北西～北東などに分かれる。

また、2～3基で一単位となるような土壌墓のまとまりはあまり無く、虎杖浜2遺跡で3基が並列する程度である。

なお、円筒系と在地系では墓域の規模・副葬品・墳口部の出土状況など類似している点が多い。それでも、在地系では円形で規模が小さく深い土壌墓があること、フラスコ状ビット転用墓・埋設土器が見られないことが特徴として挙げられる。

以上のように道央部においても墓域は大規模集落ほど居住域と近接し、居住域内に存在するものもあることや、副葬品、墳口部の土器・礫の配置など道南部と共通する傾向がある。特に噴火湾に面した胆振地方では道南部と類似する点が多い。道央部の特徴としては埋葬形態のパリエーションが少ないこと、小さめの墓域が見られること、伸展葬がほとんど見られないことが挙げられる。

4) 東北地方北部における墓域と集落構造(1)―秋田県池内遺跡―

秋田県大館市池内遺跡では円筒下層a・b式の土壌墓1基、c・d式の土壌墓36基が検出されている。墓は全て土壌墓で、長軸は1m以上である。墳底もしくは墳底付近から出土した副葬品は剥片石器が多く、土器や大型礫が配置されていたものもあった。墳口部に土器・礫などを置く例は無く、ベンガラは散布もない。

遺跡はフラスコ状土壌、土壌墓、掘立柱建物跡が3列に帯状に配置されている。土壌墓はフラスコ

状土墳群、掘立柱建物跡群にはさまれ、同じく列状に並んでいる。土墳墓群は竪穴住居跡が検出された居住域とは若干離れており、明確に墓域が形成されている。

なお、このような直線状・帯状配列は米代川流域に見られ、同じ県内でも大木系の要素が強い雄物川流域では同心円状配列をとるといふ(桜田 1999)。

5) 東北部における墓域と集落構造(2)―青森県について―

青森県については主に中期についての成田氏(成田 1997・1998)および前期についての木村氏(木村 2001)の論及を参照した。

青森県における墓域の初現は下層 a・b 式の大面遺跡である。墓域は①集落の中央部②集落内のいづれか③複数集落とセットとなる④集落内に散在、などのパターンが見られる。中期において墓域の列状配置が出現するが、群集するパターンも存在する。

前期～中期の墓域の形態は楕円形、隅丸長方形が一般的で長軸長が1.5m以上となるものもあり、中期末に伸展葬が出現すると考えている。また、三内丸山遺跡では A 墓域内に長軸長が短い墓域が多く存在し、その墓域が小児埋葬地として限定されていると推測している。

また、墓域の長軸方向は各集落単位でままと推測している。

副葬品は各遺跡の墓域間で差異があり、20～30%、10%以下、0%に分かれるが全般的には多いとは言えない。剥片石器と礫石器が多く副葬される。

フラスコ状ビット転用墓は下層 d 式に出現し、一つの画期と考えている。畑内遺跡では人骨の検出された3基、ベンガラの検出された2基の合計5基が墓に転用されたものと考えられている。古屋敷貝塚では成人女性人骨の下と土壌上面にホタテ貝が検出された。

埋設土器は下層 a・b 式に出現し、d 式に増加している。板置(2)遺跡では埋設土器が一定地域内にまとまって検出され、埋設土器遺構域として居住域から独立して存在するとしている。鳴沢遺跡でも分布のまとまりが指摘され、畑内遺跡では分布が散漫であるがいくつかのまとまりが見られるという。

6) 東北部における墓域と集落構造(3)―岩手県について―

岩手県については齊藤・酒井両氏の論及(齊藤・酒井 1994)を参照した。

岩手県の前期の墓域は、居住域と離れて形成されている。土墳墓の平面形は略円形～小判形で、土墳上部に礫を置く例が見られる。また、土墳の無い墓が久慈市大尻遺跡にある。フラスコ状ビット転用墓は二戸市上里遺跡にあり、7体の合葬であった。埋設土器は大木2式が初現で、下層 b 式の松尾村長者屋敷遺跡、下層 c・d 式の軽米町大日向Ⅱ遺跡でままと検出された。これらの埋設土器は円筒土器文化圏において特定地区に集中することが指摘されている。

このように東北地方北部でも秋田県・岩手県では居住域と墓域が離れ、青森県は近接し、土墳墓に礫を配置する点では秋田県と岩手県では異なるなど、同じ円筒土器文化圏でも差異が指摘できるのである。

7) まとめ

以上、主に居住域と墓域との位置関係、墓制を中心に見てきた。道南部は東北地方北部と同じ円筒土器文化圏で、埋葬形態に土墳墓・埋設土器・フラスコ状ビット転用墓があり、副葬品が剥片石器主体であることなど共通点がある。しかし、土墳墓の列状配置や伸展葬の存在、埋葬形態のバリエーシ

ヨンの豊富さ、壕口部への土器や礫の配置、ベンガラ散布などは道南部の方がより多様で、特色を持っていると言える。

このように同じ円筒土器文化圏でも土器の様相が若干異なるように、墓域の位置や墓制においても異なる点がある。円筒土器文化圏内の小文化圏とその系統にも留意しなければならないと思われる。また、拠点集落とその他の集落でも相違点があり、このような重層構造のなかで地域と集落が成り立っていると言える。

本遺跡は円筒土器下層b式末からc式にかけての時期に営まれた集落である。居住域と墓域の隣接、土壌墓の2基一単位と列状配置、副葬品が剥片石器であること、ベンガラが散布されていないこと、埋設土器の存在、など道南部にある同規模の遺跡と類似する点が多い。一方で、副葬品の検出された土壌墓の比率が5割以上と高いこと、この時期に良く見られる壕口部・覆土中の遺物が無いこと、など様相を異にする点もあった。このような相違点が何に起因するかは今の所不明とせざるを得ない。

また、本遺跡で最も特徴的なことは、居住域に囲まれた土壌墓群とその内側の削平部分である。土壌墓群、埋設土器群と併せて大きく3つの異なる墓域が想定され、この3分は主に規模から年齢階梯による区分と推測した。しかし、縄文時代においては大人と子供の埋葬地点が明確に分けられる墓制は普遍的ではないという指摘がある（山田 1997）。性格の異なる墓域が近接しながら分かれる本遺跡例は縄文時代の墓制を考える上で、重要な事例の一つとなり得るだろう。（藤原）

（注1）この他に、土器や礫は検出されなかったが、同様の規模や埋め土の土壌としてP-12・61が挙げられる（図Ⅷ-3☆印）。P-61は脂肪酸分析からヒトを直接埋葬した可能性が指摘されている。これらを含めても墓域や削平部とは重複しない。

（注2）このような視点からの分析は既に小林氏が行っている（小林1997）。氏は円筒土器文化圏において拠点集落とそれ以外の集落に分け、大規模集落に特徴的な墓制を指摘し、特にフラスコ状ビット転用墓について論じている。そして集落の規模により墓制は二重構造をもつとする。北海道では集落が全面発掘された例が少ないため、今回はより細かく分類し考察してみた。

（注3）小林氏によると円筒土器文化圏でのフラスコ状ビット転用墓は拠点集落ではなく、堅果類などの採取のため季節的に営まれた集落に見られるという（小林1997）。しかし、中村氏によると人骨は検出されていないが、諸条件から墓に転用されたと想定されるフラスコ状ビットは青森県三内丸山遺跡などの大規模集落でも存在するという（中村2000）。北海道の八雲町栄浜1遺跡などの例からは後者の説がより有力であるように思われる。

参考文献

- 阿部千春 1995 「ハマナス野遺跡における祭祀要素」『北海道考古学の諸問題 北海道考古学』第31輯
- 大島直行 1999 「墓と墓地構造 北海道」『季刊考古学』69
- 小笠原忠久 1982 「ハマナス野遺跡」『縄文文化の研究 8 社会・文化』
- 木村鐵次郎 2000 「縄文時代前期」『青森県埋蔵文化財センター研究紀要』6
- 小林 克 1997 「東北地方北部縄文時代の墓制」『考古学ジャーナル』422
- 小林 克 1998 「縄文社会における『祭祀』の一構造」『季刊考古学』64
- 斉藤邦雄・酒井宗孝 1994 「岩手県の縄文期葬制遺構について」『北奥古代文化』23
- 佐藤一夫 1971 「苦小牧市美沢植村遺跡調査報告」『苦小牧郷土の研究』3
- 長沼 孝 1997 「北海道の縄文時代墓地」『考古学ジャーナル』422
- 中村 大 1998 「亀ヶ岡文化における葬制の基礎的考察(1)」『國學院大學考古学資料館紀要』14
- 中村 大 2000 「土器の出土状態からみた土壌墓の認定について」『國學院大學考古学資料館紀要』16
- 成田彦彦 1997 「円筒土器文化圏の葬制—富ノ沢(2)遺跡の再検討—」『史跡三内丸山遺跡 年報』1
- 成田彦彦 1998 「青森県三内丸山遺跡の土坑墓について」『時の絆』石附喜三男先生を偲ぶ
- 成田彦彦 2000 「縄文時代中期」『青森県埋蔵文化財センター研究紀要』6
- 三橋公平、峯山 巖 1976 「入江遺跡発掘報告」『北海道の文化』12
- 山田康弘 1997 「縄文時代の子供の埋葬」『日本考古学』4
- 山田康弘 1999 「縄文人骨の埋葬属性と土壌長」『筑波大学 先史学・考古学研究』第10号
- 林 謙作 1977 「縄文期の葬制 第Ⅱ部 遺体の配列、とくに頭位方向」『考古学雑誌』63-3
- 青森県教育委員会 1979 「大面遺跡発掘調査報告書」青埋調報55
- 青森県教育委員会 1979 「板留(2)遺跡発掘調査報告書」青埋調報59
- 青森県教育委員会 1993 「鳴沢遺跡・鶴喰(9)遺跡」青埋調報142
- 青森県教育委員会 1993 「畑内遺跡Ⅰ」青埋調報161
- 青森県教育委員会 1994 「畑内遺跡Ⅱ」青埋調報178
- 秋田県教育委員会 1981 「杉沢台遺跡竹生遺跡発掘調査報告書」秋文調報83
- 秋田県教育委員会 1988 「国道103号大館南バイパス建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ—上ノ山Ⅰ遺跡・上ノ山Ⅱ遺跡—」秋文調報173
- 秋田県教育委員会 1989 「東北横断自動車道秋田線発掘調査報告書Ⅱ—上ノ山Ⅱ遺跡—」秋文調報186
- 秋田県教育委員会 1990 「はりま館遺跡発掘調査報告書(下巻)」秋文調報192 1990
- 秋田県教育委員会 1991 「国道103号道路改良工事に係る埋蔵文化財調査報告書Ⅳ—上ノ山Ⅰ遺跡第2次調査—」秋文調報211
- 秋田県教育委員会 1993 「国道103号道路改良事業に係る埋蔵文化財調査報告書Ⅶ 萩ノ台Ⅱ遺跡」秋文調報236
- 秋田県教育委員会 1997 「池内遺跡 遺構篇」秋文調報268
- 秋田県教育委員会 1999 「池内遺跡 遺物・資料篇」秋文調報282
- 南茅部町教育委員会 1995 「ハマナス野遺跡vol.XV」
- 南茅部町埋蔵文化財調査団 1992 「八木B遺跡」
- 南茅部町埋蔵文化財調査団 1993 「八木A遺跡 ハマナス野遺跡」
- 南茅部町埋蔵文化財調査団 1995 「八木A遺跡Ⅱ ハマナス野遺跡」

- 南茅部町埋蔵文化財調査団 1997『八木A遺跡Ⅲ 八木C遺跡』
- 八雲町教育委員会 1983『八雲町栄浜1遺跡発掘調査報告書』
- 八雲町教育委員会 1992『コタン温泉遺跡』
- 上ノ国町教育委員会 1998『原歌遺跡S地点』
- 七飯町教育委員会 1999『桜町6遺跡・7遺跡』
- 苫小牧市教育委員会・苫小牧市埋蔵文化財センター 1984『苫小牧東部工業地帯埋蔵文化財発掘調査概要報告書Ⅵ』
- 苫小牧市教育委員会・苫小牧市埋蔵文化財調査センター 1985『苫小牧東部工業地帯埋蔵文化財発掘調査概要報告書Ⅶ』
- 伊達市教育委員会 1995『北黄金貝塚』
- 伊達市教育委員会 1996『北黄金貝塚』
- 虻田町教育委員会 1986『入江貝塚』
- 恵庭市教育委員会 1981『柏木B遺跡』
- 江別市教育委員会 1981『元江別遺跡群』 江別市文化財調査報告書Ⅹ
- 北海道教育委員会 1979『美沢川流域の遺跡群Ⅲ』
- 釧北海道埋蔵文化財センター 1991『余市町フゴッペ貝塚』北埋調報72
- 釧北海道埋蔵文化財センター 1998『上磯町茂別遺跡』北埋調報121
- 釧北海道埋蔵文化財センター 2001『白老町虎杖浜2遺跡』北埋調報158

3 H-15付属土壌から検出された砂について

H-15はN-20・21区から検出された縄文時代前期後半に属する住居跡である。直径約5m程の円形で、主柱穴4本に囲まれた中央の窪地に小土壇8基が集中し、この内HP-6・8・11・13・14の5基から砂が検出された(図Ⅷ-12)。いずれも直径15cm、深さ10~20cmほどの小土壇で砂が充満し上部はロームで蓋がされていた。この中で比較的土壌の混入が少なく、肉眼観察では純粋な砂に見えるHP-11・13・14の3ヶ所の試料を採取し、実体顕微鏡で観察した。

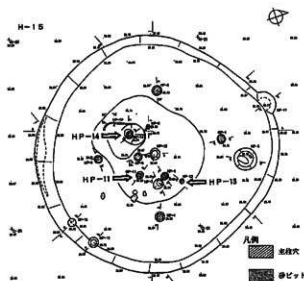
3ヶ所の試料は構成物・粒度などに差は見られないため、以下の観察結果も共通のものである。構成物は多い順に磁鉄鉱、岩片・角閃石、長石・輝石であり、少量の石英が存在する。なかでも磁鉄鉱が圧倒的に多い。岩片は大きめで角が取れ歪円~円状のものもある。粒径は0.5~0.1mm程である。

このような検出状況や観察結果から人為的に遺跡に持ち込まれた砂であると指摘できる。

本遺跡例と同様に住居内に砂の充満した小土壇(砂ピット)が検出された例として、長万部町花岡2遺跡(遺埋文2000)、戸井町浜町A遺跡(戸井町教委1991)、函館市函館空港第4地点(函館市教委1977)、上磯町矢不來2遺跡(遺埋文1987)、木古内町釜谷遺跡(木古内町教委1999)が挙げられる。住居跡の床面もしくは覆土に砂がまるとる例は南茅部町ハマナス野遺跡(南茅部町教委1984ほか)、函館市函館空港第4地点、木古内町釜谷遺跡、白老町虎杖浜2遺跡(遺埋文2001)などにある。

これらの時期は本遺跡と前後する縄文時代前期後半に位置付けられる。今の所、この時期の円筒土器文化圏での砂ピットは北海道に特有のものと言って良い。東北地方北部では、青森県三内丸山遺跡において北海道式石冠に類似する石器が出土した住居跡から一例が確認されているだけである(大森司2000)。砂ピットの性格について、上磯町矢不來2遺跡では剥片石器製作に関わるものと考えられている。花岡2遺跡や虎杖浜2遺跡では礫石器製作にかかる破片もしくは研磨剤の可能性を指摘している。産地について触れているのは木古内町釜谷遺跡だけで、近くの大釜谷川から採取された可能性を指摘している。

本遺跡では確証は得られなかったが、検出状況や構成物から推測すると近くの河川もしくは海岸から砂を採取し、持ち込んだ可能性がある。住居中央部のくぼみという検出位置から何らかの作業に使われたものと考えられるが、出土遺物などから具体的な作業を想定することは出来なかった。(藤原)



図Ⅷ-12 H-15と砂の検出された付属土壌

4. フレイク集中域について

2年間にわたる山崎5遺跡の調査により縄文時代前期後半に所属する19ヶ所のフレイク集中域が確認された。この内のいくつかは、B地区の削平部分を取り囲むように検出された(図Ⅶ-13)。また、包含層出土のフレイクの分布(図Ⅶ-65・66)を見ると、明瞭なまとまりが捉えられなかったものを含めても削平部分を囲むように分布の偏りがあることがわかる。その中でFC-4・8は削平部分構築時の排土と想定されるM-1と密接な関連が推測された。FC-4はレベル的にはM-1のやや上位であるがその輪郭が重なり、FC-8ではつぶれた状態で出土した1個体の土器を上下ではさむように大量のフレイク・チップが検出された。

このような出土状況は一般的な石器製作に関わるものとは性格が異なる可能性がある。そこで、フレイク集中域をその位置から大きく3つに分類し、点数・重量などを比較してみた(表Ⅶ-1)。

A群: 削平部分周辺に位置するもの FC-2~5、8~11、13

B群: 南側斜面にまともって位置するもの FC-12、14~17、19

C群: 前期の住居跡近くに位置するもの FC-1、6・7、18

A群は削平部分を囲むもので、調査の精度とも密接に関連するが、出土点数が非常に多く、より小さい破片が集まっており、フレイク1点あたりの重量が軽いことが分かる。FC-4・8のような特異な検出状況は見られないが、意図的に細かく剥離され、その場所に置かれた可能性がある。

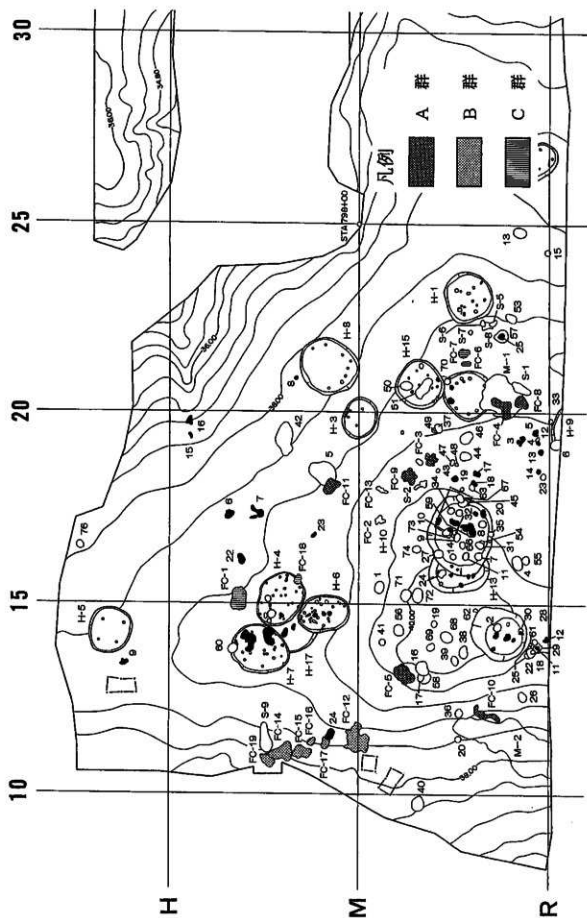
B・C群は斜面もしくは住居跡近くに位置するもので、B群は出土点数やフレイク1点あたりの重量のばらつきがA群と比べて少なく、C群はフレイク・チップ以外の石核やたたき石、礫などの占める割合が比較的高い傾向が伺える。このことからB・C群は一般的な石器製作に関わるものと推測できる。

このような差異がA群とB・C群との性格差を直接的に示すものなのか、現時点では断定できない。しかし推測の域は出ないが、その位置関係からA群の他のフレイク集中域も特異な検出状況が確認されたFC-4・8と同じような要素を持つものと考えられるのである。

削平部分とその周辺は集落の墓域であり、祭祀の場であった可能性が極めて強い区域である。フレイク集中域は、その場所を削平し構築する際の何らかの祭祀に関わる可能性がある。今後は、このような要素をどうすればより具体的に抽出できるのかについて考えてゆきたい。(藤原)

表Ⅶ-1 フレイク・チップ集中統計表

分類	名称	出土石器 総点数	出土石器 重量(g)	石器1点あたりの平均 重量(g)	出土フレイク 総点数	出土フレイク 重量(g)	フレイク1点 あたりの平均 重量(g)	出土石器 に占めるフレイクの割合	削平部周辺 に占めるフレイクの割合	石器の平均 重量(g)	フレイク1点 あたりの平均 重量(g)	出土石器 中のフレイク出土比率	削平部周辺 中のフレイク出土比率
A	FC-2	33	632.1	19.15	30	304.6	10.15	90.9%	93.6%				
A	FC-3	1,103	1744.6	1.56	1,063	1305.9	1.19	99.1%	99.4%				
A	FC-4	771	3564.1	4.62	761	2851.9	3.75	98.7%	99.3%				
A	FC-5	1,404	903.2	0.64	1,402	735.1	0.52	99.9%	100.0%				
A	FC-8	16,222	18627.5	1.15	16,196	15791.3	0.98	99.8%	99.9%				
A	FC-9	415	3874.8	9.34	403	1017.4	2.52	97.1%	99.0%				
A	FC-10	3,833	13875.0	3.57	3,805	8504.5	2.24	99.3%	99.5%				
A	FC-11	1,458	1102.9	0.76	1,421	943.4	0.66	97.5%	99.9%				
A	FC-13	861	4318.7	5.02	831	1629.5	1.96	96.5%	98.6%	2,662	2,668	97.6%	99.0%
B	FC-12	2,870	9507.8	3.31	2,833	6382.3	2.25	98.7%	99.6%				
B	FC-14	1,546	7830.1	5.06	1,528	5900.0	3.86	98.8%	99.2%				
B	FC-15	1,189	6094.6	5.13	1,158	3251.1	2.81	97.4%	99.1%				
B	FC-16	459	2517.7	5.49	454	1425.9	3.14	98.9%	99.1%				
B	FC-17	542	3588.3	6.62	535	1862.2	3.48	98.7%	98.7%				
B	FC-19	1,218	4780.9	3.91	1,205	3512.2	2.91	99.9%	99.4%	1,286	3,06	98.6%	99.2%
C	FC-1	862	2053.8	2.38	832	878.2	1.05	96.5%	98.3%				
C	FC-6	308	4844.3	15.73	294	2592.5	8.82	95.3%	98.7%				
C	FC-7	861	653.4	0.76	860	607.3	0.71	99.9%	99.9%				
C	FC-18	484	1909.2	3.94	479	1593.0	3.33	99.0%	99.4%	569	3,56	97.5%	99.1%
平均値			5.20			平均値	2.88						



図W-13 フレイク・チップ集中域の分布と分類

5. むすびにかえて

1) 住居跡について

山崎5遺跡から検出された遺構の多くは縄文時代前期後半Ⅱ群b類土器の時期に属するものである。Ⅱ群b類土器はその特徴から大半が円筒下層c式期の範疇に含まれるといって良く、遺構も同様この時期のものである。包含層の土器をまとめた皆川は円筒下層b式の最も新しい段階・円筒下層c式の古い段階と幅を持たせて考えている(V章-1)。14軒検出された竪穴住居跡のうちⅡ群b類土器の時期とほぼ確定できるのは(H-1、3、4、5、7、8、9、14、15、17)の10軒である。このうち離れた位置にあるH-5およびH-14を除く8軒は標高標高38m~38.6mにあり、小高い丘を平地した“削平部”を取り囲むような位置にある。

H-17は重複関係から比較的古い時期の可能性がある。ほかの遺構は形態、位置の関係、遺物の出土状況等から大きく第1グループ(H-3・1、15、)と第2グループ(H-4・7・8)とに分けられそうである。両者には竪穴の形態・構造、遺物の出土のあり方に共通点があり、同じグループの遺構間で遺物の接合や同一個体の出土例が多く、反面、両者間での同一個体出土・接合関係は非常に少ないといった特徴がある。グループ内の住居はほぼ同時期か比較的近い時期に構築されたものと推測される。

第1グループは平面形が円形、円に近い楕円形の掘り込みの深いもので、主柱穴が明確に4本(H-1・15)、2本(H-3)認められるものである。床面積でみると、H-1とH-15がほぼ16~17㎡前後で同規模であるが、H-3は10㎡に満たない。いずれも炉は検出されていない。削平部の北側にあり住居は互いに3~6m程の間隔を持っている。H-3とH-15からは出入り口施設との関連を想定できる柱穴が検出されている。H-1とH-15間で出土した破片の接合例が比較的多くあり、前者の覆土2b・3・3b(覆土中位~下位床面付近)と後者の覆土1・2・2b・2c層(覆土上~中位)間にその関係が認められる。断定はできないが構築時期にはあまり時間差が無いがH-1がやや新しい可能性がある。また、H-3覆土1・2・3層(上~中位)とH-15覆土2・2b・2c層(上~中位)から同一個体が出土していることから、両者はほぼ同じ時期と推定される。さらにH-1(床)とH-3(覆土2)間で大型砥石の破片接合例(図IV-63-160)が認められることから、このグループ中ではH-1が最も新しい時期と判断される。三者ともに廃絶後ある程度時間が経て埋没した窠みに何度かにわたって遺物が廃棄された状況が観察できる。

なお、H-9は全体像がわからないため判断する材料に乏しいが、掘り込みがしっかりとしている点で第1グループの住居と類似する。H-1とH-8の覆土中から同一個体破片が出土しているが、再堆積層(M-2)の遺物との関連(図IV-111-8)から削平・整地以前の段階の住居と捉えることができる。

第2グループは平面形が不整形円形・楕円形で浅い掘り込みのものである。主柱穴は無く、壁際や中央部付近に浅いピットが複数ある構造のものである。床面積は18㎡を超え、第1グループよりも規模が大きい。いずれも炉は検出されていない。H-4・7が削平部の西側に、壁が重複するほど近接している。H-8は20mほど離れた位置にあり、反面H-3、H-15とは近接する。覆土の遺物出土状態は竪穴が浅いことにも関連するとみられるが、廃棄が繰り返された状況の第1グループとは明らかに異なる。また、H-4とH-7とは同時に存在したとは考えられず、ある程度の時間差があるとみられる。遺構間の接合関係は少ない。H-4・HP-1とH-7(覆土2)とH-8(覆土1)とに同一個体破片の存在が有り(図IV-82-2)、この点からH-4が最も新しいと考えられる。

以上のように、まったくタイプの異なる2つの住居群が削平部を取り囲む位置にあるが、グループを超えての遺物の接合、同一個体の出土例は非常に少ない。掲載遺物に限ってみるH-8(床面・覆土)とH-15(覆土2c)の同一個体片出土例(図IV-104-4、図IV-105-9)、H-1(覆土2b)とH-7(覆土2)(図IV-98-1)の3例があるのみである。唯一時間差を示すとみられる前者の床面遺物の例から、説得力には欠けるが、H-8含む第2グループが新しい可能性がある。機能が異なると想定される両者が同時期に存在していた可能性もあるが、今のところ構築の時間差を示すものと考えておきたい。

2) 再堆積層と住居跡との時間的關係

再堆積層(M-1・2)はIV章-1で立田が指摘するように、削平部と住居様遺構構築の際の排土であることは間違いないであろう。検出層位・状況、堆積している土の様相、遺物のあり方から形成時期にはほとんど時間差が無いとみられる。H-15を調査した藤原は、覆土上位に堆積する黄褐色ロームについて、削平部の住居様遺構(H-10・13)に由来するものと想定している(IV章-2)。

遺物の接合関係等を見ると、再堆積層中とH-1・3・15の覆土中から同一個体の土器片が出土する例と、住居様遺構(H-10)床面とH-1(覆土2b)の同一個体出土(図IV-5-9)例がある。また削平後に構築された埋め戻しの土壌であるP-75(覆土1)とH-15(覆土2)、H-3(覆土2)に関係がある等(図IV-32-1)、P-7、P-8、P-14の覆土と第1グループの住居覆土中の土器に接合関係や同一個体片の出土といった関連性がみられる。これらのことは削平、住居様遺構の構築、土の移動といった一連の作業がなされた時期にはH-1・3・15はすでに廃絶され半ば埋もれた状況であったことを示していると考えられる。住居跡から出土する大量の遺物は、何度かにわたって廃棄された結果であり、削平時のものも存在するであろう。反面、第2グループの住居は第1グループと接合関係が稀薄なだけでなく、再堆積層、H-10・11・13の遺物との接合等の関連性も無い。このことは第2グループの住居は小高い丘が削平された時点ですっかりと埋っていたか、あるいは存在しなかったかのいずれかを示してとみられる。

各住居跡の遺物を詳細に観察することで、これらの前後関係を明らかにすることが可能であると考えるが、今回は土器の検討までには至らなかった。

2カ年の調査で得られた多量の遺物と遺構は、人々が縄文前期後半の比較的短い期間に小高い丘の削平、整地等の作業を活発におこない、その前後の時期を通じ周辺に居住し墓をはじめとする様々な構築物を作ることを持続して行っていたことを示している。調査した範囲は一部に過ぎない。当時の人々の痕跡がさらに周辺部、とくに噴火湾を望む海側に大きく広がることは充分予想される。

(遠藤)

引用参考文献

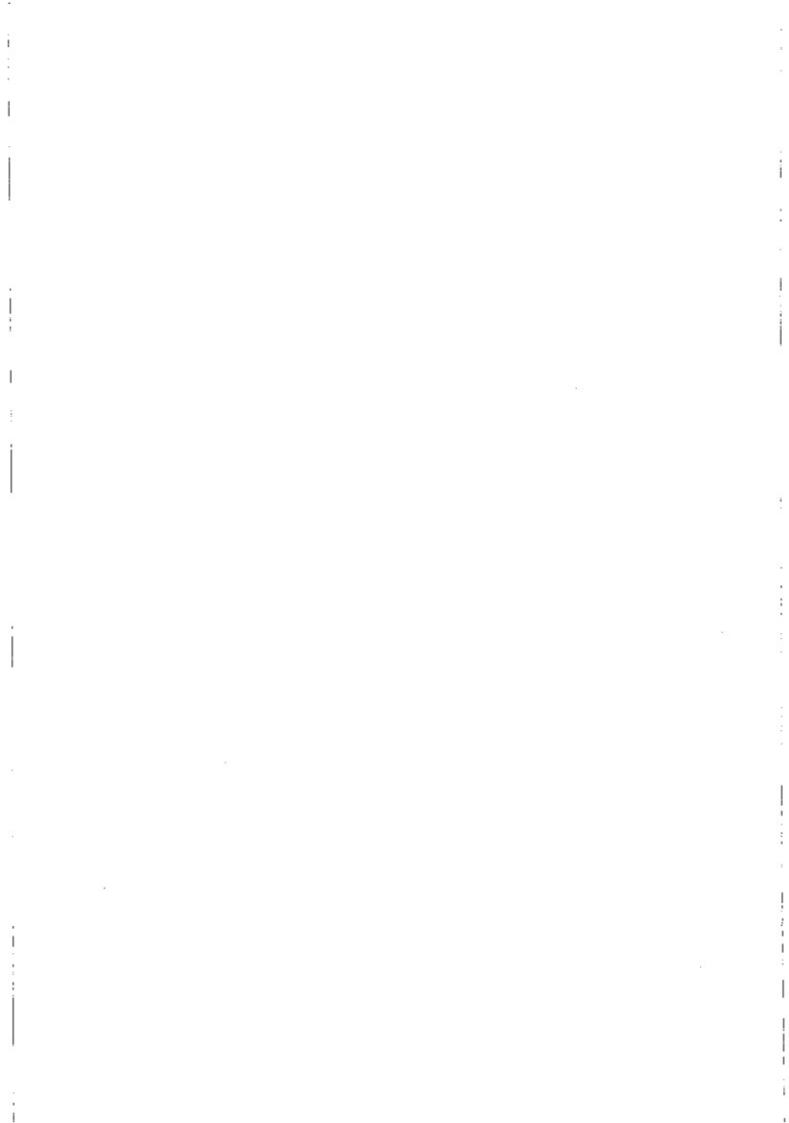
- 阿部千春ほか 1993『八木A遺跡・ハマナス野遺跡』南茅部町埋蔵文化財調査団
- 阿部千春ほか 1995『ハマナス野遺跡vol.XV』南茅部町埋蔵文化財調査団
- 石岡憲雄 1986『施文原体の変遷—円筒土器—』『季刊考古学』17
- 内山真澄 1980『寿都3遺跡』『寿都町文化財調査報告書Ⅱ』寿都町教育委員会
- 江坂輝彌 1970『石神遺跡』石神遺跡研究会
- 及川研一郎 1987『北海道・八雲町落部遺跡出土土器の編年的位置』『潮航』第15号
- 大沼忠春ほか 1976『元和』乙部町教育委員会
- 大沼忠春 1986『道南の前期土器群の編年について(Ⅱ)』『北海道考古学』第22輯
- 小笠原忠久 1981a『ハマナス野遺跡Ⅵ』南茅部町教育委員会
- 小笠原忠久 1981b『ハマナス野遺跡』『縄文文化の研究』8 社会文化
- 小笠原忠久 1982『ハマナス野遺跡Ⅶ』南茅部町教育委員会
- 小笠原忠久 1983『ハマナス野遺跡Ⅷ』南茅部町教育委員会
- 小笠原忠久 1984a『ハマナス野遺跡Ⅸ』南茅部町教育委員会
- 小笠原忠久 1984b『北海道西部における縄文時代前・中期の集落』『北海道の研究』1 考古編
- 小笠原忠久 1989『ハマナス野遺跡vol.XI』南茅部町教育委員会
- 小笠原忠久 1990『ハマナス野遺跡vol.XII』南茅部町教育委員会
- 久保 泰ほか 1983『白坂』松前町教育委員会
- 久保 泰 1991a『札前三』松前町教育委員会
- 久保 泰 1991b『松城遺跡』松前町教育委員会
- 熊野喜蔵・八木光則 1974『茅部郡森町森川A遺跡出土の前期縄文式土器群』『北海道考古学』第10輯
- 児玉作左衛門ほか 1958『サイベ沢遺跡』市立函館博物館
- 斎藤 傑・氏江敏文 1974『松前町大津遺跡発掘調査報告書』松前町教育委員会
- 桜井清彦 1961『北海道山越郡落部遺跡』『日本考古学年報』12
- 桜井清彦 1964『北海道山越郡オトシベ遺跡』『日本考古学年報』15
- 北海道埋蔵文化財センター 1985『湯の里遺跡群』北埴調報18
- 北海道埋蔵文化財センター 1986『木古内町建川1・新道4遺跡』北埴調報33
- 北海道埋蔵文化財センター 1987『木古内町建川2・新道4遺跡』北埴調報43
- 北海道埋蔵文化財センター 1988『木古内町新道4遺跡』北埴調報52
- 北海道埋蔵文化財センター 1995『豊浦町高岡1遺跡』北埴調報88
- 北海道埋蔵文化財センター 2000a『長万部町花岡2遺跡・花岡3遺跡』北埴調報139
- 北海道埋蔵文化財センター 2000b『八雲町シリカ2遺跡』北埴調報142
- 北海道埋蔵文化財センター 2000c『調査年報12 平成11年度』
- 北海道埋蔵文化財センター 2001a『八雲町黒岩3遺跡・ボンシリカ1遺跡』北埴調報155
- 北海道埋蔵文化財センター 2001b『八雲町山崎4遺跡』北埴調報162
- 北海道埋蔵文化財センター 2001c『八雲町山越2遺跡』北埴調報163
- 北海道埋蔵文化財センター 2001d『八雲町野田生5遺跡』北埴調報164
- 北海道埋蔵文化財センター 2001e『調査年報13 平成12年度』
- 柴田信一 1991a『八雲町より出土した魚形石器について』『南北北海道考古学情報』第3号
- 柴田信一 1991b『八雲町の縄文時代の遺跡と遺物について』『文京台考古』第6号

- 柴田信一 1995『栄浜1遺跡』八雲町教育委員会
- 菅江真澄著 内田武志・宮本常一編訳 1980『菅江真澄遊覧記』2
- 鈴木正語ほか 1995『釜谷5遺跡』木古内町教育委員会
- 鈴木正語ほか 1996『釜谷遺跡』木古内町教育委員会
- 鈴木正語ほか 1999『釜谷遺跡』木古内町教育委員会
- 高橋正勝・小笠原忠久 1980「4縄文文化前期・中期」『北海道考古学講座』
- 田川賢蔵 1956「トコタン遺跡について」『先史時代』第四輯
- 田川賢蔵 1958「北海道山越郡元山遺跡」『日本考古学年報』10
- 武内収太・山田悟郎 1968「山越郡八雲町熱田遺跡における緊急発掘調査」『ゆうらふ』第12号
- 竹内理三編 1987『角川地名大辞典』
- 千代 肇 1965「北海道八雲町大関遺跡について」『在華王路示』No.6 函館道愛女子高・中学校歴史研究班考古学グループ
- 千代 肇 1975「北海道の円筒土器文化」『中の平遺跡発掘調査報告書』青森県教育委員会
- 千代 肇・岩本義雄 1975「北海道八雲町上八雲の遺跡について」『北海道考古学』第11号
- 鍋島直久 1991『ハマナス野遺跡vol.XII』南茅部町教育委員会
- 野村 崇 1982「八雲町トコタン2遺跡」『北海道における農耕の起源（予報）』
- 長谷部晋人 1927「円筒土器文化」『人類学雑誌』第42巻第1号
- 福田裕二 1992『ハマナス野遺跡vol.XV』南茅部町教育委員会
- 福田裕二 1995「八木A遺跡Ⅱ・ハマナス野遺跡」南茅部町埋蔵文化財調査団
- 福田裕二 1997「八木A遺跡Ⅲ・八木C遺跡」南茅部町埋蔵文化財調査団
- 北海道函館中部高等学校考古学研究部 1974「道南遺跡分布事典」
- 町田 洋・新井房夫 1992「火山灰アトラス」
- 松浦武四郎著 吉田武三校註 1970『三航蝦夷日誌』上巻
- 松崎岩穂・渡辺兼庸 1959「北海道根川・十兵衛沢・勝山館遺跡」『考古学雑誌』第44巻第4号
- 三浦孝一 1980『山崎遺跡発掘調査報告書』八雲町教育委員会
- 三浦孝一 1982『栄浜1遺跡発掘調査概報』八雲町教育委員会
- 三浦孝一 1983『栄浜』八雲町教育委員会
- 三浦孝一 1984「第二編 先史時代」『改訂八雲町史 上巻』
- 三浦孝一 1987『台の上遺跡』八雲町教育委員会
- 三浦孝一 1989『浜松2遺跡』八雲町教育委員会
- 三浦孝一 1990『八雲3遺跡発掘調査報告書』八雲町教育委員会
- 三浦孝一 1998『栄浜1遺跡Ⅳ』八雲町教育委員会
- 三浦孝一・柴田信一 1986『栄浜1遺跡』八雲町教育委員会
- 三浦孝一・柴田信一 1987『栄浜1遺跡』八雲町教育委員会
- 三浦孝一・柴田信一 1988『山越5・6遺跡発掘調査報告書』八雲町教育委員会
- 三浦孝一・柴田信一 1991『浜松2遺跡』八雲町教育委員会
- 三浦孝一・柴田信一 1992『コタン温泉遺跡』八雲町教育委員会
- 三浦孝一・柴田信一 1993『大関校庭遺跡』八雲町教育委員会
- 三浦孝一・柴田信一 1995『浜松5遺跡』八雲町教育委員会
- 三浦孝一・柴田信一 1997『大新遺跡Ⅰ』八雲町教育委員会

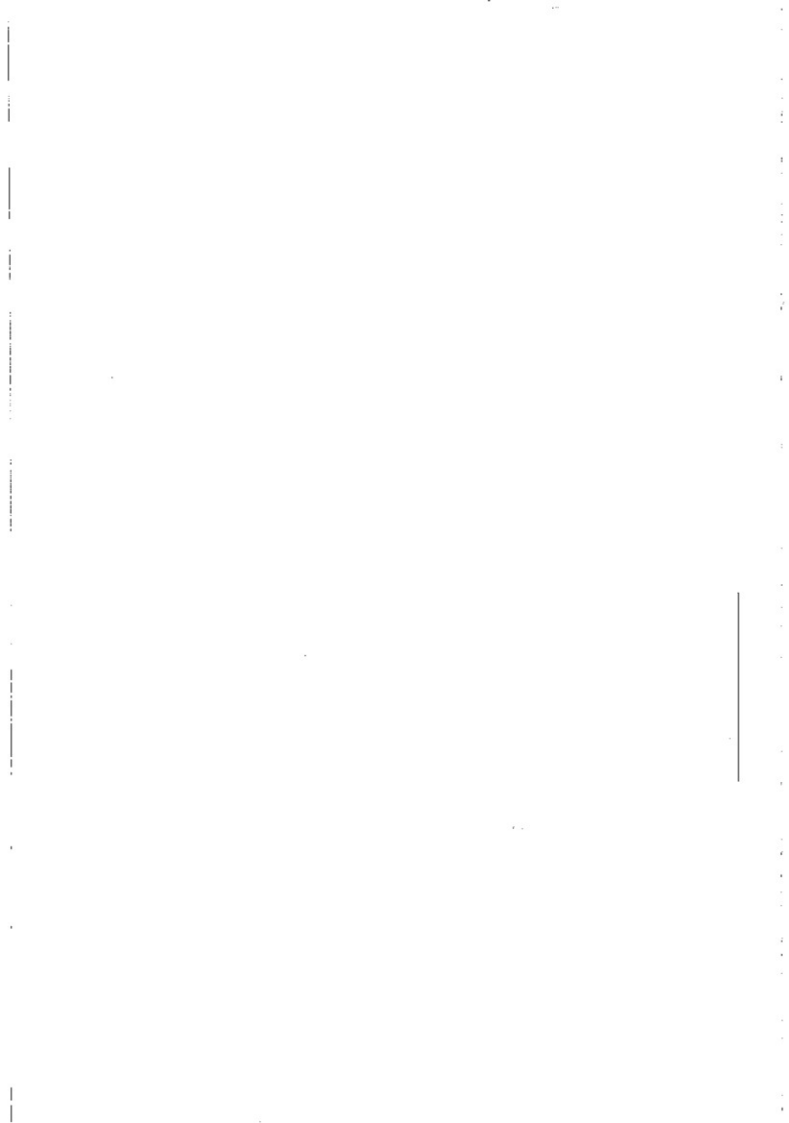
- 三浦孝一・柴田信一 1998 a 『大新遺跡Ⅱ』八雲町教育委員会
- 三浦孝一・柴田信一 1998 b 『旭丘1遺跡』八雲町教育委員会
- 峰山 巖ほか 1977 『柴浜遺跡』乙部町教育委員会
- 三宅徹也 1974 「青森県における円筒下層式土器群の地域的展開」『北奥古代文化』第6号
- 三宅徹也 1980 「円筒土器」『縄文文化の研究』第3巻 縄文土器Ⅰ
- 三宅徹也 1989 「円筒土器下層式」『縄文土器大観』1 草創期 早期 前期
- 村越 潔 1974 『円筒土器文化』
- 八雲高等学校郷土史研究部 1970 『郷研紀要』4
- 八雲町編 1984 『改訂八雲町史 上巻・下巻』
- 八雲町編 2000 『統計八雲』
- 山田秀三 1984 『北海道の地名』
- 山内清男 1929 「北関東に於ける繊維土器」『史前学雑誌』第1巻第2号
- 吉崎昌一 1961 「白滝遺跡と北海道の無土器文化」『民族学研究』26巻1号
- 吉崎昌一 1965 「縄文文化の発展と地域性 北海道」『日本の考古学Ⅱ縄文時代』

報告書抄録

ふりがな	やぐも511やまの さいせき							
書名	八雲町山崎5遺跡							
副書名	北海道縦貫自動車（七飯～長万部）埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	北海道埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第165集							
編著者名	遠藤香澄・皆川洋一・藤原秀樹・立田理・広田良成・柳瀬由佳							
編集機関	北海道埋蔵文化財センター							
所在地	〒069-0832 北海道江別市西野幌685番地-1							
発行年月日	西暦2002年1月30日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° ' "	° ' "			
山崎5遺跡	北海道山越 八雲町字 山崎195-1 ほか	01346	B-16-62	40° 16' 44"	142° 19' 55"	1999.05.06 ～ 1999.07.11 2000.05.08 ～ 2000.09.14	855㎡ 5,410㎡	高速道路北 海道縦貫自 動車道建設 工事に伴う 事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
山崎5遺跡	集落跡 墓	縄文時代 前期 早期 後期 中期 統縄文時代	堅穴住居跡 住居様遺構 土墳墓 土壇 Tピット 再堆積層 柱穴状小ピット 焼土 集石 フレイク集中域	14軒 3軒 11基 64基 1基 2か所 441基 24か所 10か所 19か所	縄文土器 53,900点 円筒下層c式 貝殻文尖底土器 条痕文平底土器 など 統縄文土器 197点 石器等 165,000点 石鏃・石槍・石錐・つま み付きナイフ・スクレイ パー・両面調整石器・ すり石・北海道式石冠・ 半円状扁平打製石器・ たたき石・台石・石皿	中央に墓域 とそれを取 り巻く居住 域		







（財）北海道埋蔵文化財センター調査報告書 第165集

八雲町 山崎5遺跡

北海道縦貫自動車道（七飯～長万部）埋蔵文化財発掘調査報告書

第1分冊

平成14年1月30日発行

編集・発行 財団法人 北海道埋蔵文化財センター

〒069-0832 江別市西野幌685番地-1

TEL(011)386-3231

印刷 株式会社 北海道機関紙印刷所

〒060-0806 札幌市北区北6条西7丁目1番

TEL(011)716-6141
